タルノミニテ査定名義人トナリ所有權ヲ得タリトノ點ニ對シ判斷ヲ與フルコトナクシテ其請求ヲ排斥シタルトキハ假令査定名義人ノ權利ニ牴觸スル所有權移轉證明ハ當該登記官ニ申請シテ之ヲ抹消セシムルコトヲ得ルニモセヨ所有權者ハ實體法上ノ權利ニ基キ之カ抹消ヲ請求シ得ヘキハ勿論土地ノ引渡ヲモ請求シ居ル本件ニ在リテハ重要ナル爭點ニ對スル判斷ヲ遺脱シテ敗訴ニ歸セシメタル違法アルヲ免レサルモノトス（大正八・五・二三）

卷　頁

○當事者ノ申立テサル事項ヲ基礎トシタル事實認定ノ當否　當事者ノ申立テサル事項ヲ基礎トシ事實ヲ認定シタルハ違法ナリ（大正八・五・二三）

六　五九四

○爭ナキ事實ヲ爭アル事實ナルカ如ク誤認シタル判斷　當事者間ニ爭ナキ事實ヲ爭アル事實ナルカ如ク誤認シ之ニ基キ事實ヲ確定シタルハ違法ナリトス（大正八・六・二四）

六　五九八

○爭ナキ事實ヲ證據ニ依リ認定シタル判斷ノ當否　當事者間ニ於テ爭ナキ事實ハ確定ノモノナレハ此爭ナキ事實ヲ無視シテ證據ニ依リ事實ヲ認定シ因テ請求ノ當否ヲ判斷スルハ違法ナリ（大正九・一〇・二六）

六　四〇六

○辨濟期延期ノ期間カ五ケ月ナリヤ四ケ月ナリヤノ爭ヲ三ケ月ト認定シタル判斷ノ當否　裁判所カ判決ノ基本ト爲ルヘキ事實ヲ確定スルニハ常ニ必ス當事者ノ主張ニ係ル事實關係ヲ基礎トスルコトヲ要スルモノナルヲ以テ當事者間ニ於テ辨濟期延期ノ契約成立シタルモ債務者ハ最初ノ辨濟期ヨリ向五ケ月ノ延期ヲ得タリト云ヒ債權者ハ最初ノ辨濟期ヨリ向四ケ月ノ延期ヲ與ヘタリト云ヒ相爭フ場合ニ於テ裁判所カ最初ノ辨濟期ヨリ向三ケ月ノ延期ヲ爲シタルニ過キサルモノト認定スルコトハ縱令證據ニ基クトキト雖不法タルヲ免レサルモノトス（大正一一・二・一七）

七　五七五

○當事者ノ主張セサル事實ト證據ニ依ル認定　裁判所カ判決ノ基礎ト爲ルヘキ事實關係ヲ確定スルニハ職權調査事項ヲ除ク外常ニ必ス當事者ノ主張ニ基クコトヲ要スルモノニシテ之ニ違背シタルトキハ縱令證據ニ依ルトキト雖不法タルヲ免レス（大正一一・七・四）

九　四八

○當事者一方ノ主張ノ認定ト之ト相容レサル相手方ノ主張ニ對スル判斷　當事者ノ一方ノ主張ニ付證據ニ依リ之ヲ認定シタルト

九　二四六

キハ之ト相容レサル相手方ノ主張ハ之ヲ排斥シタル趣旨自ラ明カナルヲ以テ殊更排斥ノ説明ヲ附セサルモ之カ爲メ爭點ヲ遺脱シタルモノト爲スヲ得サルハ勿論又理由ノ不備ヲ來スモノニ非ス（大正八・二・二八）

六　五四

○家籍ヲ異ニスル數人カ共ニ居住スル一ノ住家内ニ在スル財産ノ所有者ノ認定方　一ノ住家ニ家籍ヲ異ニスル數人ノ者カ共ニ居住スル場合ニ於テ其住家内ニ存在スル財産ニ付執レノ所有ニ屬スルヤ不明ナルトキハ其場所ニ戸主トシテ家籍ヲ有スル者ノ所有ニ屬スト推定シタル法規存スルコトナキニ依リ其執レノ所有ニ屬スルヤハ專ラ證據ニ依リテ定ムヘキモノトス（大正八・三・一一）

六　九一

○當事者間爭ナキ事實ト同一裁判所ニ繋屬スル別個ノ訴訟ニ於ケル同一事項ニ關スル判斷トノ牴觸　當事者間爭ナキ事實ハ其主張自體ニ於テ不能若ハ不適法ニ非サル限リ裁判所ハ之ト相反スル事實ヲ認定スルヲ得サルモノナルカ故ニ此理由ニ基キ爲シタル判斷カ同一裁判所ニ繋屬スル別個ノ訴訟ニ於ケル同一事項ニ關スル判斷ト牴觸スルコトアルモ之ヲ以テ審理不盡又ハ理由不備ノ不法アルモノト爲スヲ得ス（大正八・三・一四）

六　一〇四

○漁業共同經營契約ノ肯定ト漁業權共有契約ノ存否　漁業權者カ單ニ自己ノ權利ニ屬スル漁場ニ於テ他人ト共同シテ漁業ヲ經營スヘキ旨ノ約旨ト漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ヲ他人トノ共有ト爲スヘキ旨ノ約旨トハ彼此其内容ヲ異ニスルモノナルカ故ニ縱令前者ノ契約ヲ肯定シタルトキト雖當然後者ノ契約ノ存在ヲ肯定セサル可ラサルモノニ非ス（大正八・三・二一）

六　一一三

○銅ニ付倫敦市場相場ヲ以テ大阪市場相場ト同一ナリトノ認定ト理由ノ說示　英國倫敦市場ニ於ケル銅相場ハ我帝國大阪市場ニ於ケル銅相場ノ一標準タルヲ得ヘキモ其倫敦相場ハ常ニ必スシモ大阪市場相場ト同一ナルモノニ非サレハ銅ニ付倫敦市場相場ヲ以テ大阪市場相場ナリトシ之ヲ認ムルニハ其之ヲ認ムル相當ノ理由ヲ附スルヲ要ス（大正八・三・三一）

六　一二一

○當事者ノ口頭演述シタル證據調ノ結果ヲ判決ニ掲クルノ要否　證據調ノ結果ハ當事者ニ於テ口頭演述セシトキト雖之ヲ判決ニ掲クルノ要ナク又斯ル一般的慣例存在セス（大正八・三・三一）

六　一四〇

○賣買締結ノ意思表示ヲ爲シタル日時ヲ限定シテ主張シタル場合ト審判ノ範圍　再賣買豫約ニ因ル賣買完結ノ意思表示ニ付テハ

法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニアラサルヲ以テ訴訟代理者ハ口頭辯論ニ於テ攻撃又ハ防禦ノ方法トシテ明示的若クハ默示的ニ之ヲ援用セサル限リ其ノ效果ヲ受ケサルモノトス（大正八・四・一五）

○裁判所ハ裁判ノ日時ニ其意思表示ヲ爲シタルモ否ヤヲ審理スルニ止ムヘク其他ニ於テ其意思表示ナカリシヤ否ヤヲ審理スルノ職責ヲ有スルモノニアラス（大正八・四・一五）

○競賣財產管理人ノ報酬金ト競賣所ノ證定　競賣財產ノ管理人ノ報酬ハ競賣ノ代金ヨリ之ヲ支拂フヘキモノニシテ競賣所ハ其ノ報酬ヲ定ムルノ權限ヲ有セス（大正八・四・一五）

○共有物ノ贈與ヲ受ケタル旨ノ主張ト共ノ主張ノ撤回　共有物ノ贈與ハ共有物ノ法律上ノ處分ニ外ナラサレハ共有者カ共有物ヲ贈與セントスルニハ共有者全員ノ同意ヲ得ルヲ要シ若シ其同意ヲ缺キタルトキハ贈與ノ效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ之ヲ援用シタル共有者カ各自單獨ニテ爲スコトヲ得ヘキ持分ノ處分ト同視スルヲ得ス從テ當事者カ共有物ノ贈與ヲ受ケタリト主張セルトキハ尚共有者ニ關スル共有權ノ持分ノ贈與ヲ受ケタリトノ主張ヲ爲サルモノト認ムルコトヲ得ルモノトス（大正八・四・一五）

○爭ナキ契約ノ內容ト契約ニ關スル爭ノ否ノ判斷　同一ノ契約ニ關シ當事者ノ一方ハ之ヲ組合契約ナリト主張シ他ノ一方ハ組合契約ニアラスト抗爭スルモ其雙方カ該契約ノ內容トシテ現ニ主張スル事實關係ニ付法律上組合契約ニ該當スルトノ點ニ於テハ裁判所ハ其日時ニ其意思表示ヲ爲シタルモ否ヤヲ審理スルノ職責ヲ有スルモノニアラス（大正八・五・六）

○虛無ノ證據ニ基ク判斷ト採證ノ法則　虛無ノ證據ニ基キ事實ノ判斷ヲ爲シタルハ採證ノ法則ニ背キタル違法アルモノトス（大正八・一〇・二八）

○證據ニ反シテ事實ヲ確定シタルハ違法ノ判決ナリトス（大正八・一一・二五）

○共有物ノ贈與ヲ受ケタル旨ノ主張ノ撤回　共有物ノ贈與ハ共有物ノ法律上ノ處分ニ外ナラサレハ共有者カ共有物ヲ贈與セントスルニハ共有者全員ノ同意ヲ得ルヲ要シ若シ其同意ヲ缺キタルトキハ贈與ノ效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ之ヲ援用シタル共有者カ各自單獨ニテ爲スコトヲ得ヘキ持分ノ處分ト同視スルヲ得ス從テ當事者カ共有物ノ贈與ヲ受ケタリト主張セルトキハ尚共有者ニ關スル共有權ノ持分ノ贈與ヲ受ケタリトノ主張ヲ爲サルモノト認ムルコトヲ得ルモノトス（大正八・四・一五）

○爭ナキ契約ノ內容ト契約ニ關スル爭ノ否ノ判斷　同一ノ契約ニ關シ當事者ノ一方ハ之ヲ組合契約ナリト主張シ他ノ一方ハ組合契約ニアラスト抗爭スルモ其雙方カ該契約ノ內容トシテ現ニ主張スル事實關係ニ付法律上組合契約ニ該當スルトノ點ニ於テハ裁判所ハ其日時ニ其意思表示ヲ爲シタルモ否ヤヲ審理スルノ職責ヲ有スルモノニアラス（大正八・四・一五）

○虛無ノ證據ニ基ク判斷ト採證ノ法則　虛無ノ證據ニ基キ事實ノ判斷ヲ爲シタルハ採證ノ法則ニ背キタル違法アルモノトス（大正八・一〇・二八）

○證據ニ反シテ事實ヲ確定シタルハ違法ノ判決ナリトス（大正八・一一・二五）

○競賣財產管理人ノ報酬金ト競賣所ノ證定　競賣財產ノ管理人ノ報酬ハ競賣ノ代金ヨリ之ヲ支拂フヘキモノニシテ競賣所ハ其ノ報酬ヲ定ムルノ權限ヲ有セス（大正八・四・一五）

○不明瞭ナル主張ト釋明ニ基ク證定ノ當否　證據ノ取捨ハ事實審ノ職權ニ屬スルヲ以テ當事者ノ主張ニ不明瞭ナル點アルトキハ裁判所ハ釋明ニ依リ之ヲ確定シタル上ニアラサレハ其ノ主張ヲ採用シテ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス（大正九・三・九）

○證據ニ依ラサル證定ノ當否　證據ニ依ルニ非サレハ證定スルコトヲ得サル事實ヲ證據ニ依ラスシテ證定シタル判決ハ不法ナリ（大正七・五・三一）

○同　上　證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シ其事實ニ基キ辯論ヲ排斥シタル判決ハ不法ナリ（大正七・八・九）

○同　上　爭アル事實ヲ證據ニ基カスシテ確定シタル判決ハ不法ナリ（大正九・九・二一）

○證據ノ採否ト當事者申立ノ證否ニ關スル認定　證據ノ採用スルニ付裁判所申立ノ證否ニ反シテ其成立ヲ認メ且證據ニ基キ事實ヲ確定シタル判決ハ不法ナリ（大正九・九・二四）

○證據調ノ結果ト辯論ノ再開　當事者ノ提出シタル證據ヲ證據調ニ供シ其主張事實ヲ辨定シタル判決ハ不法ナリ（大正六・九・二九）

○同　上　當事者ノ提出シタル證據ヲ證據調ニ供シテ辯論ヲ終結シタル違法ナリ（大正六・一二・一八）

○同　上　當事者ノ提出シタル證據ニ對スル判斷ヲ遺脫シテ辯論ヲ終結スルハ違法ナリ（大正九・一〇・二九）

○同　上　當事者ノ提出シタル證據方法ヲ判決ニ援用セサル判斷ノ當否ニ付テハ辯論ヲ再開セサルヘカラス（大正九・一一・一九）

○甲點ヨリ乙點ニ至ル線上ニ堤防ヲ築造スヘキ契約ノ履行請求ト約旨ノ解釋　原告ヨリ被告ニ對シテ甲點ヨリ乙點ニ至ル線上ニ堤防ヲ築造スヘキ契約ノ履行ヲ請求シタルトキ反對ノ意思ノ見ルヘキモノナキ限リハ其原告ノ請求ハ約旨ノ存スル所ニ從ヒ堤防ヲ築造ノ履行ヲ得ントスルニ在ルモノト解スルヲ妥當トシ裁判所ニ於テ其約旨ヲ解釋シテ該工事ハ丙點ヨリ丁點ニ至ル線上ニ設置スヘキモノト判定シタル場合ニハ被告ニ對シテ丙點ヨリ丁點ニ至ル線上ニ堤防ヲ築造スヘキコトヲ言渡スヘク斯ノ如キ場合ニ於テ原告ノ請求ヲ棄却スルハ違法ナリ（大正九・一一・一九）

○係爭林野ノ所有權ノ確定ト位置形狀ノ明示　爭ヒアル林野ノ所有權ヲ確定スルニ當リ唯其所在ノ地名ト面積トヲ表示シタルニ止マリ位置形狀ヲ明示セスシテ言渡シタル判決ハ明確ヲ缺キ違法ナリ（大正一〇・三・一一）

○法律上代理人ノ氏名ヲ揭記セサル判決ノ適否　判決ニハ當事者ノ氏名ノ外法律上代理人ノ氏名ヲ揭ケヘキコトヲ本則トスルモ法律上代理人ノ氏名ノ如キハ之ヲ揭ケサルモ判決ノ不法ヲ來スヘキモノニ非ス（大正一〇・五・二〇）

○不動産ノ所有權ヲ原因トスル訴訟ト其所有權取得事由ノ確定ノ要否　不動産ノ所有權ヲ原因トスル訴訟ニ於テ該不動産カ原告ノ所有タルコトヲ認メラルル以上ハ原告ノ請求ハ是認セラルヘキモノニシテ原告カ其所有權ヲ取得スルニ至リシ事由ハ必スシモ之ヲ確定スルノ要ナシ（大正一〇・六・一四）

○登記手續履行ト同時ニ代金支拂ヲ爲スヘキ旨ノ判決主文ノ意義　登記手續ヲ爲スヘキ義務ハ登記ノ完了ニ依リテ遂行セラルルモノナルヲ以テ判決主文ニ於テ登記手續履行ト同時ニ代金支拂ヲ爲スヘキコトヲ宣言シタルトキハ登記完了ト同時ニ代金ヲ支拂フヘキコトヲ命シタルモノトス（大正一〇・一二・一三）

○如上ノ場合判決主文ニ適合スル事實狀態ト其ノ明示ノ要否　實際上如何ナル事實狀態カ如上判決主文ニ適合スヘキヤハ一般ノ取引觀念ニ依リ之ヲ解決シ得ヘキ事項ナルヲ以テ必スシモ之ヲ判決主文ニ明示スルノ要ナキモノトス（大正一〇・一二・一三）

○用水專用權者カ上流ノ引水者ニ對スル引水設備ノ變更若ハ改築ノ請求ト引水ノ拒絕　上流ニ於ケル引水者カ樂水其他ノ設備ニ依リ引水シ下流ニ於ケル專用權者ヨリ該設備ノ撤廢若クハ改築ヲ請求スル場合ト雖ヲ

引水スヘカラストノ不行爲ヲ請求スル場合トハ區別セサルヘカラサルモノニシテ前者ノ場合ニ於テハ苟モ該設備アルカ爲ニ旱魃年ニ於テ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害スル以上ハ縱令旱魃年ニ非サル年ニ於テ侵害ト爲ラサルトキト雖之カ撤廢若クハ改築ヲ命スルヲ相當トスヘク其撤廢ヲ命シタルトキハ其ノ撤廢後更ニ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害セサル程度ニ適應スル設備ヲ施シテ引水スルコトヲ得ルヲ以テ其改築ヲ命シタルトキト同シク下流ニ於ケル專用權者ノ權利保護ト共ニ上流ニ於ケル引水者ノ利益保護ヲ全フスルコトヲ得ヘシト雖後者ノ場合ニ於テハ之ト異ナリ單ニ旱魃年ニ於テノミ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害スル虞アル以上ハ旱魃年ニ於テノミ引水ヲ禁止スル趣旨ノ下ニ適當ナル判決主文ヲ作リテ言渡スヘク旱魃ニ非サル年ニ於テモ之ヲ禁止スルニ於テハ下流ニ於ケル專用權者ノ權利保護ヲ全フスルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テ下流ニ於ケル專用權者ヨリ旱魃年ナルト否トヲ問ハサル趣旨ノ下ニ引水スヘカラストノ請求ヲ爲シ裁判所ニ於テ其請求ヲ認容セントスルニハ上流ニ於ケル引水カ旱魃年ナルト否トヲ問ハス常ニ下流ニ於ケル專用權者ノ權利ヲ侵害スル事實ヲ判示セサルヘカラサルモノニシテ單ニ稀ニ見ル旱魃年ニ於テノミ之カ侵害ノ事實アリシコトノミヲ判示シテ容易ク其請求ヲ認容シ得ヘキモノニ非ス（大正一〇・七・一二）

○利息支拂義務ノ認定ト理由不備　利息ニ付支拂義務ヲ認メナカラ之ヲ附スルノ約束竝ニ利率ニ關シ何等理由ヲ說示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ（大正一〇・一一・二九）

○土地所有權力受託者ニ在リトスル旨ノ確定判決アリタル場合ト當事者間ニ信託關係ノ存否ニ關スル判斷　土地所有權ノ信託的讓渡行爲ニ在リテハ外部關係ニ於ケルト同時ニ特別ノ意思表示ヲ以テ內部關係ニ於テモ所有權ヲ移轉スヘキモノト爲スヲ妨ケサルモ特別ノ意思表示ナキ以上ハ外部關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ內部關係ニ於テハ然ラスシテ其所有權ハ依然信託者ニ存スルモノト爲スヲ通例トス從テ當事者間ニ於テ土地所有權カ受託者ニ在リトスル旨ノ確定判決アリタルトキハ其判決ハ其反面ニ於テ當事者間ニ信託關係ノ事實ナキコトヲ確定シタルモノト認メ得ヘカラサルニ非スシテ其之ヲ認ムルニ付必ス

シモ該判決ノ内容ヲ考査説明セサルヘカラサルモノニ非ス（大正一〇・一二・二三）

○相續登記完了後所有權移轉登記ヲ爲スヘキ契約ト履行期ニ關スル約旨　所有權移轉登記ニ付確定期限ヲ附セスシテ相續登記完了後ニ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ特ニ相續登記ニ付確定期限ヲ附セサル以上ハ其相續登記ハ移轉登記ノ必須ノ前提行爲ニ過キサルモノナレハ其移轉登記ニ付テハ履行期限ノ定ナキモノト爲シ何時ニテモ之カ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一一・一・一七）

○判決言渡調書中當事者ノ一名ノ氏名ノ遺脱ト判決言渡ノ效力　判決言渡調書ニ當該事件ニ付裁判長カ主文ノ朗讀ニ依リ判決ノ言渡ヲ爲シタル旨記載アル以上ハ偶々其判決言渡調書ニ當事者ノ一名ノ氏名ヲ遺脱シタレハトテ之レカ爲其當事者ニ對シ判決ノ言渡ナカリシモノト謂フヲ得ス（大正一一・五・一九）

○債務者ノ一人ニ對スル可分債務ノ履行請求ト判示方　數人カ共同シテ性質上可分ノ債務ヲ負擔スル場合ニハ通例各債務者ハ其債務ヲ分割シテ各自ノ負擔部分ノミヲ債權者ニ履行スルヲ以テ足リ一人ニテ全債務ヲ履行スルノ義務ナシ此種ノ債務ノ履行ヲ債務者ノ中一人ノミニ對シ訴求アリタル場合ニハ裁判所ハ被告タル債務者一人ニ對シ他ノ債務者ト共同シテ全債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ爲スカ又ハ全債務ニ付キ其債務者ノ負擔部分ノ幾何ナルヤヲ確定シ其部分ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ爲スカ二者其一ニ出テサル可ラスシテ一人ノ債務者ニ對シテ全債務ノ履行ヲ命スルヲ得ス（大正一一・八・一）

○主債務者トノ間ニ仲裁判斷契約ノ存スル場合ト保證債務ノ請求ニ對スル判斷　債權者ト主タル債務者トノ間ニ仲裁判斷契約ノ存在スルトキト雖債權者ヨリ該債務ノ保證人ニ對シ其支拂ヲ訴求シタル場合ニ於テ事實裁判所ハ當事者ノ主張事實竝證據方法ニ依據シ自由ニ主タル債務ノ存在竝其數額ヲ確定シ以テ保證人ニ對スル請求ノ當否ヲ判斷スルコトヲ得ヘク仲裁判斷アリタル後ニ非サレハ主タル債務ノ存在竝其數額ヲ確定シ得サルモノニ非ス（大正一一・八・一一）

○一定ノ申立中ノ物件表記ニ關シ顯著ナル誤謬ノ存スル場合之ヲ訂正シテ言渡スコトノ要否　當事者ノ一定ノ申立中ト雖モ物件表記ニ關シ顯著ナル誤謬ノ存スル場合ニ於テハ裁判所ハ之ヲ訂正シテ言渡スヘキモノトス（大正一一・八・二九）

○拒絶證書ノ要件欠缺ヲ主張セサル場合ト該證書ニ依ル事實ノ認定　拒絶證書カ商法第五百十五條所定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤハ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ非サレハ當事者ニ於テ其要件ニ缺クル所アル旨ヲ主張セサル以上ハ裁判所ハ必スシモ自ラ進ンテ之カ調査ヲ爲シ其無效ヲ判定セサルヘカラサルモノニアラス從テ當事者ノ一方カ拒絶證書ヲ證據トシテ提出シタル場合ニ於テ相手方ハ其成立ヲ認メ毫モ其要件欠缺ノ抗辯ヲ提出セサリシトキハ裁判所ハ輒ク之ヲ採ツテ以テ證據ト爲スモ必スシモ不法ナリト謂フヲ得ス（大正一一・九・一九）

○決定ニ依ル判決言渡期日ノ變更ト其ノ手續及右手續違背ト判決ノ效力　判決言渡期日ヲ決定ヲ以テ變更シタルニ拘ハラス之ヲ當事者ニ送達シ以テ期日ヲ通知スルノ手續ヲ爲サス雙方不出頭ノ儘判決ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト雖モ此期日呼出ニ關スル手續ノ違背ハ判決ノ不法ヲ來タスモノニアラス（大正一一・一〇・二〇）

○相手方ノ主張事實ノ變更ニ依リ維持ノ必要ナキニ至リタル抗辯ト判斷ノ要否　第一審ニ於テ一方ノ提出シタル抗辯カ第二審ニ至リ相手方ノ主張事實ノ變更ニ依リ之ヲ維持スルノ必要ナク當然撤回シタルモノト認メ得ヘキ場合ニハ特ニ撤回スル旨ノ表示ナキモ裁判所ハ撤回シタルモノト看做シ何等判斷ヲ與ヘサルモ違法ニ非ス（大正一二・二・一三）、

○務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキノ判定方　雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ裁判所カ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキハ雙務契約上債務履行ノ原則ニ依リ各當事者ノ債務ハ之ヲ引換ニ履行スヘキモノト判定スヘキモノトス（大正一二・五・四）

○株式讓渡ノ無效ノ判定ト當事者ノ主張ノ要否　株式ノ讓渡又ハ其讓渡ノ豫約ハ會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルコトハ商法第百四十九條但書ノ規定ニ徴シ明ニシテ該禁止規定ハ强行法規ニ屬スルヲ以テ被告ヨリ之カ抗辯ヲ提出セサルトキト雖原告ノ主張事實ニシテ其無效ノ讓渡ニ係ルコト明ナル以上ハ裁判所ハ之ニ依リテ其ノ無效タルヲ判定スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一二・五・二五）

○契約成立ノ當時ヲ參考ノ主題ト爲サヌ場合ニ於テ契約成立ノ日時ニ關スル判決ノ違否　契約成立ノ日時カ重要ナラスシテ裁判所カ契約成立ノ時現ニ當事者ノ主張セル日時ニ關ハラス之カ爲其契約ノ同一性ヲ失ハサル限リ裁判所ノ認定セル契約ハ正ニ當事者ノ主張セル契約自體ヲ認定セルモノニ外ナラサルヲ以テ其ノ成立ノ日時カ當事者ノ主張セル日時ト異ナルト雖モ依然當事者ノ主張セル契約ヲ認定セルモノト爲スヲ得ス（大正一二・六・一）

○當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲シタルニ拘ラス判決ニ之ヲ摘示セス且其ノ證據ニ對スル判斷ヲ示ササル判決ノ違否　裁判所當事者ノ申立ニ依リ證人訊問ノ決定ヲ爲シ其ノ證據調ヲ爲シタルニ拘ラス判決ニ之ヲ摘示セス且其ノ證據ニ對スル判斷ヲ示ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ提出シタル證據ヲ證定シ之ニ對スル判斷ヲ爲サスシテ事實ヲ確定シタル違法アルモノト爲スヘキモノトス（大正一二・一二・一二）

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ノ主文ト小作料ノ額ノ明示　登記義務者ニ對スル登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ハルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記手續ヲ命スル判決ハ理由ニ於テ小作料ノ額ヲ確定シ是ヲ主文ニ明示スルコトヲ要ス（大正一三・四・一一）

○事實認定ノ徵示ノ程度　事實ノ認定ヲ爲スニハ如何ナル證據又ハ辯論ノ如何ナル部分ニ依リ之ヲ認メタルヤヲ說示スヘシ而シテ其ノ認定ノ資料ト爲シタル證據若ハ辯論ノ內容ハ必スシモ其體的ニ之ヲ明示スルノ要ナシト雖少クトモ認定シタル事實ト相俟チテ其ノ裁判ノ資料トナシタル證據若ハ辯論ノ趣旨ノ內容ヲ推知シ得ヘキ程度ニ之ヲ說明シ其ノ推理判斷ノ由來ヲ明ニスヘキモノナリ（大正一三・五・一三）

○當事者ノ名立證及當事者ノ辯論ノ全趣旨ヲ綜合考覈シテ係爭事實ヲ認定スルニ足ルト說明シタル判決ノ違否　當事者ノ各立證及當事者ノ辯論ノ全趣旨ヲ綜合參酌シテ係爭事實ヲ認定スルニ足ルト說明シタル判決ノ推理判斷ノ由來ヲ明ニセサルモノニ非ス（大正一三・五・一三）

○裁判ト土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル裁定又ハ裁決トノ關係　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル裁定又ハ裁決ヲ爲スヘキ場合ニ於テ裁判所カ其ノ裁定又ハ裁決ニ從ヒ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス

裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ抵觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルヲ以テ査定名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者ヲシテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメタル確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス

前項ノ不法行爲ニ因ル損害賠償額ハ確定判決ノ勝訴者カ査定名義人又ハ裁決名義人トノ關係ニ於テ有セシ權利狀態ヲ基本トシ其ノ目的タル土地ノ上ニ現實ニ及ホセシ支配關係ノ範圍程度ヲ參酌シテ之ヲ判定スヘキモノトス（大正一四・一二・二六）

○判決ニ於ケル事實認定ノ說示ノ程度　民事判決ニ於ケル非實認定ノ說示ハ其ノ資料ト爲リタル證據其ノ他ノ事情ヲ明示シテ爲スヘク勿ク其ノ認定シタル事實ト相俟チテ之ヲ推知シ得ヘキ程度ニ之ヲ敍記シ且其ノ推理ノ作用ヲモ明示スヘキモノトス（大正一五・三・五）

○裁判ノ資料ト爲ルヘカラサルモノヲ證合證據ノ一トシテ採用シタル事實認定ノ違否　裁判所カ證據ノ證據ヲ綜合シテ其ノ事實ヲ認定スルニ當リ證據ノ一ニシテ非實認定ノ資料ト爲ルヘキモノニ非サルトキハ該認定ヘ違法タルヲ免レサルモノトス（大正一五・三・五）

○判決理由ノ說示方　民事判決ハ其ノ理由ニ於テ證據ニ依リ確定シタル事實ヲ明示之ニ法律ノ適用ヲ其ノ歸結ヲ說示スヘシ而シテ其ノ中原告ノ請求ヲ認容シタル判決ニ在リテハ其ノ請求ノ因テ生スル基礎タル事實ヲ其體的ニ確定シテ判文ニ明示スルヲ要スルモノトス（大正一五・五・二五）

○登記手續ヲ命スル判決ノ主文ト登記原因明記ノ要否　不動產ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ヘ登記手續上登記原因ヲ證明スル爲必要ナルモノナレハ其主文ニ登記原因ヲ明記スルコトヲ要ス（昭和三・一一・一七）

○當事者ノ申立ト符合スル判決更正ノ許否　判決カ當事者ノ申立ト符合スルトキハ其申立ニ關聯アルモ判決ヲ更正スルコトヲ得サルモノトス（大正五・五・二〇）

○同　旨　判決カ當事者ノ申立ト符合スルトキハ其申立ニ關聯アルモ判決ヲ更正スヘキモノニ非ス（大正五・九・二六）

○當事者氏名ノ誤記ト判決理由ノ理由　當事者氏名ノ表示上ノ誤記ハ民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ何時ニテモ其更正ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナレハ其誤記ハ原判決殊ニ其理由トナラス（大正六・二・二〇）

○判決原本ト相違スル判決正本ノ效力　判決正本カ原本ト相違スル場合ニ正本ノ受領者ニ於テ之カ爲上訴期間ヲ懈怠スル等不利益ナル結果ヲ冤レムルニ至リタルトキハ正本ノ受領者ハ其不利益ナル結果ヲ免レ得ヘキモノナリト雖勝訴者タル共同訴訟人ノ氏名ノ一部カ判決正本ニ脫落シ原本ト相違セリトスルモ該事件カ共同訴訟人ノ爲權利關係合一ニノミ確定スヘキモノナルニ於テハ判決正本ニ共同勝訴者ノ氏名一部脫落スルコトハ敗訴ニ何等關係ナキ不利益ヲ來スコトナク從テ該正本ハ判決正本タルノ效力ヲ有スルモノトス（大正七・六・三）

第二百四十三條

○判決ノ脫漏ト附帶上告ノ適否　判決理由中ニ爲ス可キ不當ト認ムル旨ヲ明示シアルモ之カ判決主文ヲ變更スルニ至ラサル場合ニハ民事訴訟法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ追加裁判ヲ申立テ其裁判ニ對シ不服アラハ上告ヲ爲シ得ヘク判決主文ヲ變更スルニ至ラサル場合ニ對シテ附帶上告ヲ爲スハ不適法ナリ（大正五・一二・六）

第二百四十四條

○主文ニ包含セサル理由ト確定力　判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有ス從テ主文ニ包含セサル理由ハ確定力ヲ有セス（明治四四・六・一六）

○訴ヲ却下シタル判決ノ確定力　訴ヲ却下シタル國法判決ニシテ確定シタルトキハ其訴ニ於ケル請求ノ理由ナキコトヘ實質的ニ確定スルモノトス（大正二・三・七）

○共有權確認判決ノ確定力ト所有權ノ確認　共有權確認ノ訴ニ於テ共有權ナリトシテ請求ヲ棄却セラレタル後更ニ同一物件ニ付所有權ヲ主張シテ其確認ヲ請求スルハ一事不理ニ該當スルモノトス（大正三・六・一九）

○數個ニ因ル實質ノ關係判決ト確定力　事實ノ關係ニ依リ救濟ヲ兼ネレハ判決ハ總令相手方ニ兼カレテ其判決ヲ受ケタルモノト雖原消又ハ原狀回復ノ訴ニ因テ取消サレサル以上ハ其效力ヲ失フモノニ非スシテ實質的ニ確定スヘキモノトス（大正六・一一・一七）

○一事實理判定ノ標準　一ノ訴訟カ前訴ト同一ニシテ一事不理ナリヤ否ハ其前後ノ訴訟カ常事者ノ目的物及請求原因ヲ同フスルヤ否ニ依リ決セラルヘキモノトス（大正七・七・九）

○一事不理ト訴訟ノ同一性　一事不理ノ事由タルヘキ訴訟關係ノ同一トハ本訴ト前訴トカ其訴ノ目的ヲ同シクシ且其請求原因タル法律關係ノ同一ナル場合ヲ指稱シ訴訟法律關係ノ總體ノ絶對的同一性ヲ阻却スルニ足ラサルモノトス（大正一一・一〇・二〇）

○請求原因ニ關スル事實ノ一事不理ノ原則　同一事實ニ關シ同一當事者間ニ於テ同一事項ニ基因シテ前訴ニ於テハ消極的確認ノ請求ヲ爲シ後訴ニ於テハ積極的給付ヲ請求スルニ於テハ一事不理ノ原則ニ關セサルモノトス（大正一一・一〇・二〇）

○前訴ノ前提事實ト後訴ノ確定力　前訴ニ於テ甲カ乙ノ爲メ丙ニ對シ債權ヲ有スル旨ノ判決ヲ受ケタル場合ニ於テ乙カ甲ノ丙ニ對スル債權ヲ讓受ケタルトキハ其讓受ノ效力ヲ以テ前訴ニ於ケル甲乙ノ關係ニ干渉スルヲ得ス從テ乙ハ前訴ニ於ケル甲ノ丙ニ對スル債權ノ存在ヲ主張シテ丙ニ對シ訴ヲ提起スルヲ得ス（大正六・一二・一八）

○所有權ニ基ク給付判決ト確定力ノ範圍　所有權ニ基ク訴ニ於テ其確認ノ請求ナルトヲ問ハス原告カ勝訴ノ判決ヲ受ケタル以後前訴ノ口頭辯論終結前ニ於テ自己ニ所有權アリト主張スルハ前判決ニ於テ既ニ判斷ヲ與ヘタルモノナルヲ以テ口頭辯論終結後ニ生シタル事由ヲ以テ前判決ノ確定ヲ妨クルヲ得ス從テ前訴ノ口頭辯論終結後ニ生シタル事由ヲ以テ前訴ノ確定判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起スルヲ得ス（大正七・一二・一八）

事由ニヨリ所有權ヲ取得シタリトシ前訴ノ當事者ニ對シ所有權ヲ有スト主張スルハ格別其以前ニ於ケル事由ニヨリ所有權ヲ取得シタルコトヲ原因トシテ訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ既判力ヲ理由トシテ其請求ヲ排斥シ得ヘキモノトス（大正六・一二・二七）

○確定力ト判決ノ基礎タル理由　判決ノ理由全部ハ固ヨリ確定スヘキモノニ非スト雖モ判決主文ノ因テ生シタル理由即チ判決ノ基礎タル理由ハ自ラ主文ニ包含セラルルモノナルヲ以テ主文ト共ニ確定スヘキモノトス（大正六・一二・二七）

○既判力ト被告ノ權利ノ有無ニ關スル理由　確定判決ノ既判力ハ主文及主文ニ包含スル理由即主文ノ由テ生スル直接ノ理由ニ止マルヘキモノトス從テ被告ノ權利ノ有無ニ關スル理由ノ如キハ原因ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テ既判力ヲ有スルコトナシ（大正八・三・一四）

○現ニ訴訟ニ關與セサル者ト確定判決ノ效力　民事訴訟ニ於ケル當事者トシテ確定判決ノ效力ニ服スルニハ其判決ニ於テ當事者トシテ表示セラレタルヲ以テ足レリトセス現ニ當事者トシテ其訴訟ニ干與シタルモノナルヲ要ス故ニ判決ニ於テ當事者トシテ表示スルモ現ニ其訴訟ニ干與シタルモノニアラサルトキハ其判決ハ之ニ對シ何等ノ效力ヲ生スルモノニアラス（大正八・四・二九）

○小作料請求判決ノ確定力ト小作契約成立ノ有無ヲ決スル理由　小作料請求ノ訴ニ付小作契約ノ不存在ヲ理由トシテ請求ヲ棄却スル判決中小作契約ニ非サル或文書ノ僞造ナルコト及小作地ノ所有權カ當事者一方ノ所有ナル旨ノ判示アルモ小作契約成立ノ有無ヲ決スル理由タルニ止マリ判決主文ヲ維持スル直接ノ理由タラサル場合ニ於テハ其理由ハ確定力ヲ有スルモノニ非ス（大正九・三・九）

○相續開始後妻ノ爲シタル相續財産ニ關スル訴訟ノ判決ト死後養子ニ對スル既判力　妻カ夫ノ相續財産ニ付他人ト訴訟ヲ爲シ該訴訟ノ權利拘束消滅セサル中夫ノ死後養子ヲ爲シタルトキハ死亡ノ場合ニ準シ該訴訟手續ハ中斷スルモノト爲スヲ相當トシ妻カ夫ノ死後養子ヲ爲シ其相續開始シタル以後ニ於テ自ラ夫ノ相續財産ニ付訴訟ヲ提起シ敗訴ノ判決ヲ受ケ確定スルモ該判決ノ既判力ハ其以前ニ妻ノ一般承繼人トナレル養子ニ及フヘキモノニ非ス（大正九・一二・二四）

○攻擊防禦ノ方法ト既判力ノ範圍　既判力ナル制度ハ同一訴訟物ニ付審理ヲ反覆シ紛爭ノ永續スルヲ防止スル趣旨ニ出テタルモノト解スヘキモノナレハ同一當事者間ニ前訴訟ト同一訴訟提起セラレタル場合ニ前訴訟ノ既判力ヲ主張シ得ヘキハ勿論縱令前後ノ訴訟カ其請求原因若クハ目的物ヲ異ニスル別異ノ訴訟ナリトスルモ前訴ノ訴訟物カ後訴ト牽聯シ後ノ訴訟ニ於テ攻擊防禦ノ方法トシテ其存在若クハ不存在カ主張セラルヘキ場合ニ於テモ當事者ハ前訴訟ノ確定判決ニ反スル主張ヲ爲スヲ得サルモノニシテ若シ當事者ノ一方カ之ニ反スル主張ヲ爲シタルトキハ相手方ハ既判力ノ抗辯ヲ提出シ得ヘキノミナラス裁判所モ亦其確定判決ニ反シテ判斷ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正一一・五・一二）

○主文ニ包含スルモノノ意義　判決ノ確定力ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有スルコトハ民事訴訟法第二百四十四條ノ明定スル所ニシテ右ニ所謂主文ニ包含スルモノトハ判決ニ記載セル原因事實及申立ニ依リ特定セラレタル請求ヲ是認シ若クハ否定セラレタル裁判ヲ指稱シ其請求ヲ是認シ若クハ否定スルニ至リタル理由殊ニ抗辯ノ如キハ主文ニ包含スルモノニ非サルカ故ニ斯カル理由ハ確定力ヲ有スルモノニ非ス（大正一一・六・一六）

○既判力ト第三者　確定判決ノ既判力ハ特段ノ場合ヲ除キ之ヲ訴訟當事者又ハ其一般承繼人ノ間ニ限リ其ノ他ノ第三者ニ及ホササルヲ原則トス（大正一一・一〇・一三）

○既判力ト特定承繼人　判決ハ當事者ノ一方ノ利益ノ爲ニ他ノ一方ニ對シ負擔ヲ命スルモノナルカ故ニ其ノ性質上第三者ニ對シ既判力ヲ有スヘキニ非サルノミナラス第三者ハ訴訟ニ關與スルモノニ非サルニ依リ判決ヲシテ之ニ既判力ヲ及ホサシムルハ其ノ當ヲ得タルモノニ非ス左レハ確定判決ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外訴訟ノ當事者及一般承繼人ノ間ニ限リ既判力ヲ有シ第三者トノ間ニ於テハ縱令當事者ノ特定承繼人ナル場合ト雖既判力ヲ有スルモノニ非ス（大正一三・五・一六）

○確定判決ト當事者ニ對スル羈束力　判決確定シタルトキハ既判力ヲ生シ訴訟ノ目的タル實體上ノ權利關係ハ確定シ後日再ヒ同一訴訟物ニ付同一ノ當事者間ニ訴訟ノ起リタル場合ニ於テ當事者ヲ羈束スルニ至ルモノトス（大正一四・七・二八）

○既判力ノ抗辯ト第二請求ニ對スル裁判ノ理由　一ノ訴訟事件ニ付請求棄却ノ確定判決ヲ受ケタル原告カ同一訴訟物ニ付再ヒ訴訟ヲ提起シタルトキハ被告ハ既判力ノ抗辯ヲ提出シテ請求ノ利益ナキコトヲ主張スルヲ得ヘク裁判所ハ第二ノ請求ハ權利保護ノ必要ヲ缺ク利益ナキ請求ナリトシテ請求棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノトス（大正一四・七・二八）

○既判力ト職權斟酌　既判力ハ私法生活ノ安固ヲ目的トシ判決ノ牴觸ヲ防クニ在リテ專ラ公益上ノ理由ニ基クモノナルカ故ニ既判力カ記錄上明白ナルトキハ裁判所ハ相手方ノ抗辯ヲ待ツコトナク職權ヲ以テ斟酌スヘキモノトス（大正一四・七・二八）

○船長ノ救助料請求ノ判決ト海員ニ及ホス效力　商法第六百五十二條ノ九第三項ニハ船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得サル旨規定セルニ徴スレハ其ノ反面解釋トシテ海員ニ屬スル救助料ハ海員ニ直接請求權アルモ尙船長ハ海員ヲ代表シ請求スルコトヲ得ヘク因テ得タル救助料ヲ海員ニ支拂フヘキ趣旨ナルコトヲ窺知スルニ足ル而シテ船長カ海員ヲ代表シテ訴訟ヲ提起シタル場合ニハ其判決ノ效力ハ當然海員ニ及フモノトス（昭和二・八・一九）

○既判力ノ內容　請求又ハ法律關係ノ存否ニ付爲シタル判決ノ確定スルトキハ所謂既判力ヲ生シ當事者又ハ一般承繼人間ニ在リテハ再ヒ同一ノ請求又ハ法律關係ニ付口頭辯論終結前ニ生シタル事由ニ基キテ確定判決ノ主文ニ現レタルモノ及其ノ理由中主文ヲ維持スル理由ト爲リタルモノニ反スル主張ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（昭和三・一二・四）

○判決確定後ノ取消ノ意思表示ト既判力　賣買ヲ原因トスル不動產所有權移轉登記義務ノ履行ヲ命シタル判決ノ確定後ニ至リ其ノ賣買契約ニ瑕疵アリトテ之カ取消ノ意思表示ヲ爲シ判決ニ因ル登記義務ノ履行ヲ拒否シ若ハ判決ニ因ル登記ノ抹消ヲ請求スルハ確定判決ノ趣旨ニ牴觸スル主張ニ基クモノニシテ許スヘカラサルモノトス（昭和三・一二・四）

○上告審ニ於テ併合審理シ同時ニ言渡ヲ爲スヘキ判決ニ於ケル相互ノ拘束力　上告審ニ於テハ訴ノ一カ他ノ訴ノ判斷ノ基本タル關係ニ在ツテ而モ前者ニ付テノ判決カ後者ノ判斷ニ對シ既判力ヲ有スヘキモノナルトキハ兩訴ヲ併合シ同時ニ判決スルニ當リテハ前者ニ付テ言渡サントスル判決ハ後者ニ付テ言渡サントスル判決ヲ言渡前ニ於テ既ニ拘束スルモノト謂ハサルヘカラス（昭和三・一二・二一）

○身分關係ノ確定ト既判力ノ範圍　確認訴訟ニ於テ法律上ノ身分關係ノ存在ヲ確定シタル判決ハ之カ基本トナリタル最終ノ口頭辯論ノ行ハレタル當時ニ於テ當該身分關係ノ存在セシコトニ付既判力ヲ有スルニ過キスシテ其ノ身分關係ノ發生原因タル事實ニ關スル判斷ハ既判力ヲ有スルコトナキモノトス（昭和四・一一・五）

○査定又ハ裁決ト判決トノ關係　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ私權關係ヲ確定スルモノトス（大正四・七・六）

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ノ效力ト判決ノ效力トノ差異　土地調査令ニ基キ爲シタル査定ノ確定又ハ裁決モ司法裁判所ノ爲シタル判決モ共ニ土地所有者ノ權利ヲ確定スルモノナリ唯其效力範圍ニ廣狹ノ差アリ前者ハ一般的ニ羈束力ヲ生シ後者ハ當事者間ニ羈束力ヲ生ス（大正六・三・二三）

○互ニ牴觸セル査定ト判決トノ效力ノ優劣　確定セル査定ト其結果ニ於テ互ニ牴觸シ相容レサルトキト雖二者其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ於テハ兩々相對シテ互ニ相侵スコトヲ得ス單ニ其行爲ノ前後ノミニ依リ二者ノ間其效力ニ優劣ヲ附スヘキモノニ非ス（大正六・三・二三）

○同　旨　査定又ハ裁決カ判決ト其結果ニ於テ相牴觸スルコトアルモ此兩者ハ全然其系統ヲ異ニセル國家機關ノ行爲ニ依リ各自獨立シテ其所有權ヲ確定シ兩々相對立シ互ニ相侵スコトヲ許ササルモノナレハ査定又ハ裁決ノ效力ハ確定判決ニ對シ何等影響ナキト同時ニ確定判決ノ效力モ亦査定又ハ裁決ニ對シ何等影響ヲ及ホスモノニ非ス（大正七・七・九）

○判決ニ基ク所有權登記ト査定名義人ノ抹消請求　甲カ擅ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス（大正七・七・九）

○査定ト判決トノ牴觸ニ因リ權利ヲ害セラレタル場合ノ救濟方　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵奪セラレタル者ハ侵奪者ヲ相手取リ之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス　（大正八・三・一四）

○互ニ牴觸セル査定又ハ裁決ト確定判決トノ效力ノ優劣　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ再審ノ申立ニ依リ變更セラレサル限リハ絕對的效力ヲ生スルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク又司法裁判所カ土地所有權ノ有無ニ關シテ判決ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ其當事者間ニ在リテハ羈束力ヲ生スルニ依リ其一方ハ他ノ一方ニ對シ判決ニ因リテ定マリタル所有權ノ有無ニ付之ヲ主張スルヲ得ヘシ從テ若シ同一土地ノ所有權ニ關シ査定又ハ裁決ト確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナレハ其行爲ノ前後ニ依リテ其效力ニ優劣ヲ附スヘカラサルハ勿論斯ル場合ニ於テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ在リテハ兩々相對立シテ其效力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ於テハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト同時ニ又他ノ一方ヲシテ確定判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノトナスヲ妥當トスルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ之ヲ變更スルノ理由アルヲ認メス　（大正一〇・一二・二三）

○査定又ハ裁決名義人ヨリ權利ヲ讓受ケタル第三者ト之ニ對スル既判力ノ主張　確定判決ノ勝訴者ハ査定名義人又ハ裁決名義人ヨリ其權利ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテ既判力ヲ主張スルヲ得ス之ニ反シテ第三者ハ其讓受ニ因リ何人ニ對シテモ査定又ハ裁決ノ效力ヲ主張シ得ヘキヲ以テ第三者ハ右ノ確定判決ニ依リテハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク其所有權ヲ主張スルヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス之ト同シク査定名義人又ハ裁決名義人カ確定判決ノ勝訴者ヨリ權利ノ讓渡ヲ受ケタル特定承繼人ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ該特定承繼人ハ既判力ヲ主張スルヲ得サルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ完全ニ其所有權ヲ主張シ得ヘシ　（大正一一・一〇・一三）

○査定又ハ裁決ト判決ノ既判力相互ノ關係　甲乙間ニ於テ同一土地ノ所有權ニ付爭ヲ生シ一方ニハ訴訟ノ結果甲ノ所有ト認ムル旨ノ確定判決アリ他方ニハ土地調査令ニ依ル審査ノ結果乙ノ所有ト確定スル旨ノ査定又ハ裁決アリタルトキハ判決ト査定又ハ裁決トハ兩々相對立シ其效力ニ優劣ナキモノニシテ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使シ得ヘキモノナリトスルコトハ當院ノ判例トスル所ナリ是卽査定又ハ裁決ハ其效力トシテ廣ク第三者ヲ羈束スルト同時ニ勝訴ノ確定判決ヲ得タル者ハ敗訴者ニ對シ既判力ヲ以テ對抗シ得ルカ爲ナリ然レトモ確定判決ノ既判力ハ訴訟當事者及其一般承繼人ノ間ニ限リ其效力ヲ及ホスヘキモノニシテ其以外ノ第三者ニ對シテハ縱令同一土地ヲ讓受ケ其權利ヲ承繼シタルモノト雖其效力ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ確定判決ノ勝訴者タル甲ハ査定名義人又ハ裁決名義人タル乙ヨリ土地所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丙ニ對シ確定判決ニ基ク所有權ヲ主張シ丙ヲシテ其所有權ヲ認メシムルコトヲ得サルモノニシテ之ニ反シ丙ハ乙ノ所有權ヲ讓受ケタルコトヲ理由トシテ甲ニ對シ其所有權取得ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス之ト同シク甲ヨリ所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丁ハ既判力ヲ理由トシテ乙ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ寧ロ乙ヨリ丁ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス　（大正一一・一一・一七）

○反對　甲カ擬ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサ

ルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス此ノ場合乙ハ土地ノ所有者ナルヲ以テ任意之ヲ處分スルコトヲ得ヘク故ニ乙カ之ヲ丙ニ讓渡シタルトキハ丙ハ之ニ依リ完全ニ其所有權ヲ取得スルモノニシテ甲カ乙ノ特定承繼人タル丙ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ甲ハ査定又ハ裁決アリタル事由ノミヲ以テ確定判決ヲ受ケタル乙ノ權利ヲ否定スルコトヲ得ス　（大正七・七・九）

○査定名義人ノ權利ノ讓渡ト確定判決ノ勝訴者ニ對スル不法行爲ノ責任　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ牴觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者ヲシテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ全然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス　（大正一四・一二・二六）

○判決ニ基キ爲シタル移轉證明ノ不法抹消ト査定名義人ノ承繼人ニ對スル主張　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリトノ査定又ハ裁決アリタリトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ牴觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ノ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早旣判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス敍上ノ如ク丙ノ爲シタル所有權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス　（大正一一・一一・一七）

第二百四十五條

○在廷セサル者ニ對スル出頭命令ノ效力　在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ期日ノ呼出狀ヲ送付スルコトヲ要セサルコトハ民事訴訟法第百六十一條但書ノ規定スル所ニシテ其ノ出頭命令ハ在廷セサル一方ノ當事者ニ對シテモ效力ヲ有スルコトハ同法第二百四十五條ニ依リ準用セラルル同法第二百三十五條ノ規定ニ照シ明瞭ナルニ依リ出頭セサル一方ニ對シテモ呼出狀ヲ送達スルコトヲ要セサルモノトス　（大正一四・九・一八）

第三節　闕席判決

第二百四十七條

○訴ヲ却下シタル闕席判決ノ確定力　訴ヲ却下シタル闕席判決ニシテ確定シタルトキハ其訴ニ於ケル請求ノ理由ナキコトハ實質的ニ確定スルモノトス　（大正二・三・七）

第二百五十條

○從前ノ期日ニ於テ辯論ヲ爲シタル場合ト闕席判決　續行期日ニ當事者ノ一方カ出頭シナカラ辯論ヲ爲サルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ任意退廷シタルトキハ該當事者ハ其期日ニ出頭セサリシモノト看做サルヘキモノナレハ縱令從前ノ期日ニ於テ辯論ヲ爲シタルコトアリトスルモ相手方ノ申立ニ依リ闕席判決ヲ爲スヘク對席判決ヲ爲スヘキモノニアラス　（大正七・一一・五）

第二百五十一條

○延期申請ヲ爲シタルニ止マル場合ト所謂本案ノ辯論　當事者カ延期ノ申請ヲ爲シタルニ止マルトキハ民事訴訟法第二百五十一條ニ所謂本案ノ辯論ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス　（大正七・一一・五）

第二百五十六條

○故障申立ト闕席判決ノ表示方法　民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ所謂故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トア

ルハ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ他ノ判決ト識別シ得ル程度ニ於テ表示スルヲ要スル趣旨ニシテ其程度ハ個々ノ場合ニ應シテ之ヲ決スヘク必スシモ判決主文ヲ掲記セサルヘカラサルモノニ非ス判決主文ノ掲記ナキモ判決言渡年月日當事者ノ氏名及事件番號等ノ記載アルトキハ尙如何ナル闕席判決ナルヤヲ識別シ得ル程度ノ表示ナリト謂フヲ妨ケス　（大正一〇・一二・一三）

○反對　民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ少クモ其判決ノ主文、判決言渡ノ年月日、當事者ノ氏名、事件ノ番號等ヲ掲ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明ナラシムルコトヲ要スルノ趣旨ナリ（大正四・二・一二）

○民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ闕席判決ヲ表示スルニ當リテ其判決全文ヲ掲クルヲ要スルノ意義ニ非サルモ少クモ其ノ判決ノ主文、判決言渡ノ年月日、當事者ノ氏名、事件ノ番號等ヲ掲ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明カナラシムルヲ要ス　（大正六・六・八）

○民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ知リ得ル程度ニ於テ之ヲ表示スルヲ以テ足レリトスルモ少クトモ其判決主文、判決言渡年月日、當事者氏名、事件番號等ヲ掲ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明ナラシムルコトヲ要スル趣旨ノ規定ニシテ故障申立書ニ闕席判決ノ主文ヲ掲ケサルトキハ縱令其判決言渡年月日、當事者氏名、事件番號及訴名等ノ記載アリトスルモ未タ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ知リ得ル程度ニ於テ之ヲ表示シタルモノト爲スニ足ラス　（大正六・一〇・二六）

○民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ知リ得ル程度ニ於テ之ヲ表示シ少クトモ其判決主文、判決言渡年月日、當事者氏名、事件番號等ヲ掲ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明ナラシムルコトヲ要スル趣旨ナリトス從テ闕席判決ノ主文トシテ掲ケタルモノニシテ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ主文ト符合セスシテ其主文ヲ掲ケサルト均シキニ歸スルトキハ其故障申立ハ不適法ナルヲ免レス　（大正八・一二・五）

第二百五十九條

○欺罔ニ因ル再度ノ闕席判決ト確定力　再度ノ闕席ニ依リ故障ヲ棄却セラレタル判決ハ縱令相手方ニ欺カレテ其判決ヲ受ケタルモノト雖モ取消又ハ原狀回復ノ訴ニ因テ取消サレサル以上ハ其效力ヲ失フモノニ非スシテ實質的ニ確定スヘキモノトス　（大正六・一二・二七）

○代理權ナキ者ノ爲シタル故障ノ棄却ト訴訟費用ノ負擔　乙カ甲ノ法定代理人トシテ故障ヲ申立テタル場合ニ於テ裁判所カ法定代理人タル權限ナキコトヲ理由トシ其故障ヲ不適法トシテ棄却シタルトキハ假令其判決ニハ甲ヲ被告トシテ表示スルモ其實甲ハ其故障申立ニ干與セス現ニ其訴訟行爲ヲ爲シタル者ハ乙ナルヲ以テ右表示セラレタル被告ハ結局乙其者ヲ指稱スルモノト謂フヘク從テ該判決ニ於テ故障申立後ノ訴訟費用ヲ被告ノ負擔トスル旨判示シタルトキハ現ニ法定代理人ト自稱シテ故障申立ヲ爲シタル乙ヲ被告ト指稱シ之ニ其訴訟費用ヲ負擔セシメタル旨趣ナリト解スヘキモノトス　（大正八・四・二五）

第二百六十一條

○闕席判決廢棄ノ言渡ヲ爲ササリシ違法ト上告理由　新判決カ闕席判決ト符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄ストノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ其言渡ヲ爲ササルハ失當ナルモ新判決ニヨリ闕席判決カ自ラ廢棄セラレタルト同一ノ結果ヲ來タスモノナレハ原判決ヲ破毀スルノ理由トナラス　（大正六・二・一三）

○闕席判決ノ廢棄ヲ言渡ササル失當ト當事者ノ利害　新辯論ニ基キ爲ス判決カ闕席判決ト符合セサル場合ニ於テ闕席判決ヲ廢棄セサルハ失當ナレトモ新判決ニ於テ闕席判決ト符合セサル判決ヲ爲シタル以上ハ闕席判決ハ維持セラレタルモノニ非スシテ廢棄セラレタルコト自ラ明白ナレハ其廢棄ノ宣言ナキカ爲ニ當事者ノ利害ニ何等ノ影響ナキモノトス　（大正八・四・一五）

第二百六十三條

第五節　證據調ノ總則

○森林法ノ地籍申告ノ有無ト立證事項　森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタリヤ否ヤノ事實ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬セス（大正二・一一・二一）

○立證責任ノ一般法則　立證責任ハ先ツ主働的ニ事實ノ存在若クハ不存在ヲ主張スルニ於テ利益ヲ有スルモノニ存スト爲スヲ一般ノ法則トス（明治四四・二・二七）

○爭ナキ金品ノ授受ト消費貸借ナリヤ贈與ナリヤノ立證責任　當事者間ニ金員ノ授受アリタルコトニ付爭ナカリシトスルモ原告ニ於テ之ヲ授受シタル原因ハ消費貸借ナリト主張シ被告ニ於テ其授受ノ原因ハ贈與ニシテ消費貸借ニアラスト爭フトキハ其消費貸借ニ因リ授受セラレタルコトハ之ヲ主張スル原告ニ於テ立證スヘキ責任アルモノトス（大正七・二・一九）

○代理人ノ申請ニ依ル證明ト代理權ニ爭アル場合ノ立證責任　朝鮮不動產證明令ニ依リ證明官署カ代理人ニ依レル申請ニ對シテ證明ヲ與ヘタル事實アルトキハ一應其代理人ノ適法ナルコトヲ調査シテ證明ヲ與ヘタルモノト推定スルヲ當然トス從テ其委任關係ヲ否認セントスル者ハ代理ノ適法ナラサリシ事實即委任ナカリシ事實ヲ擧證スヘキ責任アリ（大正八・一・二八）

○債務ノ履行請求ト目的物不存在ヲ理由トスル免責事由ノ立證責任　債權ニ基キ物ノ引渡又ハ所有權移轉登記手續ノ履行ヲ求ムル場合ニ於テハ物權ニ基ク請求ト異リ目的物ノ不存在カ履行不能ノ原因トシテ債務者ニ免責ノ事由ト爲リ得ル場合ト雖債權者ハ其基本タル契約ノ存在ニ付立證ヲ爲セハ足リ此等免責事由ノ存在ニ付テハ却テ債務者ニ於テ之カ立證ノ責ニ任スルヲ要スルモノトス（大正八・三・一四）

○一部辨濟ヲ請求權存在ノ證左トスル主張ト之カ立證責任　當事者ノ一方カ原告トシテ其請求權ニ對シ一部ノ辨濟ヲ受ケタリトノ主張ヲ其請求權ノ存在カ當事者間ニ確定セル場合ニ於テハ原告ニ不利益ナル事實ナルヲ以テ之ヲ肯定スルニ付何等ノ立證ヲ要スルモノニ非スト雖一部辨濟ノ事實ヲ以テ其請求權ノ存在ヲ證スルノ資料ト爲サントスル場合ニ於テハ其主張ハ原告ニ利益ナルヲ以テ原告ニ於テ之ヲ立證スル責任アリ（大正八・三・二五）

○能力ニ付テノ爭ト立證責任　朝鮮人ニシテ年齡滿十九歲三月ノ者ト雖モ其能力ニ爭アル場合ニハ能力アリト主張スル者ニ於テ其者カ法律行爲ヲ爲スニ付テノ利害得失ヲ判斷スヘキ智能ヲ具備スル事實ヲ立證スル責任アリ（大正九・二・一七）

○相場ニ依リ算定シタル金額ノ爭ト立證責任　請求金額カ一定日ノ米穀相場ニ依リ算定シタル金額中乙日ノ相場ニ依リ算定シタル金額ノ範圍ニ於テ其請求ヲ是認シタル場合ニ於テハ原告ノ提出シタル立證方法カ適切ナラサルトキト雖裁判所ハ當然被告ノ是認シタル一定金額ノ範圍ニ於テ原告ノ請求ヲ認容セサルヘカラサルモノニシテ其金額算定ノ基本タル乙日ノ相場カ適正ナルコトニ付敢テ被告ノ立證ヲ竢ツヲ要スルモノニ非ス却テ原告ニ於テ被告ノ主張シタル乙日ノ相場ヲ以テ不當ナリト爲シ自己ニ有利ナル判斷ヲ得ント欲セハ寧ロ原告ニ於テ其不當ナルコトヲ爭ヒ且此點ニ付テモ更ニ適當ナル立證ヲ爲ササルヘカラサルモノトス（大正九・七・二三）

○抗辯權附著ノ債權ノ相殺適狀ノ立證責任　保證人ハ諸種ノ抗辯權ヲ有スルモノニシテ相殺ヲ爲ス債權者ノ債權カ保證人ニ對スル債權タル場合ニ單ニ期限ノ到來セル一事ニ依リ之ヲ以テ相殺ニ供シ得ヘキモノトスルトキハ一方ノ意思表示ニ依リ保證人ハ此等ノ抗辯權ヲ不當ニ喪失スル結果トナルモノナレハ保證債務ノ性質上相殺ニ適セサルモノトス從テ其債權者ハ此等抗辯權カ保證人ノ拋棄若クハ其他ノ事由ニ依リ消滅シ相殺ヲ爲スニ適スルニ至リタル上ニアラサレハ之ヲ以テ相殺ノ用ニ供スルヲ得サルモノニシテ其相殺適狀ニアルコトハ相殺ヲ爲ス債權者ニ於テ之ヲ主張シ立證スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○債務引受ニ因ル免責ト立證責任　債務引受ニ付テハ民法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ第三者ト債權者トノ間ニ債務引受契約ヲ爲シタル場合ニ於テ原債務者カ其地位ヨリ脫退シテ引受人之ニ代ハリタル所謂免責的引受アリタルモノト解スヘキヤ將又引受人新

ニ債務者トナリ原債務者ト共ニ同一債務ヲ負擔シタル所謂附加的引受アリタルモノト解スヘキヤ本判例ニ依リテ定メタル如キ訴訟上ノ效果ヲ推定シタルモノナキモノトス蓋上ノ場合ニ於ケル主債務者又ハ保證債務者カ從來負擔シタル債務ノ履行ヲ請求セラレタルニ當リ免責的引受アリタリト主張シテ其債務ヲ免レントセハ一般ノ原則ニ基キ其免責ノ事實ヲ主張スルニ於テ利益ヲ有スル原債務者ニ於テ之カ證據ヲ爲スヘキ責任アリトス（大正一一・三・一〇）

○債務上認メラレタル母ノ管理權制限ト惡意ノ立證責任　胡畔ニ於テ寡婦タル母カ子ノ財產ヲ管理スル場合ニ於テ著シキ不行跡ヲ爲シ子ノ財產ヲ危クスル虞アルトキハ親族會ハ其管理權ヲ制限シ他ノ管理者ヲ選定スルコトヲ得ダルハ大正九年中ニ於テモ慣習ノ存スル所ナリ如上管理權ノ制限ヲ主張セントスル者ハ第三者カ惡意ヲ表示ヲ爲シタル當時該制限ノ事實ヲ知リタルコト若クハ第三者カ之ヲ知ラサリシコトニ付過失アルコトヲ主張シテ之ヲ立證スルノ責任アルモノトス（大正一一・四・四）

○手形所持人ニ對スル惡意ノ抗辯ト立證責任　手形債務者カ前主ニ對抗シ得ヘキ事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルニハ讓受人ノ惡意ナリシコトヲ立證セサルヘカラス而シテ裁判所ニ於テ手形債務者カ前主ニ對抗シ得ヘキ事由ノ存在ヲ認定シタリトスルモ之カ爲ニ直ニ讓受人ノ惡意ヲ推定シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ手形債務者ハ何迄シテモ讓受人ノ惡意ナリシコトヲ立證セサルヘカラサルモノトス（大正一一・一〇・二三）

○地價收用ニ因ル利益ノ獲得ト寄生ノ立證責任　土地ノ賣主カ價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘキモノナルコトハ取引上ノ常態ナルヲ以テ何等ノ證據ヲ提出スルコトナクシテ一般ニ價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ賣買ノ爭ヒアリタル時期ニ於テモ尙賣主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要シ若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカラシカ爲ニ拘ラス賠償責任ヲ免ルルコトヲ公平ノ觀念ニ反スル不法アリトシ訴ヘサルヘカラス（大正二・二・四）

○履行ノ增進ト立證責任　損害ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要シ不完全ナル履行ノ提供ヘ未タ履行ノ提供アリタリト謂フコトヲ得サルモノトス故ニ一方カ登記義務履行ノ提供ヲ爲シタリト主張シ地方裁判所カ登記申請書ニ目的物ノ一部ノ記載ヲ缺如セルニ依リ一方ノ提供ヲ不完全ナル履行ノ提供ナリト排斥シタルハ不當ニ非ス（大正二・二・二三）

○株式ノ相場昂騰ニ因ル利益ノ賣得ト受託者ノ立證責任　株式ノ性質上其ノ所有者ハ相場昂騰ノ機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得スヘキカ故ニ賣主ハ何等ノ證據ヲ提出スルコトナクシテ一般ノ價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ賣買ノ爭ヒアリタル時期ニ於テモ尙賣主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要シ若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカラシカ爲ニ拘ラス賠償責任ヲ免ルルコトヲ公平ノ觀念ニ反スル不法アリトシ訴ヘサルヘカラス（大正二・二・四）

○株式ノ相場昂騰ニ因ル利益ノ賣得ト受託者ノ立證責任　株式ノ性質上其ノ所有者ハ相場昂騰ノ機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ賣買ノ爭ヒアリタル時期ニ於テモ尙賣主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要シ若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカラシカ爲ニ拘ラス賠償責任ヲ免ルルコトヲ公平ノ觀念ニ反スル不法アリトシ訴ヘサルヘカラス（大正二・二・四）

○株式ノ相場昂騰ニ因ル利益ノ賣得ト受託者ノ立證責任　株式ノ性質上其ノ所有者ハ相場昂騰ノ機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得スヘキカ故ニ賣主ハ何等ノ證據ヲ提出スルコトナクシテ一般ノ價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ賣買ノ爭ヒアリタル時期ニ於テモ尙賣主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要シ若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカラシカ爲ニ拘ラス賠償責任ヲ免ルルコトヲ公平ノ觀念ニ反スル不法アリトシ訴ヘサルヘカラス（大正二・二・四）

○履行ノ增進ト立證責任　損害ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要シ不完全ナル履行ノ提供ヘ未タ履行ノ提供アリタリト謂フコトヲ得サルモノトス故ニ一方カ登記義務履行ノ提供ヲ爲シタリト主張シ地方裁判所カ登記申請書ニ目的物ノ一部ノ記載ヲ缺如セルニ依リ一方ノ提供ヲ不完全ナル履行ノ提供ナリト排斥シタルハ不當ニ非ス（大正二・二・二三）

○株式ノ相場昂騰ニ因ル利益ノ賣得ト受託者ノ立證責任　株式ノ性質上其ノ所有者ハ相場昂騰ノ機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ賣買ノ爭ヒアリタル時期ニ於テモ尙賣主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要シ若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカラシカ爲ニ拘ラス賠償責任ヲ免ルルコトヲ公平ノ觀念ニ反スル不法アリトシ訴ヘサルヘカラス（大正二・二・四）

○株式ノ相場昂騰ニ因ル利益ノ賣得ト受託者ノ立證責任　株式ノ性質上其ノ所有者ハ相場昂騰ノ機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ賣買ノ爭ヒアリタル時期ニ於テモ尙賣主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要シ若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得モサルヘカラシカ爲ニ拘ラス賠償責任ヲ免ルルコトヲ公平ノ觀念ニ反スル不法アリトシ訴ヘサルヘカラス（大正二・二・四）

理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正六・一一・一三）

○相手方ノ引用セサル證據ト雖モ當事者ノ認定ノ資料　證據ハ當事者雙方ニ共通ノモノナレハ縱令相手方カ之ヲ引用セサルトキト雖モ其一方ヨリ提出シタル證據ニ依リ相手方ノ主張事實ヲ認定スル資料ニ供スルコトヲ妨ケサルモノトス（大正一〇・一・二八）

○證據共通ノ法則　證據ハ當事者雙方ニ共通ノモノナレハ當事者一方ノ提出シタル證據ヲ相手方ノ利益ニ供スルコトヲ妨ケス（大正一四・一一・二七）

○却下シタル證據調ノ實施ト證力　裁判所カ證人訊問ノ申請ヲ却下シタルニ拘ラス該其證據調ヲ職權ヲ以テ當事者カ之ヲ援用シタル以上ハ其證人ノ證言ハ證據力ヲ有スルヲ以テ當事者ノ援用シタルトキハ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘキモノトス（大正四・二・五）

○判決ノ資料ト爲ササル證據ノ一部ト理由ノ說示　當事者ノ一方ヨリ數多ノ證據ヲ提出シタル場合ニ其一部ノ證據ヲ資料トシテ提出シタル當事者ノ主張事實ヲ認ムルニ足ルト判示シタル場合ニ他ノ一部ノ證據ヲ資料トセサリシ理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正六・二・一三）

○排斥シタル證據ト其ノ理由ノ說示　排斥シタル證據ニ對シテハ逐一排斥ノ理由ヲ說明スルヲ要セス（大正六・六・三〇）

○證言ノ排斥ト其ノ理由ノ說示　裁判所カ證人ノ證言ヲ信用スルニ足ラスト爲シ之ヲ排斥スルニ當リテハ單ニ其證言ノ信用スルニ足ラサル自ラ說示スレハ足リ更ニ進ンテ何カ故ニ信用スルニ足ラサルカノ理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正七・一・三一）

○證據ノ最終ト之ヲ採否ノ理由說示　苟モ裁判所カ其心證ノ形成ニ當リテハ唯之ヲ採用シ若クハ之ヲ排斥シタル自ラ說示スレハ足リ何カ故ニ之ヲ採用シ若クハ之レヲ排斥シタルカニ付心證ノ因テ生シタル理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正七・六・二八）

○證據ノ最終心證ノ固テ生シタル理由ノ說示　互ニ相反スル數多ノ證據アル場合ニ於テ其何レヲ信用シ何レヲ信用セサルカハ事實裁判所ノ心證ニ依リ之ヲ決スヘキモノニシテ其心證ノ因テ生シタル理由ノ如キハ判文ニ表示スルノ要ナキモノトス

（大正八・五・一六）

○立證責任ノ主張ト裁判所ノ判斷　證據ハ之ヲ提供スルニ因リテ裁判所ノ判斷ヲ求クルニ足リ必スシモ當事者ノ主張ニ制限セラルヘキモノニ非ス（大正三・三・一八）

○證據ノ價値ノ不當ニ定ノ非實ヲ認定シタル場合ニ於テ其證據ヲ綜合シ其非實ヲ認定シ得ルヤ　凡ソ非實ヲ認定スルニ當リ非實ノ多數ヲ認定スルヲ以テ足レリトスヘク又其證據ノ一部ニ反對ナル事實ヲ認メ得ヘキ記載部分アリトスルモ判文上特ニ其記載部分ヲ除外スルノ要ナク唯其記載部分ヲ採用シタルニ非サルコトヲ推知シ得ル以上ハ敢テ違法ニアラス（大正七・一・三五）

○同　上　凡ソ非實ヲ認定スルニ當リ非實ノ多數ヲ認定スルヲ以テ足レリトスヘク又其證據ノ一部ニ反對ナル事實ヲ認メ得ヘキ記載部分アリトスルモ判文上特ニ其記載部分ヲ除外スルノ要ナク唯其記載部分ヲ採用シタルニ非サルコトヲ推知シ得ル以上ハ敢テ違法ニアラス（大正七・一・三五）

○文書トナラサル一種ノ鑑定ノ證據力ト證法　裁判所カ證據ノ綜合ニ依リ非實ヲ認定シタル場合ニ於テ其證據ノ一部ヲ成ス文書トナラサル一種ノ鑑定ノ結果ヲ採用シテ非實ノ認定ヲ動カスヘカラサルヤ（大正七・三・八）

○證據利益ノ證明ト證法　當事者ノ提出シタル證據ニ對スル利益ヲ處分シ若クハ非實ヲ排斥シタルハ違法ナリ（大正六・二・一三）

○立證責任ノ否認ト其ノ範圍　證據ノ證否ニ於テ成立ヲ認メ立證ノ責任ヲ否認シタル場合ハ證據ノ全部ニ亘リ其否認ノ範圍ヲ定ムヘキモノトス（大正六・一一・一六）

○證據ニ依ル事實認定方　證據ノ證據ヲ綜合シテ一定ノ非實ヲ認定スル場合ニ在リテハ何ヤノ證據ニ認定非實ノ全部ヲ認メ得ヘキモノナリヤ又ハ其證據ノ一節ニ認定非實中ノ一節ヲ認メ得ヘキモノナリヤハ事實裁判所ノ心證ニ存スルヲ以テ足レリトス

○證據ノ解釋ト當事者ノ主張以外ノ事實認定　證據ノ解釋ハ裁判所ノ職權ニ屬シ當事者ノ主張ニ羈束セラルルモノニ非サルヲ以テ裁判所ハ當事者ノ主張以外ノ事實ト雖之ヲ認定シ之ヲ以テ當事者ノ主張事實ノ眞否ヲ決スル資料ト爲スコトヲ得ルモノトス（大正七・九・一〇）

○證據判斷ト當事者ノ主張　裁判所カ爭點事實ヲ判定スルニ際リ當事者ヨリ提出セル數多ノ證據ヲ彼此對照シ若ハ之ヲ綜合シテ考覈スルハ證據判斷ノ方法トシテ當然是認セラルヘキモノニシテ之ニ付特ニ當事者ノ申出ヲ俟ツノ要ナキモノトス（大正一四・一一・二七）

○他ノ訴訟事件ニ於ケル自白ト自由心證　本件ト同一ナル當事者間ノ他ノ訴訟事件ニ於テ其一方カ相手方ニ對シテ本件ノ山地ハ門中ノ共有ナリト自白シタル事實アリテ相手方カ之ヲ本件ノ證據トシテ援用シタルトキハ該自白ハ一個ノ裁判外ノ自白ニ過キサルヲ以テ事實審タル裁判所ハ其自白ノ眞實ニ符合スルヤ否ヤ從テ其自白ノ信憑スルニ足ルヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷スルヲ得ヘシ（大正九・一一・一九）

○鑑定書中鑑定事項以外ノ記事ト證據力　過去ニ於ケル事實ノ存否ハ當事者間爭ナキカ又ハ顯著ナル事實若クハ人證書證等適法ナル方法ニ依リ之ヲ判斷スヘキモノニシテ鑑定人カ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ノ一片ノ記事ニ依リ之ヲ判斷シ得ヘキモノニ非ス卽チ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ニ於ケル過去ノ事實存否ノ記事ハ鑑定證據ノ效力ナキモノナレハ擧テ以テ判決資料ト爲スコトヲ得ス（大正一〇・七・一二）

○期日前ニ於ケル證據調ノ申立ト決定スヘキ裁判所　民事訴訟法第二百七十七條ハ口頭辯論ニ於ケル證據調速進ノ爲メ一種ノ準備手續ヲ規定シタルモノニシテ口頭辯論期日前ニ於ケル證據調申立ノ許否ハ裁判所訴訟記錄ノ調査ニ依リテ之ヲ爲シ得ヘキカ故ニ嘗テ口頭辯論ニ關與シタルコトナキ判事ヲ以テ構成スル裁判所其ノ證據決定ヲ爲シ得ヘキハ論ヲ俟タス（昭和三・一・三一）

第二百七十四條

○檢證ノ申請ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ檢證ヲ申請スルモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ檢證ノ必要ヲ認メサルトキハ此ノ立證方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ證據タルニ拘ラス之ヲ許可セサルコトヲ得（大正二・一〇・一四）

○人證ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ申出テタル證據調ニ對シ唯一ノ證據方法トシテ證據調ヲ爲ササルヘカラサルハ該證據方法カ直接爭點事實ニ對スルモノナル場合ニ限リ相手方ヨリ提出シタル證據ニ對シ更ニ反證トシテ證據調ヲ申請スル場合ノ如キハ唯一ノ證據方法トシテ證據調ヲ爲ササルヘカラサルモノニ該當セサルヲ以テ之ヲ拒否スルハ事實審ノ職權ニ屬スルモノトス（大正六・一・二六）

○證書ノ成立ヲ否認セントシテ爲セル立證ト唯一ノ證據方法　當事者ノ一方カ其主張事實ヲ立證スル爲ニ數多ノ證據ヲ提出シ相手方ヨリ提出シタル證書ヲ否認シタルニ拘ハラス該證書ノ眞正ナラサルコトヲ立證セントシテ爲セル證據調ノ申請ハ唯一ノ證據方法ニ非ス（大正六・四・二〇）

○唯一ノ證據方法ニ關スル法則違背ト破毀ノ理由　爭點事實ニ對スル當事者ノ唯一ノ證據方法ヲ杜絕シ而カモ立證ナキノ故ヲ以テ其主張事實ヲ否定シタルハ不法ナレトモ他ノ理由ニ依リ判決主文ヲ支持スルニ足ル以上ハ原判決破毀ノ理由トナラス（大正六・七・六）

○證據申出ノ採否ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ申出テタル證據方法ニ對シ證據調ヲ爲ササルヘカラサルハ該證據方法カ直接爭點事實ニ對スル唯一ノ證據方法タル場合ニ限ルモノニシテ然ラサル場合ニ於テハ裁判所カ之ヲ必要ト認メサルトキハ之ヲ却下スルコトヲ得ヘシ（大正七・一・二五）

○否認セラレタル證書ノ成立ニ對スル立證ト唯一ノ證據方法　爭點事實ノ立證トシテ提出シタル書證カ相手方ノ否認ニ依リ其證據力ヲ失フモノニシテ相手方ヨリ否認セラレタルトキハ當事者ハ未タ爭點事實ニ對シ何等立證ヲ爲ササルト擇フ所ナキヲ以テ斯ル場合ニ當事者ヨリ書證ノ成立カ眞正ナルコトヲ立證セントシテ申立テタル證據調ハ是又爭點事實ニ對スル唯一ノ證據方法ナリトス（大正七・三・一二）

○他ニ證據ノ提出アルトキノ文書成立ノ立證ト唯一ノ證據方法　爭點事實ノ立證トシテ提出シタル書證カ相手方ノ否認ニ依リ證

頁	條
五	一七五
八	二〇
八	九九
四	九四九
五	五六〇
六	五四九

據力ヲ失フモノニアラサルカ若クハ其否認ニ依リ證據力ヲ失フモノトスルモ其書證以外ニ爭點事實ヲ立證スヘキ證據ノ提出アルトキハ其否認セラレタル書證カ眞正ニ成立セルモノナルコトヲ立證セントスル證據調ノ申立ハ唯一ノ證據方法ナリト謂フヲ得ス（大正七・三・一二）

○却下シタル唯一ノ證據方法ト判決　當事者ノ申立テタル唯一ノ證據方法ヲ却下シ其不利益ニ事實ヲ確定シタル判決ハ不法ナリ（大正一〇・二・四）

○書證提出後ニ爲シタル證人訊問申請ト唯一ノ證據方法　書證提出後更ニ同一事實ヲ立證スル爲メ申請シタル證人訊問ハ唯一ノ證據方法ニ非サレハ之ヲ却下スルモ違法ニ非ス（大正一〇・三・二五）

○鑑定ト唯一ノ證據方法　鑑定ハ裁判所ノ考覈ヲ補助スルモノタルニ過キサレハ縱令當事者ノ申出アルモ裁判所カ之ヲ必要ト認メサルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ拘ラス之ヲ採用セサルコトヲ得ルモノトス（大正六・一一・九）

○同　旨　鑑定ハ裁判所ノ考覈ヲ補助スルモノナルニ過キスシテ當事者ヨリ鑑定ノ申請ヲ爲スモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ鑑定ノ必要ヲ認メサルトキハ其鑑定ノ申請カ當事者ノ爲唯一ノ證據方法タルニ拘ラス之ヲ却下スルヲ得ルモノトス（大正七・五・三）

○補充的證據方法ト唯一ノ證據方法　事實裁判所ニ於テ自由ニ取捨スルコトヲ得ヘキ證據ノ內容如何ヲ立證センカ爲ニ申出タル證據方法ハ證據ニ對スル補充的證據方法ニ外ナラス直接爭點事實ニ對スル唯一ノ證據方法ニ非サルヲ以テ事實裁判所ハ自由ニ之カ許否ヲ決シ得ヘキモノトス（大正八・五・九）

○二個ノ抗辯中一ニ對スル證據申請ト唯一ノ證據方法　第一賣買ハ當事者間ノ合意ニ依リ解除セラレタリ第二假ニ然ラストスルモ當事者一方ノ留保シタル解除權ノ行使ニ依リ解除セラレタリトノ主張ノ存スル場合ニ於テ右第一第二ノ主張ノ基本タル事實關係カ同一ナルトキハ格別若シ彼此別個ノモノナルニ於テハ假令第一ノ事實ニ付立證ノ存スルトキト雖第二ノ事實ニ關シ爲シタル證據調ノ申請ハ尙同事實ニ付唯一ノ證據方法タルモノナルカ故ニ之ヲ採用セスシテ主張者ニ不利益ノ判斷ヲ爲スハ採證法

則ノ違背タルヲ免レサルモノトス（大正八・一一・二二）

○唯一ノ證據方法ト審級トノ關係　第一審ニ於テ被告ノ申請シタル證人ノ證言ヲ第二審ニ於テ假令原告カ援用シタル場合ト雖第一審ノ續審ナルヲ以テ當然第二審ノ證據資料トナリ從テ被告ノ新ニ申請スル證據方法カ假リニ之ヲ第一審ニ於テ提出シタル場合ニ唯一ノ證據方法ニ非サルトキハ第二審ニ於テモ亦唯一ノモノト謂フコトヲ得ス（大正一四・一一・六）

○書證ノ成立ヲ證セムトスル證據申請ノ却下ト證據判斷　訴訟ノ相手方ヨリ不知ヲ以テ爭ハレタル書證ニ付其ノ成立ヲ證スル爲ノ證據申請ヲ却下シ置キナカラ其ノ書證ノ成立ヲ認ムヘキ證左ナシトシテ之カ實質的證據力ヲ否定スルハ違法ナリトス（大正一五・一一・二）

第二百七十七條

○證據決定ノ取消又ハ變更ノ時期　證據決定ハ訴訟指揮ニ關スル裁判ナルヲ以テ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ之ヲ取消シ若クハ變更スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一〇・六・一七）

○民事令第三十九條ト證據決定ノ取消　朝鮮民事令第三十九條ハ注意的規定ニ過キサルニ依リ之ニ依據シテ證據決定ヲ取消スヲ許ササル本則ノ存スルコトヲ推論セントスルハ其當ヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

○證據申請ニ對シ裁判ナカリシ場合ト證申請ノ暗默ノ拋棄　當事者カ法廷外ノ證據申請ヲ爲シタルニ裁判所カ之ニ關シテ何等ノ決定ヲ爲ササリシニ對シ申請人ハ其後口頭辯論期日ニ出頭シ乍ラ之ニ關シ亦何等申請スル所ナク却テ辯論ノ終結セラレタル期日ニ訴訟關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ申請人ハ之ニ依リテ暗默ニ該證據申請ヲ拋棄シタルモノト認ムヘキモノトス（大正一一・一二・二六）

○證據方法ノ拋棄ト證據決定取消ノ要否　當事者カ有效ニ證據方法ヲ拋棄シタルトキハ之ニ關スル證據決定ハ當然其ノ施行ヲ爲スコトヲ要セサルニ至ルモノナレハ更ニ其ノ決定ヲ取消スノ要ナキモノトス（大正一四・一一・二七）

○相手方ノ實見ヲ附記シタル證據調ノ申立ト催告ノ要否　當事者ノ一方カ口頭辯論期日前書面ヲ以テ證據調ノ申立ヲ爲シタル場

頁	條
六	五七四
八	二二〇
八	二二〇
一三	五八九
一五	五八四
九	五三二
一二	四五八

合ニ於テ相手方カ該書面ニ附記シテ之ニ對スル意見ヲ申立テタルトキハ裁判所ハ更ニ相手方ニ對シ民事訴訟法第二百七十七條第二項所定ノ催告ヲ爲スノ要ナク直ニ其ノ證據決定ヲ爲シ得ヘキモノトス（昭和三・一・三一）

第六節　人證

○利害關係アル證人ノ證言ト排斥ノ理由　證人ノ證言ヲ排斥スルニ當リ利害關係ヲ有セリトノ理由ニ於テ排斥シタルハ違法ナリ（明治四三・四・四）

○取消前ノ證言ト證據力　證人カ後ノ供述ニ依リ其以前ニ爲シタル供述ヲ取消シタルトキト雖裁判所ニ於テ後ノ供述ヲ信セスシテ却テ前ノ供述眞實ナリト認ムルトキハ之ヲ採用スルヲ得（大正二・二・二五）

○傳聞事實ノ供述ト證據力　證人ノ傳聞事實ノ供述ト雖モ證言トシテ證據ニ採用スルヲ得（大正二・九・一二）

○世上稀ニ存スル事例ト排斥ノ理由　證人ノ證言事實カ世上稀ニ存スル事例ニ屬スルノ故ヲ以テ之ヲ採用セサルハ違法ナリ（大正四・六・一五）

○證人訊問調書ニ於ケル通譯ヲ爲シタルコトノ記載ノ要否　證人訊問調書ニ朝鮮總督府裁判所通譯生兼書記某ノ署名捺印アル以上ハ同人ノ立會通譯ニ依リ行ハレタルモノニシテ其通譯ヲ爲シタルコトハ之ヲ調書ニ記載セサルモ違法トナルコトナシ（大正五・一二・二六）

○證人ノ供述ト分割取捨　同一證人ノ供述ト雖モ之ヲ分割取捨スルコトハ事實裁判所ノ職權ニ屬シ必スシモ同一證人ノ供述ヲ採用スルニ當リテ其全部ヲ採用セサルヘカラサルモノニ非ス（大正六・一・三〇）

○證言ノ分割取捨ト職權　證人ノ供述カ分割シ得ヘキ場合ニ事實裁判所ニ於テ其一部ヲ採用シテ他ノ一部ヲ排斥スルハ其職權ニ屬ス（大正九・一二・二四）

○證人ノ資格欠缺ニ對スル異議ト上告理由　證人ノ資格ニ欠クル所アレハ證人訊問ノ際若クハ遲クトモ之ニ接續スル口頭辯論ニ於テ之ヲ主張シテ異議ヲ申立ツヘク其申立ヲ爲サスシテ上告審ニ至リ之ヲ理由トシテ同證人ノ證言ヲ採用セシ原判決ヲ非難スルヲ得ス（大正六・六・二二）

○僞證審理中ニ在ル場合ト證言ノ證據力　證人カ僞證ノ訴追ヲ受ケ審理中ニ在リトスルモ同證人ノ供述ハ證據トシテ採用シ得ヘカラサルモノニアラス（大正六・九・二八）

○契約當事者ノ意思ニ關スル證言ト證據力　證人カ契約ニ干與シタル場合ニ於テ證人ハ斯ル意思ノ下ニ契約ヲ爲シタリトノ事實及ヒ當事者モ亦斯ル意思ノ下ニ契約ヲ爲シタリトノ事實即チ過去ニ屬スル契約當時ノ事情ニ關シ證人カ實驗シタル事項ニ付供述ヲ爲シタルモノニシテ契約ノ解釋ニ關シ單ニ證人ノ意見ヲ述ヘタルモノニ非サルトキハ證言トシテ採用スルモ違法ニ非ス（大正六・一二・一四）

○證人申請留保ノ僞ノ結審ト上告ノ理由　證人申請ヲ留保シタル儘結審ヲ告ケタルニ對シ異議ヲ留メサルハ責問權ヲ喪失シタルモノナレハ後ニ至リ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス（大正七・五・一四）

○認定事實ヲ覆スニ足ラストノ判示ト證據判斷　判決ニ於テ立證ノ爲メ提出セラレタル多數ノ證人ノ證言中證人何某ノ證言ハ措信セス其他ノ擧證ニ依リテハ認定事實ヲ覆スニ足ラスト判示セルトキハ裁判所ハ證人何某以外ノ證人ノ證言ハ之ヲ信用スルモ其證言事項ヲ以テハ認定事實ヲ覆スニ足ラスト爲ス趣旨ト解スヘク而シテ其證言中右認定事實ヲ覆スニ足ル事項アルトキハ其證據判斷ハ失當ナリトス（大正七・一二・一三）

○不合理ナル證言ノ採用ト證據法則違背　證言ノ取捨判斷ハ事實承審官ノ職權ニ屬スト雖一定ノ時期ニ於テ或ル事實ノ存在シタル旨ノ證言カ其供述ノ全趣旨ヨリ考察シテ特殊ノ事情ノ伴フニアラサレハ不合理ニ歸スル如キ場合ニ於テ其特殊ノ事情ノ存在ヲ供タスシテ該證言ヲ採用シタル判決ハ前示職權ノ範圍ヲ超越シ證據法則ニ違背シタル不法アルヲ免レサルモノトス（大正八・六・二七）

○前後矛盾セル證言ト取捨ノ自由　證人カ前後相矛盾セル供述ヲ爲シタル場合ニ在リテハ之ヲ取捨シテ其一ヲ採用スルカ又ハ兩

頁	番	年
六三三	九	昭和三
六三四	一二	昭和四
六三五	一三	昭和四
六三六	一四	昭和四
六三七	一五	昭和四
六三八	一六	昭和四
六三九	一七	昭和四
六四〇	一八	昭和四
六四一	一九	昭和四
六四二	二〇	昭和四
六四三	二一	昭和四
六四四	二二	昭和四
六四五	二三	昭和四
六四六	二四	昭和四
六四七	二五	昭和四
六四八	二六	昭和四
六四九	二七	昭和四
六五〇	二八	昭和四
六五一	二九	昭和四
六五二	三〇	昭和四
六五三	三一	昭和四
六五四	三二	昭和四
六五五	三三	昭和四
六五六	三四	昭和四
六五七	三五	昭和四
六五八	三六	昭和四
六五九	三七	昭和四
六六〇	三八	昭和四
六六一	三九	昭和四
六六二	四〇	昭和四
六六三	四一	昭和四
六六四	四二	昭和四
六六五	四三	昭和四
六六六	四四	昭和四
六六七	四五	昭和四
六六八	四六	昭和四
六六九	四七	昭和四
六七〇	四八	昭和四
六七一	四九	昭和四
六七二	五〇	昭和四
六七三	五一	昭和四
六七四	五二	昭和四
六七五	五三	昭和四
六七六	五四	昭和四
六七七	五五	昭和四
六七八	五六	昭和四
六七九	五七	昭和四
六八〇	五八	昭和四
六八一	五九	昭和四
六八二	六〇	昭和四
六八三	六一	昭和四
六八四	六二	昭和四
六八五	六三	昭和四
六八六	六四	昭和四
六八七	六五	昭和四
六八八	六六	昭和四
六八九	六七	昭和四
六九〇	六八	昭和四
六九一	六九	昭和四
六九二	七〇	昭和四
六九三	七一	昭和四
六九四	七二	昭和四
六九五	七三	昭和四
六九六	七四	昭和四
六九七	七五	昭和四
六九八	七六	昭和四
六九九	七七	昭和四
七〇〇	七八	昭和四
七〇一	七九	昭和四
七〇二	八〇	昭和四
七〇三	八一	昭和四
七〇四	八二	昭和四
七〇五	八三	昭和四
七〇六	八四	昭和四
七〇七	八五	昭和四
七〇八	八六	昭和四
七〇九	八七	昭和四
七一〇	八八	昭和四
七一一	八九	昭和四
七一二	九〇	昭和四
七一三	九一	昭和四
七一四	九二	昭和四
七一五	九三	昭和四
七一六	九四	昭和四
七一七	九五	昭和四
七一八	九六	昭和四
七一九	九七	昭和四
七二〇	九八	昭和四
七二一	九九	昭和四
七二二	一〇〇	昭和四
七二三	一〇一	昭和四
七二四	一〇二	昭和四
七二五	一〇三	昭和四
七二六	一〇四	昭和四
七二七	一〇五	昭和四
七二八	一〇六	昭和四
七二九	一〇七	昭和四
七三〇	一〇八	昭和四
七三一	一〇九	昭和四
七三二	一一〇	昭和四
七三三	一一一	昭和四
七三四	一一二	昭和四
七三五	一一三	昭和四
七三六	一一四	昭和四
七三七	一一五	昭和四
七三八	一一六	昭和四
七三九	一一七	昭和四
七四〇	一一八	昭和四
七四一	一一九	昭和四
七四二	一二〇	昭和四
七四三	一二一	昭和四
七四四	一二二	昭和四
七四五	一二三	昭和四
七四六	一二四	昭和四
七四七	一二五	昭和四
七四八	一二六	昭和四
七四九	一二七	昭和四
七五〇	一二八	昭和四
七五一	一二九	昭和四
七五二	一三〇	昭和四
七五三	一三一	昭和四
七五四	一三二	昭和四
七五五	一三三	昭和四
七五六	一三四	昭和四
七五七	一三五	昭和四
七五八	一三六	昭和四
七五九	一三七	昭和四
七六〇	一三八	昭和四
七六一	一三九	昭和四
七六二	一四〇	昭和四
七六三	一四一	昭和四
七六四	一四二	昭和四
七六五	一四三	昭和四
七六六	一四四	昭和四
七六七	一四五	昭和四
七六八	一四六	昭和四
七六九	一四七	昭和四
七七〇	一四八	昭和四
七七一	一四九	昭和四
七七二	一五〇	昭和四
七七三	一五一	昭和四
七七四	一五二	昭和四
七七五	一五三	昭和四
七七六	一五四	昭和四
七七七	一五五	昭和四
七七八	一五六	昭和四
七七九	一五七	昭和四
七八〇	一五八	昭和四
七八一	一五九	昭和四
七八二	一六〇	昭和四
七八三	一六一	昭和四
七八四	一六二	昭和四
七八五	一六三	昭和四
七八六	一六四	昭和四
七八七	一六五	昭和四
七八八	一六六	昭和四
七八九	一六七	昭和四
七九〇	一六八	昭和四
七九一	一六九	昭和四
七九二	一七〇	昭和四
七九三	一七一	昭和四
七九四	一七二	昭和四
七九五	一七三	昭和四
七九六	一七四	昭和四
七九七	一七五	昭和四
七九八	一七六	昭和四
七九九	一七七	昭和四
八〇〇	一七八	昭和四
八〇一	一七九	昭和四
八〇二	一八〇	昭和四
八〇三	一八一	昭和四
八〇四	一八二	昭和四
八〇五	一八三	昭和四
八〇六	一八四	昭和四
八〇七	一八五	昭和四
八〇八	一八六	昭和四
八〇九	一八七	昭和四
八一〇	一八八	昭和四
八一一	一八九	昭和四
八一二	一九〇	昭和四
八一三	一九一	昭和四
八一四	一九二	昭和四
八一五	一九三	昭和四
八一六	一九四	昭和四
八一七	一九五	昭和四
八一八	一九六	昭和四
八一九	一九七	昭和四
八二〇	一九八	昭和四
八二一	一九九	昭和四
八二二	二〇〇	昭和四
八二三	二〇一	昭和四
八二四	二〇二	昭和四
八二五	二〇三	昭和四
八二六	二〇四	昭和四
八二七	二〇五	昭和四
八二八	二〇六	昭和四
八二九	二〇七	昭和四
八三〇	二〇八	昭和四
八三一	二〇九	昭和四
八三二	二一〇	昭和四
八三三	二一一	昭和四
八三四	二一二	昭和四
八三五	二一三	昭和四
八三六	二一四	昭和四
八三七	二一五	昭和四
八三八	二一六	昭和四
八三九	二一七	昭和四
八四〇	二一八	昭和四
八四一	二一九	昭和四
八四二	二二〇	昭和四
八四三	二二一	昭和四
八四四	二二二	昭和四
八四五	二二三	昭和四
八四六	二二四	昭和四
八四七	二二五	昭和四
八四八	二二六	昭和四
八四九	二二七	昭和四
八五〇	二二八	昭和四
八五一	二二九	昭和四
八五二	二三〇	昭和四
八五三	二三一	昭和四
八五四	二三二	昭和四
八五五	二三三	昭和四
八五六	二三四	昭和四
八五七	二三五	昭和四
八五八	二三六	昭和四
八五九	二三七	昭和四
八六〇	二三八	昭和四
八六一	二三九	昭和四
八六二	二四〇	昭和四
八六三	二四一	昭和四
八六四	二四二	昭和四
八六五	二四三	昭和四
八六六	二四四	昭和四
八六七	二四五	昭和四
八六八	二四六	昭和四
八六九	二四七	昭和四
八七〇	二四八	昭和四
八七一	二四九	昭和四
八七二	二五〇	昭和四
八七三	二五一	昭和四
八七四	二五二	昭和四
八七五	二五三	昭和四
八七六	二五四	昭和四
八七七	二五五	昭和四
八七八	二五六	昭和四
八七九	二五七	昭和四
八八〇	二五八	昭和四
八八一	二五九	昭和四
八八二	二六〇	昭和四
八八三	二六一	昭和四
八八四	二六二	昭和四
八八五	二六三	昭和四
八八六	二六四	昭和四
八八七	二六五	昭和四
八八八	二六六	昭和四
八八九	二六七	昭和四
八九〇	二六八	昭和四
八九一	二六九	昭和四
八九二	二七〇	昭和四
八九三	二七一	昭和四
八九四	二七二	昭和四
八九五	二七三	昭和四
八九六	二七四	昭和四
八九七	二七五	昭和四
八九八	二七六	昭和四
八九九	二七七	昭和四
九〇〇	二七八	昭和四
九〇一	二七九	昭和四
九〇二	二八〇	昭和四
九〇三	二八一	昭和四
九〇四	二八二	昭和四
九〇五	二八三	昭和四
九〇六	二八四	昭和四
九〇七	二八五	昭和四
九〇八	二八六	昭和四
九〇九	二八七	昭和四
九一〇	二八八	昭和四
九一一	二八九	昭和四
九一二	二九〇	昭和四
九一三	二九一	昭和四
九一四	二九二	昭和四
九一五	二九三	昭和四
九一六	二九四	昭和四
九一七	二九五	昭和四
九一八	二九六	昭和四
九一九	二九七	昭和四
九二〇	二九八	昭和四
九二一	二九九	昭和四
九二二	三〇〇	昭和四
九二三	三〇一	昭和四
九二四	三〇二	昭和四
九二五	三〇三	昭和四
九二六	三〇四	昭和四
九二七	三〇五	昭和四
九二八	三〇六	昭和四
九二九	三〇七	昭和四

○其共ニ之ヲ排斥スルカ又ハ本裁判所ニ於ケル證據判斷ノ準據ト爲ルニ因リ其何レノ點ニ付キ自由ナリ（大正一〇・六・三〇）

○證據保實ノ供述ト證據力　證人ノ保證保實ノ供述ハ當事者本人ヨリ獨立シタル保實ノ證言トシテ證據ニ採用シ得ヘキモノトス（大正一四・九・一五）

○當事者本人ヨリ獨立シタル保實ノ證言ト證據力　證人ノ供述ハ當事者本人ヨリ獨立シタル事實ニ關スルモノト雖因ヨリ證言ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非サルカ故ニ單ニ證人カ當事者本人ヨリ獨立シタル事實ノ供述ヲナシタルノ故ヲ以テ直ニ其ノ證據ノ效力ヲ否定シ得サルハ勿論又實ニ右ノ理由ノミヲ以テ該供述ヲ信用スヘカラサルモノト爲スヲ得ス（大正一四・六・二三）

第三百八十九條

○當事者ノ法律上代理人ト證人資格　訴訟ニ於テ當事者ノ法律上代理人タル關係ニ在ル者ヲ訊問スルノ必要アルトキハ本人訊問ノ規定ヲ準用スヘキモノニシテ之ヲ證人トシテ訊問スルハ不適法ナリトス（昭和二・一二・九）

第三百九十七條

○證言拒絶ノ權利アルコトヲ告知セサル場合ト證據力　民事訴訟法第三百九十七條第二項ハ顯示的規定ニ過キサルカ故ニ訊問前證人ニ證言拒絶ノ權利アル旨ヲ告ケスシテ訊問シタルトキト雖其證言ヲ採用スルヲ妨ケス（大正二・二・二八）

○法參加人ト關係アル者ノ證言拒絶權　證人ト法參加人トノ間ニ於ケル關係ハ證人タル義務ヲ免脫スルモノニ非ス（大正六・六・二日）

○證言拒絶ノ權利アル者ノ述シタル證言ノ證據力　證人ト當事者トノ間ニ民事訴訟法第三百九十七條ニ規定スル身分上ノ關係アルノ場合ト雖證人ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問シ其證言ヲ證據ニ採用スルヲ得ヘシ（大正七・一・三一）

第三百七條

○證人ノ宣誓ト自書署名印　民事訴訟法第三百七條ニハ證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ誓ヲ宣フヘシトアルノミニテ特ニ其形式ヲ制限セス故ニ書面ヲ以テ宣誓ヲ爲ス場合ニ在リテモ必スシモ證人ヘシ自署若ハ捺印ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス唯其證人ノ宣誓書タルコトヲ知リ得ルヲ以テ足ル（大正九・一・二七）

○宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ調書ト宣誓書ノ欠缺　證人訊問調書ニ宣誓セシメタル旨記載ケタル以上其ノ方式ヲ履行シタルコト明確ニシテ宣誓ノ存在セサルノ一事ニ依リ宣誓セサリシモノト謂フヲ得ス（大正一三・九・一三）

第三百十條

○訴訟ノ成果ニ利害ノ關係ヲ有スル證人ニ宣誓セシメテ爲シタル供述ノ證據力　訴訟ノ成果ニ直接利害ノ關係ヲ有スル者ト雖宣誓ヲ爲サシメシテ之ヲ訊問シ其證言ヲ證據ニ採用シ得ルノミナラス裁判所ハ宣誓ヲ爲サシメテ之ヲ訊問スルモ當事者ニ於テ證據ヲ申立テサルトキハ其證言ヲ證據トスルヲ妨ケス（大正一三・一・一四）

○宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非サル證人ノ訊問ト上告ノ理由　裁判所カ訴訟ノ成果ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リテハ宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非スト雖若シ之ニ宣誓ヲ爲サシメタル場合ニ於テ當事者カ何等異議ヲ申立テサリシトキハ自ラ其訊問ヲ拘束シタルモノナルヲ以テ後日ニ至リ其手續ノ瑕疵ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（大正八・五・一六）

○宣誓參考ノ意ノ訊問ト證書　民事訴訟法中參考人ナル名稱ナク亦眞實參考ノ爲メニ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問セラレタル者モ固ヨリ證人ニシテ其供述ヲ證言ト稱スヘキハ當然ナリ（大正八・一〇・一八）

第三百二十條

○受託事務ニ關スル人證地方ノ申出　人證ノ地案ハ受託裁判所ニ申出ツルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得（大正一四・一一・二七）

第七節　鑑定

○鑑定ノ申出ト鑑否ノ自由　鑑定ハ裁判所ノ考慮ヲ補助スルニ過キサルヲ以テ之ヲ許容スルト否トハ裁判所ノ職權ニ屬スヘキモノトス（大正六・四・二〇）

○同　旨　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルモノタルニ過キスシテ鑑定ヲ命スルト否トハ裁判所ノ職權ニ專屬スルモノナレハ之ヲ命セサルモ審理粗漏ノ不法アリト謂フヲ得ス（大正六・九・二六）

○鑑定ノ申立ト唯一ノ證據方法　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルモノタルニ過キサレハ鑑令當事者ノ申立アルモ裁判所カ之ヲ必要トセサルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ拘ラス之ヲ採用セサルコトヲ得ルモノトス（大正六・一一・九）

○同　旨　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルモノナルニ過キスシテ當事者ヨリ鑑定ノ申請ヲ爲スモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナルト認メサルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ拘ラス之ヲ採用セサルコトヲ得ルモノトス（大正七・五・三）

○理由ノ附記ヲ鑑定書ノ一部ト看做スノ效力　鑑定ノ結果ニ付理由ヲ附セサル鑑定書ト雖モ裁判所ハ之ヲ證書ノ一部ト看做シ之ニ依リ事實ヲ認定スルコトヲ得ヘシ（大正七・四・一九）

○鑑定書ニ於ケル鑑定事項以外ノ記載ト證據力　過去ニ於ケル事實ノ存否ハ當事者間ニ爭ナキ場合ト雖モ之ヲ證スルニ足ルヘキ證據ニ依リテ認定スヘキモノニシテ鑑定人カ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ノ一片ノ記事ニ依リ之ヲ判斷シ得ヘキモノニアラス即チ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ニ於ケル過去ノ事實ト雖モ之ヲ證スルニ足ルヘキ證據ニ依リテ認定スヘキモノナレハ採ツテ以テ判決資料ト爲スコトヲ得ス（大正一〇・七・一二）

○文書ノ內容ニ依リ當事ノ年齡ヲ認定シタル鑑定ト證據力　特定人ノ筆蹟ニ關シ其ノ作成時ニ於ケル其人ノ年齡ヲ判斷スルコトハ其ノ特定人ノ筆蹟ニ付特殊ノ智識經驗ヲ有スル者ニ於テ能クス之ヲ爲シ得ヘク其ノ判斷ハ理論上正當ヲ期スルニ足ルモノナルカ故ニ鑑定トシテ訴訟上相當ノ材料タリ得ルモノナリト雖モ文書ノ作成上相當ノ熟否指針ノ巧拙運筆ノ美醜ハ專ラ其ノ人ノ教養習練ノ程度如何ニ依リ定マルヘキモノニシテ必スシモ年齡ニ比例スルモノニ非サルカ故ニ一般年齡ヲ以テ之カ判定ノ標準ト爲スヲ得サルハ吾人ノ實驗法則上洵ニ顯著ナル事實ニ屬スル故ニ一般文筆ノコトニ增完ナル者ヘ文筆ニ疲ヘルカ如キ場合ニ於ケル筆蹟等ニ依リ一般的ニ其ノ筆者ノ教養習練ノ程度ヲ鑑別シ得ヘシトノ格言ハ

別ナルモ筆者ノ特定セサル文書ニ付筆者ノ年齡ヲ測知スルカ如キハ殆ント望ミ得ヘカラサル所ナリ（大正一四・九・一五）

○裁判所ノ實驗ト鑑定　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルニ過キサルモノニシテ裁判所自ラ或事項ヲ判斷スルニ必要ナル智識ヲ具セサルトキ又ハ當事者ノ提出シタル鑑定ニ依ラスシテ自己ノ智識ニ依リ判斷スルヲ妨ケス（昭和四・六・一八）

第三百三十三條

○證言ニ於ケル物ノ價格ノ認定ト鑑定人　證言ニ於ケル物ノ價格ヲ認定スル場合ニハ或ハ特別ノ智識ニ依リテ確定シタル一箇ノ意見ヲ述フルコトアルヘク又其ノ者自己ノ實驗シ得タル事實ヲ述フルニ過キサルコトアルヘシ前者ノ場合ニハ鑑定ニ關スル規定ニ從フヘク後者ノ場合ニハ證令之カ實驗ニ關シ特別ノ智識ヲ要モシ場合ナリトスルモ民事訴訟法第三百三十三條ニ從ヒ證人ニ關スル規定ニ據ルヘキモノトス（大正一〇・一一・二三）

第八節　書證

文書ノ成立

○證書ニ署名ノ否認ト立證責任　私署證書ハ署名者ニ於テ否認スルトキハ之ヲ對抗セラレタル者ニ於テ其成立ヲ否認シタル者ニ於テ其成立ヲ證スル責任アリ（明治四三・一〇・一五）

○作成者カ成立ヲ否認シタル文書ノ證據力　證據ハ其作成者ト認セラルル者ニ於テ其成立ヲ否認シタルトキハ他ノ證據ニ依リ其ノ者ノ作成ニ係ルコトヲ認定シタル上ニアラサレハ之ヲ以テ判決ノ資料ト爲スコトヲ得ス（大正五・一二・二二）

○印章カ本人ニ反シテ押捺セラレタリトノ主張ト立證責任　凡ソ印章ハ通例其所持人ニ於テ任意之ヲ押捺シ他人カ所持人ノ意思ニ反シテ他人カ押捺シタリト主張スル者ハ之ヲ立證スルノ責アリ

（大正五・一二・一五）　四卷 九六一頁

○典當證明書ノ成立ニ爭アル場合ト立證責任　證明官吏カ典當權設定ノ證明ヲ爲シ其設定ノ契約書ニ證明濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ證書トシテ論スルヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分マテ公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス其契約書ノ成立ニ付爭ヒアルトキハ之ヲ提出シテ利益ヲ主張スル者ニ於テ其眞正ニ成立シタルコトヲ擧證スルノ責アルモノトス（大正七・二・二六）　五 一〇一

○擧證者自ラノ作成文書ト其ノ成否ノ認定　擧證者カ相手方ノ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方ニ於テ否認シタル場合ニ於テハ裁判所ハ他ノ事實又ハ證據ニ依リ其者ノ作成ニ係ルコトヲ認定シタル上ニ非サレハ之ヲ以テ判決ノ資料ト爲スコトヲ得ス然レトモ擧證者自ラ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方カ爭ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ必スシモ他ノ事實又ハ證據ニ依ラサルモ自由心證ヲ以テ其證書自體ニ依リ其成立ヲ認メ以テ判決ノ資料ト爲スコトヲ妨ケス（大正九・一二・一七）　七 四七五

聯○第三者ノ作成ニ係ル私署證書ト成立ノ認定　第三者ノ作成ニ係ル私署證書ノ成立ノ眞否ニ付爭アルトキハ裁判所ハ證據調ノ結果ニ據ルカ又ハ辯論ノ旨趣其ノ他證書ノ形式ヲ斟酌シテ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ認定セサルヘカラス（大正一四・一二・一一）　一三 四六八

○反對　第三者ノ作成ニ係ル證書ハ相手方ノ不知ノ陳述ニヨリ當然其證據力ヲ失フモノニアラス故ニ裁判所ハ其自由ナル心證ニヨリ之ヲ信用スルト否トヲ定メ得ヘキモノトス（大正六・三・一三）　四 一五八

○第三者ノ作成シタル書證ハ當事者ノ認否ニ因リテ其信憑力ニ消長ヲ來スヘキモノニ非ス（大正六・六・三〇）　四 六二八

○裁判所カ第三者ノ作成シタル書證ヲ採用スルハ卽チ其作成ノ眞實ナルコトヲ信シタルニ因ルモノナレハ特ニ其理由ヲ開示スルノ必要ナシ（大正六・六・三〇）　四 六二八

○訴訟當事者ノ一方カ第三者作成ノ證書ヲ否認シタル場合ト雖裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其證書ノ眞正ナルコトヲ認定シ得ヘク又之ヲ認定スルニ當リ其理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正六・九・二五）　四 七七六

○第三者ノ作成シタル書面ハ訴訟當事者ノ一方ノ不知ノ陳述ニ依リ直ニ證據力ヲ失フモノニアラス（大正六・一二・四）　四 一〇三五

○第三者ノ作成名義ニ係ル事實證明書ト雖事實ヲ見聞シタル旨ノ記載アル場合ニ於テ其成立ヲ認メ得ヘキトキハ之ヲ採リテ事實認定ノ資料ト爲スヲ妨ケス（大正六・一二・四）　四 一〇四七

○第三者ノ作成ニ係ル書面ハ相手方ノ不知ノ陳述ニ依リ當然其證據力ヲ失フモノニ非スシテ裁判所ノ自由心證ニ依リ其成立ヲ認メ得ヘキモノトス（大正九・一二・一七）　七 四七五

○被相續人ノ作成文書ノ性質　訴訟ニ係ル當事者ノ被相續人ノ作成シタル證書ハ其訴訟當事者ヨリ見ルトキハ第三者ノ作成ニ係ル證書ナリトス（大正七・四・一九）　五 二九四

○私署證書成立ノ認定ト檢眞手續ノ要否　擧證者カ相手方ノ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方ニ於テ否認シタル場合ニ於テハ裁判所ハ他ノ事實又ハ證據ニ依リテ其ノ者ノ作成ニ係ルコトヲ認定スルコトヲ得ルモノニシテ其ノ成立ノ眞否ヲ判斷スルニ付必シモ檢眞ノ手續ニ依ルコトヲ要スルモノニ非ス（大正一四・一一・二七）　一三 四六八

○印影ヲ是認シタル證書ト眞否ノ認定　印章ハ通例其所持人ニ於テ任意ニ之ヲ押捺スルモノニシテ他人カ所持人ノ意思ニ反シ之ヲ押捺スルカ如キハ異例ニ屬スルモノナレハ證書ニ押捺シアル印影カ當事者自己ノ印章ナルコトヲ認メタルトキハ一應其印影ハ當事者ニ於テ任意ニ之ヲ押捺シ該證書ヲ作成シタルモノト認ムヘク之ヲ覆スニ足ルヘキ反證ナキ場合ニハ該證書ハ眞正ニ成立シタルモノナリト認定スルハ相當ナリ（大正七・二・五）　五 七八

○名義人カ印影ヲ認メタル文書ト成立ノ認定　凡ソ書證ノ名義人名下ノ印影ヲ其名義人ニ於テ認メタル以上ハ反證ナキ限リ該書證ノ成立ヲ認ムルヲ相當トス（大正七・四・一二）　五 二六九

○證書完成後ニ於ケル他人ノ記入ト其ノ立證責任　證書名義人ノ署名並ニ名下ノ印影ニ爭ナキ證書ハ反證ナキ限リ全部眞正ニ成立シタルモノト推定スヘキハ勿論ナルモ證書中ノ記載事項カ證書名義人ノ署名捺印後ニ於ケル他人ノ記入ニ係ハルトキハ其記入カ權限ニ基キ記入セラレタルカ若ハ其記入ニ付名義人ノ承認ヲ得タルカノ如キ特別ノ事情ナキ限リハ其記入ノ眞正ヲ認ムヘ

キニ非ス而シテ斯ル事情ハ其記入ノ眞正ヲ主張スルニ付利益ヲ有スル者ニ立證責任アリトス（大正七・一二・一三）

○**刑事判決ニ於テ成立ヲ是認シタル書證ト民事裁判所ノ判斷**　民事裁判所ハ刑事ノ確定判決ニ羈束セラレサルヲ原則トス刑事ノ確定判決ニ於テ成立ヲ認メラレタル書證ト雖民事裁判所ハ必スシモ其成立ヲ認メサルヘカラサルモノニ非ス（大正八・二・二五）

○**刑事判決ニ於テ沒收セル印影ト證據力**　刑事判決ニ於テ一定ノ文書ヲ沒收スル旨ノ宣告ヲ爲シタル場合ト雖モ該文書中僞造印押捺ノ部分ハ僞造ニ付沒收スト記入シアルニ止マリ從前ノ形體ヲ存シ其記載印影等文書ノ内容ヲ調査スルニ缺クル所ナキトキハ民事裁判所ニ於テ證據トシテ採用スルヲ妨ケサルモノトス（大正九・三・九）

○**日附アル證書ト其ノ作成日ノ推定**　證書ニ日附アル場合ニ於テハ特別ノ事由ノ認メラレサル限リ證書ハ其日附日ニ作成セラレタルモノト推定スヘキモノトス（大正一二・三・一三）

○**筆跡若ハ印影ノ對照ト私署證書眞否ノ判斷**　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ於テ擧證者カ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ確ムル爲同證書署名者ノ筆跡若ハ印影カ眞正ニ成立セル他ノ證書ノ印影ト同一ナリトシ其ノ對照ヲ求メタルトキハ裁判所ハ其ノ異同ヲ鑑別シ其ノ私署證書ノ眞否ヲ判斷スヘキモノトス（大正一四・一一・二七）

○**先代作成名義ノ證書ニ對スル不知ノ陳述**　訴訟ニ係ル權利關係ニ付相續人トシテ訴訟當事者ト爲リタル者ハ被相續人作成名義ノ證書ニ付不知ノ陳述ヲ以テ其ノ成立ヲ爭フコトヲ得ルモノトス（大正一五・一〇・二六）

○**書證ノ成立ヲ證セムトスル證據申請ノ却下ト證據判斷**　訴訟ノ相手方ヨリ不知ヲ以テ爭ハレタル書證ニ付其ノ成立ヲ證スル爲ノ證據申請ヲ却下シ置キナカラ其ノ書證ノ成立ヲ認ムヘキ證左ナシトシテ之カ實質的證據力ヲ否定スルハ違法ナリトス（大正一五・一一・二）

○**執達吏職務取扱ノ證明書ト公正證書**　證書ノ形式上執達吏職務取扱カ其ノ資格ニ於テ職務上取扱ヒタル事項ニ付其ノ權限内ニ於テ作成シタル證明書ハ公正證書ナリトス（昭和二・七・五）

巻	頁
五	九七五
六	四九
七	八〇
一〇	五五
三	四三八
一五	三四九
一三	三八四
一四	一八九

○**公正證書ノ形式的證據力**　公正證書ハ僞造又ハ變造ナリトノ裁判アルニ非サレハ其ノ眞正ニ成立シタルコトヲ否定スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・七・五）

文書ノ證據力

○**闕席判決ト其ノ證據力**　當事者カ確定シタル闕席判決ヲ以テ證據方法ト爲シタルトキト雖其内容ヲ調査シテ信用スヘキヤ否ヤヲ判斷スヘク單ニ闕席判決ナルノ故ヲ以テ判斷ノ資料トナラストスル論斷スルハ違法ナリ（大正八・一・二八）

○**樣式ニ適ハサル土地臺帳ノ證據力**　土地臺帳カ規定ノ樣式ヲ具備セサルトキ之ヲ土地臺帳ト認ムヘカラサルモノト爲シタルカ如キ趣旨ノ法令存セサルヲ以テ樣式ニ適ハサル所アル土地臺帳ト雖裁判所カ之ヲ土地臺帳ト認ムルニ何等ノ妨ナク斯ル土地臺帳ノ謄本ヲ信用スルト否トハ事實承審官ノ心證判斷ニ屬スルモノトス（大正六・三・二七）

○**民籍簿ノ證據力**　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニ非サレハ其記載事項ヲ以テ直チニ虛僞ナリト斷スルヲ得ス（大正六・一二・二六）

○**民籍簿中僧尼ノ師弟關係ノ記載ト證據力**　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニアラサレハ其記載事項ヲ以テ虛僞ナリト斷スルヲ得サルモノナリト雖モ斯ハ民籍ノ取扱上適法ニ民籍簿ニ記載スヘキ事項ノ記載タル場合ニ限ルヘク僧尼ノ師弟關係ノ如キハ其取扱上適法ニ記載スヘキ事項ニアラサレハ斯ル記載ニ付テハ裁判所ハ自由ニ其判斷ヲ爲シ得ヘシ（大正七・二・五）

○**民籍簿ノ證據力**　民籍法規ハ行政取締法規タルト同時ニ家及身分ノ發生變更消滅ノ公示竝證明ニ關スル法規ナルヲ以テ此等ノ事項ヲ民籍法所定ノ民籍簿ニ登錄スルトキハ該事項ハ一應事實ニ適合スルモノトノ推定ヲ受クヘキモノトス（大正八・四・一五）

○**民籍簿ノ記載ト異リタル事實ノ認定**　民籍簿ハ民籍上ノ身分ニ關スル公正證書ナリト雖モ絕對的信憑力ヲ有スルモノニ非スシテ反證ノ存スルニ於テハ裁判所ハ之ト異リタル事實ノ認定ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス（大正九・六・二五）

○**官吏又ハ公吏ノ作成シタル文書ノ證據力**　官吏又ハ公吏カ其職務上法令ノ規定ニ基キ作成シタル文書ハ所謂公正證書ニ屬シ反

巻	頁
一四一	八九
六	二
四	一〇七
四	二一〇
五	六八
六	一九七
七	二九四

證ヲ以テ其作成ノ有無ヲ判斷シ之ヲ信用シタルトキハ原告ノ利益ニ之ヲ採用スルヘキモ證法ニ非ス（大正九・二・六）

○不動產分ト認ムヘキ動產ノ證據力　民事裁判所ハ元ヨリ檢事ノ判斷ニ羈束セラルヘキモノニアラサルヲ以テ如上告訴事件カ假令證據不十分ノ理由ヲ以テ不起訴處分ト爲リタルトスルモ該調書ノ證據力ハ之ニ依リ何等消長ヲ來タスヘキモノニアラス（大正九・二・六）

○告訴調書ノ證據力　民事訴訟ノ原告カ當該係爭事實ニ關シ被告ニ對シ提起シタル告訴事件ニ於テ檢事ニ對シ爲シタル作述ヲ變更セル調書ト雖モ之ヲ當該民事訴訟ノ證據ト爲スコトハ法律ノ禁止スル所ニ非サルカ故ニ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其作述ノ信憑スヘキヤ否ヤヲ判斷シ之ヲ信用シタルトキハ原告ノ利益ニ之ヲ採用スルヘキモ證法ニ非ス（大正九・二・六）

○不動產登記簿ノ記載事項ト公信力　登記官ハ登記申請ヲ法令ノ規定ニ基キ作成シタル公正證書ニ關シ其目的ハ單ニ登記手續ニ關スル事實關係ノミナラス登記所ニ登記シタル一定ノ法律關係ノ眞實ナルコトヲ公證スルニ在ルモノナレハ反證ナキ限リハ裁判所ハ其登記事項ニ對スル公信力ヲ否認スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一・二七）

○公正證書ノ證據力　公正證書ハ官吏又ハ公吏カ其職務上法令ノ規定ニ基キ一定ノ事實關係及法律關係ヲ公證スル目的ヲ以テ作成シタル文書ナルヲ以テ公正證書ノ記載事項ハ其公證ノ目的ノ範圍內ニ於テ完全ナル證據力ヲ有スルヤ勿論ナリ（大正九・一・二七）

○公正證書ノ證據力　公正證書ハ官吏又ハ公吏カ其職務上法令ノ規定ニ基キ作成シタル文書ナルヲ以テ公正證書ノ記載事項ハ其公證ノ目的ノ範圍內ニ於テ完全ナル證據力ヲ有スルヤ勿論ナリ（大正九・一・二七）

○公證ノ目的ノ範圍外ニ於ケル記載事項ト證據力　公正證書ノ記載事項ハ其ノ公證ノ目的ノ範圍內ニ於テハ完全ナル證據力ヲ有スルモ其カ公證ノ目的ノ範圍外ノモノナルトキハ縱令其ノ成立ヲ認ムヘキ場合ニ於テモ之ヲ措信シテ事實認定ノ資料ニ供スルト否トハ事實裁判所ノ自由ナル心證ニ基キテ決スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一四・一二・一五）

○證書ニ成立セシ法律行爲ノ終始記載ト公正證書ノ證據力　公正證書ニ記載セル事項カ過半ニ成立セシ法律行爲ニ付當事者ヨリ提出シタル證書ニ終始セルモノナルトキハ當該法律行爲ノ成立ノ眞否ハ公證ノ目的ノ範圍ニ屬セサルモノトス（大正一四・一二・一五）

○自家作成ノ日記帳ノ證據力　自家作成ノ日記帳ノ記載ト雖裁判所ヘ採テ證據ト爲シ得ヘキ相手方ノ否認ニ依リテ左ヲ右セラルヘキモノニアラス（大正元・一〇・一四）

○商業帳簿ノ證據力　所謂帳簿ト雖其記載ヲ信用スルト否トハ裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ一任シタルモノトス（大正五・七・二一）

○同　旨　商業帳簿ノ證據力ニ關シテハ法律上特ニ規定スル所ナキヲ以テ其記載ヲ信用スルト否トハ專ラ事實裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ委スヘキモノナリ（大正七・三・一五）

○當事者ノ作成ニ係ル文書ノ證據力　當事者一方ノ作成シタル文書ト雖裁判所ハ之ヲ採テ以テ作成者ノ爲メ利益ナル事實ヲ認定スルノ資料ニ供スルヲ妨ケス（大正七・四・一九）

○係爭事實證明ノ爲メニスル第三者作成ノ文書ト證據力　第三者カ作成シタル書證ナリト雖訴訟ニ關スル係爭事實ニ付特ニ作成シタル證明書ニ在リテハ相手方ニ於テ其內容ノ非實ヲ否認スル以上ハ書證トシテ其證據力ヲ有セス（大正七・九・六）

○訴訟進行中ニ作成セル一私人ノ證明書ト證據力　訴訟進行中其係爭事實ヲ證明スル爲特ニ作成セラレタル一私人ノ證明書ハ當該訴訟ニ關スル限リ其內容ニ於テ裁上ノ如キ證明書タルニ止マリ其形式カ證明書體ナルト書翰文體ナルトヲ問ハス其內容ニ於テ以上ハ證據力ナキモノニシテ其面ノ形式カ證明書體ナルトヲ問ハス其內容ニ於テ以上ハ證據力ナキモノニシテ其面ノ

トシテ採用スルヲ得ス（大正九・四・二三）

○係爭事實證明ノ目的ニ出テタル第三者ノ文書ト證據力　訴ノ提起ト同時又ハ其訴訟進行中第三者ノ作成シタル證明書ハ其書面ノ形式カ證明事件ナルト否トヲ問ハス苟モ其內容ニシテ特ニ該訴訟ニ關スル係爭事實ヲ證明スル目的ニ出テタル以上裁令其成立眞正ナルモ證據力ナキモノニシテ之ヲ證據トシテ採用スルヲ得サルモノトス（大正一一・六・六）

○同　旨　訴訟ノ進行中其ノ係爭事實ヲ證明スル爲特ニ作成セラレタル一私人ノ證明書ハ證據力ナシ（大正一四・二・一三）

○申立方ヨリ吞口セラレタル作成名義人ノ證書ト證據力　當事者ノ一方ヨリ提出シタル私署證書ハ縱令其作成名義人タル相手方ニ於テ其成立ヲ否認スルモ其眞正ニ成立シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ其他ノ證據ノ存スルトキハ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得ヘシ（大正六・六・八）

○文書ノ內容トスル法律行爲ト證據力　當事者間ニ成立シタル書證ノ內容トスル法律行爲ニ付テハ當事者間ニ有效ニ成立シタルモノト推定スヘキモノナルヲ以テ裁判所ニ於テモ反證ナキ限リ其內容ヲ措信スルヲ相當トス（大正七・四・一二）

○內容證明郵便ト記載事項ノ證明力　郵便物ノ內容證明ハ其內容トスル文書カ書留ヲ以テ發送人ヨリ名宛人ニ發送セラレタルコトヲ證明スルモノナレトモ其內容トスル文書ノ記載カ果シテ眞實ノ事實ニ符合スルヤ否ヤニ付テハ公正ノ證明力ヲ有スルモノニ非ス（大正七・四・二三）

○同　旨　郵便物ノ內容證明ハ其內容トスル文書カ書留ヲ以テ發送人ヨリ名宛人ニ發送セラレタルコトヲ證明スルモノナレトモ其內容トスル文書ノ記載カ果シテ眞實ノ事實ニ符合スルヤ否ヤニ付テハ公正ノ證明力ヲ有スルモノニ非ス（大正一一・一一・二一）

○立證ノ趣旨ニ符合スル記載ト證據判斷　筆跡ニシテ一應立證趣旨ニ符合スル記載アリト解シ得ヘキ場合ニ於テ他ニ特別ノ理由ノ存スルコトヲ明示セスシテ爾カ解スルヲ得ストシ判斷スルハ採證ノ法則ニ違反スルモノトス（大正七・一〇・二五）

○無效ニ歸シタリトノ抗辯アル證書ノ採用ト判斷　當事者ノ一方ノ提出シタル書證ハ相手方カ解除其他ノ原因ニ依リ無效ニ歸シタリトノ抗辯アル證書ノ採用ト判斷　當事者ノ一方ノ提出シタル書證ハ相手方カ解除其他ノ原因ニ依リ無效ニ歸シタリトノ抗辯アル證書ノ採用ト判斷ニ關シテハ裁判所ノ自由裁量ニ屬スヘキモノトス（大正一〇・一一・一五）

第三目三十四條

○口頭辯論ニ於ヘレサル證拠ト判斷ノ參酌　口頭辯論ノ際ニ現ハレサル事實ヲ採テ判斷ノ資料ニ供スルハ採證ノ法則ニ違反ス（明治四四・一〇・一六）

○參照ト印影筆跡ノ對照　筆跡ニ入札書ニ存スル筆跡又ハ印影ヲ他ノ書面ニ存スル筆跡又ハ印影ト對照シテ其ノ同ヲ覆認スルカ如キコトヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス（大正一四・一一・二七）

○私署證書ノ名義ト記載中ノ印影ノ對照　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ非サレハ其成立ノ眞正ナルコトヲ證スル爲

ヘカラサルモノニ非ス（大正八・二・二八）

○金錢貸借關係成立ノ認定　金錢貸借ノ一部ノ貸借關係成立ノ認定ハ金錢貸借ノ成立ニ付爭ナキトキハ證書ハ其表示ノ貸借事實ニツキ證據力ヲ有スルコトヲ勿論ナレハ何等適切ナル反證ナキ場合ニハ證書ニ依リ其表示ノ時期ニ於テ表示金額全部ニツキ貸借ノ成立セシ事實ヲ認定シ得ヘク又其金額ノ一部ニツキ適切ナル反證アルモ他ノ一部ニツキ之カ反證ナキ場合ニハ其反證ナキ部分ニ限リ該證書ハ何ヤラ證據力ヲ有スルモノナレハ之ニ依リ其一部ノ金額ニ對スル貸借ノ事實ヲ認定スルヲ妨ケサルモノトス（大正八・四・一八）

○保管者ニ關係セル內容ヲ有スル告訴狀ト證據力　告訴狀及告訴補充書ハ兩事ホ作ノ爲メニ作成セラレタルモノナルヲ以テ假令訟ホ者ノ一方ニ出テ且其書面ノ內容カ係爭民事訴訟ノ證據ニ採用シテ其訴訟當事者ノ一方ニ利益ナル判斷ノ資料ニ供スルヲ妨ケサルモノトス（大正一〇・四・八）

○證參加人作成ノ文書ト證據力　裁定者タル訴訟當事者一方ヲ補助スル爲メニ附屬スル被參加人カ作成シタル文書ト雖モ又其文書カ訴訟提起後ノ作成ニ係ルモノト雖モ必スシモ判斷ノ資料ト爲スヘカラサルモノニ非スシテ之ヲ採用スルト否トハ裁判所ノ自由裁量ニ屬スヘキモノトス（大正一〇・一一・一五）

第三目三十四條

○口頭辯論ニ於ヘレサル證拠ト判斷ノ參酌　口頭辯論ノ際ニ現ハレサル事實ヲ採テ判斷ノ資料ニ供スルハ採證ノ法則ニ違反ス（明治四四・一〇・一六）

○參照ト印影筆跡ノ對照　筆跡ニ入札書ニ存スル筆跡又ハ印影ヲ他ノ書面ニ存スル筆跡又ハ印影ト對照シテ其ノ同ヲ覆認スルカ如キコトヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス（大正一四・一一・二七）

○私署證書ノ名義ト記載中ノ印影ノ對照　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ非サレハ其成立ノ眞正ナルコトヲ證スル爲

メ同證書署名者ノ印影カ一件記錄中ノ同人ノ故障申立書ノ印影ト同一ナリトシ其對照ヲ求メタルトキハ裁判所ハ其異同ヲ鑑別シ其私署證書ノ眞否ヲ判斷スルヲ相當トス（大正九・六・二二）

○鑑證者ハ印影ノ對照ト證書眞否ノ判斷　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ於テ擧證者カ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ確ムル爲同證署名者ノ筆蹟若ハ印影カ眞正ニ成立セル他ノ證書ノ印影ト同一ナリトシ其ノ對照ヲ求メタルトキハ裁判所ハ其ノ異同ヲ鑑別シ其ノ私署證書ノ眞否ヲ判斷スヘキモノトス（大正一四・一一・二七）

第三百五十一條

○檢眞ヲ經タル私署證書ノ意義　民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢眞ヲ經タル私署證書トハ他ノ訴訟ニ於テ特ニ檢眞ノ裁判ヲ經又ハ判決ノ理由中ニ包含シテ檢眞裁判ヲ經タルモノニシテ其裁判又ハ判決ノ確定シタル場合ニ限リ之ヲ指稱スルモノトス從テ現ニ繫屬中ノ訴訟ニ於テ檢眞ノ裁判ヲ受ケタリトスルモ右法條ニ所謂檢眞ヲ經タルモノニ該當セス（大正七・二・二六）

第三百五十二條

○第三者作成ノ證書ト檢眞ノ申立　民事訴訟法第三百五十二條ニ依ル檢眞ハ當事者ノ作成ニ係ル私署證書ノ署名者カ其證書ノ眞否ヲ爭フ場合ニ於テ擧證者ノ申立ニ依リ之ヲ爲スヘキモノニシテ第三者ノ作成シタル證書ノ眞否ニ付爭アル場合ニ於テ爲スヘキモノニ非ス（大正七・二・五）

○私署證書成立ノ認定ト檢眞手續ノ要否　擧證者カ相手方ノ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方ニ於テ否認シタル場合ニ於テハ裁判所ハ他ノ事實又ハ證據ニ依リテ其ノ者ノ作成ニ係ルコトヲ認定スルコトヲ得ルモノニシテ其ノ成立ノ眞否ヲ判斷スルニ付必スシモ檢眞ノ手續ニ依ルコトヲ要スルモノニ非ス（大正一四・一一・二七）

第九節　檢　證

○印紙ノ貼用ナキ申請ニ基ク檢證ト證據力　相當印紙ノ貼用ナキ檢證申請書ハ無效ナルモ檢證處分ヲ無效ナラシムルコトナシ（大正元・一一・二二）

○檢證ニ關スル判事ノ意見ト證據力　檢證ニ關スル判事ノ意見ハ證據トシテ判斷ノ資料ニ供スルヲ得（大正二・一〇・一四）

○檢證ノ申請ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ檢證ヲ申請スルモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ檢證ノ必要ヲ認メサルトキハ此ノ立證方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ證據タルニ拘ラス之ヲ許可セサルコトヲ得（大正二・一〇・一四）

○任命ノ形跡ナキ受命判事ノ爲シタル檢證ト其ノ效力　口頭辯論調書其他ノ記錄ニ受命判事ヲ命シタル旨ノ記載ナキニ拘ハラス或判事カ受命判事トシテ檢證ヲ爲シタル場合ハ手續上ノ違背タルヲ免レスト雖モ檢證調書ニヨリ其判事カ受命判事ニ指定セラレタルコトヲ認メ得ヘク且當事者カ何等ノ異議ヲ留メスシテ判決ヲ受ケタルトキハ責問權ヲ拋棄シタルモノト看做スヘキモノトス（大正六・二・六）

○檢證調書ニ記載セラレタル當事者ノ事實上ノ主張ト裁判所ノ判斷　檢證ハ係爭事實判斷ノ資料ニ供スル爲申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナレハ其事件ニ付作成セラレタル檢證調書ハ一ノ證據方法タルニ外ナラス又受訴裁判所ニ於ケル當事者ノ事實上ノ主張ハ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲スヘク檢證ノ際受命判事ノ面前ニ於テ爲シタル當事者ノ事實上ノ主張ノ如キハ單ニ受命判事ノ檢證施行ニ資スル效力アルニ過キサルモノナレハ其主張カ檢證調書ニ記載セラレ其後受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ當事者カ該調書ヲ證據トシテ援用シタルトキト雖之ヲ採用スルト否トハ他ノ證據方法ト等シク受訴裁判所ノ職權ニ屬スヘキモノナルヲ以テ其口頭辯論ニ於テ爲サレタルニアラスシテ單ニ檢證調書ニ記載セラレタル當事者ノ事實上ノ主張ノ如キハ受訴裁判所ヲ羈束スルコトナキモノトス（大正六・三・二七）

第十節　當事者本人ノ訊問

第三百六十條

○本人訊問ノ結果ト自由ナル心證　當事者本人ノ訊問ハ一種ノ證據方法ニシテ其訊問ノ結果ニ付テハ供述シタル當事者ノ利益ニ

第三編 上訴

第一章 控訴

第三百九十六條

○他人ノ代理人ト特ニ控訴ノ申立ヲ為スノ効力

当事者ノ為ス訴訟行為ハ代理人ニ対シテモ之ヲ為スコトヲ得ルヲ以テ代理人ト雖モ自己ニ対シ控訴ノ申立ヲ為スノ権限ヲ有スルモノト解スルヲ相当トス（大正二・一・一三）

○共同訴訟人中一部ノ者ノ控訴ノ申立ノ他ノ共同訴訟人ニ対スル効力

共同訴訟人ノ一人ノ為シタル訴訟行為ハ全員ノ為ニ利益ナル場合ニ限リ其効力ヲ生ズルモノトス（大正八・四・二九）

○必要的共同訴訟人中一部ノ控訴ノ申立ノ効力

必要的共同訴訟ニ於テハ共同訴訟人中一人ノ為シタル控訴ノ申立ハ他ノ共同訴訟人ノ為ニモ効力ヲ生ズルモノトス（大正八・四・二九）

○訴訟物ノ表示ノ訂正ト控訴又ハ附帯控訴

控訴又ハ附帯控訴ハ原告ノ為ニ訴訟物ノ表示ノ訂正ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス（大正八・四・二九）

○本人訴訟ト弁護士ノ訴訟代理権ノ消滅

弁護士ノ訴訟代理権ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅スルモノトス（大正八・四・二九）

○本人訴訟ト弁護士ノ訴訟代理権ノ効力

弁護士ノ訴訟代理権ハ特別ノ委任ヲ要スルモノトス（大正八・四・二九）

○他人ノ代理人ト特ニ控訴ノ申立ヲ為スノ効力

甲者カ乙者ノ為ニ控訴ヲ提起シ又ハ乙者ノ為ニ提起セラレタル控訴ニ付キ乙者ニ対シ訴訟代理人ト為リ其訴訟ヲ続行シタル場合ニ於テ乙者ニ対シ控訴ヲ提起セス又ハ乙者ニ対シ控訴ヲ提起セラレタル事実ヲ知ラサリシ為メ乙者ノ為ニ控訴ノ申立ヲ為スノ権限ヲ有セサルモノトス（大正八・四・二九）

○共同訴訟人ニ対スル効力

共同訴訟人ノ一人ノ為シタル訴訟行為ハ他ノ共同訴訟人ニ対スル関係ニ於テハ全員ノ為ニ利益ナル場合ニ限リ其効力ヲ生ス（大正八・四・二九）

○必要的共同訴訟人中一部ノ控訴ノ申立ノ効力

必要的共同訴訟ニ於テハ共同訴訟人中一人ノ為シタル控訴ノ申立ハ他ノ共同訴訟人ノ為ニモ効力ヲ生ズルモノトス（大正八・四・二九）

○訴訟物ノ表示ノ訂正ト控訴又ハ附帯控訴

控訴又ハ附帯控訴ハ原告ノ為ニ訴訟物ノ表示ノ訂正ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス（大正八・四・二九）

○法律上代理人ト本人訓問

法律上代理人ハ訴訟ニ於テ本人ノ為シタル陳述ニ付本人訓問ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス（大正二・四・一二・八）

第三百六十四條

○本人訓問ト其ノ証拠力

本人訓問ノ結果ハ他ノ証拠方法ニ因リテ認メラレタル事実ニ付キ心証ヲ得ルノ用ニ供スルモノトス（大正二・四・一二・八）

○本人訓問ト第三者本人訓問ノ適用

民事訴訟法第三百六十條ノ規定ハ第三者本人訓問ノ場合ニ之ヲ準用ス（大正三・三・二四）

地方裁判所ノ訴訟手續

簡易裁判所ノ訴訟手續

控訴院ノ訴訟手續

大審院ノ訴訟手續

第一審ノ訴訟手續

第一節 通常ノ訴訟手續

第三百八十一條

○請效又ハ取消ノ原因ノ原因タル和解ノ效力

民事訴訟法第三百八十一條ニ依レハ和解ハ私法上不成立又ハ無效若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキト雖モ和解ノ效力ニ付キ爭アルトキハ此ノ效果ノ發生ヲ妨ケサルモノトス（大正一三・五・二）

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

○付心證ノ形成ニ付當事者本人訓問ノ裁判所ノ職權

民事訴訟法第三百六十條ニ依レハ裁判所カ當事者本人訓問ノ結果ニ付キ心證ヲ得サルトキハ職權ヲ以テ本人ニ訓問ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正二・四・一二・八）

○本人訓問ト其ノ證據力

本人訓問ノ結果ハ他ノ證據方法ニ因リテ認メラレタル事實ニ付キ心證ヲ得ルノ用ニ供スルモノトス（大正二・四・一二・八）

○本人訓問ノ證據原因ノ相待ツテ初メテ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得サル場合

本人訓問ノ結果ハ他ノ證據方法ニ因リテ認メラレタル事實ニ付キ心證ヲ得ルノ用ニ供スルモノトス（大正二・四・一二・八）

○本人訓問ト證據力

本人訓問ノ結果ハ他ノ證據方法ニ因リテ認メラレタル事實ニ付キ心證ヲ得ルノ用ニ供スルモノトス（大正二・四・一二・八）

○本人訓問ノ證據原因ノ相待ツテ初メテ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得サル場合

本人訓問ノ結果ハ他ノ證據方法ニ因リテ認メラレタル事實ニ付キ心證ヲ得ルノ用ニ供スルモノトス（大正二・四・一二・八）

第三百六十四條

○法律上代理人ト本人訓問

法律上代理人ハ訴訟ニ於テ本人訓問ノ申立ヲ為スコトヲ得ルモノトス（昭和二・一二・九）

○訴訟物ノ表示ノ訂正ト控訴又ハ附帯控訴

控訴又ハ附帯控訴ハ原告ノ為ニ訴訟物ノ表示ノ訂正ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス（大正八・四・二九）

○共同訴訟人中一部ノ者ノ控訴ノ申立ノ他ノ共同訴訟人ニ対スル効力

共同訴訟人ノ一人ノ為シタル訴訟行為ハ他ノ共同訴訟人ニ対スル関係ニ於テハ全員ノ為ニ利益ナル場合ニ限リ其効力ヲ生ス（大正八・四・二九）

○必要的共同訴訟人中一部ノ控訴ノ申立ノ効力

必要的共同訴訟ニ於テハ共同訴訟人中一人ノ為シタル控訴ノ申立ハ他ノ共同訴訟人ノ為ニモ効力ヲ生ズルモノトス（大正八・四・二九）

○訴訟物ノ表示ノ訂正ト控訴又ハ附帯控訴

控訴又ハ附帯控訴ハ原告ノ為ニ訴訟物ノ表示ノ訂正ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス（大正八・四・二九）

○法律上代理人ト本人訓問

法律上代理人ハ訴訟ニ於テ本人訓問ノ申立ヲ為スコトヲ得ルモノトス（昭和二・一二・九）

第三百六十四條

○本人訓問ト其ノ証拠力

本人訓問ノ結果ハ他ノ証拠方法ニ因リテ認メラレタル事実ニ付キ心証ヲ得ルノ用ニ供スルモノトス（大正二・四・一二・八）

○本人訓問ト第三者本人訓問ノ適用

民事訴訟法第三百六十條ノ規定ハ第三者本人訓問ノ場合ニ之ヲ準用ス（大正三・三・二四）

地方裁判所ノ訴訟手續

簡易裁判所ノ訴訟手續

控訴院ノ訴訟手續

大審院ノ訴訟手續

第一審ノ訴訟手續

第一節 通常ノ訴訟手續

第三百八十一條

○請效又ハ取消ノ原因ノ原因タル和解ノ效力

民事訴訟法第三百八十一條ニ依レハ和解ハ私法上不成立又ハ無效若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキト雖モ和解ノ效力ニ付キ爭アルトキハ此ノ效果ノ發生ヲ妨ケサルモノトス（大正一三・五・二）

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

キモノトス斯ル場合ニ於テハ控訴裁判所ハ控訴ノ申立ヲ爲サヽル共同訴訟人ニ對シテモ民事訴訟法第五十條第五項ノ規定ニ依リ總テノ送達及呼出ヲ爲スコトヲ要スルモノトス（昭和二・七・二二）

第三百九十八條

○**本條ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキノ意**　民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキトアルハ呼出狀ノ送達ナカリシトキ又ハ期日ニ於テ事件ノ呼上ヲ爲サヽリシカ如キ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサリシ場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ理由トスルトキノ謂ニシテ當事者ノ代理人カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ指定ノ期日ニ出頭スルコトヲ得サリシ場合ノ如キヲ謂ハス（大正二・七・四）

○**同　旨**　民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキハ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサル場合ナルニ爲スヘキ場合ナリト誤認シタルヲ理由トスルトキノ謂ニシテ例ヘハ闕席判決ノ申立ナキニ闕席判決ヲ爲シタルカ闕席判決ヲ受ケタル者カ現ニ出頭シテ辯論ヲ爲シタルニ拘ハラス之ニ對シテ闕席判決ヲ言渡シタルカ口頭辯論ノ爲ニ指定セサル期日ニ闕席判決ヲ爲シタルカ若クハ呼出ヲ爲サス又ハ呼出ヲ爲シタルモ適式ナラサリシニ闕席判決ヲ爲シタル場合ヲ指稱スルモノトス（大正七・二・一五）

○**同　旨**　民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂「懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキ」トハ當事者カ指定ノ期日ニ出廷シテ辯論ヲ爲シタルニ拘ラス出頭セサルモノトシ又ハ辯論期日ニ適法ノ呼出ナキニ拘ラス之レアリタルモノトシ若クハ期日ニ於テ事件ノ呼上ヲ爲サヽルニ拘ラス之ヲ爲シタルモノトシ闕席判決ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ指稱スルモノニシテ卽チ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサリシ場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ理由トスルノ謂ナリ（大正七・一二・一三）

○**同　旨**　民事訴訟法第三百九十八條ニ所謂「懈怠ナカリシコト」トハ當事者ノ責ニ歸スヘキ原因ナクシテ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲ニノミ出頭スルコト能ハサル事由ノ存スルトキノ意義ニ解スヘキモノトス（昭和三・四・一二）

○**便船ヲ失シテ指定期日ニ出頭スルコトヲ得サリシ場合ト本條但書ニ所謂懈怠**　民事訴訟法第三百九十八條ハ同法第四百五十四

參照 頁：一四 二九／二 二五九／五 八六／五 九八四／一五 九六

條ノ規定ニ依リ上告ニ準用スヘキモノナリ而シテ當事者カ船便ヲ失シテ指定ノ期日ニ出頭スルコトヲ得サリシ場合ノ如キハ右第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシ場合ニ該當セサルヲ以テ之ヲ理由トシテ上告ヲ申立ツルモ許スヘカラサルモノトス（大正五・一一・一四）

○**本條但書ノ法意**　民事訴訟法第三百九十八條但書ノ規定ハ同法第二百六十三條ニ依ル新闕席判決並朝鮮民事令第三十五條ニ依ル再度ノ闕席判決ノ如キ故障ヲ許サヽル闕席判決其モノカ當事者ノ懈怠ニ基カスシテ言渡サレタル場合ニ限リ之ヲ理由トシテ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ許シタル法意ナリト解スヘキモノトス（大正五・二・一五）

○**洪水ニ因ル出頭ノ不能ト本條但書ニ所謂懈怠**　當事者カ洪水ノ爲交通杜絶シ指定ノ期日ニ出頭シ能ハサリシ場合ノ如キハ民事訴訟法第三百九十八條但書ノ場合ニ該當セス（大正七・一二・一三）

○**訴訟代理人ニ依ル訴訟ト懈怠ノ事由**　民事訴訟法第三百九十八條ニ所謂懈怠ナカリシコトトハ當事者ノ責ニ歸スヘキ原因ナクシテ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲ニノミ出頭スルコト能ハサル事由ノ存スルトキノ意義ニ解スヘキモノトス右懈怠ノ有無ハ訴訟代理人ニ依リテ爲サルル訴訟ニ在リテハ訴訟代理人ニ付之ヲ判定スヘキモノトス（昭和三・四・一二）

第四百條

○**從參加人ノ上訴期間**　從參加人ノ上訴期間ハ其ノ補助スル主タル當事者ニ原判決ノ送達セラレタル時期ヲ標準トシテ決定スヘキモノトス（大正一五・四・九）

○**判決ノ送達ト同時ニ中斷シタル場合ト上訴期間ノ起算點**　訴訟カ判決ノ送達ト同時ニ中斷シタル場合ニ於テ承繼人カ訴訟ノ受繼ヲ遲滯シタルトキハ相手方カ受繼ノ爲承繼人ノ呼出ヲ求メシ時ニ訴訟ハ受繼セラレ從テ訴訟ノ中斷ハ終了スルモノトス此ノ場合ニ於テ承繼人ノ上訴申立期間ハ裁判所カ承繼ノ爲承繼人ニ對シテ呼出狀ヲ送達シタル時ヨリ進行スルモノトス（大正一五・五・二五）

第四百一條

參照 頁：五 五七七／五 五九五／五 九八四／一五 九六／一五 五六／一五 一五五

○控訴狀ノ誤記ト訂正時期　控訴狀ノ誤記ノ訂正ハ必スシモ控訴期間内ニ於テスルヲ要スルモノニアラス（明治四四・六・二二）　一卷　三二四頁

○主參加訴訟ノ控訴狀ト本訴訟ノ原被告中ノ一方ノミノ表示　主參加ノ訴ニ於テ對手トナリタル本訴訟ノ原告及被告ハ主參加訴訟ノ終局迄ハ訴訟ノ形式上ニ於テ之ヲ分離スルヲ得サルニ依リ控訴ヲ提起スルニ當リ本訴訟ノ原告及被告中ノ一方ノミヲ表示シテ控訴狀ヲ差出シタルトキト雖裁判所ハ表示セラレサル他ノ一方ヲモ呼出シテ審判スヘキモノトス（大正五・四・七）　三　四六五

○原判決ニ對スル不服ノ程度及變更ノ申立ノ缺如ト控訴狀ノ要件　控訴狀ニハ控訴セラレタル判決ノ表示ト該判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ記載アレハ足リ該判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及該判決ニ付如何ナル變更ヲ爲スヘキヤノ申立ハ特ニ之ヲ掲ケサルモ不適式ノ控訴ト云フヲ得ス（大正二・一一・四）　二　三五一

○控訴狀ノ記載要件ノ表示方ト第一審裁判所ノ表示ノ欠缺　控訴狀ニ記載スヘキ要件タル控訴セラルル判決ノ表示ハ如何ナル判決タルコトヲ知リ得ル程度ニ於テ表示スルヲ以テ足リ必スシモ判決ノ全文ヲ掲クルヲ要セス而シテ朝鮮ニ於テハ控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘキ特別規定存スルヲ以テ第一審裁判所ノ記載ハ之ヲ缺如スルモ控訴セラルル判決ノ表示タル要件ヲ缺キタルモノト爲スニ足ラス（大正五・七・一〇）　三　六五二

○同旨　控訴狀ニ記載スヘキ要件タル控訴セラルル判決ノ表示ハ如何ナル判決タルコトヲ知リ得ル程度ニ於テ表示スルヲ以テ足リ必スシモ判決ノ全文ヲ掲クルヲ要セス而シテ朝鮮ニ於テハ控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘキ特別規定存スルヲ以テ第一審裁判所ノ記載ハ之ヲ缺如スルモ控訴セラルル判決ノ表示タル要件ヲ缺キタルモノト爲スニ足ラス（大正五・七・二五）　五　六七九

○口頭申立ニ因ル控訴提起ノ效力　控訴ノ提起ハ控訴狀ノ提出其他一定ノ要件ヲ具備スルヲ要スルモノナレハ口頭申立ノ如キハ控訴ノ提起トシテ固ヨリ不適法タルヲ免レスト雖尙ホ上級裁判所ニ對シ覆審ヲ求ムル意思表示タルヲ失ハサル以上該申立ニ依リ玆ニ訴訟ハ形式上上級裁判所ニ繋屬スルニ至リタルモノト解セサルヲ得ス（大正八・四・二九）　六　二七八

第四百二條

○期間經過後ニ起シタル控訴ト第二審ノ裁判　期間經過後ニ起シタル控訴ハ朝鮮民事令第四十七條ニ依リ第一審裁判所決定ヲ以テ之ヲ却下シ得ヘク若シ第一審裁判所ニ於テ右決定ヲ與ヘサリシトキハ民事訴訟法第四百二條ニ依リ第二審裁判所ノ裁判長ニ於テ却下ノ命令ヲ爲シ得ヘキモノトス（大正一五・一二・一四）　一三　四五七

第四百四條

○控訴棄却ノ申立ト書面ノ要否　民事訴訟法第二百二十二條ハ事物ノ請求ヲ爲シタル者ノ申立ニ適用スヘキモノニシテ請求ヲ受クル者ニ適用スヘキモノニ非ス從テ被控訴人ノ控訴棄却ノ申立ハ同條ノ規定ニ依ラサルモ違法ニ非ス（大正二・三・四）　二　一三五

第四百十一條

○口頭ヲ以テ演述セサル控訴狀記載ノ事實關係ト判斷ノ資料　控訴狀ニ事實關係ヲ記載スルモ口頭辯論ノ際口頭ヲ以テ演述セサルトキハ其事實關係ニ付テハ主張ナカリシモノトス從テ相手方ノ主張事實ニ符合スル記載アルモ裁判上ノ自白アリト云フヲ得サルハ勿論相手方ニ於テ其書面ヲ利益ニ援用セサル限リハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ證據トシ事實判斷ノ資料ト爲スヲ得ス（大正五・一二・一二）　四　九四五

第四百十三條

○契約締結ノ資格ニ關スル主張ノ變更ト訴ノ原因ノ變更　第一審ニテ契約ハ共有者ヲ代表シテ締結シタリト主張シ第二審ニ至リ一己ノ資格ニテ締結シタリトノ主張ニ變更スルモ斯ノ如キ變更ハ契約ノ既ニ解除セラレタルコトヲ原因トシテ其解除ノ確認ヲ請求シ且證書類ノ取戻ヲ請求スル事件ニ在リテハ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト謂フヲ得ス（明治四四・六・一九）　一　四〇三

○賣買ノ無效ノ理由ヲ加フル場合ト訴ノ原因ノ變更　訴ノ原因カ賣買ノ無效ナルコトヲ主張スルニ在ルトキハ其無效ヲ來タスヘキ理由ハ數個ヲ合セテ主張スルヲ妨ケサルニ付第二審ニ於テ無效ノ理由ヲ加フルモ訴ノ原因ヲ變更スルモノトナラス（大正五・一二・二二）　四　九八一

第二審ニ於ケル請求ノ原因變更ト許否　民事訴訟法上請求ノ原因ノ變更ハ同法中訴ノ原因ノ變更又ハ訴ノ變更トアルニ包含セ

ヲレ第二審ニ於テハ同法第四百十三條ニ依リ控訴ヲ許スヘカラサルモノトス（大正六・三・一六）

○引換給付ノ申立訂正ト一定申立ノ變更　原告カ最初變遷契約ヲ原因トシ相手方ニ對シ單純ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ求ムルノ申立ヲ爲シ後同一原因ニ基キ相手方ニ對シ原告ノ債務ノ履行ト引換ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ求ムルノ申立ニ改ムルモ原告ノ相手方ニ對シ請求スル事物ハ前後共ニ相手方ノ債務ノ履行ニシテ後ノ申立ニ因リテ差異ノ生シタル點ハ最初爲シタル單純請求ニ一種ノ制限ヲ加ヘ相手方ノ債務ノ履行ヲ自己ノ債務ノ履行ト交換的ナラシムルニ過キサルヲ以テ之ニ因リ訴ノ變更ヲ來スヘキ一定ノ申立ノ變更アリタルモノト謂フヲ得ス（大正二・二・二二）

第四百十六條

○第一審ニ於テ提出シ得ヘカリシ相殺抗辯ノ提出ト證明　原告カ被告ニ對シ消費貸借ニ基ク債權アリト稱シ其辨濟ヲ求メタルニ對シ被告カ第一審ニ於テ代物辨濟ニ依リ其債務消滅シタル旨抗辯シ原告ニ於テ其代物辨濟ノ事實ヲ認メ單ニ其代物辨濟カ期遲ニ於テ消費貸借ノ元金ニ對シ爲サレタルモノニシテ停止條件ニ對シ爲サレタルモノニアラスト爭フニ過キサルトキハ代辨濟ノ事實ハ當事者間爭ナキニ依リ被告ハ其代物辨濟ノ目的物ヲ原告カ不法ニ他ニ處分シ被告ニ損害ヲ生セシメタリト主張シ其損害賠償ノ管轄ト相殺スヘキ旨ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得サルモノナレハ第二審ニ至リ原告カ第一審ニ於テ代物辨濟ヲ認メタルハ當該ノナリトシ其自白ヲ取消シタル場合ニ被告ハ前示ノ如キ不法行爲ヲ主張シ相殺ノ抗辯ヲ提出シ得ヘキモ原告カ第一審ニ於テ其代物辨濟ノ事實ヲ否認セルトキハ被告ハ第一審ニ於テ原告ノ不法行爲ヲ主張シ相殺ノ抗辯ヲ提出シ得ヘキモノナルヲ以テ被告カ第一審ニ於テ其相殺ノ抗辯ヲ爲サス第二審ニ於テ該抗辯ヲ提出セントスルハ過失ナクシテ第一審ニ於テ之ヲ提出シ得サリシコトヲ疏明セサルヘカラス（大正六・一二・一四）

○當該ラ員ニシテ爲シタル相殺ノ意思表示ト新ナル請求ノ第二審ニ於テ新ニ相殺ノ意思表示ヲ爲シタリトスルモ其相殺ヲ以テ對抗スルノ價値ナカル第一審ニ於テ爲シタル相殺ノ抗辯ニ依リ既ニ第一審ニ提出セラレタルモノナル以上ハ之ヲ以テ民事訴訟法第四百十六條ニ所謂新ナル請求ニ該當スルモノト謂フヲ得ス（大正二〇・一二・二三）

第四百十八條

○第一審ニ於ケル自白ト引用ノ要否　民事訴訟法第四百十八條ノ規定ニ依リ第一審ニ於ケル自白ヲ第二審ニ於テ效力アラシメントスルニハ第二審ニ於テ其ノ自白ヲ引用スルコトヲ要スルモノトス（大正四・一〇・八）

○同　上　民事訴訟法第四百十八條ニ依リ第一審ニ於ケル自白ヲ第二審ニ於テ效力アラシメントスルニハ第二審ニ於テ當事者ヨリ其自白ヲ引用スルコトヲ要ス（大正五・一二・二八）

○正當ノ理由アリテ取消シタル第一審ニ於ケル自白ノ效力　第一審裁判所ニ於テ爲シタル當事者ノ自白ヲ第二審裁判所ニ於テ之ヲ取消シタル場合ト雖正當ノ理由アリテ取消シタルニアラサル限リハ他ノ一方ノ當事者ニ於テ該自白ヲ引用シタルトキハ第二審裁判所ハ之ヲ非實驗ノ資料ト爲スヲ得ス（大正四・一二・二四）

第四百十九條

○他人名義ノ控訴狀ニ付テノ書狀ノ範圍　控訴人甲カ乙名義ヲ以テ提出セラレタル控訴狀ヲ自己ノ控訴狀トシテ有效ナルコトヲ主張シ裁判所カ此點ニ付辯論ヲ開始シタルトキハ斯クノ如キ控訴狀ノ提出ハ控訴人甲ノ控訴トシテ適法ナルヤ否ヤヲ審理判斷シ其理由ニ基キ判決ヲ爲スヘキコト當然ノ結合ニシテ該控訴狀ニ控訴人トシテ表示アルノ一事ヲ以テ乙ノ控訴ノ適法ナルヤ否ヤノ判斷ノ如キハ右辯論ニ基キ當然判決ノ理由トヘ含有セラルヘキ事項ニシテ別ニ辯論ヲ要セス又判決ニ影響ヲ及ホスヘキ訴訟手續ノ法令違背アリトノ主張ニアラサルヲ以テ上告ノ理由ニ基キ判決ヲ爲スヘキモノニアラサルヤ勿論ナリトス（大正八・一二・九）

第四百二十條

○假差押ノ分量ヲ異ニスル場合ト第一審判決ノ變更　假差押ノ請求ニ於テ第一審判決ニ於テハ假差押ノ分量ヲ其ノ一部ニ減縮シ第二審判決ニ於テハ假差押ノ請求全部ヲ認容シタル場合ニ於テハ第二審判決ハ第一審判決ヲ變更セサルヘカラサルモノニシテ控訴裁判所ノ判決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（大正七・六・二八）

第四百二十二條

○民刑訴訟期限規則ノ判決ト差戻ノ要否　第一審ニ於テ訴訟期限懈怠ノ有無ノミニ關ノ理由ヲ以テ原告ノ訴ヲ却下シタルトキハ第二審ニ於テ第一審判決ヲ取消スモ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻サスシテ原告ノ請求ヲ是認スルコトヲ得（明治四三・一二・二三）

○證求ノ原因ナシトセル原判決ノ廢棄ト差戻ノ要否　第一審裁判所カ辯論ヲ先ツ其ノ原因ニ關シ原因ナキモノトシテ請求ヲ棄却シタル場合ニ於テモ數額ニ付キ理判斷ヲ遂サル點ニ於テハ其ノ原因ヲ正當ナリト裁判シタル場合ト異ナルコトナキカ故ニ控訴審ニ於テ其ノ原因ヲ正當トシ第一審判決ヲ廢棄シタルトキハ民事訴訟法第四百二十二條第四號ニ依リ數額ニ付辯論ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス（大正二五・一〇・二九）

○差戻判決ト上告ノ許否　控訴審ニ於テ第一審ニ差戻シタル判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス從テ此判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス（大正五・一二・二六）

第四百二十三條

○第一審ニ於ケル無能力者ノ訴訟行爲ト第二審ニ於ケル法定代理人ノ追認　第二審ニ於テ正當ナル法定代理人カ追認シタルトキハ第一審ニ於ケル訴訟無能力者ノ爲シタル外觀ヲ存スル限度ニ於テ訴訟行爲ハ有效ニ確定セラレ正當ナル法定代理人ニ依リテ爲サレタル效果ヲ生スルモノトス（大正四・一一・三〇）

○幼者ノ訴訟代理人カ爲シタル訴訟行爲ト第二審ニ於ケル法定代理人ノ追認　第二審ニ於テ幼者ノ法律上代理人幼者ノ訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ヲ追認シタルトキハ其訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ハ追完セラルルモノトス（大正五・一〇・二七）

○第一審ニ於ケル委任欠缺ノ訴訟行爲ト第二審ニ於ケル追認　第一審ニ於ケル委任欠缺ノ訴訟行爲ハ第二審ニ於ケル適法ナル委任ニ因ル訴訟行爲ニ因リテ追認セラルルモノトス（大正六・七・六）

○新ナル請求ト控訴又ハ附帶控訴ニ因ラサル第一審判決ノ變更　民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒテ新ナル請求ヲ爲シ其請求ニシテ先ツ控訴又ハ附帶控訴ノ時若ハ控訴ノ方法ヲ以テ變更ヲ由立テタルニ非サル第一審判決ノ相手方タル控訴人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許サルモノト解スルヲ相當トス（大正三・一二・二五）

○民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒ爲シタル新ナル請求ト雖控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ第一審判決ニ對シ不服ヲ主張スルトキハ其新ナル請求ニ基キ第一審判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルヲ得ス（大正八・四・一五）

○相殺抗辨ト新ナル請求及疏明方法　相殺ノ抗辨ハ民事訴訟法第四百十六條ニ所謂請求ニ該當シ第二審ニ於テ新ニ之ヲ提出セムトスルニハ遲滯ナクシテ第一審ニ於テ之ヲ提出シ得ヘカリシコトヲ疏明スルヲ要スルモノトス從上ノ場合ニ於テ相殺ノ抗辨ヲ爲ス時期カ第一審口頭辯論終結ノ後ナルトキハ無遲滯ノ疏明ハ反對債權ヲ爲ス時期カ第一審口頭辯論終結ノ後ニ在ルコトヲ疏明スルヲ以テ足ルモノトス（大正一五・二・九）

○新ナル請求ノ許否ト職權調査　第二審ニ於ケル新ナル請求ノ提出カ許スヘキモノナリヤハ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノトス（大正一五・二・九）

第四百二十四條

○控訴ノ棄却ヲ言渡スヘクシテ言渡ササル類法ト破毀ノ理由　控訴裁判所ニ於テ請求却下ノ言渡ヲ爲スヘキ原判決ヲ相當ナリトシ控訴ヲ棄却スルニ拘ハラス再ヒ請求却下ノ言渡ヲ爲スハ從前ノ誤謬ヲ改メサルノ違法アリトシテ破毀ノ原因タラサルモノトス（大正三・九・二二）

○第一審判決ト理由ヲ異ニスル判決ト判示方　民事判決ニ在リテハ第二審判決ノ理由ト第一審判決ノ理由トヲ互ニ相異スル所アリトスルモ其主文ニシテ同一ニ歸スル以上ハ第二審判決ニ於テハ第一審判決ヲ認可スヘキモノニシテ第一審判決理由ノ不當ナルコトノ如キハ特ニ之ヲ判文ニ明示スルヲ要セサルモノトス（大正七・一・二五）

○原判決ヲ變更スヘキ理由アルニ控訴ヲ棄却シタル判決ノ不當　第二審判決ノ主文カ第二審判決ノ理由トスル點ニ適合セスト雖

第二審判決ノ理由ニ基キ爲スヘキ裁判カ第一審判決ニ比シ控訴人ノ利益ニ歸スヘキ場合ニ第一審判決ヲ廢棄セスシテ控訴ヲ棄却シタル判決ハ不法ナリ　（大正七・一一・二九）

第四百二十五條

聯　**○新ナル請求ト控訴又ハ附帶控訴ニ因ラサル第一審判決ノ變更**　民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒテ新ナル請求ヲ爲シ其請求ニシテ是認スヘキトキハ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ變更ヲ申立テタルニ非サルモ第一審判決ヲ相手方タル控訴人ノ不利益ニ變更スルコトヲ得ヘキモノトス　（大正一一・六・二〇）

第四百三十一條

○控訴完結ノ際ニ於ケル判決原本ノ處置　民事訴訟法第四百三十一條ニ從ヒ第二審裁判所ノ書記カ認證シタル判決謄本ハ原本ニ代用セラルルモノナルヲ以テ一件記錄ニ斯ル認證アル謄本ノ添附シアル以上ハ必スシモ第二審判決ノ原本ヲ添附スルノ要ナシ　（大正七・五・七）

第二章　上告

第四百三十二條

○當事者ニアラサル者ノ爲シタル上告　訴訟ノ當事者ニアラサル者ノ爲シタル上告ハ不適法トス　（明治四四・四・一七）

聯　**○訴訟費用ノ裁判ニ對スル上告ノ適否**　訴訟費用ノ裁判ニ對スル不服申立ハ本案ノ裁判ニ對スル上告ノ理由アルトキニ非サレハ採用スヘカラサルモノトス　（大正一一・一・三一）

○反對　費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノナリト雖本案ノ裁判ニ對シ許スヘキ上訴ヲ提出シ且追行スルトキハ民事訴訟法第八十二條第一項後段ノ規定ニ依リ費用ノ點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノナルカ故ニ縱令本案ノ裁判ニ對スル上告ノ理由相立タサルトニト雖既ニ適法ニ不服ヲ申立テタル費用ノ點ニ付テハ別ニ其當否ヲ鑑査セサルヘカラサルモノトス　（大正六・一・一九）

○差戻判決ト上告ノ許否　控訴審ニ於テ第一審ニ差戻シタル判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス從テ該判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス　（大正五・一二・二六）

○同　旨　控訴審ニ於テ第一審ニ差戻シタル判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス從テ該判決ニ對シテハ上告ヲ許ササルモノトス　（大正八・三・一四）

○同　旨　控訴審カ爲シタル差戻判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス該差戻判決ニ對シテハ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ許ササルモノトス（大正九・一・一九）

第四百三十三條

○中止ヲ拒ム裁判ト不服ノ申立　中止ヲ拒ム裁判ハ民事訴訟法第百八十九條ニ依リ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得ル裁判ナルヲ以テ斯ル終局判決前ノ裁判ニ對シテハ同法第四百三十三條但書ノ規定ニ依リ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルヲ得サルモノトス　（大正六・二・九）

第四百三十四條

○判決中ノ違算ト上告ノ理由　判決中ノ違算ノ如キハ其裁判ヲ爲シタル裁判所ニ於テ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ之ヲ更正シ得ヘキモノナレハ其違算ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　（大正三・二・二四）

○控訴棄却ヲ言渡スヘクシテ言渡ササル違法ト破毀ノ理由　控訴裁判所ニ於テ請求却下ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ヲ相當ナリトスルニ拘ラス再ヒ請求却下ノ言渡ヲ爲スハ妥當ナラスト雖破毀ノ原由タラサルモノトス　（大正三・九・二一）

○上告審ニ於ケル時效ノ援用　時效ノ完成セリヤ否ヤハ事實問題ニ屬スルニ依リ上告審ニ於テ始メテ時效ヲ援用スルモ審査スルニ由ナケレハ適法ノ上告理由トナラス　（大正五・六・二三）

卷　頁

○證人ノ資格欠缺ニ對スル異議ト上告理由　證人ノ資格ニ欠クル所アレハ證人訊問ノ際若クハ遲クトモ之ニ接續スル口頭辯論ニ於テ之ヲ主張シテ異議ヲ申立ツヘク其申立ヲ爲サスシテ上告審ニ至リ之ヲ理由トシテ同證人ノ證言ヲ採用セシ原判決ヲ非難スルヲ得ス　（大正六・六・二二）　四　五八四

○證人申請留保ノ儘ノ結審ト上告ノ理由　證人申請ヲ留保シタル儘結審ヲ告ケタルニ對シ異議ヲ留メサルハ責問權ヲ喪失シタルモノナレハ後ニ至リ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス　（大正七・五・一四）　五　五九一

○唯一ノ證據方法ニ關スル法則違背ト破毀ノ理由　爭點事實ニ對スル當事者ノ唯一ノ證據方法ヲ杜絶シ而カモ立證ナキノ故ヲ以テ其ノ主張事實ヲ否定シタルハ不法ナレトモ他ノ理由ニ依リ判決主文ヲ支持スルニ足ル以上ハ原判決破毀ノ理由トナラス　（大正六・七・六）　四　六〇七

○證人ノ宣誓ニ關スル手續違背ト上告ノ理由　裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リテハ宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非スト雖若シ之ニ宣誓ヲ爲サシメタル場合ニ於テ當事者カ何等異議ヲ申立テサルトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノナルヲ以テ後日ニ至リ其手續ノ違背ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　（大正八・五・一六）　六　三七二

○不適法ナル送達ト上告ノ理由　送達ハ書類ノ交付ヲ確實ナラシムル方法ニ過キサレハ送達ヲ受クヘキモノニ於テ其手續ノ違法ナルニ拘ハラス之ヲ受領シ該送達ノ不適法ナルコトヲ責問セス之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シ判決ヲ受ケタルトキハ後日其送達ノ無效ヲ主張シ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス　（大正八・七・一〇）　六　四六一

○闕席判決ノ廢棄ヲ言渡ササリシ違法ト上告ノ理由　新判決カ闕席判決ト符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄ストノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ其言渡ヲ爲ササルハ失當ナルモ新判決ニヨリ闕席判決カ自ラ廢棄セラレタルト同一ノ結果ヲ來タスモノナレハ原判決ヲ破毀スルノ理由トナラス　（大正六・二・一三）　四　九五

○僞證ノ確定判決ノ主張ト上告ノ理由　事實裁判所ノ援用シタル證人ノ證言カ僞證ト認メラレ有罪ノ刑事判決確定シタル事實アリトスルモ右ノ理由トナルニ過キスシテ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　（大正六・七・三）　四　六三三

○假定事實ノ說示ニ對スル上告ノ理由　原判決ノ假定ノ事實ニ基ク說示ノ當否ハ原判決主文ニ影響ナキヲ以テ之ヲ攻擊スル論旨ハ上告ノ理由トナラス　（大正六・一一・二六）　四　九九一

○控訴審ニ於テ提出セサリシ事項ト上告ノ理由　裁判所カ職權上調査スヘキ事項ニ非サル限リハ當事者ハ控訴審ニ於テ提出セサル事項ニ付上告審ニ至リテ之ヲ基礎トシテ以テ控訴審ノ判決ヲ非難スルヲ得ス　（大正七・一・二五）

○判決ノ遺脫ト相手方ノ上告ノ理由　請求ヲ受ケタル訴ニ付判決ヲ遺脫シタル不服ハ請求者タル原告ニ於テ之ヲ主張スルノ利益アルモ被請求者タル被告ニ於テ之ヲ主張スルノ利益アルモノト認ムヘカラサルヲ以テ其上告ハ理由ナキニ歸ス　（大正七・二・二六）　五　一〇

○事實及爭點ノ摘示ノ缺漏ト上告ノ理由　民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ定メタル事實及爭點ノ摘示ノ缺漏スル所アルモ絕對ニ上告ノ理由トナルモノニ非ス其欠缺カ判決主文ニ影響シタル場合ニ於テノミ上告理由タルヲ得ルモノトス　（大正七・五・一四）　五　一一〇

○當事者氏名ノ誤記ト判決破毀ノ理由　當事者氏名ノ表示上ノ誤記ハ民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ何時ニテモ其更正ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナレハ其誤記ハ原判決破毀ノ理由トナラス　（大正六・二・二〇）　五　五九一

○民法第五百四十一條ニ所謂相當期間ノ判斷ト上告理由　債權者ノ指定シタル期間ノ當否ヲ判斷スルニ當リ其判斷ノ憑據タルヘキ諸般ノ事情ノ存否如何ヲ認定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルコト論ヲ俟タサル所ナリト雖是等ノ事情カ正當ニ斟酌セラレタルヤ否ヤハ法律問題ニ屬シ上告裁判所ノ判斷ヲ受クヘキ事項ナリトス　（大正一二・六・八）　四　一〇八

○從參加人ニ對スル訴訟手續違背ト上告理由　第二審裁判所カ從參加人ヲ口頭辯論期日ニ呼出サスシテ訴訟ヲ進行シ且之ニ對シ判決ヲ爲ササルノ違法ハ啻ニ從參加人ヲシテ其ノ權利ヲ行使スルノ機會ヲ喪失セシムルニ止ラス主タル當事者ヲシテ從參加ニ因ル法律上ノ利益ヲ受クルコト能ハサラシムルモノナレハ從參加人ノ附隨シタル原告若ハ被告ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ルモノトス　（大正一二・六・一六）　一〇　一六六

○朝鮮民事令第三十三條ノ裁判長ノ注意權不行使ト上告ノ理由　朝鮮民事令第三十三條ニ規定セル裁判長ノ注意權ハ之ヲ行使ス　（大正一二・一〇・一九）　一〇　一三三

（巻　頁）

○ルト否トハ一ニ裁判長ノ自由ニ屬シ裁判長カ之ヲ行使セサリシコトヲ理由トシ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　（大正一二・一一・九）　10　三四〇

第四百三十六條

○記錄中訴訟委任ヲ證スヘキ書類ナキ場合ト訴訟手續ノ違背　訴訟委任ハ裁判所ノ記錄ニ備フヘキ書面委任ヲ以テ之ヲ證シ若クハ口頭辯論ノ期日ニ於テ口頭委任ヲ爲シ其陳述ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ要ス從テ其書面若クハ調書ナキトキハ適法ニ代理セラレサル者ナルニ付之ニ對シテ爲シタル判決ハ訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタル不法アリテ訴訟手續ト共ニ破毀ヲ免レス　（大正二・八・一）

○所謂裁判ニ理由ヲ付セサルトキノ意義　民事訴訟法第四百三十六條第七號ニ所謂「裁判ニ理由ヲ付セサルトキ」トハ判決ノ因テ生シタル理由ヲ付セサルトキヲ謂フモノニシテ相手方ノ證據排斥ニ關スル理由ヲ付セサル如キ場合ヲ謂フモノニ非ス　（大正七・九・一〇）　二　四〇六

○主文ニ影響ナキ證據判斷ノ遺脱ト破毀ノ理由　判決主文ニ何等ノ影響ヲモ及ホササルカ如キ證據ノ判斷ハ之ヲ遺脱シタリトスルモ之ヲ以テ原判決破毀ノ理由ト爲スヲ得ス　（大五九・四・三〇）　三　四〇七

○證據判斷ノ遺脱ト上告理由　裁判所當事者ノ申立ニ依リ證人訊問ノ決定ヲ爲シ其ノ證據調ヲ爲シタルニ拘ラス判決ニ之ヲ摘示セス且其ノ證據ニ對スル判斷ヲ示ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ提出シタル證據ヲ遺脱シ之ニ對スル判斷ヲ爲サスシテ事實ヲ確定シタル違法アルモノト爲スヘキモノトス　（大正一二・一二・二一）　七　一四三

○推理判斷ノ由來ノ不明ト理由不備　當事者ノ各立證及當事者ノ辯論ノ全趣旨ヲ綜合考覈シテ係爭事實ヲ認定スルニ足ルト說明シタルノミニテハ推理判斷ノ由來ヲ明ニセサルモノニシテ理由不備タルヲ免レス　（大正一三・五・一三）　10　三二六

第四百三十七條

○郵便ヲ以テスル上告狀ノ提出ト上告期間　期間內ニ上告狀ヲ書留郵便ニ付スルモ裁判所ニ到達シタル日カ期間ノ經過後ニ係ルトキハ其上告ハ期間經過後ニ提出セラレタリト爲スヘキモノナリ　（大正六・一・二二）　三　100

○上告期間ノ伸長ト里程算出ノ基準　上告期間ニ對スル里程伸長ノ期間ハ上告狀ヲ差出スヘキ原裁判所ノ所在地ト上告ヲ爲ス當事者ノ住所地トノ距離ノ割合ニ應シテ之ヲ定ムヘク其當事者ノ住所地ハ原判決送達當時ニ於ケル住所地ヲ以テ標準ト爲スヘキモノトス　（大正九・七・二三）　七　三四八

第四百三十八條

○不服ノ理由ヲ明示セサル上告　上告ハ第二審判決ノ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ許スモノナレハ上告申立人ハ必スヤ不服アリトスル趣旨ヲ明示セサルヘカラス　（明治四四・六・二四）　一　三一八

第四百三十九條

○中斷中ニ爲シタル上告ト訴訟ノ受繼　訴訟ノ中斷中ニ爲シタル上告ハ民事訴訟法上無效ナルヲ以テ後ニ至リ訴訟ノ受繼アルモ其上告ハ棄却スヘキモノナリ（明治四四・三・一五）　一　二一七

○中斷中ニ爲シタル上告ト補正　訴訟手續中斷中ノ上告ト雖上告人カ口頭辯論前受繼ノ爲メ承繼人呼出ヲ申立テ補正ヲ爲シタルトキハ上告ハ此時ヲ以テ有效ニ成立シタルモノトス　（大正七・四・一二）　三　二六二

○第二審判決ノ送達後ニ於ケル中斷ト上告申立　被控訴人カ第二審ニ於テ訴訟代理人ヲ以テ訴訟行爲ヲ爲シ訴訟カ第二審裁判所ニ繫屬中死亡スルモ其委任消滅ノ通知ヲ爲ササルトキハ其死亡後ニ於ケル當事者雙方ノ第二審ニ於ケル訴訟行爲ハ勿論第二審判決ノ言渡ノ如キ何レモ訴訟手續中斷中ノ行爲ヲ以テ目スヘキモノニアラス前項ノ場合ニ第二審判決ノ送達アリタル以後ニ於テハ訴訟手續ハ中斷セラルヘキモノナルヲ以テ上告期間ハ其進行ヲ爲ササルモノナレハ被控訴人ノ相續人カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササルニ上告人（控訴人）カ直ニ上告ノ申立ヲ爲スモ訴訟手續中斷中ノ上告ニシテ其效力ナキモノトス　（大正一〇・五・二七）　八　一三〇

○上告審ニ於テ併合審理シ同時ニ言渡ヲ爲スヘキ判決ト相互ノ拘束力　上告審ニ於テハ訴ノ一カ他ノ訴ノ判斷ノ基本タル關係ニ在ツテ而モ前者ニ付テノ判決カ後者ニ付テノ判斷ニ對シ旣判力ヲ有スヘキモノナルトキハ兩訴ヲ併合シ同時ニ判決スルニ當リ

テハ前者ニ付テ言渡サントスル判決ハ後者ニ付テ言渡サントスル判決ヲ言渡前ニ於テ既ニ拘束スルモノト謂ハサルヘカラス（昭和三・一二・二一）

第四百四十二條

○判決主文ノ脱漏ト附帶上告　判決理由中ニ爾餘ノ請求ヲ不當トスル旨說明シアルモ之カ判決主文ナキトキハ判決脫漏アルモノニ屬シ未タ判決ナキモノトス斯ル場合ニハ民事訴訟法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ追加裁判ヲ申立テ其裁判ニ對シ不服アラハ上告ヲ爲シ得ヘク判決主文ナキモノニ對シテ附帶上告ヲ爲スハ不適法ナリ（大正五・一二・二六）

第四百四十六條

○第二審判決ノ後法令ノ發布ニ因ル請求權ノ免除ト上告　誓約書ノ返還ヲ請求スル事件ニ付其誓約書ニ記載スル債務カ第二審判決後ニ發布セラレタル朝鮮總督府制令第三號ニ依リテ免除ノ結果ヲ生スルコトアルモ上告審ニ於テ新ニ其理由ヲ主張シテ原判決カ返還請求ヲ許容セサリシコトヲ違法ト爲スヲ得ス（明治四三・一一・二五）

第四百四十八條

○差戾後ノ辯論ト破毀セラレタル原判決ノ認定事實　上告裁判所カ原判決ヲ破毀シテ事件ヲ原裁判所ニ差戾シタルトキハ其差戾ヲ受ケタル裁判所ハ破毀セラレタル原判決ニ於テ認定シタル事實ニ羈束セラルルコトナキモノトス（大正五・七・一〇）

○差戾後ノ新辯論ニ基ク證據判斷　上告審カ判決ニ依リ原判決ヲ破毀シテ事件ヲ原裁判所ニ差戾シタル場合ニ於テ其ノ差戾ヲ受ケタル控訴裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ證據ノ採否判斷ノ如キモ更ニ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ爲スヘク先ニ爲シタル自己ノ判斷ニ羈束セラルヘキモノニ非ス（昭和二・六・一〇）

○差戾ノ前後ニ亘ル闕席ト所謂再度ノ闕席判決　控訴事件カ終局判決ニ因リ一旦其ノ審級ヲ離脫スルモ上告ノ結果其ノ判決ノ全部又ハ一部カ破毀セラレ事件カ原裁判所ニ差戾サレタルトキハ同一事件カ再ヒ同一審級ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ其ノ差戾前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シ差戾後又闕席判決ヲ爲ストキハ是朝鮮民事令第三十五條ニ所謂再度ノ闕席判決ニ該當スル

巻　頁
一五　三五三
三　一〇八
一　一四六
三　六六九
一四　一八六

モノトス（昭和二・一〇・二七）

○他ノ部ニ差戾シタル場合ト前裁判ヲ爲シタル判事ノ關與　上告裁判所カ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ノ他ノ部ニ差戾シタル場合ニ於テ破毀セラレタル判決ニ關與シタル判事カ新ナル辯論及裁判ニ關與シタルトキハ其ノ訴訟手續及判決ハ違法ニシテ破毀スヘキモノトス（昭和二・一二・二〇）

第三章　抗告

○抗告事件ノ口頭辯論期日ノ懈怠ト民事令第二十九條　民事令第二十九條ハ抗告裁判所ノ命シタル口頭辯論期日ニハ其ノ適用ナキモノトス（大正一五・四・二八）

第四百五十五條

○再度不出頭ト期日指定申請却下ノ裁判ニ對スル抗告　當事者雙方引續キ再度出頭セサルニ拘ラス朝鮮民事令第二十九條ニ該當セサルモノト思料シタルトキ當事者ハ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ爲シ得ヘク裁判所ニ於テハ同條ニ該當セスト認メタルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ當事者ヲ呼出シ又同條ニ該當スルモノト認メタルトキハ該申請ヲ却下スルヲ民事訴訟法規ノ趣旨ニ適合スルモノト解スヘキモノトス而シテ後ノ場合ニ於テハ當事者ハ民事訴訟法第四百五十五條ニ從ヒ抗告ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノニシテ右法則ハ控訴審ニ於テモ其適用アルモノトス（大正九・四・二四）

第四百五十六條

○破産宣告ヲ廢棄シタル抗告裁判所ノ決定ト新ナル抗告ノ理由　控訴院ニ於テ地方裁判所カ宣告シタル破產決定ヲ廢棄シテ債權者ノ破產申立ヲ却下シタルトキハ債權者カ該決定ニ對スル抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノニ該當ス（明治四四・八・二一）

一四　三五八
一四　三七五
一三　一〇三
七　一三一
一　一四七

○本條ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ノ意義　民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所カ不適法トシテ抗告ヲ棄却シタルカ下級裁判所ノ裁判ト反對ノ裁判ヲ爲シタルカ又ハ裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シテ裁判ヲ爲シタル場合ヲ謂フ（大正七・一・二二）

○抗告裁判所ノ決定ト再抗告ノ理由　抗告裁判所ノ決定カ原裁判所ノ決定ト其結果同一ニ歸シタルトキハ裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ如キ場合ニ非サレハ再抗告ヲ爲スコトヲ許ササルモノトス（大正一一・三・一〇）

○競賣法ニ基ク決定ニ對スル再抗告ノ理由　競賣法ニ基ク競賣ニ關シ爲サレタル決定ニ對スル抗告ニ付テハ民事訴訟法第四百五十六條ノ準用アリ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ再抗告ヲ爲スニハ其ノ裁判ニ依リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキナルコトヲ要ス（大正一五・八・二六）

第四編　再審

第四百六十九條

○本條第一項第七號ニ所謂證書ノ意義　民事訴訟法第四百六十九條第一項第七號ニ所謂相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書トアルハ相手方若クハ第三者ノ故意ニ出テタル妨害ニ依リ前訴訟ニ於テ提出スル能ハサリシ證書ノ實義ニシテ相手方若クハ第三者ノ過失ニ依リ提出ヲ妨害セラレタル證書ヲ包含セサル趣旨ト解釋スルヲ相當トス（大正三・二・六）

○僞證罪ヲ構成スヘキモノト思料シタル場合ノ控訴ニ於ケル不主張ト再審　判決ノ憑據ト爲リタル證人ノ供述ノ僞證ナルコトヲ原因トシテ再審ヲ求ムル場合ハ其證人ニ對スル僞證罪ノ判決確定シタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限ルヘキモノナレハ單ニ僞證罪ヲ構成スヘキモノト思料シタルニ止マル場合ノ如キハ假令控訴ヲ以テ之ヲ主張セサルモ後日再審ヲ求ムルノ妨トナルモノニ非ス（大正五・七・七）

○刑事判決ノ認定ニ反スル判斷ト再審ノ理由　民事ノ裁判ハ必スシモ刑事判決ノ確定セル事實ニ羈束セラルヘキモノニ非サルカ故ニ民事裁判所ハ證據ニ依リテ刑事判決ノ確定セル事實ト相反スル事實ヲ認定スルヲ得ヘク又刑事判決ニ於テ僞造變造ナルコトヲ確定セル證書若クハ僞證ナルコトヲ確定セル證人ノ供述ト雖民事裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其證書ハ眞正ニ成立シタルヤ否ヤ又其供述ハ眞實ノ事實ニ適合スルヤ否ヤヲ判斷シ苟モ該證書ノ成立供述ノ內容ヲ眞實ナリトシテ信用シタル以上ハ之ヲ事實認定ノ資料ニ採用スルモ毫モ違法ナリト謂フヲ得ス又之ヲ採用シタルノ故ヲ以テ再審ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス（大正七・九・三〇）

○證書ノ提出ヲ妨ケラレタル事實ト主張及疏明ノ責任　民事訴訟法第四百六十九條第一項第七號ノ規定ハ再審原告カ前訴ニ於テ相手方又ハ第三者ノ爲ニ故意ヲ以テ再審原告ノ利益トナルヘキ證書ノ提出ヲ妨ケラレタル場合ニ限リ適用セラルヘキモノニシテ其證書ノ提出ヲ妨ケラレタル事實ハ再審原告ニ於テ主張シ且疏明セサルヘカラサルモノトス（大正七・七・九）

第四百七十九條

○再審ノ審理範圍　再審ヲ求ムル事實理由ハ再審ヲ求ムル者ニ於テ主張セサルヘカラサルモノニシテ裁判所ハ其主張以外ノ事實ニ基キ再審ノ許否ヲ決スヘキ職責ヲ有スルモノニアラス（大正七・七・九）

巻	頁
五	一
九	八〇
一三	二〇
二	三八三

巻	頁
[illegible]	六四二
[illegible]	七四六
[illegible]	六二四
[illegible]	六二四

朝鮮民事令

（第十條、第十一條、第十二條乃至第十四條ニ付テハ民法中各關係條文ノ部ニ收ム）

第十一條ノ三

（昭和十四年十一月制令第十九號ヲ以テ第十一條ノ四ニ改メラル）

○緣組ノ無效ト戸籍訂正ノ手續　大正十二年七月一日ヨリ施行セラレタル朝鮮民事令第十一條並第十一條ノ三ノ改正規定及朝鮮戸籍令ノ規定ニ從ヘハ養子緣組ノ如キ屆出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ訂正スルニ付當事者雙方異議ナキトキハ當事者ヨリ管轄地方法院ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スヘク又當事者間ニ緣組ノ無效ナルコトニ爭アリテ戸籍ノ訂正ニ異議アルトキハ判決ニ因リテ其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ確定シ然ル後訴ヲ提起シタル者ニ於テ判決確定ノ日ヨリ一月以内ニ當該戸籍ヲ管掌スル府尹又ハ面長ニ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキモノトス　（大正一二・七・一〇）

○確定判決ト戸籍訂正申請義務者　右ノ場合ニ於ケル戸籍訂正申請ノ義務ハ當該訴訟ヲ提起シタル者ニ屬シ相手方ハ之カ申請ヲ爲ス義務ナキモノナレハ訴ニ依リテ相手方ニ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキコトヲ要求スルコトヲ得サルモノトス　（大正一二・七・一〇）

第十三條

○契約解除ニ因ル所有權ノ復歸ト本條ノ適用　賣買ニ因ル所有權移轉登記ノ爲サレタル後ニ至リ該賣買カ解除セラレタル結果賣買ノ目的タル不動產ノ所有權カ實體的ニ買主ヨリ賣主ニ復歸シタル場合ニ於テモ未タ其ノ登記ヲ爲ササル間ニ買主カ更ニ之ヲ他ニ賣渡シ又ハ抵當權ヲ設定シ其ノ登記ヲ經由シタルトキハ賣主ハ解除ニ因ル所有權ノ復歸ヲ以テ其ノ者ニ對抗スルヲ得サルモノトス　（昭和一三・一一・二五）

○證明ト登記トノ牴觸　朝鮮不動產證明令ニヨリ爲サレタル證明ハ朝鮮不動產登記令ニ依リ爲サレタル登記ト同一ノ效力ヲ有スルモノナレハ既存證明ノ存スルニ拘ラス正規ノ手續ニヨリ之ヲ抹消スルコトナク同一土地ニ付登記カ爲サレタルトキハ之ト牴觸スル範圍ニ於テハ登記ノ效力ハ否定セラレサルヘカラサルト共ニ若シ其ノ證明カ正規ノ手續ニ依ラスシテ不當ニ抹消セラレタルトキハ回復ヲ俟タスシテ尙第三者ヘノ對抗力ヲ失フコトナキモノトス　（昭和一三・一一・三〇）

○不動產ノ二重處分ニ於ケル第三者相互ノ關係　同一不動產ニ付互ニ相手方ノ登記欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ノ間ニ在リテ他ノ一方カ其ノ不動產ニ加ヘタル處分行爲（例ヘハ地上立木ノ伐採）ニ付テハ後ニ所有權ノ取得登記ヲ爲シタル他ノ一方ニ對シテ不法行爲ノ責ヲ負フコトナキモノトス　（昭和一四・三・七）

○不動產ノ二重賣買ノ仲介人ト不法行爲ノ成立　同一不動產ノ二重賣買ノ場合ニ於テ第二ノ賣買ニ付第三者カ賣主ト共謀シ或ハ之ヲ教唆シ賣主ヲシテ第二ノ賣買ヲ爲スノ決意ヲ生セシメタル結果第二ノ賣買成立シ而モ第二ノ買主カ先ツ登記ヲ經テ第一ノ買主ノ賣主ニ對スル登記請求權ヲ侵害シタルトキハ右第三者ハ第一ノ買主ニ對シ不法行爲上ノ責ヲ負フヘキモノトス　（昭和一六・六・六）

第十八條

○控訴審ニ於ケル原告ノ請求ノ擴張ト貼用印紙　控訴審ニ於テ原告カ其ノ請求ヲ擴張セントスル場合ニ控訴ニ於ケル不服申立カ擴張前ノ請求全部ニ亙ルモノナルトキハ擴張前後ノ請求ノ價額ノ合算額ニ對スル控訴印紙ト擴張前ノ請求ニ對スル控訴印紙トノ差額ニ相當スル印紙ヲ原告ニ於テ貼用スヘキモノトス　（昭和一六・四・八）

第二十一條

○訴訟代理ノ許可ト審級　朝鮮民事令第二十一條ニ依ル訴訟代理人ノ許可ハ各審級每ニ之ヲ受クヘキモノナレハ其訴訟代理人ノ許可ナキ爲メ代理ノ欠缺ヲ理由トシテ裁判セラレタルトキハ縱令上級審ニ於テ訴訟代理人ヲ許可シタリトスルモ下級審ニ於ケル代理ノ欠缺ヲ追完スルニ由ナキモノトス　（大正四・三・九）

○辯護士ニ非サル訴訟代理人ノ訴狀、控訴狀又ハ上告狀ノ場出ト後日ノ許可　辯護士ニ非サル訴訟代理人カ當事者本人ヨリノ訴訟代理ノ許可申請書ト共ニ其代理人名義ノ訴狀控訴狀若クハ上告狀ヲ提出シタル場合ニ裁判所カ其訴訟代理人ヲ許可シタルト

キ其訴訟ニ於ケル上告ノ提起ハ適法ニ為サレタルモノト看做スベキモノトス（大正四・六・一八）

○訴訟代理許可申請ノ提出期間　訴訟ニ付キ其ニ訴訟代理ノ許可申請書ヲ第一審裁判所ニ提出スルモ其代理ノ許否ハ控訴裁判所ニ於テ為スベキモノトス（大正四・六・一八）

第二十六條

○当事者ノ期日出頭義務　当事者双方カ口頭辯論期日ニ出頭スベキ旨ノ呼出ヲ受ケタルトキハ朝鮮民事令第二十六條ニ依リ該期日ニ出頭セサリシ場合ニハ当事者双方ニ対シ適法ノ呼出アリタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス（大正五・二・一五）

第二十九條

○呼出ノ不出頭ト期日指定申請及其ノ撤回　当事者双方引続キ再度出頭セサルニ拘ラス朝鮮民事令第二十九條ニ該当セサルモノト認メラルトキハ当事者ノ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ為シ得ヘキ裁判所ニ於テハ同條ニ該当セストノ認メラルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ当事者ヲ呼出シ又同條ニ該当スルモノト認メラルトキハ該申請ヲ却下スルヲ民事訴訟法規ノ趣旨ニ適合スルモノト解スヘキモノトス而シテ後ノ場合ニ於テハ当事者ヘ民事訴訟法第四百五十五條ニ従ヒ抗告ノ申立ヲ為シ得ヘキモノニシテ右法條ハ控訴事件ニ於テモ其適用アルモノトス（大正九・四・二四）

○本條第二項ノ新期日ノ指定　朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂新期日トハ同條第一項ノ規定ニ依リ新ニ指定セラレ且最初ニ開廷セラレタル期日ヲ指称ス（大正一一・一〇・一三）

○訴訟手続ノ口頭辯論期日懈怠ト本條　民事令第二十九條ハ訴訟裁判所ノ命シタル口頭辯論期日ニハ其ノ適用ナキモノトス（大正一五・四・二八）

○本條第二項ニ所謂其ノ後ノ期日　朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂其ノ後ノ期日ノ意義ハ同一審級ニ於ケル同種ノ期日ヲ指シ口頭辯論ノ各期日又ハ弁論手続ノ各期日ヲ総称トシテ之ヲ定ムヘク当事者双方カ懈怠ノ期日ヲ通シテ二回出頭セサリシ場合ニハ同條ヲ適用スヘキ限リニ非ス（昭和七・六・一四）

第三十六條

○当事者ト期日出頭義務　当事者双方カ口頭辯論期日ニ出頭スヘキ旨ノ呼出ヲ受ケタルトキハ朝鮮民事令第二十六條ニ依リ該期日ニ当事者双方ニ対シ適法ノ呼出アリタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス（大正五・二・一五）

第二十九條

○呼出ノ不出頭ト期日指定申請及其ノ撤回　当事者双方引続キ再度出頭セサルニ拘ラス朝鮮民事令第二十九條ニ該当セサルモノト認メラルトキハ当事者ノ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ為シ得ヘキ裁判所ニ於テハ同條ニ該当セストノ認メラルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ当事者ヲ呼出シ又同條ニ該当スルモノト認メラルトキハ該申請ヲ却下スルヲ民事訴訟法規ノ趣旨ニ適合スルモノト解スヘキモノトス而シテ後ノ場合ニ於テハ当事者ヘ民事訴訟法第四百五十五條ニ従ヒ抗告ノ申立ヲ為シ得ヘキモノニシテ右法條ハ控訴事件ニ於テモ其適用アルモノトス（大正九・四・二四）

○本條第二項ノ新期日ノ意義　朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂新期日トハ同條第一項ノ規定ニ依リ新ニ指定セラレ且最初ニ開廷セラレタル期日ヲ指称ス（大正一一・一〇・一三）

○訴訟手続ノ口頭辯論期日懈怠ト本條　民事令第二十九條ハ訴訟裁判所ノ命シタル口頭辯論期日ニハ其ノ適用ナキモノトス（大正一五・四・二八）

○本條第二項ニ所謂其ノ後ノ期日　朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂其ノ後ノ期日ノ意義ハ同一審級ニ於ケル同種ノ期日ヲ指シ口頭辯論ノ各期日又ハ弁論手続ノ各期日ヲ総称トシテ之ヲ定ムヘク当事者双方カ懈怠ノ期日ヲ通シテ二回出頭セサリシ場合ニハ同條ヲ適用スヘキ限リニ非ス（昭和七・六・一四）

○裁判長ノ法廷指揮権行使　朝鮮民事令第三十三條（改正前）ニ規定スル注意権ヲ行使スルト否トハ裁判長ノ権能ニ属スルヲ以テ之ヲ行使セサリシトテ違法トナルコトナシ（大正七・五・一七）

○同　上　朝鮮民事令第三十三條（改正前）ニ規定セル裁判長ノ注意権ハ之ヲ行使スルト否トハ裁判長ノ自由ニ属シ裁判長カ之ヲ行使セサリシ理由ヲ上告ノ理由トシ得ス（大正一二・一一・九）

第三十五條（削法）

○裁判官ノ員数ノ訴訟手続ハ改正前ノ本條ノ員数ノ訴訟手続ニ該当ス　控訴事件カ終局判決ニ因リ一旦其ノ審級ヲ離脱スルモ上

号ノ結果其ノ判決ノ全部又ハ一部ヲ破毀セラレ本件カ原裁判所ニ差戻サレタルトキハ同一事件ニ付キ又ハ同一事件ト雖モ其ノ差戻前ノ原院判決ヲ受ケタル者ニ対シ差戻後又ハ前ノ判決ヲ為スヘキ場合ニ於テハ朝鮮民事令第三十五條（改正前）ニ所謂再度ノ原院判決ニ該当スルモノトス（昭和一一・一〇・二七）

第三十八號ノ三

○故障申立後最初ノ口頭弁論期日カ延期又ハ変更セラレタル場合ト本令第三十八號ノ四第一項ノ適用　原院判決ニ対シ故障ノ申立ヲ為シタル者カ故障申立後最初ノ口頭弁論期日又ハ其ノ延期若ハ変更セラレタル期日ニ出頭セサルトキハ故障ノ取下ヲ為シタルモノト看做スヘキモノトス（昭和一四・五・三〇）

第三十八號ノ四

○故障申立後最初ノ口頭弁論期日カ延期又ハ変更セラレタル場合ト本令第三十八號ノ四第一項ノ適用　原院判決ニ対シ故障ノ申立ヲ為シタル者カ故障申立後最初ノ口頭弁論期日又ハ其ノ延期若ハ変更セラレタル期日ニ出頭セサルトキハ故障ノ取下ヲ為シタルモノト看做スヘキモノトス（昭和一四・五・三〇）

第三十九號（省略）

○原裁判変更ノ取消　朝鮮民事令第三十九條（改正前）ハ注意的規定ニ過キサルニ依リ之ニ依拠シテ證拠決定ヲ取消スヲ許ササル本則ノ存スルコトヲ推論セントスルハ其ノ当ヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

第四十四號

○実質上訴ノ制限ト仲合訴訟　数個ノ請求ニ付為サレタル判決ニ対シ数個ノ請求ニ関シ一ノ控訴ヲ為ス場合ニハ其ノ価額ヲ合算シテ之カ許否ヲ決スヘキモノニシテ其ノ数個ノ請求カ同一人ニ対スルモノナルトキハ別異ノ人ニ対スルモノナルトキハ之ヲ問フヲ要セサルモノトス（昭和七・一・二六）

○未償ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価額ト訴訟費用　朝鮮民事令第四十四條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価額中ニハ訴訟費用ヲ包含セサルモノトス（昭和七・一〇・一八）

○未償ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価格ト原引価格　朝鮮民事令第四十四條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価格トハ控訴ニ於ケル係争ノ対象タル訴訟物ノ原引価格ニ他ナラス（昭和一〇・九・三〇）

○水流地通漑訴訟ノ訴訟価額算定ノ標準　訴訟物カ水流地ヲ管ニ同役シ其ノ基地ヲ原告ニ引渡スヘシト謂フニ在ルトキハ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価格ハ係争土地所有権ノ原引価格以上ヲ出ツルコトナキモノトス（昭和一〇・九・三〇）

○控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ意義　民事令第四十四條第一項ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価額トハ控訴人カ自己ニ不利ナル第一審判決ヲ有利ニ変更セラルルコトニヨリテ得ヘキ直接ノ・客観的利益ノ価額ヲイフモノトス（昭和一四・二・一〇）

○所有権移転登記ト引換ニ元利給付ヲ命セラレタル金額ト本條第一項ノ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価額　第一審裁判所カ所有権移転登記ノ実行ヲ求ムル原告ノ請求ヲ認容スル判決ニ於テ之ト引換ニ原告ニ反対給付ヲ命シタル金額カ五十圓ヲ超過セサルトキハ原告ノ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ価額ハ五十圓ヲ超過セサルモノトス（昭和一四・一〇・三〇）

○本案外ノ判決ト本條及第五十一條ノ適用　朝鮮民事令第四十四條第五十一條ノ規定ハ控訴ヲ不適法トシテ却下シタル判決ノ如キ本案外ノ判決ニモ適用アルモノトス（昭和一六・七・一八）

第四十六號

○判決送達後ノ受額ト申立額判所　参加判決ノ送達後訴訟手続ノ中断シタル場合ニ受継ヲ為スヘキ書面ハ朝鮮民事令第四十六條第四十七條第五十一條ノ規定ニ依リ原裁判所ニ提出スルヲ妨ケス又原裁判所ニ提出スルヲ相当トス（昭和三・八・三）

第四十七號

○期間懈怠後提起ノ控訴ト其ノ却下　期間懈怠ニ起因スル控訴ハ朝鮮民事令第四十七條（改正前）ニ依リ第一審裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘキ旨ノ命令ヲ為シ得ヘキモノトス（大正一五・一二・一四）

朝鮮民事令

○補正命令ニ對スル抗告ノ許否　朝鮮民事令第四十七條ニ基キ爲サレタル補正命令ニ對シテハ抗告ヲ許ササルモノトス　（昭和八・四・一四）

○不適法ナル抗告ト本條第三項ノ準用　原裁判所ニ抗告狀ノ提出アリタル場合ニ於テ當該抗告不適法ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナルトキト雖原裁判所ハ自ラ之ヲ却下スルコトヲ得サルモノトス　（昭和一五・四・二）

第五十一條

○不適法ナル抗告ト本令第四十七條第三項ノ準用　原裁判所ニ抗告狀ノ提出アリタル場合ニ於テ當該抗告不適法ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナルトキト雖原裁判所ハ自ラ之ヲ却下スルコトヲ得サルモノトス　（昭和一五・四・二）

○本案外ノ判決ト本令第四十四條第五十一條ノ適用　朝鮮民事令第四十四條第五十一條ノ規定ハ控訴ヲ不適法トシテ却下シタル判決ノ如キ本案外ノ判決ニモ適用アルモノトス　（昭和一六・七・一八）

第七十三條

○朝鮮人ノ外關係者ナキ離婚事件ノ訴訟手續　朝鮮人ノ外關係者ナキ離婚事件ニ付テハ朝鮮民事令第七十三條（改正前）ノ規定ニ則リ通常ノ訴訟手續ニ依リ審判スヘク此場合ニ於テ控訴人ニ對シテ爲ス闕席判決ニ關スル民事訴訟法第四百二十八條ノ適用ヲ除外セルモノナシ　（大正二・一〇・二八）

附則

第七十九條

○本令施行前ノ判決ト施行後ノ上告期間　朝鮮人間ノ訴訟ニシテ朝鮮民事令施行前ニ於テ言渡アリタル判決ニ對スル上告期間ハ判決言渡ノ日ヨリ始マルコトハ其當時ノ法律タル民刑訴訟規則ノ規定ニ徴シテ明ナルモ同令施行ノ日マテニ上告期間ヲ經過セ

卷	頁
二〇	一六九
二七	五六
二七	五六
二八	九四
二	三四九

スシテ其施行後ニ至リ上告スルモノニ在リテハ同令第一條ニ依リテ適用スヘキ民事訴訟法第四百三十七條ノ規定ニ則リ其上告期間ハ判決送達ノ日ヨリ計算シ而モ判決送達前ニ於テ爲シタル上告ハ之ヲ無效トスヘキモノトス　（明治四五・七・一九）

○民刑訴訟規則ニ因ル判決謄本ノ送達ト本令施行後ノ效力　民刑訴訟規則ニ依リテ送達セラレタル判決謄本ハ民事訴訟法ニ依リ送達サルヘキ判決正本ニ該當スルモノナレハ朝鮮民事令第七十九條ノ規定ニ依リ判決正本ノ送達アリタルト同一ノ效力ヲ有スト看做スヘキモノナリ　（明治四五・七・三〇）

第八十一條

○本令施行後一年內ニ於ケル未登記物權ノ對抗力　朝鮮民事令第八十一條ニ依リ準用スヘキ民法施行法第三十七條ニ依レハ從來登記又ハ證明ナクシテ第三者ニ對抗スルヲ得ヘカリシ權利ト雖朝鮮民事令ノ規定ニ依リ登記又ハ證明ヲ受クヘキモノナルトキハ第三者ニ對抗スルカ爲メニハ同令施行ノ日ヨリ一年內ニ登記又ハ證明ヲ受クルコトヲ要スルモ同令施行後一年ヲ經過セサル間ハ登記又ハ證明ヲ受ケサルモ第三者ニ對抗スルヲ得　（大正元・一〇・一五）

市場規則

第一條

○大邱穀物商組合市場ニ於ケル總解合ト商慣習　大邱穀物商組合市場ニ於テ賣方買方間ニ總解合ヲ爲シタル場合ニハ右總解合ノ決議ニ加ハラサル委託者ト雖其ノ決議ニ服從スヘキ商慣習ノ存在スルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ此慣習ハ事實タル慣習ニシテ法タル效力ヲ有スル慣習ニ非ス　（大正一二・二・二七）

卷	頁
一	四九五
一	五〇二
二	四〇
一〇	四九

○市場取引ニ於ケル商慣習ト営業者ノ意思

取引市場ニ於テ行ハルル商慣習ハ反対ノ意思ノ認メ得サル限リ普通其慣習ヲ知リ之ニ依ルノ意思ヲ有スルモノト認ムルヲ相当トス（大正一二・二・二七）

○米穀ノ定期取引ニ於ケル買戻

米穀ノ定期取引ニ付テ行ハルル転買戻ハ買戻営業者ノ一方カ相手方ニ通知スルコトヲ以テ其ノ承諾ヲ受クルコトヲ以テ市場ニ於テ前取引ト反対ノ買ヲ為スニ因リテ自己ノ買約ト買約トヲ相殺シ全然其契約関係ヨリ脱離スルコトヲ謂ヒ多クノ場合ニ於テハ契約当事者一方ノ買約若ハ買約ト買戻約若ハ転買約トヲ差引消合スルモノニシテ其ノ行為ハ定期取引ニ関スル慣習ニ依リテ認メラルル一種特別ノモノトス（大正一二・八・七）

○米穀ノ定期取引ニ於ケル解合

解合ハ之ヲ分チ為スモ相手方亦多少ノ損害ヲ免レサルカ如キ場合ニ於テ買方買方合議ノ上所謂解合直段ヲ協定シ其ノ直段ヲ以テ転買戻ノ形式ニ依リ総買ノ差引消合ヲ為スヲ謂フモノナレハ其ノ行為ノ性質ハ転買買戻ノ行為ニ於ケルトヌタ同一ニシテ軽覚解合ハ之ヲ其ノ買方又ハ買方ノ一方ヨリ個々ノ売約ニ付テ観察スレハ即チ転買買戻ニ外ナラサルモノトス（大正一二・八・七）

○バイカイ附出captionノ取引ト商慣習

期節ニ於テ米穀ノ延取引ヲ行フ所ノ組合其ノ他ノ市場ニ於テハ一般ノ取引所ニ於テ行ハルル所謂バイカイ附出ノ方法ニ類似スル取引ノ行ハルル慣習アリ（大正一四・二・二〇）

○定期ノ効力

期節ニ於テ米穀仲買業者ハ委託ヲ受ケタル米穀ノ延取引ニ付所属ノ市場ニ立会ヒ取引物件ニ付売買段ヲ唱ヘテ売買又ハ買ハムトスル者ト仲買中之ニ応スル者トヲ自己ノ為ニスル者トノ相手方ト為リテ取引ヲ為サムト欲シ且市場ノ監督者及立会者ノ仲買人之ニ関与スヘキ旨ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ売買ノ相手方ト為リテ取引ヲ成立セシムルコトヲ得ルハ従来行ハレタル慣習ニシテ其ハ法タル効力ヲ有スルモノトス（大正一四・二・二〇）

第八條

○許可ニ反スル市場外ノ売買ト其ノ効力

市場規則第十九條ニ於ケル同規則第八條ノ許可ヲ受ケタル営業者カ営業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其営業ノ為シタルトキハ之ヲ惑罰スル規定ハ許可ヲ受ケタル営業者ノ水産物ノ販売其ノ他ノ禁止スル売買ニ適用スルモノニ非スシテ如何ナル出ヲ以テ之ニ該当スルモノト認ムルヤハ専ラ行政官庁ノ主観的判断ニ係ルモノニシテ之ヲ定メ得ヘキモノトス

取引所特別歩合施行規則

○本規則第三條及第百ノ四第二項ノ小作人心得五ノ四ノ規程ニ依ル取引所特別歩合施行規則ニ於ケル「特別ノ事由アルトキ」トハ必スシモ其ノ一乃至三ニ例示セラレタル如キ直接ノ事由ニ非スシテ如何ナル出ヲ以テ之ニ該当スルモノト認ムルヤハ専ラ行政官庁ノ主観的判断ニ係ルモノトス

○本規則第三條及第百ノ四第二項ノ小作人心得五ノ四ノ規程ニ依ル取引所特別歩合施行規則ニ於ケル「特別ノ事由アルトキ」トハ必スシモ其ノ一乃至三ニ例示セラレタル如キ直接ノ事由ニ非スシテ如何ナル出ヲ以テ之ニ該当スルモノト認ムルヤハ専ラ行政官庁ノ主観的判断ニ係ルモノトス

廢屯土特別處分令施行規則　廢屯土賣拂處分ニ關スル件

スル趣旨ナルハ勿論其特別ノ事由カ契約締結後ニ發生シタルコトヲ要スルモノニ非スシテ契約締結當時既ニ存シタルモノト雖尚之ヲ以テ特別ノ事由ト謂フヲ妨ケサル趣旨ナリト解スルヲ相當トス（大正一〇・一二・二三）

○賣拂契約ニ因ル權利ト共ニスル借地權ノ讓渡　大正元年朝鮮總督府令第四〇號廢屯土特別處分令施行規則第九條カ大正九年朝鮮總督府令第一一〇號ニ依リ賣拂契約ヲ爲シタル借受人ニ限リ唯轉貸ヲ許シテ借地權ノ讓渡ヲ禁止シタルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止スル趣旨ニシテ許可ヲ得テ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス（大正一五・九・二八）

廢屯土賣拂處分ニ關スル件

○賣拂契約ニ因ル權利ト共ニスル借地權ノ讓渡　大正元年朝鮮總督府令第四〇號廢屯土特別處分令施行規則第九條カ大正九年朝鮮總督府令第一一〇號ニ依リ賣拂契約ヲ爲シタル借受人ニ限リ唯轉貸ヲ許シテ借地權ノ讓渡ヲ禁止シタルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止スル趣旨ニシテ許可ヲ得テ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス（大正一五・九・二八）

○廢屯土賣拂處分ニ因ル權利ノ許可ヲ條件トスル讓渡契約ノ效力　廢屯土賣拂處分ニ因ル權利ニ付許可ヲ受クル條件ヲ以テ之カ讓渡契約ヲ爲シ讓渡人ニ於テ許可申請ヲ爲スヘキコトヲ約スルハ有效ニシテ讓渡人ハ讓受人ニ對シ當該許可申請ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス（昭和三・一・三一）

明治四十四年官通牒第三百號（永年禁養ノ實否ニ關スル件）

○本通牒ト裁判所カ國有私有ヲ認定スル標準　明治四十四年官通牒第三百號（永年禁養ノ實否ニ關スル件）大正二年官通牒第四十六號（永年禁養林ノ認定ニ關スル件）ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「養森林法施行前ヨリ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「養森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列擧スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス（大正一二・四・一〇）

大正二年官通牒第四十六號（永年禁養ノ認定ニ關スル件）

○本通牒ト裁判所カ國有私有ヲ認定スル標準　明治四十四年官通牒第三百號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「養森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播

關稅法　韓國人ニ係ル司法ニ關スル件

種ヲ行ハス單ニ禁發シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列擧スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラスト○本參照ノ之ヲ認メス（大正一二・四・一〇）

關稅法（明治四十六年

○關稅逋脫者ノ稅關貨物取扱名義人ニ對スル不法行爲　甲カ稅關貨物取扱人タル乙ノ名義ヲ用キ其業務ニ從事中關稅逋脫ヲ圖リタルトキハ乙ハ朝鮮關稅令竝關稅法第八十二條ノ規定ニ從ヒ其責ニ任セサルヘカラス從テ甲カ關稅逋脫ヲ圖ル際若シ官ニ發覺スル場合ニハ貨物取扱名義人タル乙カ其責ニ任スヘキモノナリトノ事ハ當初ヨリ豫見セラレ且當然生スヘキ結果ナルヲ以テ甲ノ關稅逋脫ノ不法行爲ハ直接ニ關稅徵收權ヲ侵害スルト同時ニ間接ニ貨物取扱名義人タル乙ノ財產權ヲ侵害スルモノニシテ其不法行爲ト財產權ニ因ル損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（大正五・一〇・六）

明治四十二年勅令第二百三十八號（韓國人ニ係ル

司法ニ關スル件）

○第二條ニ所謂日本法規ノ意義　明治四十二年勅令第二百三十八號第二條中日本法規トハ訴訟手續ニ關スル法規ノミヲ指シ實體法ヲ包含セサルモノトス（明治四五・三・二八）

韓佛修好通商條約

○韓佛修好通商條約第四款第四ノ範圍ヲ越ヘテ取得シタル佛國人ノ土地所有權　韓佛修好通商條約第四款第四ニ若法人欲行永租或暫租境段便勝房屋在租界以外者聽惟相隣租界不逾十里（朝鮮里）云々ノ約款アリテ佛國人ハ居留地一里以外ニ於テ土地ノ所有權ヲ取得スルコトヲ禁セラレタルモノナルモ韓國政府ノ默認ニ依リ明治二十五年舊二月頃ニハ既ニ佛國人ハ適法且有效ニ居留地一里以外ニ於テモ土地所有權ヲ取得シ得タルモノトス（大正元・一一・一五）

會社令

○朝鮮會社令ニ關スル訴訟ト適用法規　朝鮮會社令ニ依ル會社ニ係ル訴訟ニハ朝鮮法規ヲ適用セスシテ日本法規ヲ適用スヘキモノナリ（朝鮮治四四・五・一二）

開國五百三年六月二十八日議案（寡女再嫁無論

貴賤）（寡女ノ再嫁ヲ自由ナラシムル件）

○不再嫁ヲ條件トスル法律行爲ノ效力　舊韓國開國五百三年六月二十八日ノ議案ニ於テ寡女ノ再嫁ヲ其自由ニ任セタルハ再嫁ノ韓佛修好通商條約　會社令　寡女ノ再嫁ヲ自由ナラシムル件

禁止ヲ解キタルニ過キスシテ再嫁セサルヘカラスト爲シタルニアラス從テ再嫁セサルコトヲ條件トシテ法律行爲ヲ爲スモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニ非ス（明治四四・一二・二五）

○妾ト妻ノ身分取得　舊韓國開國五百三年六月議案ハ寡婦再嫁ノ禁ヲ解キタルニ過キスシテ從來寡婦ニシテ他人ノ妾トナリ同棲シタルニ過キサル者カ同議案ノ發布ニ依リ當然妻ノ身分ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル趣旨ニアラス（大正六・五・三一）

朝鮮産業組合令

第二十七條

○産業組合ノ代表　産業組合ノ組合長カ他人ノ代理人トシテ組合ト契約ヲ爲ス場合ニハ監事組合ヲ代表スヘキモノニシテ朝鮮産業組合令第二十七條第三項ハ斯ル場合ニ其ノ適用ナキモノトス（昭和一二・一二・一七）

第五十七條—第五十八條

○郡守ト産業組合長トノ兼任　郡守タル箇人カ同時ニ産業組合ノ組合長タルコトハ必シモ違法無效ニ非ス（昭和一六・一一・一四）

漁業令

第一條

○共同漁業經營契約ノ趣旨　漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ニ基キ他人ト共同シテ漁業ヲ經營スヘキ旨ノ契約ト漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ヲ他人トノ共有ト爲スヘキ旨ノ約旨トハ彼此其ノ內容ヲ異ニシテ前者ノ約旨中ニハ當然後者ノ約旨ヲ包含スルモノト爲スヲ得ス故ニ單ニ前者ノ契約ヲ主張シ漁業權者ニ對シ其ノ漁業權ノ共有ニ付テノ許可申請手續ヲ請求スルハ其ノ請求自體ニ於テ失當タルヲ免レサルモノトス（大正一四・五・一九）

第二條

○海苔養殖業ト免許　沿海部落民カ其ノ地先海面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ海苔ヲ養殖採取スル業ハ第二種免許漁業ニ屬シ漁業令第二條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ免許ヲ受クルニ因リテ之ヲ爲スノ權利ヲ取得スルモノニシテ其ノ免許ヲ受クルニ非サレハ何人モ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（大正一五・七・二三）

○海苔養殖採取業ト慣行ニ因ル權利取得　前項ノ海苔養殖採取業ハ從來ノ慣行ニ因リテハ之ヲ爲スノ權利ヲ取得スルコトナシ（大正一五・七・二三）

第三條

○入漁權ト漁業權　入漁權ハ漁業令第三條ニ依リ免許ヲ受ケ漁業權ヲ得タル者アル場合他人カ其ノ免許ノ目的トナリタル漁場ニ於テ從來ノ慣行ニ基キ入會漁業ヲ爲ス權利ヲ指稱シ常ニ漁業權ノ存在繼續ヲ前提トスルモノナレハ既ニ漁業權ノ消滅シタル後ニ於テハ入漁權ヲ主張スルヲ得ヘキニ非ス（大正一四・五・五）

第六條

○漁業權ノ期間滿了ニヨル消滅ト更新　漁業權ニ付定メラレタル存續期間ハ其ノ期間滿了ヨリ少クトモ三箇月前免許ノ申請ヲ爲シテ之ヲ更新シ得ヘキモノナルモ該申請ニ對スル許否ノ決裁未了ノ儘期間滿了シタルトキハ漁業權ハ該期間ノ滿了ト同時ニ當然消滅ニ歸スヘキモノニシテ右更新ノ免許申請ヲ爲シタルカ爲期間滿了後モ其ノ決裁アルマテハ尙存續スルモノト解スヘキ根據ナシ（大正一四・五・五）

第八條

○漁業權讓渡契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生スルモノニシテ其許可以前ニ在リテハ單ニ當事者間ニ權利ヲ移轉スヘキ債權的權利義務ヲ生スルニ止マルモノトス（大正六・一一・九）

○漁業權讓渡許可前ニ於ケル讓受人ノ漁業行爲　漁業權讓渡ノ契約アリタルモ未タ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ漁業權ノ移轉セサルニ先タチ其漁場ニ於テ利益ノ收得ヲ爲シタル讓受人ノ行爲ハ讓渡人ノ漁業權ヲ侵害シタルモノニ外ナラス（大正六・一一・九）

○漁業權ノ强制執行ト借受人ノ登錄　漁業令第八條ニ依レハ漁業權ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルトキハ抵當又ハ讓渡ノ目的トナスヲ得（キニ依リ許可ヲ條件トシテ强制競賣ヲ爲スヲ妨クルモノニ非サルコト言ヲ俟タスト雖他ニ貸付許可ヲ受ケタル者アル場合ニ於テハ其借受人ハ貸受期間內漁場ヲ使用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有シ該權利ハ何等ノ手續ヲ履踐スルヲ要セスシテ第三者ニ對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキニ依リ其貸付ヲ無視シ何等ノ負擔ナキ狀態ニ於ケル完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス若シ斯ノ如キ場合ニ於テ完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲ストキハ借受人ハ該强制執行ニ對シテ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ基キ異議ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正六・一〇・一六）

第十七條

○漁業組合員相互間ニ於ケル入漁契約ノ效力　漁業組合ノ有スル漁業權ニ付一部ノ組合員カ組合規約ニ依リ一定ノ地先海面ニ於テ特定ノ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於テ組合規約ニ別段ノ定アル限リ該組合員ハ其ノ權利ヲ有セサル他ノ組合員ニ對シ其地先海面ニ於テ一定ノ期間同種ノ漁業ヲ爲スコトヲ認容スル趣旨ノ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス斯ル契約ハ一ノ債權契約トシテ有效ナリトス（大正一三・九・二六）

朝鮮漁業令

第十七條

○本條ニ所謂漁業ヲ爲ス權利ノ性質　朝鮮漁業令第四十八條ニ所謂漁業ヲ爲スノ權利ハ組合及組合員ニ對スル關係ニ於テハ漁業權若ハ他ノ漁業ヲ爲スノ權利ト相互ニ對立的地位ヲ有スト雖第三者ニ對スル關係ニ於テハ單ニ組合ノ有スル一權能トシテノ存在ヲ爲スニ止リ組合員ニ屬スル獨立ノ權利ヲ爲スモノニ非ス從テ漁業ヲ爲スノ權利ヲ目的トスル組合員ノ行爲ハ第三者ニ對スル關係ニ於テハ無權利者ノ行爲トシテ法律上ノ效果ヲ生スルモノトス（昭和一二・一二・二一）

朝鮮漁業組合規則

第七條

○起債ノ意義　朝鮮漁業組合規則第七條ニ所謂起債ハ汎ク金錢ノ借入ヲ意味シ長期ノ償還ヲ約シテ多額ノ金額ヲ借入レ又ハ公募ノ形式ヲ採ルモノニ限ルコトナシ（昭和九・三・六）

供託ニ關スル件（大正元年制令第一號）

○指定供託所ト所管區域　大正元年制令第一號但書ノ規定及朝鮮總督ノ右規定ニ依ル供託所ノ指定ハ朝鮮ノ各道ニ數箇ノ供託所朝鮮漁業令　朝鮮漁業組合規則　供託ニ關スル件

ヲ配置シ其ノ所在道ノ區劃ヲ以テ其ノ所管區域ト爲シ之ヲシテ其ノ地ニ於テ爲スヘキ一切ノ供託事務ヲ取扱ハシムル趣旨ニ出テタルモノト解スルヲ相當トス（大正一四・三・三）

○供託所ノ選定　所管區域ヲ一ニセル數箇ノ供託所存在スルトキ何レノ供託所ニ供託スヘキカハ供託原因ノ如何其ノ他各種供託ノ性質ニ從ヒテ之ヲ選定スヘキモノト解スルヲ妥當トス（大正一四・三・三）

金融組合令

○組合使用人ノ昇進ト身元保證ノ效力　金融組合ノ使用人カ臨時雇ヨリ書記見習ニ次テ書記ニ昇進シタルトキト雖同一雇傭契約ノ繼續ニ過キサル限リ身元保證ハ階級ノ變更ニ依リテ消滅スルモノニ非ス（大正一五・四・一六）

第三十五條

○金融組合ノ代表　金融組合令第三十五條ニ依レハ組合長ハ理事ト共同シテ組合ヲ代表スト規定セルニ依リ金融組合カ外部關係ニ於テ組合ノ意思ヲ表示シ之カ爲ニ行爲ヲ爲ス場合ニハ組合長ト理事ト共同スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス（大正一五・一一・一九）

○金融組合ノ共同代表規定ニ反スル慣習　金融組合令第三十五條ノ規定ハ金融組合ノ確實ヲ期スルカ爲ニ設ケタル强行規定ニ外ナラス而シテ事實タル慣習ハ强行規定ニ反セサル場合ニ限リ認メラルヘキモノナルヲ以テ右規定ニ反シ共同代表ニ依ラサルモ可ナリトスル慣習ノ如キハ到底之ヲ認容スルコトヲ得ス（大正一五・一一・一九）

○小切手ノ振出ト組合ノ代表者　金融組合カ銀行ト當座預金契約ヲ締結シ小切手ニ因リ預金ヲ引出ス場合ニハ組合長及理事兩名ニテ之ヲ振出スニ非サレハ全然無效ニシテ銀行ハ之ニ對シ支拂ヲ爲スノ義務ナシ（大正一五・一一・一九）

○金融組合ノ業務執行ト代表　業務ノ執行トハ對內關係ニ於テ組合ノ事業ニ關スル法律上又ハ事實上ノ業務ヲ執行スルコトヲ謂フモノニシテ組合ノ代表トハ全然別個ノ觀念ニ屬ス（大正一五・一一・一九）

第三十六條

○理事ノ監督怠慢ト共同不法行爲　金融組合理事ノ使用人ニ對スル監督ノ怠慢カ使用人ノ犯行ニ機會ヲ與ヘタリトスルモ之ヲ以テ直ニ使用人ノ犯行ト共同不法行爲ノ關係ニ立ツモノト謂フヲ得ス（大正一五・四・一六）

○金融組合ノ業務執行ト代表　金融組合ノ業務ノ執行トハ對內關係ニ於テ組合ノ事業ニ關スル法律上又ハ事實上ノ業務ヲ執行スルコトヲ謂フモノニシテ組合ノ代表トハ全然別個ノ觀念ニ屬ス（大正一五・一一・一九）

開國五百三年六月二十八日議案（許婚年齡ヲ定ムル件）

（一男女早婚函宜嚴禁男子二十歲女子十六歲以後始許嫁事娶）

○朝鮮人ノ婚姻年齡　朝鮮人間ニ在リテハ當事者ノ年齡ノ如何ニ拘ハラス其婚姻ハ有效ナリトス（明治四四・八・二一）

競賣法

○競賣法ニ因ル競賣ト民事訴訟法ノ準用　競賣法ニ因ル競賣ニ關シテハ同法中特ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキ旨ノ規定アル

○登記ナカリシ建物ノ買受人ノ賃借人ニ対スル権利ノ範囲　買受ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ地上権ヲ設定シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ地上権ヲ有スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○登記ナカリシ建物ノ賃借人ニ対スル権利ノ範囲　買受ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ賃貸借ヲ為シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ賃貸借ヲ認ムルノ義務ナシ（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○登記ナカリシ建物ノ賃借人ノ権利　競売ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ地上権ヲ設定シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ賃貸借ヲ認ムルノ義務ナシ（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五

○登記ナカリシ建物ノ賃借人ノ権利　競売ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ地上権ヲ設定シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ賃貸借ヲ認ムルノ義務ナシ（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五

○登記ナカリシ建物ノ賃借人ノ権利　競売ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ地上権ヲ設定シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ賃貸借ヲ認ムルノ義務ナシ（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五

○登記ナカリシ建物ノ賃借人ノ権利　競売ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ地上権ヲ設定シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ賃貸借ヲ認ムルノ義務ナシ（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五

○登記ナカリシ建物ノ賃借人ノ権利　競売ノ基本タル抵当権ノ設定ニ於テ其ノ建物ノ為メニ地上権ヲ設定シタル旨ノ登記ナキトキハ買受人ハ賃貸借ヲ認ムルノ義務ナシ（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五
○賃借人ノ権利ヲ害スル抵当権ノ実行ニ因ル競売ト賃借人ノ権利　抵当権ノ実行ニ因ル競売ハ賃借人ノ権利ヲ害スルモノニ非ス（大正七・五・三）　三五

〇・六・三）

〇競落代金ノ不交付ト抵當權ノ消滅　競賣法ニ因ル競賣ニ於テ其ノ目的土地ニ存スル抵當權ハ競賣ニ因テ當然消滅スヘク競落代金ノ交付ヲ得タルト否トニ拘ルコトナシ（昭和九・一二・七）

〇強制競賣ト其ノ擔保責任者　競賣ノ目的物カ債務者ノ所有ニ屬セスシテ物上保證人又ハ債務者ヨリ擔保物ヲ讓受ケタル第三取得者ノ所有ニ屬スルトキハ民法第五百六十八條第一項ノ規定ヲ類推適用シテ右物上保證人又ハ第三取得者ヲシテ之カ擔保責任ヲ負擔セシムヘキモノトス（昭和一五・一一・二二）

第十七條

〇執達吏ノ違法處分ト競賣ノ效力　競賣法ニ依ル競賣ニ於テ其ノ手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ違法ノ點アリタリトスルモ其ノ競賣ハ當然無效ナルモノニアラスシテ唯利害關係人ハ競賣ノ完結前ニ所轄地方法院ニ異議ノ申立ヲ爲シ得ルニ止リ一旦競賣ニシテ完結シタル後ハ斯ル異議ノ申立ヲ爲シ得サルハ勿論他ノ訴訟ニ於テモ該處分ノ違法ヲ理由トシテ競賣ノ效力ヲ爭フヲ得サルモノトス（大正一二・六・八）

〇手續上ノ瑕疵ト競賣ノ效力　競賣法第八條ニ違背シテ競賣ノ場所及日時ヲ利害關係人ニ通知セス又ハ同法第九條ニ違背シテ公告ト競賣トノ間ニ五日以上ノ期間ヲ存セシメサル等ノ事由ハ單ニ異議ノ原因タルニ過キサルモノニシテ斯ル手續上ノ瑕疵アルモ異議ノ申立ナクシテ競賣手續ノ完結シタルトキハ其ノ競賣ハ有效ニシテ何人モ右ノ事由ヲ以テ之ヲ無效ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス從テ右ノ事由ハ會社カ株式讓渡人ニ對シ株金拂込不足額ノ辨濟ヲ請求スルノ妨ト爲ラサルモノトス（大正一五・一二・一九）

〇同旨　競賣手續ヲ實行シタル權利カ實體上存在セサルモノニ非サル限リ縱令其ノ手續ニ於テ瑕疵ノ存スルモノアリトスルモ苟モ競落許可決定ノ確定シタル以上ハ該競賣ヲ無效トシテ競落ノ效果ヲ否定スヘキモノニ非ス（昭和一一・二・四）

第二十三條

〇最高價競買申込人ノ同意ナキ競賣申立取下ノ效力　最高價競買申込人ノ同意ナキ競賣申立ノ取下ハ無效ナリ（昭和二・九・一二）

第二十五條

〇任意競賣ノ開始決定ト抵當債權時效中斷ノ效力　債務者カ自己所有ノ不動產ヲ以テ債務履行ノ擔保ニ供シ之カ抵當權ヲ設定セル場合ニ於テ債權者カ該抵當權ノ實行トシテ任意競賣ヲ申立テ之カ競賣開始決定アリタルトキハ民法第百四十七條第二號ノ所謂差押アリタルニ該リ之ニ依リ其ノ當時抵當權ニヨリテ擔保セラレタル債權ハ時效中斷ノ效力ヲ生スルモノトス（昭和七・一一・二五）

〇不動產競賣開始決定ニ對スル不服申立ノ方法　競賣法ニ因ル不動產競賣開始決定ニ對シテハ民事訴訟法第五百四十四條ヲ準用シテ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘク其申立ニ關スル裁判ニ對シテハ同法第五百五十八條ヲ準用シテ卽時抗告ヲ爲シ得ヘク右競賣開始決定ニ對シテ直ニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラス（大正三・三・一三）

〇不動產競賣開始決定ニ關スル再抗告理由　競賣法ニ依ル不動產競賣開始決定ニ對スル異議ノ裁判ニ關スル抗告ニ付テハ民事訴訟法第四百五十六條ヲ準用スヘキモノトス（大正一一・三・一〇）

第二十七條

〇假登記權利者ト利害關係人　假登記ヲ爲シタルニ止リ未タ本登記ヲ爲ササル第三取得者ハ抵當權者ニ對シ第三取得者トシテ其ノ權利ノ取得ヲ對抗シ得サルカ故ニ抵當權ヲ滌除スル權利ヲ有セサルモノニシテ民法第三百八十一條ニ所謂第三取得者ニ該當セス從テ又競賣手續ニ於ケル利害關係人ニアラサルモノトス（大正一五・八・九）

〇登記名義人ニ非サル眞ノ所有者ト利害關係人　競賣ニシテ其ノ債務者カ他人ノ所有地ヲ冒認シテ擅ニ自己名義ニ所有權取得ノ登記ヲ受ケ之ニ設定シタル抵當權ノ實行ノ爲ニスルモノナル場合ニ於テハ眞ノ所有者ナル他人ハ競賣法第二十七條第三項ニ所謂利害關係人ニアラスシテ第三者ナリ（昭和二・七・一八）

〇競賣期日ノ不通知ト異議理由　競賣法ニ因ル不動產競賣事件ニ於テ同法第二十七條所定競賣期日ノ通知ナキ限リ爾後ノ手續ヲ

執行スルヲ得サルモノトス（昭和九・一〇・一六）

○前競賣ノ競落人ト再競賣ノ競落許可決定ニ對スル抗告 再競賣ニ於ケル競落許可決定ニ對シテハ前競賣ノ競落人ヨリ即時抗告ヲ爲シ得サルモノトス（昭和一三・五・二七）

第三十二條

○競落許可ニ付テノ異議ノ決定ニ對スル抗告ノ當否 不動産競落ノ許可ニ付テノ異議申立ニ對スル決定ハ抗告ヲ許ス可キモノニ非ス（大正六・九・二五）

○競落許可決定確定後ニ於ケル競賣手續ノ取消 競賣法ニ依ル競賣手續ニ在リテモ民事訴訟法第六百七十二條第一號ハ競落期日ニ於ケル異議又ハ競落許可決定ニ對スル抗告ノ理由タリ得ルニ止ルヲ以テ既ニ競落許可決定ノ確定後ニ於テハ之ヲ理由トシテ競賣手續ノ取消ヲ求メ得ヘキモノニ非ス（昭和五・二・一三）

○手續上ノ瑕疵ト競落ノ效果 競賣手續ヲ實行シタル權利カ實體上存在セサルモノニ非サル限リ縱令其ノ手續ニ於テ瑕疵ノ存スルモノアリトスルモ荀モ競落許可決定ノ確定シタル以上ハ該競賣ヲ無效トシテ競落ノ效果ヲ否定スヘキモノニ非ス（昭和一一・二・四）

○前競賣ノ競落人ノ再競賣ノ競落許可決定ニ對スル抗告 再競賣ニ於ケル競落許可決定ニ對シテハ前競賣ノ競落人ヨリ即時抗告ヲ爲シ得サルモノトス（昭和一三・五・二七）

第三十三條

○假差押後ニ設定シタル抵當權ノ實行ト競賣代金ノ供託 假差押ヲ爲シタル不動産ニ對シ其ノ後ニ設定シタル抵當權ノ行使トシテ競賣法ニ依リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法ニ準據シ假差押債權者ハ當然配當要求ヲ爲シタルモノトシテ其ノ債權ニ對スル配當額ヲ供託スヘキモノトス（大正一五・七・二三）

○競落代金ノ不交付ト抵當權ノ消滅 競賣法ニ因ル競賣ニ於テ其ノ目的土地ニ存スル抵當權ハ競賣ニ因テ當然消滅スヘク競落代

二卷 四五五頁　二五 二六三　四 七六七　一七 五八　二三 五二　二六 二六三　一五 一八三

金ノ交付ヲ得タルト否トニ拘ルコトナシ（昭和九・一二・七）

○強制競賣ト其ノ擔保責任者 競賣ノ目的物カ債務者ノ所有ニ屬セスシテ物上保證人又ハ債務者ヨリ擔保物ヲ讓受ケタル第三取得者ノ所有ニ屬スルトキハ民法第五百六十八條第一項ノ規定ヲ類推適用シテ右物上保證人又ハ第三取得者ヲシテ之カ擔保責任ヲ負擔セシムヘキモノトス（昭和一五・一一・二二）

第四十條

○前後二回ノ增價競賣ノ請求ト增價競賣申立期間 第一回ノ增價競賣ノ請求カ爾後三日內ニ裁判所ニ增價競賣申立ヲ爲サザリシ爲其ノ效力ヲ失ヒタリトスルモ第二回ノ增價競賣ノ請求ニシテ滌除ノ通知アリタルトキヨリ一箇月ノ期間內ニ爲サレタルモノナルトキハ爾後三日內ニ爲サレタル增價競賣ノ申立ハ適法ナリ（昭和三・二・二〇）

二一 四五九　二〇 一八六　一五 四五

刑法大全

第一編　法　例

第一章　用法範圍

第五節　期限通規

第十六條

○墳墓遷移ト聽訟期限　墳墓ハ遺骸又ハ遺骨ヲ安置スル爲地上ニ設ケラレタル一ノ設備ニシテ必ス土地ニ定著スヘキモノナルモ其基地タル土地ト墳墓ノ設備トハ必スシモ常ニ同一所有者ニ屬セサルヘカラサルモノニアラスシテ他人ノ所有地上ニ墳墓ヲ設ケ之ヲ所有スルコトヲ得ルハ往々見ル所ノ事例ナルヲ以テ墳墓設備ノ所有權ト其基地タル土地ノ所有權トハ之ヲ別個ニ觀察スルヲ妨ケス從テ其基地カ墳墓所在山坂ノ一部タル場合ニハ聽訟期限ニ關シテハ基地ハ峯ロ山坂ト其運命ヲ共ニシ墳墓ノ設備自體ハ必スシモ之ヲ山坂ト同一ニ論スルヲ得サルモノトス（大正五・一一・七）

○聽訟期限ニ關スル舊刑法大全第十六條適用ノ範圍　舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟スル期限ハ民事訴訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムル旨ノ規定ハ民事ノ訴訟ノ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラストスル趣旨ナレハ縱令同法施行前ニ行ハレタル大典會通ニ聽訟期限ノ定メナカリシ墳墓設備ニ關スル訴訟ノ如キモノト雖其施行後ニ於テハ其適用ヲ受クヘキモノトス（大正五・一一・七）

○聽訟期限ノ性質及舊刑法大全第十六條適用ノ範圍　舊刑法大全第十六條ノ聽訟期限ニアラスシテ訴權ノ消長ニ關スル訴訟法上ノ規定ト見ルヘキモノナルヲ以テ其適用ニ付何等經過法ノ規定ナク又訴訟ノ種類ヲ限定セサル以上ハ從前ノ法律ニ依リ既ニ聽訟期限ヲ經過セルモノニ適用ナキハ勿論從前ノ法律ニ聽訟期限ノ定メナカリシモノト雖舊刑法大全施行前既ニ二十年ヲ經過シタルトキハ同法施行後ハ出訴ヲ許ササルモノトス（大正五・一一・七）

○同　旨　聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニアラスシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ト目スヘキモノナリ（大正一一・九・一）

○聽訟期限ノ意義　舊刑法大全第十六條ノ規定ハ民事ノ訴訟ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限リニアラサル趣旨ナリトス（大正八・二・二八）

○同　旨　舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟期限ハ民事訴訟ヲ提起シ得ルトキヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラサル趣旨ナリトス（大正一〇・五・二〇）

○聽訟期限ニ關スヘキ訴訟ノ種類　舊刑法大全第十六條ノ民事訴訟ニハ債權關係タルト將タ物權關係身分關係タルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス（大正一〇・五・二〇）

○同　旨　舊刑法大全第十六條ニ聽訟期限ハ民事訴訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムトノ規定アリテ右ニ所謂民事訴訟トハ債權關係ト雖モ物權關係ノ民事訴訟ヲ包含スル趣旨ナリトス（大正一一・九・一）

○同　旨　親子ノ關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ニシテ斯カル法律關係ノ確認ヲ求ムル訴即親子關係存在確認ノ訴ハ身分關係ノ民事訴訟ニ屬スルコト明白ナルカ故ニ聽訟期限ノ適用ヲ受クヘキモノトス（大正一一・九・一）

○聽訟期限經過ノ效力　聽訟期限ノ經過ニ因リ權利者カ法律關係ノ存在ヲ主張シ國家ノ救濟ヲ請求スルコト能ハサルニ至リタルトキハ爾後其者ハ勿論其後代承繼人ニ於テモ同一ノ法律關係ニ付再ヒ權利侵害ヲ理由トシテ權利保護ノ請求ヲ爲シ得ヘキニ非

ス（大正一〇・五・二〇）

○墳墓ノ基地ニ付テノ聽訟期限經過ト墳墓搬移ノ請求權　土地所有者ノ承諾ヲ得スシテ侵害シテ墳墓ヲ設ケ其基地ヲモ占有シタルモノアル場合ニ於テ土地所有者カ基地ニ付聽訟期限ヲ經過シタルカ爲メ侵害排除ヲ請求スルノ訴權ヲ喪失シタルトキハ其地上ニ設ケラレタル墳墓ノ搬移ヲ請求スルノ訴權モ亦隨伴シテ喪失シタルモノト爲スヲ當然トス（大正一〇・一二・一六）

○聽訟期限經過ニ關スル裁判所ノ認定　訴訟カ舊韓國刑法大全第十六條ノ聽訟期限ヲ經過セルヤ否ヤハ必スシモ原告カ請求原因トシテ主張セル事實自體ヲ基礎トシテ判斷セサルヘカラサルモノニアラス原告カ一定ノ時期ニ權利侵害發生シタリト主張シ其主張ニ從ヘハ聽訟期限ヲ經過セストスルモ被告カ其權利侵害ハ原告ノ主張セル時期以前ニ發生シ爾後其侵害繼續シタルモノニシテ原告カ訴ヲ提起シ得ヘキ時期ハ原告ノ主張セル以前ニ在ルコトヲ抗爭セルトキハ事實裁判所ハ固ヨリ其何レノ主張カ眞實ナリヤヲ審理判斷シ聽訟期限ヲ經過セルヤ否ヤヲ決スヘキモノトス（大正一一・六・二〇）

○聽訟期限ノ起算點　聽訟期限ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算スルモノニシテ訴訟ヲ提起シ得ヘキ客觀的事情ノ發生シタルトキヲ指稱シ請求權者カ該事情ノ發生ヲ了知シタルト否トヲ問ハス（大正一一・九・一）

第六節　界限通規

○自己所有地内ノ墳墓ト界限歩數　所有者カ所有地内ニ埋葬スル場合ニハ墳墓界限制ノ歩數ヲ遵守スルヲ要セス（隆熙三「明治四二」・九・二一）

○他人所有土地ト墳墓界限規定ノ適用　墳墓界限ニ關スル規定ハ土地カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ適用ナシ從テ入葬地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ界限侵犯ノ理由トシテ搬移ヲ請求スルコトヲ得ス（明治四四・九・二七）

○陵ノ内外壙字ト其ノ法規慣習　陵ニハ内壙字外壙字アルモ其内外壙字ノ區域ヲ一定セル法規慣習之ナシ（大正元・一一・二二）

○本條ト歩數減少　刑法大全第三十二條第三項勅任官ハ六品ニ一十歩ヲ減ストハ同條第一項ノ五十歩ヨリ一十歩ヲ減スルノ旨意ナリ（明治四三・九・二三）

第四編　律例上

第八章　喪葬及墳墓所干律

第三節　墳墓侵害律

○所爲者不明ノ暗葬死屍ノ搬移　自己ノ所有地内ニ暗葬シタル者アル場合ニ於テ何人ノ所爲ナルヤヲ知ルコト能ハサルトキハ警察處分ヲ求メ公告ノ上其死屍ヲ搬移スルハ不當ニ非ス（明治四四・六・一七）

○墳墓ノ搬移ト官廳ノ許可　現時朝鮮ニ於テ墳墓ヲ搬移スルニ付官廳ノ許可ヲ要スル法規ナシ（大正二・八・一九）

第五編　律例下

第十三章　財產所干律

第六節　典賣有違律

第六百三十六條

刑法大全　律例上　喪葬及墳墓所干律　墳墓侵害律
律例下　財產所干律　典賣有違律

結束書名簿規則

○記載ノ順序ハ登記ノ時ニ於ケル所有者ノ順序ニ依ル

結束書名簿ニハ管理人ノ住所氏名及納稅者ニシテ所有ノ土地ヘカラサルモノニ非スト雖モ納稅者ノ住所氏名ヲ記載シアルモノニ付テハ其ノ住所氏名ヲ記載スルコトヲ得ヘキモノトス（大正七・三・八）

○同一番地内ノ數筆ノ土地ヲ一筆ト看做ス場合ニ於ケル地番ノ記載

一團ノ土地ニ付キ地番ヲ異ニスル數筆ノ土地ニシテ其ノ所有者ヲ同ジクスルモノハ之ヲ一筆ト看做シ其ノ地番ヲ連記スルコトヲ得ヘキモノトス（大正六・五・八）

○數人ノ共有ニ屬スル土地ノ持分ノ記載

數人ノ共有ニ屬スル土地ニ付テハ各共有者ノ持分ヲ記載スルコトヲ要ス

○公課ノ賦課ニ關スル事項ノ記載

公課ノ賦課ニ關スル事項ハ其ノ土地ノ所在スル市町村ノ名稱ヲ記載スルヲ以テ足レリトス（大正七・二・六）

朝鮮公證令

○公證人ノ職務ニ關スル朝鮮令ノ朝鮮公證令ニ依ル旨ノ規定

公證人ノ職務ニ關シテハ朝鮮公證令ニ依ル（大正七・二・六）

○公證人ノ職務ニ關スル朝鮮令ノ規定ノ日本人ニ對スル適用

朝鮮公證令第六條ノ規定ハ日本人ニ對シテモ之ヲ適用ス（大正七・二・六）

結束書名簿規則　朝鮮公證令　六八七

○公證人ノ職務ニ關スル朝鮮令ノ規定ノ日本人ニ對スル適用

朝鮮公證令第六條ノ規定ハ日本人ニ對シテモ之ヲ適用ス（大正七・二・六）

○同一番地内ノ數筆ノ土地ヲ一筆ト看做ス場合ニ於ケル地番ノ記載

一團ノ土地ニ付キ地番ヲ異ニスル數筆ノ土地ニシテ其ノ所有者ヲ同ジクスルモノハ之ヲ一筆ト看做シ其ノ地番ヲ連記スルコトヲ得ヘキモノトス（大正六・五・八）

○數人ノ共有ニ屬スル土地ノ持分ノ記載

數人ノ共有ニ屬スル土地ニ付テハ各共有者ノ持分ヲ記載スルコトヲ要ス

○公課ノ賦課ニ關スル事項ノ記載

公課ノ賦課ニ關スル事項ハ其ノ土地ノ所在スル市町村ノ名稱ヲ記載スルヲ以テ足レリトス（大正七・二・六）

朝鮮公證令

○公證人ノ職務ニ關スル朝鮮令ノ規定ノ日本人ニ對スル適用

朝鮮公證令第六條ノ規定ハ日本人ニ對シテモ之ヲ適用ス（大正七・二・六）

結束書名簿規則　朝鮮公證令　六八七

○土地賃貸分ノ效力

賃貸中更ニ他人ノ爲メ賃借權ヲ設定シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトハ民法第六百十六條ノ規定ニ依リ賃貸人ノ承諾ヲ要スルヲ以テ其ノ承諾ナキトキハ賃貸人ハ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノトス（明治四四・八・二）

○土地賃貸分ノ效力

賃貸人カ賃貸物ノ修繕ヲ爲スヘキ場合ニ於テ賃借人カ賃貸人ノ意思ニ反シテ修繕ヲ爲シタルトキハ賃貸人ハ民法第六百十條ノ規定ニ依リ賃借人ニ對シ其ノ費用ノ償還ヲ爲スヘキモノトス（大正六・一一・四）

○朝鮮刑事令施行前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力

朝鮮刑事令施行前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力ハ朝鮮刑事令施行ノ際現ニ存スル賃貸借ニ付テハ其ノ施行ノ時ヨリ之ヲ適用ス（大正七・一二・一八）

○朝鮮刑事令施行以前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力

朝鮮刑事令施行前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力ハ朝鮮刑事令施行ノ際現ニ存スル賃貸借ニ付テハ其ノ施行ノ時ヨリ之ヲ適用ス（大正七・一二・一八）

○朝鮮刑事令施行以前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力

朝鮮刑事令施行前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力ハ朝鮮刑事令施行ノ際現ニ存スル賃貸借ニ付テハ其ノ施行ノ時ヨリ之ヲ適用ス（大正七・一二・一八）

○土地賃貸分ノ效力

朝鮮人間ニ於テ賃貸人カ賃借人ノ賃借物ヲ他人ニ賃貸シ又ハ賃借人カ賃貸人ノ意思ニ反シテ賃借物ヲ他人ニ賃貸シタルトキハ賃貸人ハ民法第六百十六條ノ規定ニ依リ賃借人ニ對シ其ノ賃借物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（明治四四・八・二）

刑法大全　律例下　財產所干律　典獄有證律

○地賃貸分ノ效力

朝鮮人間ニ於テ賃貸人カ賃借人ノ賃借物ヲ他人ニ賃貸シ又ハ賃借人カ賃貸人ノ意思ニ反シテ賃借物ヲ他人ニ賃貸シタルトキハ賃貸人ハ民法第六百十六條ノ規定ニ依リ賃借人ニ對シ其ノ賃借物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（明治四四・八・二）

○全部施行前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力

舊刑法全部施行當時ニ於テ朝鮮人カ賃借人ニ對シ賃貸シタル土地ニ付テハ舊刑法第三百九十條ノ規定ニ依リ賃貸人ハ賃借人ニ對シ其ノ土地ヲ賃借人ノ爲メニ使用セシムヘキ義務ヲ負フモノトス（大正五・一一・二四）

○朝鮮刑事令施行以前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力

朝鮮刑事令施行ノ際現ニ存スル賃貸借ニ付テハ其ノ施行ノ時ヨリ之ヲ適用ス（大正七・一二・一八）

○朝鮮刑事令施行以前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力

朝鮮刑事令施行前ニ於ケル土地賃貸分ノ效力ハ朝鮮刑事令施行ノ際現ニ存スル賃貸借ニ付テハ其ノ施行ノ時ヨリ之ヲ適用ス（大正七・一二・一八）

○土地賃貸分ノ效力

賃貸人カ賃貸物ノ修繕ヲ爲スヘキ場合ニ於テ賃借人カ賃貸人ノ意思ニ反シテ修繕ヲ爲シタルトキハ賃貸人ハ民法第六百十條ノ規定ニ依リ賃借人ニ對シ其ノ賃借物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（大正六・一一・四）

○同一番地内ノ數筆ノ土地ヲ一筆ト看做ス場合ニ於ケル地番ノ記載

一團ノ土地ニ付キ地番ヲ異ニスル數筆ノ土地ニシテ其ノ所有者ヲ同ジクスルモノハ之ヲ一筆ト看做シ其ノ地番ヲ連記スルコトヲ得ヘキモノトス（大正六・五・八）

○數人ノ共有ニ屬スル土地ノ持分ノ記載

數人ノ共有ニ屬スル土地ニ付テハ各共有者ノ持分ヲ記載スルヲ要ス

○公課ノ賦課ニ關スル事項ノ記載

公課ノ賦課ニ關スル事項ハ其ノ土地ノ所在スル市町村ノ名稱ヲ記載スルヲ以テ足レリトス（大正七・二・六）

朝鮮公證令

○公證人ノ職務ニ關スル朝鮮令ノ規定ノ日本人ニ對スル適用

朝鮮公證令第六條ノ規定ハ日本人ニ對シテモ之ヲ適用ス（大正七・二・六）

結束書名簿規則　朝鮮公證令　六八七

公證人法

第一條

○公證ノ目的ノ範圍外ニ屬スル記載事項ト之カ信否　公正證書ノ記載事項ハ其ノ公證ノ目的ノ範圍內ニ於テハ完全ナル證據力ヲ有スルモ其カ公證ノ目的ノ範圍外ノモノナルトキハ縱令其ノ成立ヲ認ムヘキ場合ニ於テモ之ヲ措信シテ事實認定ノ資料ニ供スルト否トハ事實承審官ノ自由ナル心證ニ屬キテ決スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一四・一二・一五）

○過去ニ成立セシ法律行爲ノ聽取記載ト公證ノ目的ノ範圍　公正證書ニ記載セル事項カ過去ニ成立セシ法律行爲ニ付當事者ヨリ聽取リタル陳述ヲ錄取セルニ過キサルモノナルトキハ當該法律行爲ノ成立ノ眞否ハ公證ノ目的ノ範圍ニ屬セサルモノトス（大正一四・一二・一五）

○既ニ成立セル法律關係ニ付テノ公正證書　當事者若クハ其ノ代理人カ現ニ存スル法律關係ニ付テ公正證書ヲ作成セシメタルトキハ假令其ノ法律關係カ過去ノ法律事實ニ基クトキト雖公正證書ハ尙ホ正規ノ方式ニ依テ作成セラレタルモノト謂フヲ妨ケス（昭和九・二・一六）

第六十條

○公證囑託數人アル場合ノ契印方　朝鮮公證令ヲ以テ之ニ依ルコトヲ定メタル公證人法第六十條ニ於テハ同第三十九條第五項及第六項ノ規定ヲ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ準用セサル數人ノ囑託人カ其規定ニ依リ契印ヲ爲スニ當リテハ其中ノ一人ニ於テ契印ヲ爲スヲ以テ足レリトス（大正七・一二・六）

朝鮮戶籍令

第七十五條

○出生屆ト養子緣組ノ效力　他人ノ子ヲ自己ノ嫡出子トシテ爲シタル出生屆ハ其ノ眞意カ養子緣組ニ在リタリトスルモ養子緣組ノ效力ヲ生セサルモノトス（昭和一四・二・一四）

第八十七條

○屆出ナキ婚姻ト協議上ノ離婚屆　朝鮮民事令第十一條第二項協議上ノ離婚ハ之ヲ府尹又ハ面長ニ屆出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ストノ規定ハ當該婚姻ノ成立カ同法施行ノ前ナルト後ナルトヲ問ハス同法施行後ニ爲ス協議上ノ離婚ニ適用アルモノトス（昭和四・五・三）

第百二十六條

○養組ノ無效ト戶籍訂正ノ手續　大正十二年七月一日ヨリ施行セラレタル朝鮮民事令第十一條竝第十一條ノ三ノ改正規定及朝鮮戶籍令ノ規定ニ從ヘハ養子緣組ノ如キ屆出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付戶籍ノ記載ヲ爲シタル後其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ訂正スルニ付當事者雙方異議ナキトキハ當事者ヨリ管轄地方法院ノ許可ヲ得テ戶籍ノ訂正ヲ申請スヘク又當事者間ニ緣組ノ無效ナルコトニ爭アリテ戶籍ノ訂正ニ異議アルトキハ判決ニ因リテ其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ確定シ然ル後訴ヲ提起シタル者ニ於テ判決確定ノ日ヨリ一月以內ニ當該戶籍ヲ管掌スル府尹又ハ面長ニ戶籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキモノトス（大正一二・七・一〇）

○確定判決ト戶籍訂正申請義務者　右ノ場合ニ於ケル戶籍訂正申請ノ義務ハ當該訴訟ヲ提起シタル者ニ屬シ相手方ハ之カ申請ヲ爲ス義務ナキモノナレハ訴ニ依リテ相手方ニ戶籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキコトヲ要求スルコトヲ得サルモノトス（大正一二・七・一〇）

民籍法

○

○妾ノ姓　朝鮮ニ於テ妾ハ常ニ自家ノ姓ヲ冠稱シ其ノ夫ノ姓ヲ冠稱セサルヲ慣習トス從テ妾タル事實ハ其ノ夫ノ姓ヲ冠稱スルノ理由ト爲ラス　（明治四五・二・一二）

○民籍簿ト證據力　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニ非サレハ其記載事項ヲ以テ虚偽ナリト斷スルヲ得ス　（大正六・一二・二六）

○民籍簿ノ違法ナル記載事項ニ關セサル事項ノ證明力　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニ非サレハ其記載事項ヲ以テ虚偽ナリト斷スルヲ得サルモノナリト雖ノ民籍ノ取扱上適法ニ民籍簿ニ記載スヘキ事項ノ記載タル場合ニ限ルヘク僧尼ノ師弟關係ノ如キハ其取扱上適法ニ記載スヘキ事項ニ非サレハ斯ル記載ニ付テハ裁判所ハ自由ニ其判斷ヲ爲シ得ヘシ　（大正七・二・五）

○民籍簿ノ性質及登錄事項ノ公信力　民籍法規ハ行政取締法規タルト同時ニ家及身分ノ變生變更消滅ノ公示竝證明ニ關スル法規ナルヲ以テ此等ノ事項ヲ民籍法所定ノ民籍簿ニ登錄スルトキハ該事項ハ一應事實ニ適合スルモノトノ推定ヲ受クヘキモノトス　（大正八・四・一五）

○民籍簿ト信憑力　民籍簿ハ民籍上ノ身分ニ關スル公正證書ナリト雖絕對的信憑力ヲ有スルモノニ非スシテ反證ノ存スルニ於テハ裁判所ハ之ト異リタル事實ノ認定ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス　（大正九・六・二五）

○民籍簿ノ虚偽ノ記載ト抹消方法　虚偽ノ申立ヲ爲シ民籍簿ニ事實ニ適合セサル記載ヲ爲サシメタル場合ニハ之カ爲メ權利ヲ侵害セラレタル者ハ其申告者ニ對シ事實ニ適合セサル民籍簿ノ記載ノ抹消申告ヲ爲サシムルノ權利アリ　（大正八・四・一五）

○夫妾關係解消ノ申告手續　夫妾關係ノ解消ヲ申告スルニ當リテハ夫ノ家ノ戸主ヨリ其申告ヲ爲スヲ以テ足リ妾ノ實家ノ戸主又

ハ妾ノ連署ヲ必要トスルモノニ非ス　（大正一〇・九・二〇）

○夫妾關係ノ解消ト妾ノ實家復歸　夫妾關係解消ノ意思表示ニ因リ妾ハ妾タル身分ヲ喪失シ當然實家ニ復歸スヘキモノトス　（大正一〇・九・二〇）

○重婚罪ヲ原因トスル民籍抹消ノ請求ト附帶私訴　重婚罪ヲ原因トシテ民籍ノ抹消ヲ求ムル訴ハ其ノ前提トシテ重婚ノ事實アリヤ否ヤ即チ本人ノ身分關係ノ確定ヲ要スヘキモノナルニ依リ斯ノ如キ人事ニ關スル訴ハ私訴ノ目的タル損害賠償又ハ贓物返還ノ何レニモ該當セサルモノトス從テ公訴附帶ノ私訴トシテ許容スヘキモノニ非ス　（大正一二・六・一八）

朝鮮取引所令

第十一條

○取引所ニ於ケル賣買取引ト非會員ノ爲シタル行爲ノ效力　取引所ノ會員ニ非サル者カ會員ノ名義ヲ假リテ取引所ニ於ケル賣買ヲ爲シ又ハ客ヨリ其ノ委託ヲ受クルカ如キハ假令其ノ會員カ背後ニ於テ取引上ノ責任ヲ引受クルトスルモ無效ナリトス　（昭和一五・二・九）

第三十七條

○取引所會員ノ委託不履行ト手仕舞ノ慣習　米穀取引所ノ會員カ顧客ヨリ一定指値ノ下ニ賣建米ノ買戻ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ責ニ歸スヘキ事由ニヨリ委託セラレタル取引ヲ實行セサリシトキハ該顧客ト會員間ニ於テハ豐建米ハ手仕舞ニ歸シタルモノトシ會員ニ於テ右指値ニ依ル買戻アリタルト同樣ノ計算ニ從ヒ損害賠償ノ責ニ任スル旨ノ慣習ハ違法無效ニ非ス　（昭和一三・一二・二七）

第五十五條

○取引所ニ於ケル賣買取引ノ委託ニ關スル事實タル慣習ノ效力　取引所ニ於ケル賣買取引ノ委託ニ付其ノ當事者カ所謂受託契約準則ニ依ル意思ヲ以テ契約ヲ爲シタル場合ニ同準則中ノ約款ト異ナル事實タル慣習存スルトキハ該約款ニ依ラサルコトカ合理的ニシテ從テ相反スル慣習ニ依ルコトカ取引ノ通念上妥當ナリト認メラルル場合ニ限リ當事者ハ該慣習ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキモノトス（昭和一四・二・一七）

朝鮮取引所令施行規則

第二十三條、第三十八條

○取引所ニ於ケル賣買取引ノ委託ニ關スル事實タル慣習ノ效力　取引所ニ於ケル賣買取引ノ委託ニ付其ノ當事者カ所謂受託契約準則ニ依ル意思ヲ以テ契約ヲ爲シタル場合ニ同準則中ノ約款ト異ナル事實タル慣習存スルトキハ該約款ニ依ラサルコトカ合理的ニシテ從テ相反スル慣習ニ依ルコトカ取引ノ通念上妥當ナリト認メラルル場合ニ限リ當事者ハ該慣習ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキモノトス（昭和一四・二・一七）

朝鮮鑛業令

第八條

○共同鑛業出願人ト組合關係　共同鑛業出願人ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス（昭和一五・六・二五）

第十五條

○鑛業出願權ノ讓渡性　鑛業出願ニ因ル鑛業權取得ノ期待權即チ所謂鑛業出願權ハ之ヲ讓渡シ得ヘク特ニ其ノ賣買ニ因ル移轉ノミヲ禁止スヘキ法律上ノ根據ナシ（昭和一四・六・一三）

第十七條

○他人ノ管理ノ下ニ採鑛セシムルコトヲ內容トスル採鑛契約ハ無效　大正四年制令第八號朝鮮鑛業令施行後ト雖モ同令施行後ハ同令及同施行細則施行時代ト同シク鑛業權ヲ目的トシ他人ノ管理ニ於テ採鑛セシムルコトヲ許ササルモノトス（大正五・四・二八）

○同　上　タングステン（重石）ハ朝鮮鑛業令施行前ニハ鑛業法ノ適用ヲ受クヘキ鑛物ニ非サリシト雖同令施行後ハ同令ノ適用ヲ受クヘキ鑛物ナレハ其鑛業權ヲ目的トシ他人ノ管理ニ於テ採鑛セシムルコトヲ許ササルモノトス（大正五・四・二八）

○鑛業權移轉登錄前ノ採鑛契約ノ效力　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ此權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ認容セサルモノナルコト明瞭ナリ（大正九・一一・一九）

○移轉登錄前ノ採鑛契約ト不法原因　朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登錄ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登錄前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從テ登錄前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無效ニ歸スルトトモニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・六・三〇）

○第三者ヲシテ鑛業ノ管理經營ヲ爲サシムル契約ト其ノ效力　鑛業權者ハ自身又ハ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其ノ鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ鑛業令違反ノ行爲トシテ無效ナルモノトス（昭和一二・七・九）

第十八條

○鑛業權ノ持分ニ對スル强制執行　鑛業權ノ持分ニ對スル强制執行ハ民事訴訟法第六百八十九條ニ依ルヘキモノトス（昭和九・一〇・一二）

○共同鑛業出願人ト組合關係　共同鑛業出願人ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス（昭和一五・六・二五）

第十九條

○鑛業出願權ノ賣買ト鑛業權移轉ノ義務　鑛業出願權ヲ他人ニ賣却シタル出願人カ其ノ義務ノ履行ヲ遲滯シ出願人名義變更ノ手續ヲ遷延セル間ニ該出願ニ基キ賣主名義ニ許可カ與ヘラレ賣主ニ於テ鑛業權ノ登錄ヲ受ケタルトキハ反對ノ特約又ハ特別ノ事情ナキ限リ賣主ハ買主ニ對シ爾後其ノ鑛業權ノ移轉登錄ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス（昭和一五・一・二六）

第二十條

○登錄前ニ於ケル鑛業權讓渡契約ノ效果　鑛業權ノ讓渡ハ法規ニ從ヒ登錄ヲ受クルニアラサレハ其效力ヲ生セス從テ讓渡ノ契約成立スルモ登錄ヲ受ケサル以上ハ鑛業權名義人ヲ以テ其鑛業權者ト認ムヘキモノトス（大正五・一二・一九）

卷	頁
九	二五一
二四	二九一
二一	五七四
二七	一三五
二七	一
三	九七五

○同旨　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ認容セサルモノナルコト明瞭ナリ（大正九・一一・一九）

○鑛業權ノ持分ノ讓渡ト其ノ移轉登錄手續　共同鑛業權者ノ一人カ他ノ共同鑛業權者ノ同意ヲ得テ其ノ持分ヲ第三者ニ讓渡セル場合ノ移轉登錄手續ハ共同鑛業權者全員ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス（昭和一四・一一・一四）

○鑛業出願權ノ賣買ト鑛業權移轉ノ義務　鑛業出願權ヲ他人ニ賣却シタル出願人カ其ノ義務ノ履行ヲ遲滯シ出願人名義變更ノ手續ヲ遷延セル間ニ該出願ニ基キ賣主名義ニ許可カ與ヘラレ賣主ニ於テ鑛業權ノ登錄ヲ受ケタルトキハ反對ノ特約又ハ特別ノ事情ナキ限リ賣主ハ買主ニ對シ爾後其ノ鑛業權ノ移轉登錄ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス（昭和一五・一・二六）

第三十二條

○水利組合ノ貯水行爲ト鑛業權ノ侵害　水利組合カ自己ノ所有地上ニ貯水池ヲ設ケ之ニ貯水スルハ其ノ權利ノ行使ニシテ其ノ結果同土地ヲ鑛區トスル鑛業權者ヲシテ採鑛不能ニ陷ラシメタリトスルモ特ニ右權利ノ行使ヲ違法ナラシムル事由ノ存セサル限リ水利組合ハ鑛業權侵害ニ因ル不法行爲ノ責ニ任セサルモノトス（昭和一二・六・八）

第四十四條

○鑛業權移轉登錄前ノ採掘ト本條　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其ノ登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ認容セサルモノナルコト明瞭ナリ（大正九・一一・一九）

卷	頁
七	四三五
二六	五七六
二七	一
二四	二七五
七	四五五

○同　旨　朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登錄ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登錄前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從テ登錄前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無效ニ歸スルトトモニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・六・三〇）

朝鮮鑛業令施行規則

第十四條

○鑛業出願權ノ讓渡性　鑛業出願ニ因ル鑛業權取得ノ期待權卽チ所謂鑛業出願權ハ之ヲ讓渡シ得ヘク特ニ其ノ賣買ニ因ル移轉ノミヲ禁止スヘキ法律上ノ根據ナシ（昭和一四・六・一三）

○鑛業出願權ノ賣買ト鑛業權移轉ノ義務　鑛業出願權ヲ他人ニ賣却シタル出願人カ其ノ義務ノ履行ヲ遲滯シ出願人名義變更ノ手續ヲ遷延セル間ニ該出願ニ基キ賣主名義ニ許可カ與ヘラレ賣主ニ於テ鑛業權ノ登錄ヲ受ケタルトキハ反對ノ特約又ハ特別ノ事情ナキ限リ賣主ハ買主ニ對シ爾後其ノ鑛業權ノ移轉登錄ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス（昭和一五・一・二六）

○共同鑛業權出願人ト組合關係　共同鑛業出願人ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス（昭和一五・六・二五）

第十四條ノ二

○共同鑛業出願人ト組合關係　共同鑛業出願人ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス（昭和一五・六・二五）

卷	頁
九	二三一
二六	二三一
二七	一
二七	一二三
二七	一二三

第二十條

○鑛業出願權ノ賣買ト鑛業權移轉ノ義務　鑛業出願權ヲ他人ニ賣却シタル出願人カ其ノ義務ノ履行ヲ遲滯シ出願人名義變更ノ手續ヲ遷延セル間ニ該出願ニ基キ賣主名義ニ許可カ與ヘラレ賣主ニ於テ鑛業權ノ登錄ヲ受ケタルトキハ反對ノ特約又ハ特別ノ事情ナキ限リ賣主ハ買主ニ對シ爾後其ノ鑛業權ノ移轉登錄ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス（昭和一五・一・二六）

第二十七條

○第三者ヲシテ鑛業ノ管理經營ヲ爲サシムル契約ト其ノ效力　鑛業權者ハ自身又ハ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其ノ鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ鑛業令違反ノ行爲トシテ無效ナルモノトス（昭和一二・七・九）

朝鮮鑛業登錄規則

第十一條

○鑛業登錄ノ抹消請求ト被告ノ適格　訴ヲ以テ鑛業登錄ノ抹消ヲ求メントスル場合ニハ特別ノ規定ナキ限リ抹消セラルヘキ登錄ノ名義人ヲ被告ト爲スヘキモノトス（昭和一六・六・二四）

卷	頁
二七	一
二四	二九一
二八	八六

鑛業法

○鑛物採掘契約ノ效力　鑛業權者ハ自身ニ又ハ自己ノ責任ニ於テ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニアラサル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ無效ナリトス（大正五・十一・三〇）

○鑛業權ト鑛物採掘權　舊韓國光武十年法律第三號鑛業法ニハ鑛業權ノ定義ヲ掲ケサルモ鑛業權トハ卽チ鑛區內ニ於テ鑛物ヲ採掘シ及取得スル權利ヲ謂フモノト解シ得ヘキニ依リ鑛業權ト鑛物採掘權トハ必スシモ別異ノモノト謂フヲ得ス（大正五・一一三〇）

○鑛業權者ノ監督ヲ條件トスル鑛物採取契約ノ效力　鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任スルニ非スシテ鑛業權者カ他ノ者ト契約シ鑛業權者自ラ手ヲ下シテ採取ヲ爲サス其者ヲシテ鑛業權者ノ監督ノ下ニ其從業者トシテ鑛物ノ採取ニ從事セシメ採取シタル鑛物ニ對スル權利ハ採取ト同時ニ鑛業權者ヨリ採取者ニ移轉セシムルカ如キハ鑛業權者自カラ鑛業ノ管理經營ヲ爲スモノニ外ナラサレハ如上ノ契約ハ無效ニ非ス（大正六・一一・二七）

○鑛滓ノ意義　舊韓國光武十年法律第三號鑛業法第二條ニ於テ國ノ所有トスル鑛滓トハ鑛業權者ノ所有ニ屬セサルモノニシテ鑛滓存在ノ狀態カ之ヲ取ルニ更ニ鑛業法ニ依ラシムル必要アル程度ニ在ルモノヲ指稱スル法意ナリト解スヘキモノトス（大正八・三・三一）

○採取者ヲシテ採鑛ノ所有權ヲ得セシムル契約ノ效力　鑛業權者カ自己ノ經營スル鑛山ニ於テ其監督ノ下ニ採取者ヲシテ鑛物ヲ採取セシムル場合ニ於テモ鑛物ノ所有權ハ先ツ鑛業權者ニ歸スヘキハ當然ナレトモ鑛業權者ト採取者トノ間ニ於ケル契約ヲ以テ採取者カ採取シタル鑛物カ鑛業權者ノ所有ニ歸スルト共ニ卽時ニ該所有權ヲ採取者ニ移轉スヘキ旨ヲ定ムルハ契約當事者ノ自由ニシテ之ヲ禁止スヘキ理由ナシ（大正六・一一・二七）

第二章	四六	六九八
二六	二五四	六九九
二六	九	七〇〇
三	一五	七〇一
四	一〇一一	七〇一
六	一五一	七〇二
四	一〇一一	七〇三

朝鮮農地令

第十二條

○小作地ノ讓受人ト朝鮮農地令ニ所謂賃貸人ノ意義　賃貸人ヨリ賃貸借ノ目的タル小作地ヲ讓受ケ法律上當然賃貸人ノ地位ヲ承繼シタル者モ朝鮮農地令第三條ニ所謂賃貸人ニ該當スルモノトス（昭和一三・一二・一五）

第十三條

○本條第一項ノ强行性　朝鮮農地令第十三條第一項本文ハ公益ニ關スル强行規定ニシテ之ニ反スル法律行爲乃至慣習ハ如何ナル理由アルモ其ノ存在ヲ許ササルモノトス（昭和一四・六・二三）

○本條ノ規定ト賃借權ノ讓渡　朝鮮農地令第十三條ノ規定ハ小作地ノ賃借人カ其ノ賃借權ヲ讓渡スル場合ニハ適用ナキモノトス（昭和一六・四・四）

朝鮮農地令施行規則

第一條、第二條

○朝鮮農地令施行規則ニ所謂管理者ヲ置キタル場合　朝鮮農地令施行規則第一條ニ所謂管理者ヲ置キタルトキトハ管理者ヲ定ムル契約ヲ爲シタル場合ノ凡テヲ包含スルモノニシテ其ノ契約ハ必スシモ同條第一乃至第五號ニ揭クル事項ノ全部ヲ合意內容トスルモノニ限定セラルルモノニ非ス（昭和一三・三・二四）

朝鮮農地令　朝鮮農地令施行規則

國有未墾地利用法

○產業組附屬ニ因ル所有權取得ノ慣習　朝鮮ニ於テ國有未墾地利用法施行以前ハ民有ニ非サル荒蕪地ニ對シテハ何人ト雖之ヲ開墾シ其ノ土地ニ對シ永小作權ヲ取得スルニ因リテ所有權ヲ取得シタル慣習アリ（大正五・三・一〇）

○本法ト適用及效　國有未墾地利用法ハ其施行以前ニ於テ既ニ終了シタル事實ニ對シテハ其效力ヲ遡及スルコトナシ（大正五・三・一〇）

○本法ト權限　國有未墾地利用法ニ於テハ權限ナルモノノ存在ヲ認メス（大正一四・二・二〇）

第四編

○賃付出願ヲ爲サルコトヲ約スル契約ノ效力　曾テ國有未墾地ノ貸下ヲ受ケタル者ハ未タ貸下ヲ受ケタルコトヲ以テ有利ノ地位ニ在リトセハ卽前者カ後者ト同時ニ貸下出願ヲ爲シタル場合ニ當該官廳ハ事實上前者ニ對シ許可スル方法ヲ採リ若ハ後者ノミ出願シタル場合ニ前者ノ同意書ヲ添附セサレハ許可セサル方針ヲ採リ其ノ他之ニ類スル非實ナリトセハ前者ハ後者ノ出願スルニ際シ自ラ出願ヲ爲ササル不作爲ノ義務ヲ負擔スルカ或ハ同意書ヲ添附スルカ如キ共力行爲ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトノ契約ヲ締結シタルトキハ該契約ハ法律上有效ナリ（大正一四・二・二〇）

第六編

○國有未墾地利用權ノ行使ト不法行爲　國有未墾地利用法ニ依リ貸付許可ヲ受ケタル者カ許可ニ基キ土地ニ對シ堤防ノ設置開墾ニ着手スルニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スルトキハ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害スルモノナルカ故ニ被害者カ加害者ヲ對手トシテ其權利ノ救濟ヲ求メ其權利確認及侵害ノ排除ヲ請求シ得ヘキモノトス斯カル場合ニ於テ同法我利所カ其私法上ノ爭ヲ判決スルニ際シ自ラ行政官廳ノ決分ノ當否ニ渉リテ判斷スルノ權限ヲ有スルモノニアラサレハ同法權ヲ以テ行政權ノ權域ヲ侵スヘキモノニアラス（大正六・一二・一二）

○國有未墾地利用權者ノ死亡ト民法組合ノ規定　國有未墾地利用法第六條第二項ノ規定ハ國有未墾地利用權ヲ相續ノ目的タル財產ト爲スヘキコトヲ得ル趣旨ヲ明ニシ同法施行規則第二十條第二項ノ規定ハ相續ニ因リ同利用權ヲ取得シタルモノハ所定ノ期日ヲ經過スルモ其權利ヲ喪失セサル旨ヲ命シタルニ過キスシテ之ヲ以テ民法組合ニ關スル規定ノ適用ヲ排除スルノ趣意ニアラス（大正八・五・六）

○許可ナキ國有未墾地利用權讓渡ノ效力　國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者カ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ其權利ヲ他人ニ讓渡スルモ其讓渡ニ依リ直ニ國有未墾地利用權ノ移轉ノ效果ヲ生スルモノニ非スト雖該讓渡行爲ハ必スシモ全然無效ナルニ非スシテ當事者間ニハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ權利ヲ移轉スヘキ債權債務ノ關係發生スルモノトス（大正一〇・二・一八）

○同上　數人カ共同シテ國有未墾地ノ貸付許可ヲ受ケ其共有者ノ一人死亡シ共持分カ他ノ共有者ニ讓渡スルニ至リタル場合ニ於テ共有者ノ一人甲カ他ノ共有者乙ヨリ死亡セル共有者ノ持分ノ讓渡ヲ受ケ更ニ之ヲ丙ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタルトキハ甲ハ丙ニ對シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ乙ヨリ其持分ヲ讓受ケ更ニ之ヲ丙ニ移轉スヘキ債務アルモノナレハ甲カ丙ニ對シ斯ル債務ノ存スルコトノ確認ヲ求メ得ヘキモノトス（大正

國稅徵收令

○白露ト公賣處分　白露ノ前後ニ依リ土地ノ秋收カ買主ニ移轉シ若ハ移轉セスト爲スハ畜ノ賣買ニ關スル慣習ニシテ當事者ノ契約ノ內容ヲ解釋スルニ當テノ規準ニ過キス競賣法及民事訴訟法ニ依ル强制競賣竝國稅徵收令ニ依ル公賣ニ在リテハ競落ニ因リテ競落人若ハ買受人ニ移轉スル權利ノ內容ハ法律ノ規定ニ依テ定マリ當事者ノ意思ヲ解釋スル餘地ナク從テ白露ノ前後ニ依リ區別アルコトナシ　（昭和四・九・二七）

國稅徵收法

○國稅徵收法ニ基ク公賣ト民法第五百六十八條　國家機關カ國稅徵收法ニ基キテ納稅義務者ノ財產ニ對シテ爲ス競賣モ亦民法第五百六十八條ニ所謂强制競賣ナリ　（大正一四・一〇・九）

○所有權移轉ノ假登記アル不動產ニ對スル滯納處分ノ效果　滯納處分カ既ニ第三者ニ對スル所有權移轉ノ假登記ヲ經タル不動產ニ付テ爲サレタルトキト雖國稅ノ徵收ハ假登記アル不動產ノ公賣代金ヲ限度トシテ他ノ公課及債權ニ優先スルニ止リ第三者タル假登記權利ヲ左右スルモノニ非ス　（昭和一〇・四・一九）

○所有權取得ノ假登記名義人ト公賣買受人ノ權利　國稅徵收法第十九條ハ裁判上ノ假差押假處分ヲ受ケタル物件ニ付テモ滯納處分ノ執行ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルニ止リ之ニ因リテ假登記ノ效力消滅スル旨規定セルニ非ス故ニ假登記權利者ハ公賣ニ因テ斯ル不動產ノ所有權移轉登記ヲ受ケタル者ニ對シ尙一般ノ規定ニ依リ該登記ノ抹消ヲ求メ得ルモノトス（昭和一〇・四・一九）

第十四條

卷	頁
一六	二三〇
一三	三四八
二三	一一〇
二三	一一〇

○第三者ノ物ニ對スル公賣處分　國稅徵收法第十四條ハ收稅官吏ニ對スル取戾請求權ヲ認メタルニ止リ差押物件ニ對スル第三者ノ所有權ハ所定期間ノ經過ニ因リ當然消滅スルモノニ非サルカ故ニ其ノ所有者ハ收稅官吏ニ對スル請求權ノ消滅後ト雖公賣ニ因リテ所有權移轉登記ヲ受ケタル者ニ對シ所有權ノ主張ヲ爲スヲ妨ケラルルモノニ非ス　（昭和一〇・四・一九）

第十八條

○公賣ノ果實ニ及ホス效力　國稅徵收法第十八條ニ依レハ不動產ノ差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フカ故ニ差押物ノ公賣ニ因リ果實亦當然買受人ニ移轉シ特ニ果實ニ對スル公賣手續アルヲ要セス　（昭和四・九・二七）

第十九條

○本條ノ意義　國稅徵收法第十九條ハ裁判上ノ假差押假處分ヲ受ケタル物件ニ付テモ滯納處分ノ執行ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルニ止リ之ニ因リテ假登記ノ效力消滅スル旨規定セルニ非ス故ニ假登記權利者ハ公賣ニ因テ斯ル不動產ノ所有權移轉登記ヲ受ケタル者ニ對シ尙一般ノ規定ニ依リ該登記ノ抹消ヲ求メ得ルモノトス　（昭和一〇・四・一九）

酒稅令

○納稅擔保物ニ對スル國ノ權利ノ性質　酒稅令竝其ノ施行規則ニ規定スル納稅擔保物ニ對スル國ノ權利ハ其ノ不動產ノ上ニ爾後ニ設定セラルヘキ私法上ノ物權ニ優先シ登記ノ順位ニ從ヒ抵當權者ト同一ノ地位ヲ保持スルコトヲ以テ內容トスルモノニシテ私法上ノ抵當權ニ外ナラス　（昭和二・四・一二）

○酒稅代納者ノ代位ト納稅擔保物　納稅擔保物ノ上ニ國ノ有シタル抵當權ハ代納者ノ納稅義務者ニ對シテ有スル求償權ノ擔保ノ爲メニ代位辨濟ノ規定ニ準シ代納者ニ移轉ス　（昭和二・四・一二）

卷	頁
一四	九〇
一四	九〇

明治四十三年制令第三號（地稅等特別免除ニ關スル件）

○本令第一條第三號ト第三者ノ納入スヘキ欠損金　明治四十三年朝鮮總督府制令第三號第一條第三號ニ依ル欠損金納入義務ノ免除ハ第三者ノ納入スヘキ欠損金ヲ包含ス（明治四四・六・一三）

地稅令施行規則

○結數連名簿ノ所有名義抹消申告ヲ目的トスル訴訟ノ適否　郡守ハ地稅令施行規則ニ依リ證明官吏ノ通知ニ因ルニアラサレハ結數連名簿上ニ於ケル所有名義ヲ抹消スルコト能ハサルヲ以テ其抹消申告ヲ爲スヘキコトヲ請求スルハ不必要ノ行爲ヲ求ムルモノニシテ其請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス（大正四・一・二）

參照頁		
一二八四	明治四三制令三	地稅等特別免除ニ關スル件
六一	明治四施行規則	地稅令施行規則

朝鮮總督府裁判所令

○起墾許可ニ基ク工事ノ侵害排除ト司法裁判所ノ管轄　農商工部ノ起墾許可ハ行政處分ナルモ之ニ基キテ爲ス工事ハ私法上ノ行爲ニ外ナラサルヲ以テ其行爲ニシテ他人ノ權利ヲ侵害スルトキハ司法裁判所ハ其侵害行爲ヲ爲スヘカラサルコトヲ命スルモ行政處分其モノヲ取消シ又ハ變更スルヲ直接ノ目的ト爲スモノニアラサルカ故ニ違法ニアラス（隆熙三「明治四二」・二〇）

○韓國ノ併合ト領事裁判權ノ撤廢　明治四十三年八月二十九日帝國カ韓國ヲ併合シタル結果韓國ニ對シテ從來保有シタル各國ノ領事裁判權ハ玆ニ撤廢ニ歸シタルモノトス（明治四四・四・一七）

○調查使ニ對スル先納金ノ請求ト司法裁判所ノ管轄權　舊韓國宮內府ニ先納シタル稅金ノ取立ニ關シテ調查使タリシ者ニ對シ其稅金支拂ヲ請求スル訴訟ハ公法的關係ニ屬シ私法上ノ請求ニアラサレハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス（明治四四・一〇・二〇）

○訴訟手續ニ關スル公正記錄ト朝鮮文　朝鮮ニ在ル裁判所ノ訴訟手續ニ關シテ作成スヘキ公正記錄ハ朝鮮文ヲ用キテ作成スルモ違法ト爲スヲ得ス（明治四四・一二・二七）

○下級處分ノ土地ニ對スル所有權ノ爭ト司法裁判所ノ管轄　舊韓國臨時帝室有及國有財產調查局カ或土地ニ對シ帝室有ニ非ス國有ニ非ス民有ナリト決定シテ下級處分ヲ爲シタル場合ニ個人相互ノ間ニ於テ其土地ノ所有權ヲ爭ヒ司法裁判所ニ出訴シタルトキハ裁判所ハ下級處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得（大正四・二・二）

○賣買契約ノ履行ノ能否判斷ト總督ノ堰築許可ニ對スル判示　朝鮮總督ニ於テ堰築許可出願ヲ許容スルモノト認ムヘキ事實ナルヤ否ヤヲ判示スルコトカ當事者間ニ於ケル賣買契約履行ノ能否ヲ判斷スル上ニ於テ必要ナルトキハ之ヲ判示セサルヘカラサルモノニシテ縱令之カ判示ヲ爲シタリトスルモ同總督ノ許否ノ權限ニ何等ノ消長ヲ及ホスコトナキモノナレハ之ヲ判示シタルノ故ヲ以テ同總督ノ權限ニ容喙シタル不法アリト謂フヲ得サルモノトス（大正七・七・二）

參照頁		
一一	明治四四・四・一七	調查使ニ對スル先納金ノ請求ト司法裁判所ノ管轄權
一一	明治四四・一〇・二〇	同
一三九五	明治四四・一二・二七	訴訟手續ニ關スル公正記錄ト朝鮮文
一四一八	大正四・二・二	下級處分ノ土地ニ對スル所有權ノ爭ト司法裁判所ノ管轄
一三	大正七・七・二	賣買契約ノ履行ノ能否判斷ト總督ノ堰築許可ニ對スル判示

○査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ私權關係ヲ確定スルモノトス（大正四・七・六）

○査定又ハ裁決トノ牴觸ニ因リ權利ヲ害セラレタル場合ノ救濟方　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵奪セラレタル者ハ侵奪者ヲ相手取リ之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス（大正八・三・一四）

○流水使用權侵害ノ救濟ト裁判所ノ管轄　下流ニ於ケル田地灌漑ノ爲ニスル流水使用權者カ其上流ニ設置セラレタル堤防ノ障害ニ因リ田地灌漑上必要ナル水量ヲ得ルコト能ハサルニ至リタルトキハ其權利ヲ侵害セラレタルモノニ外ナラサルヲ以テ必シモ行政權ノ作用ニ俟ツヲ要セス司法裁判所ニ出訴シテ該堤防ノ取除ヲ請求シ得ルモノトス（大正七・七・一〇）

○臨時財産整理局ノ還給處分ト裁判所ノ認定權　臨時財産整理局ノ處分ハ單ニ國有財産ナリヤ否ヤヲ確定スル效力アルニ過キサレハ或不動産ヲ民有トシテ還給處分ヲ爲スコトアルモ其國有ニ非サルコト確定スルニ止マリ人民相互間ノ權利ヲ確定スル效力ナキハ勿論還給處分ハ國有財産ヲ人民ニ附與スルモノニ非サレハ還給處分ヲ受ケタレハトテ當然其所有者ト爲ルモノニ非ス從テ眞ノ所有者ハ還給處分ヲ受ケタルモノニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス（大正八・四・一五）

○水利組合ノ堰防ノ撤去及築堤工事ノ禁止請求ト司法裁判所ノ管轄　不法ノ行政處分ニ因リテ權利ヲ侵害セラレタル者カ其ノ廢止變更ヲ求ムル訴ハ民事事件ニ非ス水利組合ノ貯水池築造ハ行政處分ニシテ之ニ必要ナル堤防ノ撤去及築堤工事ノ禁止ヲ命ス

參照頁		
三	二四七	
六	九六	
五	六四七	
六	二四四	

ルコトハ當然ニ行政處分ノ廢止變更ヲ伴フモノナルカ故ニ其ノ請求ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス（昭和四・五・一〇）

第一條

○朝鮮總督府裁判所ノ地位　朝鮮總督府裁判所令第一條ニ朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ云々ト規定セルハ裁判所構成法第百三十五條ニ司法行政監督權ノ施行ニ關シ「司法大臣ハ各裁判所ヲ監督ス」ト規定シアルニ對應スルモノニシテ其ノ旨意ハ朝鮮總督府裁判所ハ司法行政ノ監督上朝鮮總督ニ直屬ストノ義ニ他ナラス司法權ノ行使ニ關シテハ朝鮮總督府裁判所亦憲法ニ謂フ所ノ裁判所ニシテ　天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ司法權ヲ行フモノトス（昭和二・九・七）

參照頁		
一六	二一	
一四	三〇七	

舊韓國裁判所構成法

○基址堪遷ヲ命シタル確定判決アル場合ニ於ケル墳墓ノ掘移墻垣ノ撤去請求ト田宅訟出訴期限　墳墓ノ掘移及墻垣ノ撤去ヲ請求セラレタル場合ニ於テ既ニ其基地ニ付之ヲ返還スヘシトノ確定判決存スルトキハ右請求ニ對シテハ田宅訟ニ關スル出訴期限法ヲ適用スルヲ得ス（明治四四・一・四）

○舊韓國平理院ト下級裁判所ノ關係　舊韓國平理院ハ下級裁判所ノ爲シタル判決ノ不當ヲ認知スルトキハ其裁判所ニ訓令ヲ發シ該判決全部ノ取消若クハ一部ノ更正ヲ命シ得ヘキ權能ヲ有セシモノトス（大正二・九・二三）

○上疏ニ關シテ與ヘタル命令ノ效力　上疏ニ關シテ與ヘタル命令ハ判決ト同視スヘキモノニアラサルハ勿論舊韓國時代ニ於テモ之ヲ判決ト同視シタル慣習ナシ（大正三・七・二四）

參照頁		
一	一七五	
二	三三三	
二	四四五	

舊商法破産編

第三編　破　産

第一章　破産宣告

○日ヲ同シクスル抵當登記ト支拂停止ノ前後ハ證明ニ依リ決定ス　抵當權登記ノ日ト支拂停止ノ日ト同日ナルトキハ其何レカ先ナルカハ一ニ立證責任者ノ證明ニ依リテ決スルノ外ナシ　（明治四四・二・二七）

○破産宣告ヲ廢棄シタル決定ト新ナル抗告理由　控訴院ニ於テ地方裁判所カ宣告シタル破産決定ヲ廢棄シテ債權者ノ破産申立ヲ却下シタルトキハ債權者カ該決定ニ對スル抗告ハ抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノニ該當ス（明治四四・八・二一）

○工事請負金債務ノ支拂停止ト破産理由　工事請負營業ノ資金トシテ金員ヲ借受ケ其返濟ノ請求ヲ受ケタルニ當リ資力缺乏ノ爲メニ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ヲ宣告セラルヘキ理由アリ　（明治四四・八・二一）

人事訴訟手續法

第七條

○本條ニ依ル併合訴訟　原告ニ於テ被告甲、乙間ノ婚姻ノ無效ヲ主張スル理由カ原告ト被告甲トノ間ノ協議上離婚カ無效ニシテ從テ被告等間ノ婚姻ハ重婚ニ該ルト謂フニ在ルトキハ原告ハ甲及乙ヲ被告トシテ右離婚無效確認ノ請求ト婚姻無效確認ノ請求トヲ一ノ訴ニ併合提起シ得ルモノトス　（昭和一三・二・一八）

第九條

○離婚訴訟ノ提起ト重大ナル侮辱　配偶者ノ一方カ離婚ノ訴ヲ提起シタル後該訴カ人事訴訟手續法第九條ニ違反シ從テ維持スヘカラサルモノナルコトヲ覺知シ其ノ請求ヲ抛棄シタルトキト雖其ノ事實ノミニ基キ直ニ相手方カ起訴者ヨリ重大ナル侮辱ヲ受ケタルモノト斷スルヲ得サルモノトス　（昭和一六・五・二三）

第十八條

○養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確認シタル判決ノ效力　養子緣組ノ當事者間若ハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取リタル訴訟ニ於テ養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及ホスモノトス　（昭和三・六・二二）

○養子緣組無效確認事件ノ敗訴ノ判決ト對世的確定力　養子緣組ノ有效無效ノ確認ヲ求ムル訴訟ハ其ノ性質上人事訴訟ニ屬シ其ノ效力ノ有無ヲ確認セル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ニ依リテ所謂對世的效力ヲ生スルモノナルカ故ニ養子緣組ノ不存在從テ其ノ無效ナルコトヲ主張スル原告ノ訴求ヲ棄却シタル判決ハ有效ナル養子緣組ノ法律關係存在ノ事實ニ付對世的確定力ヲ有スルモノトス　（昭和七・六・二八）

第二十六條

○養親子關係不存在確認ノ訴ト訴訟手續ノ受繼　第三者ヨリ提起セル養親子關係不存在ノ確認ノ訴ノ繫屬中相手方タル子カ死亡シタルトキハ檢事ニ於テ該訴訟手續ヲ受繼スヘキモノトス　（昭和一三・一〇・七）

○次養子ノ實男子ト養子緣組無效確認ノ訴　次養子タルモノノ實男子ハ次養子ヲ否定シ自ラ養家ノ養子ナリト主張スル第三者ニ對シテ其ノ養子緣組ノ無效確認ヲ求ムルニ付法律上ノ利益ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス　（昭和一四・三・三）

養子緣組事件ノ當事者

○**第三者提起ノ養子緣組無效ノ訴ニ於ケル相手方**　第三者ヨリ提起スル養子緣組無效ノ訴ニ於テハ緣組ノ當事者ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク當事者ノ一人カ死亡シタル場合ニハ生存者ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス　（大正一三・一一・二五）

○**緣組當事者死亡後ニ於ケル養子緣組無效ノ訴ノ相手方**　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父ノ生存スル場合ニハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母ヲ以テ緣組ノ當事者ニ準シ訴訟ノ相手方ト爲スコトヲ要スト解スルヲ妥當トス　（大正一三・一一・二五）

○**養子提起ノ養子確認訴訟ノ相手方**　養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ人事訴訟手續法第二十六條第二條ノ規定ニ準據シ養父ヲ以テ相手方トスヘク死後養子ナル場合又ハ養父死亡後ニ在リテハ朝鮮ニ於テ緣組ノ相手方ニ準セラルヘキ養母ヲ以テ相手方トスヘク養母カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス　（大正一四・七・一〇）

○**死後養子ヨリ提起スル養子確認訴訟ノ相手方**　死後養子ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ養母カ既ニ他家ニ改嫁シ養家ニ在ラサル場合ニ於テハ養母ノ死亡シタル場合ト同樣ニ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス　（大正一五・二・二六）

○**婚家ヲ去リタル養母ノ養子緣組無效ノ訴ニ於ケル當事者能力**　寡婦タル養母ハ婚家ヲ去リテ實家ニ復籍シタル後ト雖婚家ニ其ノ實子ノ存スルニ於テハ實子トノ血族關係ニ基ク扶養ノ義務其ノ他ノ權利義務ニ付重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ婚家ニ在ル養子ニ對シ養子緣組無效ヲ主張スルニ付正當ナル當事者トシテノ適格ヲ有スルモノトス　（大正一五・九・二八）

○**第三者ヨリ提起スル緣組無效ノ訴ノ相手方ト相續回復ノ訴ノ相手方ノ異同**　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母及養子ヲ以テ相手方ト爲スモノナリト雖相續回復ノ訴ニ於テハ縱令其ノ內容ニ於テ緣組ノ當否カ審理セラルル場合ナリトスルモ僭稱相續人ヲ相手方ト爲スヲ以テ足ル　（昭和二・八・九）

○**緣組無效ノ訴ニ於ケル未成年者ノ法定代理人**　緣組無效ノ訴ハ當事者間ニ養親子關係ノ存セサルコトヲ前提トスルモノナルヲ以テ同訴ニ於ケル未成年者ノ法定代理人ハ養親子關係ノ存在ヲ前提トシテ之ヲ定ムヘキモノニアラス緣組ナキ場合ヲ想定シテ之ヲ定ムヘキモノトス從テ同訴ニ於ケル未成年者ノ訴訟行爲ハ行爲能力者トシテ自ラ之ヲ爲シ得ル場合ノ外緣組ナキ場合ニ於テ法定代理人タルヘキ者ニ依リテ代理セラルルコトヲ要ス　（昭和五・八・二）

○**意思無能力者タル養子ヲ當事者トスル養子緣組確認訴訟ノ法定代理權**　養子緣組ノ成否ニ關スル訴訟ハ公益ニ關スルモノナルカ故ニ斯ル確認ノ訴ハ緣組ノ無效又ハ其ノ取消宣言ヲ求ムル訴ト同一ノ手續ニ依ラシムヘキヲ條理上正當ト爲スヘキヲ以テ意思無能力者ナル原告（養子）カ提起スル養親子關係存在確認ノ訴ニ於テハ原告實方ノ父ニ於テ之カ法定代理權ヲ有スルモノトス　（昭和六・一・二三）

○**次養子確認訴訟ノ相手方**　戶主ノ遺言ニヨリ次養子ニ選定セラレタリト主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ニ於テ戶主ノ妻タル養母及戶主タル養父ノ長男共ニ死亡シ妻ノミ生存セルトキハ其ノ者ヲ以テ相手方トスヘキモノトス　（昭和一二・四・六）

養子緣組ニ關スル判決ノ效力

○**養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確認シタル判決ノ效力**　養子緣組ノ當事者間若ハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取リタル訴訟ニ於テ養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及ホスモノトス　（昭和三・六・二二）

○**養子緣組無效確認事件ノ敗訴ノ判決ト對世的確定力**　養子緣組ノ有效無效ノ確認ヲ求ムル訴訟ハ其ノ性質上人事訴訟ニ屬シ其ノ效力ノ有無ヲ確認セル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ニ依リテ所謂對世的效力ヲ生スルモノナルカ故ニ養子緣組ノ不存在從テ其ノ無效ナルコトヲ主張スル原告ノ訴求ヲ棄却シタル判決ハ有效ナル養子緣組ノ法律關係存在ノ事實ニ付對世的確定力ヲ有スルモノトス　（昭和七・六・二八）

第三十條

○**身分關係確認ノ訴ト檢事ノ被告適格**　原告カ亡甲男及亡乙女間ニ生レタル庶子ナルニ戶籍上丙男及丁女間ニ生レタル嫡出長男トシテ登載セラレアル旨ヲ主張シ右父庶子關係ノ確認ヲ求ムル訴ハ檢事ヲ被告トシテ提起スルヲ得サルモノトス　（昭和一五・

（一〇・一五）

第三十九條

○第三者ノ爲ス親子關係不存在確認ノ訴ト確認ノ利益　第三者カ他人間ニ親子關係ノ存在セサルコトヲ主張シ其ノ確認ヲ求ムル訴ヲ提起シ得ルハ其ノ判決ニヨリ直接ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルルカ如キ法律上ノ利益ヲ現ニ有スル場合ニ限ルモノトス（昭和一二・二・九）

明治三十三年法律第十七號（商法中署名スヘキ場合ニ關スル件）

○捺印ハ本法ノ適用ニ關セス　明治三十三年法律第十七號商法中署名スヘキ場合ニ關スル件ニ所謂捺印トハ記名者ノ印章ヲ押捺スルヲ謂フモノニシテ捺印ノ如キハ之ニ該當セス（大正一一・九・二二）

信託法

第十一條

○訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トスル信託行爲ト當事者主張ノ要否　當該信託行爲カ信託法第十一條ニ該當シ法律上無效ナリトノコトハ當事者ニ於テ主張セルコトナシトスルモ裁判所カ判斷ヲ爲スヘキモノトス（昭和一一・三・二七）

身元保證ニ關スル法律

五條

○信用保險ト身元保證トノ關係　使用者カ被用者ノ行爲ニ因リ蒙ルコトアルヘキ損害ニ付被用者ヲシテ他ト信用保險契約ヲ締結シ保險料ヲ醵出セシメタル場合ニ於テ保險事故發生シタルトキハ裁判所ハ身元保證人ノ損害賠償ノ責任又ハ其ノ金額ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スヘキモノトス（昭和一五・三・一九）

○身元保證人ノ賠償責任　身元保證法施行前消滅セル身元保證契約ニ於テモ身元保證人ノ賠償責任ニ關スル請求ニ付同法第五條ノ精神ニ則リ一切ノ事情ヲ斟酌シテ之カ賠償額ヲ決スヘキモノトス（昭和一二・二・五）

附則

○身元保證人ノ繼續責任　身元保證法施行前消滅セル身元保證契約ニ於テモ身元保證人ノ賠償責任ニ關スル請求ニ付同法第五條ノ精神ニ則リ一切ノ事情ヲ斟酌シテ之カ賠償額ヲ決スヘキモノトス（昭和一二・二・五）

○使用人ノ昇進ト身元保證人ノ責任　金融組合ノ使用人カ臨時雇ヨリ書記見習ニ次テ書記ニ昇進シタルトキト雖同一履行契約ノ繼續ニ過キサル限リ身元保證人ハ階級ノ變更ニ依リテ消滅スルモノニ非ス（大正一五・四・一六）

○存續期間ヲ定メサル身元保證契約ト解除權　身元保證契約ニ付期限ヲ定メサリシ場合ニハ何時ニテモ身元保證人ノ一方ノ意思表示ニ依リ解約ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖其ノ效力ハ解約申入後相當ノ期間ヲ經過シタル後ニ發生スルモノトス（昭和二・五・六）

○存續期間ヲ無制限ト定メタル身元保證契約ノ效力　身元保證ノ存續期間ヲ無制限ニ定メタル契約ハ未タ公序良俗ニ反スル無效ノモノト爲スヲ得ス此ノ場合ニハ期限ノ定メナキ場合ト同シク身元保證人ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得ヘシ（昭

和四・六・四）

聯 ○無限ニ賠償義務ヲ負擔セシムル身元保證契約ノ效力　履儁契約ニ附隨シテ締結セラルル身元保證契約ハ被用者カ將來其ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ使用者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ其ノ損害ヲ第三者ニ於テ賠償スヘキ旨ノ損害擔保契約ニシテ其ノ賠償額ニ限度ノ定アルトキハ公序良俗ニ反スルコトナキカ故ニ有效ナリト雖無限ニ賠償義務ヲ負擔セシムル契約ハ公序良俗ニ反スルモノニシテ無效ナリ　（昭和四・六・四）

聯 ○賠償額ノ限度ヲ定メサル身元保證契約ト當事者ノ意思　身元保證契約ニ於テ賠償額ヲ明示セサル場合例ヘハ被用者カ使用者ニ損害ヲ被ムラシメタル場合ニ身元保證人ニ於テ賠償ヲ爲ス旨單純ナル契約ヲ締結シタル場合ニハ特別ノ事情ナキ限リ身元保證人ハ相當ノ範圍內ニ於テ賠償ヲ爲ス約旨ナリト解スルヲ相當トス又一切ノ責任ヲ負擔スト契約シタル場合ニ於テモ一切ノ文字ハ必スシモ無限ヲ意味スルモノニ非ス或ハ損害ノ種類ヲ問ハス責任ヲ負フ趣旨ニ用ヰラルルコトアリ或ハ常套語トシテ不用意ニ使用セラルル場合アルカ故ニ特殊ノ事情ナキトキハ前者ト同シク相當ノ範圍內ニ於ケル賠償ヲ約シタル趣旨ト解スヘキモノトス　（昭和四・六・四）

聯 ○身元保證ト相當ナル賠償ノ範圍　相當ナル賠償範圍ハ使用者ノ職業被用者ノ執ルヘキ業務身元保證人ト被用者トノ關係及被用者ノ契約當時ニ於ケル資產狀態等ヲ斟酌シ箇々ノ具體的事件ニ付合理的價値判斷ノ下ニ決スヘキモノトス　（昭和四・六・四）

聯 ○相當賠償額ノ決定ト使用者ノ過失ノ斟酌　身元保證契約ハ使用者ニ監督義務ヲ免脫スル趣旨ニ於テ締結セラルルモノニ非ス使用者ニ於テモ相當ノ監督ヲ爲スヘキコトヲ條件ト爲シタルモノト推認スヘキモノナルニ依リ使用者ニ監督上ノ過失アリタルトキハ賠償額ヲ算定スルニ當リ之ヲ斟酌スルコトヲ得　（昭和四・六・四）

聯 ○身元保證契約ノ相續性　身元保證契約ハ特別ノ事情ナキ限リ身元保證人ノ死亡ニ因リ消滅スヘキモノニシテ相續人ニ於テ承繼スヘキモノニ非ス　（昭和四・六・四）

森林令

第二十九條

○立木アル國有山坂ノ永年禁養　舊韓國森林法第十九條ニ依リ所定ノ期間內ニ地籍報告ヲ爲サスシテ國有ニ歸シタルモノト看做サレタル山坂ト雖立木アリテ數十年來禁養セル事實アルトキハ該山坂ハ明治四十四年六月制令第十號森林令第二十九條ニ所謂國有森林ニ該當スルハ勿論數十年來禁養ノ事實ハ同條ニ所謂永年禁養ニ該當スルニ依リ同條所定ノ要件具備セル事實ヲ認メテ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタリト判定スルハ違法ニ非ス　（大正二・七・一五）

○本條ト所有權ノ取得　森林令第二十九條ニ依リ國有森林ニ付貸付ヲ爲シタルモノト看做サレタルトキト雖特ニ其森林ノ讓與ヲ受クルニ非サレハ所有權ヲ取得スルコトナキモノトス　（大正五・五・二六）

○十年間ノ禁養ハ本條永年禁養ニ該當ス　約十年間禁養セラレタルモノナル以上ハ森林令第二十九條ニ所謂永年禁養シタル森林ニ該當ス　（大正六・一一・六）

○貸付後栽植シタル樹木ノ所有權　國有森林ノ貸付ヲ受ケタル者ハ貸付契約ニ從ヒ森林ノ產物ヲ取得スルノ權利ヲ有スルモ其貸付ニヨリテ森林ノ立木ノ所有權ヲ常ニ取得スルモノニ非サルコトハ森林令第七條森林令施行規則第十三條同第十四條等ノ規定ニ徵シ自ラ明カナレハ森林令第二十九條ニ依リ永年禁養シタル國有林ノ貸付ヲ受ケタル者ト看做サレタル者モ亦其法律上ノ推定ノミニ因リテ直ニ立木ノ所有權ヲ取得スヘキモノニ非ラス然レトモ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタル者カ其貸付ヲ受ケタル後ニ栽植シタル樹木ハ權原ニ因リテ附屬セシメタルモノナルヲ以テ其權利ハ民法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ之ヲ妨ケラルルコトナキヲ以テ貸付ヲ受ケタル者ノ所有ニ屬ス　（大正七・一一・二九）

○本條ト行政官廳ノ許可　森林令施行前永年禁養シタル事實ノ存スル以上ハ該禁養者ニ於テ森林令施行ト同時ニ當然其國有森林

ノ貸付ヲ受ケタル者ト看做サルヘク別ニ行政官廳ノ許可ヲ必要トスルモノニアラス（大正七・一〇・二五）

○本條ト第三者ニ對スル讓與　森林令第二十九條ニ依リ永年禁養シタル國有森林ノ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタル者ハ朝鮮總督ヨリ國有森林ノ讓與ヲ受クルニアラサレハ所有權ヲ取得スルモノニアラス故ニ其讓與ヲ受ケサル間ニ他人ニ之ヲ讓與セルトキハ其讓與ヲ受ケタル者ニ於テ所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正一二・二・六）

○永年禁養ノ認定　明治四十四年官通牒第三〇〇號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齢十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列擧スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス（大正一二・四・一〇）

森林令施行規則

第三十一條

○本條違反ノ處分行爲ノ效力　隨意契約ニ依リテ國有森林ノ產物ヲ買受ケシ者カ朝鮮總督又ハ地方長官ノ許可ヲ受クルコト無クシテ搬出若ハ採取未濟ノ產物又ハ年期賣却契約ニ依リテ生シタル權利ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供シタルトキト雖夫等ノ處分ハ當然無效ニ非スシテ唯當該官憲ニ於テ賣却行爲ヲ解除スルノ一事由タルニ過キサルモノトス（大正一五・四・二七）

森林法

第十三條

○本法ノ施行ト墳墓設置ノ慣習　舊森林法第十三條ニハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得スト規定シ同法第十七條ハ之ニ違背シタル場合ノ處罰規定ヲ設クルヲ以テ同法施行後ハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設置スルヲ得ス從テ隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設置シ得タル從來ノ慣例ハ同法施行後行ハルルコト能ハサルニ至リタルモノトス（大正四・三・一六）

○同旨　隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得タル從來ノ慣習ハ舊韓國森林法第十三條ノ實施ニ依リ廢止セラレタルモノトス（大正六・一二・一八）

○强行法規ノ施行ニ依リ廢止セラレタル慣習カ該法規ノ廢止後ニ於テ復活スルコトノ有無　從來ノ慣習カ新ニ發布セラレタル强行法規ニ反シ廢止セラレタルトキハ縱令後日其强行法規カ廢止セラルルモ從前ノ慣習カ當然效力ヲ復活スルコトナシ（大正六・一二・一八）

○本條ノ所有者　舊韓國森林法第十三條ノ所有者トアル中ニハ私人ハ勿論國家ヲモ包含ス（大正六・一二・一八）

第十九條

○森林山野所有者ノ不申告ト所有權ノ喪失　森林山野ノ所有者カ隆熙三年法律第一號森林法第十九條ニ依リ申告ヲ爲ササルトキハ當然其所有ヲ失ヒ國有ト看做サルヘキモノトス（明治四四・六・一七）

○同旨　舊森林法第十九條ノ所有者トハ森林山野ニ對スル眞實ノ所有權者ヲ指稱ス從テ其所有者ニシテ屆出ヲ爲ササル以上ハ該森林山野ハ當然國庫ニ歸屬シ同時ニ其所有者ハ之ニ對スル所有權ヲ喪失ス（大正二・七・一一）

○本條地籍報告ノ目的物　森林法第十九條ニ依リ地籍報告ヲ爲スヘキ土地ハ森林山野ニ限ルモノトス　（大正二・三・一八）

○本條ト森林令第二十九條　舊韓國森林法第十九條ニ依リ所定ノ期間内ニ地籍報告ヲ爲サスシテ國有ニ歸シタルモノト看做サレタル山坂ト雖立木アリテ數十年來禁養セル事實アルトキハ該山坂ハ明治四十四年六月制令第十號森林令第二十九條ニ所謂國有森林ニ該當スルハ勿論數十年來禁養ニ該當スルニ依リ同條所定ノ要件具備セル事實ヲ認メテ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタリト判定スルハ違法ニ非ス　（大正二・七・一五）

○本條不申告ト其ノ事由　舊韓國森林法第十九條ノ屆出期間ハ屆出ヲ爲ス能ハサリシ原因事情ノ如何ヲ問ハサルモノトス　（大正二・八・五）

○本條申告ト職權調査事項　森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタリヤ否ヤノ事實ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬セス　（大正二・一二・二）

○同　旨　舊韓國森林法ニ依ル地籍報告ノ有無ハ職權調査事項ニ非サルヲ以テ當事者ヨリ之ヲ主張スルニ非サレハ裁判所ニ於テ其事實ノ有無ヲ調査セサルヘカラサルモノニアラス　（大正六・一二・二七）

○本條ノ申告ト共有者　森林山野ノ共有者ノ一人カ除斥二年法律第一號森林法第十九條所定ノ期間内ニ地籍屆出ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ノ所有權ヲ失ハス　（大正二・一二・一六）

○同　旨　森林山野ノ共有者ハ一人カ舊森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ヲ代表スルコトヲ又其共有タルコトヲ明示セサルトキト雖國有ト看做サルルコトナシ從テ他ノ共有者モ該森林山野ノ共有權ヲ失ハス　（大正八・三・二八）

○本條適用ノ效果　民有ノ森林山野ニシテ地籍報告ヲ怠リタル結果國有ト看做サルル場合ニ在リテハ森林山野ノ基地ハ勿論其基地上ニ生立セル樹木ノ所有權モ共ニ國有ニ歸スヘキモノトス　（大正六・一一・二四）

○本條正申告權者　舊韓國森林法第十九條ニ依ル屆出ハ森林山野ノ所有者ヨリ之ヲ爲スヘク然ラサレハ總テ國有ト看做サルヘキモノナレハ所有者ニアラサル者ノ屆出ハ何等ノ效力ヲ生セス　（大正七・二・八）

○本條申告ト到達主義　凡ソ法令ニ於テ一定ノ期限内ニ屆出ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ特別ノ規定アラサル限リ屆出ヲ受理裁斷スル職責ヲ有スル官廳ニ其到達スルコト期限内ニ在ルコトヲ要スルヲ通例トス然レトモ舊韓國森林法第十九條ニ依ル地籍屆ハ同條所定ノ期限内ニ必スシモ農商工部大臣（日韓併合後ハ朝鮮總督府）ニ到達スルコトヲ要セス其期限内ニ其下級官廳タル府郡廳ニ提出セラレタル事實アル以上ハ尚之ヲ有效ト解スルヲ相當トス　（大正七・四・二）

森林山野及未墾土地國有私有區分標準

○國有私有ヲ認定スル標準　明治四十五年朝鮮總督府訓令第四號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該訓令ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニアラサルコトハ從來ニ於テモ亦然リシ所トス　（大正三・一二・一）

寺刹令

第四條

○寺院ニ於ケル房主ノ意義　寺院ニ於ケル房主トハ尼ノ專稱ニアラス一般的ニハ山内ノ主僧ヲ房主ト稱スルモ平安南北道及黃海

道地方ニ在テハ小寺ノ住持ヲモ房主ト稱スルモノトス（大正三・九・二九）

第五條

○下賜ニ係ル寺刹財産處分禁止ノ慣習　朝鮮ニ於テハ皇室若クハ官廳ヨリ寺院ニ下賜シタル田地山林ハ縱令衆僧ノ決議アルモ絶對ニ處分スルコトヲ得サルヲ從來ノ慣習トス（明治四四・四・一〇）

○右慣習ト公法關係　寺刹令施行以前舊韓國時代ニ於テ皇室若クハ官廳ヨリ寺院ニ下賜シタル田畓山林ハ衆僧ノ決議アルモ絶對ニ之ヲ處分スルコトヲ得ストノ慣習ハ寺院カ私法上ノ法律行爲ニ依リ之ヲ處分スル場合ニ適用アルニ止マリ公法上ノ關係ニ因リ寺有ノ田畓若クハ山林カ國庫若クハ其他ニ歸屬スルコトヲ妨クルモノニアラス（大正五・一〇・一三）

○寺刹令施行前ノ寺刹財産ノ處分　寺刹令施行前ニ於テ房主一人ノ在住スル場合ニ該寺ニ屬スル田土ヲ處分スル必要アルトキハ慣習上本山寺院ノ承認ヲ經ルコトヲ要スルモ本山寺院ヲ有セサル寺院ニ在テハ房主一人ニテ之カ處分ヲ爲シ得ヘキ慣習ナリトス（大正三・九・二九）

○本條許可ヲ條件トスル處分行爲ノ效力　寺刹令第五條ニ規定セル寺刹ニ屬スル財産處分ノ許可ヲ條件トシテ其處分ヲ爲スヘキ債務ヲ負擔スル行爲ハ寺刹令第五條ニ所謂處分ノ行爲中ニ包含セス（大正八・一一・二一）

○本條許可ナキ寺刹財産處分ノ效力　明治四十四年六月制令第七號寺刹令第五條ハ寺刹ノ財産ヲ保護スル爲住持等ニ於テ任意ニ寺刹所有ノ土地建物等ノ貴重品ヲ處分スルコトヲ禁止シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ爲シタル一切ノ處分行爲ヲ無效トスル旨趣ノ規定ナリトス（昭和二・二・一五）

○寺刹財産ト寺刹令施行規則第七條　明治四十四年七月朝鮮總督府令第八十四號寺刹令施行規則第七條ハ行政監督上ノ取締規定タルニ過キスシテ寺刹令第五條ノ適用ヲ受クヘキ寺刹所有ノ土地建物等貴重品ノ範圍ヲ限定シ又ハ之カ所有權取得ノ公示方法ヲ定メタル趣旨ニ非ス（昭和三・八・三一）

○寺刹財産ニ對スル强制執行ト競落ニ因ル所有權ノ取得　朝鮮總督ノ許可ヲ得テ處分シ得ヘキ寺刹財産ニ對スル强制執行ハ違法ニシテ競落許可決定ニ基キ競落人ト爲リタル者ト雖其ノ執行ノ目的タル不動産ノ所有權ヲ取得スルコトナシ如上ノ理ハ寺刹カ債務負擔行爲ニ付朝鮮總督ノ許可ヲ要セスト爲シタル改正前ノ寺刹令施行當時タルト又許可ヲ要スト爲シタル同令改正後ノ現在タルトニヨリ異ルコトナシ（昭和一〇・五・一七）

巻	頁
二	四六三
一	二三二
三	七七〇
二	四六三
六	五六九
一四	三八
一五	二四二
二三	一三三
一五	二四二
二〇	四一〇
二〇	四一〇

寺刹令施行規則

第七條

○本條ト寺刹令第五條ノ寺刹財産　明治四十四年朝鮮總督府令第八十四號寺刹令施行規則第七條ハ行政監督上ノ取締規定タルニ過キスシテ寺刹令第五條ノ適用ヲ受クヘキ寺刹所有ノ土地建物等貴重品ノ範圍ヲ限定シ又ハ之カ所有權取得ノ公示方法ヲ定メタル趣旨ニ非ス（昭和三・八・三一）

朝鮮殖産銀行令

第二十三條

○本條ノ法意　朝鮮殖産銀行令第二十三條ハ債務者カ年賦金ノ拂込ヲ遷延スルトキハ期限ノ利益ヲ失フヘキ旨ヲ規定シタルモノトス（昭和八・一一・七）

○年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ト登記　朝鮮殖産銀行令第二十三條ノ適用アル貸借ニ於テ年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ノ如キ不動産登記法第百十七條ニ依リ之ヲ登記セサルモ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキモノトス（昭和八・一・一七）

私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ關スル件

○辨濟期既到來ノ債務ト本令ノ適用　支拂猶豫令第一條ハ昭和二年四月二十二日以前ニ辨濟期ノ到來シタル債務ニ適用セラルヘキモノニ非ス從テ右債務ニ對シテハ同月二十二日ヨリ五月十二日迄ノ間モ尙遲延利息ヲ附スヘキモノトス　（昭和三・三・九）

開國五百三年七月十五日議案（守宰等ノ强估勒買シタル場合ニ關スル件）

抄　軍國機務處啓曰諸議員　臣本日議案各條謹具淸單恭呈　乙覽糞允施之意敢啓

一　十年以內田地山林家屋等產爲蕃相守宰及豪右所强估與減價勒買者由本主所實呈草干軍國機務處該吉單內要有證人二名以上及土在官衆所共知明確證據則査實推還原主倘有假冒代辨者構捏虛無者數爻相證者亦照律嚴懲事

○强　又ハ減價　買ト出訴期限　强估又ハ減價勒買ヲ理由トスル田宅訟ニシテ開國五百三年七月十五日議案發布ノ當時未タ五年ヲ經過セサルモノハ該議案ノ規定ニ依リ十年ノ出訴期限ヲ有ス　（隆熙三「明治四二」一一・三〇）

○本議案ノ施行期間ト刑法大全　開國五百三年七月十五日議案モ亦刑法大全施行ニ至ル迄適用セラレタルモノトス　（明治四三・九・二三）

○本議案ト强占ヲ理由トスル山坂返還及墳墓掘移請求ノ出訴期限　甲ヨリ所有ノ山坂ニ乙カ其父ヲ勒葬シ該山坂全部ヲ强占シタリト主張シテ山坂ノ返還ト墳墓ノ掘移トヲ請求スルトキハ甲ハ其强占ノ日ヨリ起算シテ十箇年內ニ起訴スルニアラスンハ舊韓國開國五百三年ノ議案ニ依リ山坂ノ返還ヲ求ムル權利ヲ喪失スルハ勿論其地上ニ存スル墳墓ノ掘移ヲ請求スル權利モ亦之ニ伴フテ喪失スヘキモノトス　（明治四四・九・三〇）

朝鮮水利組合令

○水利組合ニ關スル郡守ノ職務ト收賄罪　郡守ハ水利組合ニ對スル第一次ノ監督官廳トシテ組合費ノ不當ナル賦課ニ付更正ノ手續ヲ執ルコトヲ得ヘキ職務ヲ有スルカ故ニ其職務ニ關シ金品ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成ス　（昭和四・七・一八）

對敵取引禁止令施行ニ關スル件

○敵國人ノ家賃請求ト賃貸ニ付テノ許可　當事者カ敵國人ニシテ家賃債權ニ付先取特權アリト主張スルトキハ大正六年五月五日朝鮮總督府令第二十六號（對敵取引禁止令施行ニ關スル件）ニ依リ其敵國人カ朝鮮總督ヨリ家屋賃貸ノ許可ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス　（大正七・七・一〇）

代書業取締規則

○代書業者ト債權ノ讓受　代書業者カ債權ノ讓渡ヲ受クルコトヲ禁止シタル法規存スルコトナシ　（大正五・一二・二二）

朝鮮水利組合令　對敵取引禁止令施行ニ關スル件　代書業取締規則

大典會通（舊韓國）

卷之一　吏典外命婦

○舊韓國時代ト封爵從夫職庶孽及再嫁者勿論云々ノ規定ノ適用　大典會通吏典外命婦條「封爵從夫職庶孽及再嫁者勿論云々」ノ規定ハ舊韓國時代ニ正當ニ適用セラレタルモノニ非ス（大正六・四・二七）

卷之二　戶典諸田

○舊韓國王室ト其公主ニ對スル土地賜與　舊韓國王室ハ其公主ニ對シテ王室ニ屬スル土地其ノモノヲ賜與シタル事アリトス（大正元・一二・二〇）

○賜牌ト民有地　舊韓國時代ニ於テ區域ヲ定メテ土地ヲ賜牌シタル場合ニ其區域內ニ民有地ナキトキハ全部賜牌ヲ受ケタル者ノ所有ニ歸スルモ若シ民有地ヲ包含スルトキハ其部分ハ賜牌ヲ受ケタル者ノ所有ニ移ラサル慣習ナリトス（大正三・一二・一）

○結數賜牌ニ關スル法律規定ニ反スル事例　舊韓國時代ニ於テ結數賜牌ニ關スル法律規定ニ反スル事例ノ行ハレタルハ顯著ノ事實ナリ（大正三・一二・二五）

○結數賜牌ト定式收稅　定式收稅ハ結數賜牌ノ場合ニ於テ本則トシテ戶曹ヨリ受牌者ニ給與スヘキ稅穀一結二十三斗ヲ徵收スルヲ謂フモ例外トシテ受牌者ヲシテ一定ノ土地ノ耕作者ヨリ直接定式收稅ヲ爲サシムルコトアリ（大正三・一二・二五）

○結數賜牌ト四代ニ限ラサリシ事例　結數賜牌ハ四代ニ限ラサル事例行ハレタルモノトス（大正三・一二・二五）

○田土賜牌ト結數賜牌　昔時朝鮮ニ於テ皇室ヨリ宮家ニ對シ王牌ヲ以テ賜與スル場合ニ田土賜牌ト結數賜牌トノ區別アリ前者ハ土地ノ賜牌若クハ有土賜牌ト稱シ田土ヲ賜與シ後者ハ結ノ賜牌若クハ無土賜牌ト稱シ單ニ田土ノ結數ノミヲ賜與シタルモノトス（大正五・六・三〇）

○田土賜牌ト徵稅　田土賜牌ノ場合ニ於テ賜與セラレタル土地ニ對シテハ免稅セラレ賜牌ヲ受ケタル者カ其資格ヲ失ヒタルトキハ爾後租稅ハ還收セラルルモ土地其モノハ還收セラレサリシ慣例ナリ（大正五・六・三〇）

○代盡還收處分ノ行ハルル場合　代盡還收ノ處分ハ結數賜牌ノ場合ニノミ行ハルルモノトス（大正五・六・三〇）

田宅

○田宅ニ關スル聽訟期限　大典會通戶典田宅條ニ「凡訟田過五年勿聽盜賣者云々不限年」トアルハ盜賣者以下四種ニ限リ何時ニテモ出訴スルコトヲ許シ其他ノ田宅訟ハ凡テ五年ヲ過クレハ出訴スルヲ得サルノ趣旨ナリトス（隆熙二「明治四二」・一一・三〇）

○喜意ノ盜品買取人ニ對スル聽訟期限　大典會通中盜賣者不限年トノ規定ハ盜賣ノ事實ヲ知ラスシテ買取リタル者ニモ適用セラルルモノトス（明治四三・七・二七）

○畓地山地ト聽訟期限　田宅訟五年ヲ過クルトキハ出訴ヲ許サストノ制ハ刑法大全施行前迄適用セラレタルモノニシテ田トアル中ニハ畓地山地ヲ包含スルモノトス（明治四三・九・二三）

○田宅墳墓賠償請求ト聽訟期限　大典會通戶典田宅條ニ「凡訟田宅過五年者則勿聽」トアルハ其目的物件ノ返還ニ代ヘテ價格賠償ヲ求ムル場合ニモ亦適用アリ（明治四三・一二・二六）

○基址返還ノ確定判決アル場合ニ於ケル墳墓掘移塩壇撤去ノ請求ト聽訟期限　墳墓ノ掘移及墻垣ノ撤去ヲ請求セラレタル場合ニ於テ既ニ其基地ニ付之ヲ返還スヘシトノ確定判決存スルトキハ右請求ニ對シテハ田宅訟ニ關スル出訴期限法ヲ適用スルヲ得ス（明治四四・一・四）

○他人ノ物トシテ田宅ヲ占有スル者ニ對スル聽訟期限　他人ノ所有物トシテ田宅ヲ保有スル者ニ對シテハ大典會通田宅條ニ賃居永執者不限年トアルニ準據シ幾年ヲ經過スルモ取戾ヲ請求シ得ヘシ（明治四四・三・三一）

○田宅侵害ノ損害賠償請求ト聽訟期限　大典會通戶典田宅條ニ「凡訟田宅過五年者則勿聽」トアルハ田宅ノ返還又ハ之ニ代ルヘキ損害賠償ノ請求ノミナラス其地上ニ存スル草木ノ伐採ニ因ル價格賠償ヲ求ムル場合ニモ適用スヘキモノナルヲ以テ占有開始後

五年ヲ經過シタルトキハ其經過前ノ使用ニ係ルト其後ノ使用ニ因ルトヲ問ハス其價格ノ訴求スルヲ得ス（大正元・一〇・丙）

○父ノ田宇合執者ニ對スル時效期間　父ノ田宅ヲ合執スル者ニ對スル訴ハ不限年ニ提起スルヲ得（大正二・七・二）

○通直ハ因耕耘永執者ニ經當ス　流ニトシテ單ニ他人ノ所有地ヲ耕作シ牧養スル者ハ大典會通戶典田宅條ノ質居永執者ニ該當セスシテ因井耕永執者ニ該當スルモノトス（大正三・五・二三）

○委託耕作者ニ對スル時效期限　他人ノ委託ニ因リテ土地ヲ占有スル者ニ對スル時效期限ハ戶典田宅條因井耕永執者不限年ノ規定ヲ準用スヘキモノトス（大正三・一〇・九）

○出訴期限經過ノ抗辯ト舊民事訴訟法第旨訴權ノ抗辯　出訴期限ノ經過ヲ理由トシテ訴ノ却下ヲ求ムル抗辯ハ民事訴訟法第二百六條第二項第一號ニ所謂訴訟手續ノ抗辯ニ該當セス（大正六・二・二三）

○相手方ノ獻動ト時效期限ノ起算點　物權ヲ主張シテ救濟ヲ求ムル訴權ニ付時效期限ヲ計算スル場合ニハ相手方トナルヘキ者ニ獻動アルト否トニ拘ハラス其訴權ノ行使ヲ得ヘキ時ヨリ起算スヘキモノトス（大正六・二・二三）

○出訴期限經過ト職權調査　出訴期限ヲ經過シタル訴ハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ調査シテ其訴ヲ却下スヘキモノトス（大正六・二・二三）

○同　旨　時效期限ヲ經過シタルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ナリ（昭和二・一・一八）

○時效期限ト職權調査ノ範圍　戶典田宅條ニ見ル四宅過五年勿論ノ規定アリテ刑法大全施行ニ至ル迄適用セラルヘキモノニシテ裁判所ニ於テ出訴期限ヲ經過シタルヤ否トニ依リ訴ノ適否ヲ決スルハ職權調查事項ニ屬シ當事者ノ主張ニ俟ツヘキモノニ非ス

ト雖モ法明限ノ經過ニ因スル基礎タル事實ニ付テハ當非者ノ申立中其事實ノ現ハレサルニ於テハ裁判所ハ其訴ニ付期限經過ノ事實無シトシテ之ヲ適法ナリト認ムヘキモノトス（大正六・四・六）

○承繼人又ハ管理人ト出訴期限經過ノ抗辯　土地所有權ノ確認及土地引渡ノ請求ヲ受ケタル場合ニ右土地ニ關スル出訴期限經過ノ抗辯ヲ提出シ得ルハ必スシモ一般承繼人トシテ其土地ヲ取得シタルモノニ限局セラルヘキモノニ非ス特別承繼人トシテ之ヲ取得シタル場合ニ右土地ニ關スル出訴期限經過ノ抗辯ヲ提出シ得ルモノトス

カ取得ヲ認シタルト雖其前主カ所有スル當時ニ於テ經過シタル期限ヲ以テ對抗シ得ヘキ又他人所有ノ土地ヲ管理スルモノハ所有者ノ有セシ出訴期限經過ノ抗辯ヲ以テ對抗シ得ルモノトス（大正六・四・二〇）

○職訟期限ノ效果　職訟期限ノ規定ハ訴權ヲ行使シ得ル者カ其訴權ヲ行使シ得ル一定ノ期間ヲ定メタルモノニシテ即チ權利ノ使用ヲ受ケタル者カ權利使用者ニ對シ訴權ヲ行使シ得ヘキ間ハラスシテ之ヲ行使セスシテ一定ノ期間ヲ經過シタルトキハ權利使用者ニ對スル訴權ノ消滅セシムル規定ナリ即チ權利ノ使用者ト使用者トノ間ニ於ケル訴權行使ノ期間ニ關スル規定ヲ權利ノ使用者以外ノ者ト權利使用者トノ間ニ於テモ右權利使用者ノ行ハレタル時ヨリ起算シテ職訟期限ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノト謂フヲ得ス（大正六・四・二〇）

○職訟期限ノ性質　大典會通及刑法大全ニ所謂職訟期限ノ規定ハ權利使用者ト被使用者間ニ於ケル訴權行使ノ期限ヲ定メ相對的ニ訴權ヲ消滅セシムル規定ニシテ絕對的ニ訴權ヲ喪失セシムル規定ニ非ス（大正二・四・二〇）

○債務消費貸借ト職訟期限　大正二年二月以前ニ至リ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ占有ヲ使用シタル場合ニ於テハ其後五年ヲ過クルニ依リテ五年ノ職訟期限ヲ經過セリトシテ右訴ヲ排斥シ得ヘキモノニ非ス（大正六・七・一七）

數百年以前ナル年度中ニ使用收益アリテ其以後五年ヲ過クルニ依リテ五年ノ職訟期限ヲ經過セリトシテ右訴ヲ排斥シ得ヘキ

○證書ノ喪失　舊田トハ若狹國ニ於テ發刷不完全ナル時代ニ於ケル便宜ノ爲メニ田ノ品等ニ依ヒ等級ヲ立テタルモノノ一種ニシテ證書ニ載シタル田ノ品等ハ證人ノ證言中某字田ハ舊田ナル旨ノ供述ニ所謂舊田ノ證書ニ非ス（大正七・一二・六）

○證書變移ノ訴ト職訟期限　有益變移ノ訴ハ大典會通ニ所謂元年ノ職訟期限ヲ無過セルトキハ出訴スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・一・一八）

○職訟期限ニ關スル規定ノ性質ト表定　職訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ナルニ依リ其證書變移ノ訴ハ職訟期限ノ經過ニ依リ許スヘキモノニ非スト解スルヲ表定ト抵觸スルモノニ非ス（昭

和二・一・一八）

徵債

○不正行爲ニ因ル債權ト聽訟期限　私債一年ヲ過クレハ聽訟ヲ許サストノ制ハ大限小限ノ規定ノ爲メニ自ラ廢止セラレタルモノト解スヘク而シテ不正行爲ニ因ル債權ニハ其適用ナカリシモノトス（明治四三・三・二八）

○凡徵債勿論公私過什二者杖八十徒二年ノ意義ト其適用　大典會通戶典徵債條中凡徵債勿論公私過什二者杖八十徒二年トアルハ元本額ニ對スル契約上ノ年利ヲ十分ノ二即チ二割以下ノ利息ニ制限シタル意義ナルモ實際ニ適用ナカリシモノナリ（明治四三・一〇・七）

○具證私債ニ對スル聽訟期限ノ適用　大典會通戶典徵債條ニ凡負私債有具證筆文記者許徵過一年不告官者勿聽トアル規定ハ從來其適用ナシ（明治四四・七・一一）

○問　當　大典會通ニ存セシ凡負私債有具證筆文記者許徵過一年不告官者勿聽ノ規定ハ刑法大全施行ノ直前ニ於テ行ハレタル法規ニアラス（大正六・九・二五）

卷之三　禮典　立後

○庶子アル場合ノ養子緣組ノ慣習　大典會通禮典立後條ニ嫡妾俱無子者告官立同宗支子爲後トアリ又其補文ニ私自立後者論罪云々トアルモ右規定ハ實際ニ行ハレス而シテ嫡子ナキ場合ニ庶子アルモ禮斜ヲ受ケスシテ養子ヲ爲スニ妨ナキコトハ庶人タルト宗親國戚タルトヲ問ハス朝鮮一般ノ慣習ナリ（大正二・五・二〇）

卷之六　工典　雜令

○大君六十間云々ノ制ト其適用　大典會通工典雜令中大君六十間云々ノ制ハ發布ノ當時ヨリ實施セラレタルモノニアラス假令實施セラレタリトスルモ建築者ニ於テ該制限以上ノ家屋ノ所有權ヲ失フコトナシ（明治四四・九・三〇）

卷	頁
一四	一
一	七三
一	一一六
一	三三一
四	七八一
二	二〇〇
一	三八一

電話規則

第十六條

○電話加入權ノ讓渡　所謂電話加入權ノ讓渡ハ加入者名義ノ變更ニ依リテ爲サルルモノナルカ故ニ當事者間ニ讓渡ノ合意成立スルモ加入者名義ノ變更ナキトキハ加入權ノ移轉ヲ認ムルヲ得ス然レトモ讓受人ハ讓渡ノ合意ニ因リテ讓渡人ニ對シ名義變更ノ手續履行請求權ヲ取得スヘク該請求權ハ一般ノ法則ニ遵ヒ讓渡ノ目的タリ得ルモノトス（昭和八・一〇・一〇）

朝鮮土地改良令

第四十七條

○土地改良ニ關スル債務ト競落人ニ對スル效力　組合員カ水利組合ニ對シテ負擔スル組合費、督促手數料、延滯金、滯納處分費等ノ債務ハ朝鮮土地改良令第四十七條ニ所謂土地改良ニ關スル義務ニ屬シ蒙利地カ公ノ競賣手續ニ依リ競賣セラレタル場合ニ於テハ水利組合カ其ノ有スル債權ニ付現實ニ配當ヲ受ケタルト否トヲ問ハス競落人タル新所有者ハ前主カ水利組合ニ對シ負擔セル土地改良ニ關スル債務ヲ承繼スルコトナキモノトス（昭和九・七・六）

○水利組合ノ滯納處分ト不當利得　競賣法ニ依ル競賣ニ因リ蒙利地ノ所有者トナリタル者ハ前主ノ水利組合ニ對スル組合費納入義務ヲ承繼スルコトナク同組合ヨリ其ノ義務アルモノトシテ滯納處分ヲ受ケタル爲止ムコトヲ得スシテ金員ノ支拂ヲ爲シタルトキハ不當利得ニ關スル民法ノ規定ニ依リ其ノ返還請求ヲ爲シ得ルモノトス（昭和一一・一・二一）

卷	頁
二〇	三三三
二一	二六九
二三	三〇

電話規則　朝鮮土地改良令

土地改良事業補助規則

第六條

○土地改良事業補助金評定標ノ性質　朝鮮總督カ土地改良事業補助規則ノ定ムル所ニ依リ土地改良事業ヲ行フ者ノ申請ニ付査定ノ上一定ノ補助金額ヲ定メ申請者ニ交付スヘキ旨指令書ヲ交付シタルトキハ國ト申請者トノ間ニ當該金額ノ給付ヲ目的トスル債權債務ノ關係成立スヘク該債權ハ一般ノ原則ニ從ヒ讓渡、差押、轉付ノ目的タリ得ルモノトス（昭和八・四・二一）

土地調査令

○査定ト職權調査事項　査定又ハ裁決ノ確定シタル事實ハ當事者ヨリ之ヲ主張スルニアラサレハ司法裁判所ニ於テ其事實ノ有無ヲ調査スヘキ義務ナキモノトス（大正四・七・六）

○爭アル査定名義人ノ認定ト證據　査定名義人ノ何人ナリヤハ一應査定名義人トシテ表示セラレタル所ニヨリ之ヲ定ムヘキモノナリト雖査定名義人ノ何人ナリヤニ付爭アリ其表示ノミニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得サル如キ場合ニハ他ノ證據ニ依リ土地調査局ニ於テ實質其所有ト査定シタルモノノ何人ナリヤヲ認メ之ヲ以テ査定名義人ト爲スヘキモノトス（大正八・五・九）

○査定ト大典會遇ニ所謂聽訟期限　聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ナルニ依リ旣裁判所ノ聽訟期限ノ經過ニ依リ許スヘキモノニ非スト解スルモ査定ト牴觸スルモノニ非ス（昭和二・一一・一八）

○査定後ニ於ケル土地申告前ノ所有者ノ調査　土地申告前ニ於ケル該土地ノ所有者カ果シテ甲者ナリシヤ否ヤノ事實ヲ調査スルコトハ査定ノ確定若クハ裁決アリタル後ト雖事實不能ノ事ニアラス故ニ當事者カ調査ノ上或土地ノ査定前其土地ノ所有者カ果シテ甲者ナルトキハ追認ニ不能ノ停止條件ヲ附シタルモノニアラスシテ過去ノ事實ヲ以テ停止條件ト爲シタルモノトス（大正六・三・三一）

第一節

○査定濟ノ土地ニ對スル權利歸屬ノ裁判　土地カ繼續シテ所有權ノ目的ヲナシタルヤ否ヤハ裁判所之ヲ判定スルヲ要シ査定ノ行ハルヘクシテ行ハレサリシ土地ニ付テハ裁判所ハ證據ニ依リ當事者ノ權利ノ歸屬ヲ判定スヘキモノトス（昭和七・五・二四）

○査定ノ所有權確定時期　土地調査令ニ依ル査定ハ調査申告當日ノ現在ニ付之ヲ爲シ査定當日ニ於ケル現在ニ付之ヲ爲スモノニ非ス（大正四・一二・二四）

第十節

○査定ノ所有權確定時期竝其ノ效力及確定判決前ニ申告シタリトノ主張ノ意義　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地申告又ハ通知當日ノ現在ニ依リ所有權ヲ確定スルモノニシテ其效力タル認定的效力アルニ過キス査定名義人ニ所有權ヲ附與スル效力ナキモノナルヲ以テ確定判決前ニ土地申告ヲ爲シ其後査定確定シタリト主張スルモノニシテ其判決後ニ新ニ所有權ヲ取得シタルコトヲ主張スルモノニアラス（大正七・七・九）

○査定ノ所有權確定時期及申告後ノ所有權移轉證明トノ牴觸　査定ハ申告日ニ於ケル土地所有權ヲ確定スルモノナレハ申告日以後其査定名義人タル者ヨリ所有權ヲ取得シタル者カ所有權ニ付證明ヲ受ケタルトキハ其證明ハ査定ト牴觸スルモノニ非ス（大正八・八・二六）

○査定ニ對スル不服申立ト所有權確定ノ時期　査定ニ對シ不服申立アリタルト否トヲ問ハス又不服申立人ノ所有ト裁決セラレタルト否トヲ問ハス申告當日ノ現在ニ依リ確定セラルルモノトス（大正一〇・三・二五）

○査定前ノ典當權ト査定ノ效力　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキ

ハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ參稱ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典常權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト紙續ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典常權ハ消滅スヘキ理由ナク典常權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノトス（大正七・一二・一九）

第十一條

○査定ニ對スル不服申立ト所有權確認訴訟ノ關係

大正元年八月制令第二號土地調査令ハ朝鮮國隆熙四年法律第七號土地調査法第八條第二項ノ如キ規定ナキヲ以テ同土地調査令施行後ニ在リテハ査定ニ對シ不服アル者ハ同調査令第十一條ニ依リ高等土地調査委員會ニ不服ヲ申立テ裁決ヲ求ムルト同時ニ其査定名義人ト爲リタル者ニ於テ其所有權ヲ爭ヒ若クハ同權利ニ對シ其他ノ訴訟ヲ爲スキハ司法裁判所ニ對シ所有權確認等ノ訴ヲ提起シ其保護ヲ求メ得ヘキモノトス（大正八・一一・二九）

第十五條

査定ノ效力

○査定ハ所有者ノミヲ確定ス

査定ハ所有者ノ所有權カ完全ナリヤ不完全ナリヤ卽其土地ハ他人ノ權利ノ目的トナレルモノナリヤ否ヤノ如キヨトヲ調査決定スルモノニ非ラス單ニ土地所有者ヲ確定スル效力アルニ過キス（大正七・一一・一九）

○査定ノ效力

土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定名義者ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絕對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス（大正五・五・一六）

○同　上

土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ一ノ行政處分ナレトモ其査定又ハ裁決確定シタルトキハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ヘ之ニ因テ確定セラレ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定又ハ裁決名義人ハ從來所有權トハ互ニ紙續ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正七・一二・一九）

第十一條

○査定ニ對スル不服申立ト所有權確認訴訟ノ關係

大正元年八月制令第二號土地調査令ハ朝鮮國隆熙四年法律第七號土地調査法第八條第二項ノ如キ規定ナキヲ以テ同土地調査令施行後ニ在リテハ査定ニ對シ不服アル者ハ同調査令第十一條ニ依リ高等土地調査委員會ニ不服ヲ申立テ裁決ヲ求ムルト同時ニ其査定名義人ト爲リタル者ニ於テ其所有權ヲ爭ヒ若クハ同權利ニ對シ其他ノ訴訟ヲ爲スキハ司法裁判所ニ對シ所有權確認等ノ訴ヲ提起シ其保護ヲ求メ得ヘキモノトス（大正八・一一・二九）

第十五條

査定ノ效力

○査定ハ所有者ノミヲ確定ス

査定ハ所有者ノ所有權カ完全ナリヤ不完全ナリヤ卽其土地ハ他人ノ權利ノ目的トナレルモノナリヤ否ヤノ如キヨトヲ調査決定スルモノニ非ラス單ニ土地所有者ヲ確定スル效力アルニ過キス（大正七・一一・一九）

○査定ノ效力

土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定名義者ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絕對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス（大正五・五・一六）

○同　上

土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ一ノ行政處分ナレトモ其査定又ハ裁決確定シタルトキハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ヘ之ニ因テ確定セラレ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定又ハ裁決名義人ハ從來所有權トハ互ニ紙續ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正七・一二・一九）

○査定ノ認定的效力ト其ノ確定時期

土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地申告又ハ通知當日ノ現在ニ依リ所有權ヲ確定スルモノニシテ其效力タル認定的效力アルニ過キス査定名義人ニ所有權ヲ附與スル效力ナキモノナルヲ以テ確定何決前ニ土地申告ヲ爲シ其後査定確定シタリト主張スルハ確定判決以前ニ土地ノ所有者タリシコトヲ主張スルモノニシテ其判決後ニ於ケル所有權ヲ取得シタルコトヲ主張スルモノニ非ス（大正七・七・九）

○合有土地ト一人又ハ數人名義ノ査定確定ノ效力及信託關係

一族二門ノ合有ニ係ル土地ニ付或一人又ハ數人ノ所有トシテ査定確定シタル場合ニ於テ其ノ持分ノ確定シタルトキハ其ノ所有申告ヲ爲シタル者ノ心意如何ヲ問ハス絕對ニ査定名義者ノ所有ト確定シ其ノ前ニ存セシ合有權ハ當然消滅ニ歸スヘク唯合有權者ト査定名義人トノ間ニ其ノ所有權ニ付信託契約ノ締結シアリタル場合ニ限リ査定確定ト同時ニ其ノ內部關係ニ於ケル所有權カ信託者タル合有權者ニ復歸スルコトアルニ過キサルモノトス（昭和五・二・二八）

○相續財產ヲ第三者ノ所有トスル査定ノ效力

相續財產ニ屬スル土地カ偶相續人其ノ他ノ第三者ノ所有トスル査定ノ確定スルニ至リタルトキハ從前ノ所有者ハ其ノ權利ヲ喪失シ當該土地所有權ニ關スル限リ正當ノ相續人又ハ其ノ一般承繼人ニ於テ相續ヲ理由トシテ之ヲ回復スルニ由ナキモノトス（昭和六・一二・八）

○信託者名義ノ査定ト受託者ノ權利消滅

査定前ノ所有者ヨリ土地ノ信託讓渡ヲ爲シタルニ拘ラス信託者カ其信託讓渡契約ヲ解除スルコトヲ欲シ自己ノ所有トシテ土地ノ申告ヲ爲シ査定確定セルトキハ信託者ノ査定ニ依ル所有權ト受託者ノ信託讓渡契約ニ依リ取得セル所有權トハ互ニ紙續ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正七・一一・一九）

○贈與者ノ査定ト受贈者ノ權利消滅

贈與契約ノ實行ニ因リ目的タル土地ノ所有權カ受贈者ニ移轉シタルモ未タ登記ヲ經サル間ニ贈與者カ所有權ヲ取得スルト同時ニ受贈者ハ所有權ヲ喪失スルヲ以テ爾後新ナル物權變動ノ發生ト共ニ贈與契約ニ準據スヘキ特別ノ事情ナキ限リ受贈者ハ贈與契約ニ依リ取得セル所有權トハ互ニ紙續ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正七・一一・一九）

○査定ノ認定的效力ト其ノ確定時期

土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地申告又ハ通知當日ノ現在ニ依リ所有權ヲ確定スルモノニシテ其效力タル認定的效力アルニ過キス査定名義人ニ所有權ヲ附與スル效力ナキモノナルヲ以テ確定何決前ニ土地申告ヲ爲シ其後査定確定シタリト主張スルハ確定判決以前ニ土地ノ所有者タリシコトヲ主張スルモノニシテ其判決後ニ於ケル所有權ヲ取得シタルコトヲ主張スルモノニ非ス（大正七・七・九）

○合有土地ト一人又ハ數人名義ノ査定確定ノ效力及信託關係

一族二門ノ合有ニ係ル土地ニ付或一人又ハ數人ノ所有トシテ査定確定シタル場合ニ於テ其ノ持分ノ確定シタルトキハ其ノ所有申告ヲ爲シタル者ノ心意如何ヲ問ハス絕對ニ査定名義者ノ所有ト確定シ其ノ前ニ存セシ合有權ハ當然消滅ニ歸スヘク唯合有權者ト査定名義人トノ間ニ其ノ所有權ニ付信託契約ノ締結シアリタル場合ニ限リ査定確定ト同時ニ其ノ內部關係ニ於ケル所有權カ信託者タル合有權者ニ復歸スルコトアルニ過キサルモノトス（昭和五・二・二八）

○相續財產ヲ第三者ノ所有トスル査定ノ效力

相續財產ニ屬スル土地カ偶相續人其ノ他ノ第三者ノ所有トスル査定ノ確定スルニ至リタルトキハ從前ノ所有者ハ其ノ權利ヲ喪失シ當該土地所有權ニ關スル限リ正當ノ相續人又ハ其ノ一般承繼人ニ於テ相續ヲ理由トシテ之ヲ回復スルニ由ナキモノトス（昭和六・一二・八）

○信託者名義ノ査定ト受託者ノ權利消滅

査定前ノ所有者ヨリ土地ノ信託讓渡ヲ爲シタルニ拘ラス信託者カ其信託讓渡契約ヲ解除スルコトヲ欲シ自己ノ所有トシテ土地ノ申告ヲ爲シ査定確定セルトキハ信託者ノ査定ニ依ル所有權ト受託者ノ信託讓渡契約ニ依リ取得セル所有權トハ互ニ紙續ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正七・一一・一九）

○贈與者ノ査定ト受贈者ノ權利消滅

贈與契約ノ實行ニ因リ目的タル土地ノ所有權カ受贈者ニ移轉シタルモ未タ登記ヲ經サル間ニ贈與者カ所有權ヲ取得スルト同時ニ受贈者ハ所有權ヲ喪失スルヲ以テ爾後新ナル物權變動ノ發生ト共ニ贈與契約ニ準據スヘキ特別ノ事情ナキ限リ受贈者ハ贈與契約ニ依リ取得セル所有權トハ互ニ紙續ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正六・三・二七）

約ニ依リ登記並ニ引渡ノ義務ハ査定確定ノ日ニ受贈者ノ所有權ノ喪失スルト同時ニ自然消滅ニ歸スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○賣主名義ノ査定ト買主ノ權利　賣主カ土地賣買契約成立後未タ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行セサル前ニ於テ賣主名義ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタルトキハ所有權ノ既ニ買主ニ移轉シタルニ拘ラス恣ニ自認シテ所有申告ヲ爲シタリト解セヨリハ寧ロ賣主トシテ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行スル便宜上之カ所有申告ヲ爲シタルニ外ナラサルト共ニ買主ニ於テモ其旨趣ヲ諒シ賣主名義ヲ以テ所有申告ヲ爲スコトヲ容認シタルモノト認ムルハ取引ノ通念ニ適スルモノト爲スヘク斯ル場合ニ在テハ其當事者間ニハ明示又ハ默示ノ合意ニ依リ一種ノ信託關係發生シ買主ハ內部關係ニ於テ所有權ヲ保留シ賣主ハ外部關係ニ於テ所有者トナリテ査定又ハ裁決ヲ經ケ賣主名義ニ所有權確定シタルトキハ之ト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要セスシテ當然其所有權ハ買主ニ移轉シ賣主ハ賣買名義ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ約シタルモノト解スルヲ妥當トス（大正一〇・一一・八）

○査定ニ牴觸セル抵當權ノ消滅　土地調査令ニ依ル土地ノ査定ハ土地ノ所有者ト確定セラレタルモノハ査定前所有權ヲ有セシト否トニ拘ラス絕對ニ其土地ノ所有者トナリ何人ニ對シテモ其所有權ヲ主張シ得ヘク反之査定前ニ適法ニ所有權ヲ取得シタルモノト雖査定ヲ受ケサルトキハ爾後其所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ斯ル所有權ハ査定ニ依リ消滅ニ歸シ從テ査定ニ牴觸セル所有權ニ基キ設定セラレタル抵當權ノ如キモ其基本タル所有權ノ消滅スルト同時ニ是亦消滅スルモノトス（大正七・一一・一九）

○査定ニ牴觸セサル抵當權ノ效力　對抗スルコトヲ得ヘキ典當權（抵當權）ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人ト爲ルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ（大正八・五・六）

○査定ニ牴觸セサル典當權ノ基ク競落人名義ノ證明　土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人ト爲ルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十

六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ（大正八・五・六）

○典當土地ヲ讓受ケタル査定名義人ト典當權　土地ノ所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權者ニ於テ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有權者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人トナリタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ヲ牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノトス（大正八・八・二六）

○査定前ノ典當權ト査定ノ效力　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○申告日以後ニ於ケル査定ニ牴觸セサル典當權ノ實行ト競落人ノ所有權　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○査定ト對抗力　土地調査令ニ基キ査定ノ確定又ハ裁決ニ依リテ土地所有者ノ權利カ確定シタルトキハ再審ノ申立ニ因リテ變更セラレサル限リハ其査定名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絕對ニ其土地ノ所有者ト確定スヘキヲ以テ査令以前ニ

爲サレタル賣買ニ付朝鮮民事令第十三條民法施行法第三十七條朝鮮不動產證明令第一條ノ規定ニ依リ朝鮮民事令施行後一年內ニ證明ヲ受ケサリシトスルモ査定名義人ハ何人ニ對シテモ査定ノ確定ニ依リテ確定シタル土地所有者タル權利ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正七・五・一七）

○査定ト裁判所ニ對スル[illegible]束力　司法裁判所ニ於テハ係爭地ニ對シ曩ニ査定又ハ裁決ノ確定シタル事實ヲ認ムル以上ハ其後ニ於ケル所有權移轉變更等ノ事實ナキ限リ査定又ハ裁決名義人ノ爲ニ其所有權ヲ認メサルヘカラス（大正六・三・二七）

○査定ニ反スル所有者認定ノ違法　査定ニ依リ土地ノ所有者ナリト確定セラレタルモノアル事實ヲ認メナカラ他ノ一方ニ於テ其土地ニ付テハ他ニ眞正ナル所有者アル旨ノ認定ヲ爲スハ失當ナリ（大正七・三・二二）

○査定以前ノ事由ニ基ク査定ニ反スル主張　土地所有者ノ權利ニシテ査定若クハ裁決ニ因リテ確定シタル以上ハ其以後ニ生シタル事由ニ基キテ司法裁判所ニ出訴シタル場合ハ格別其以前ニ於ケル事由ニ基キテ同一土地ノ所有權ニ關シ司法裁判所ニ對シ査定若クハ裁決ニ反スル判決ヲ求メントスル請求ハ認容スヘキモノニ非ス（大正六・七・九）

○虛僞ノ意思表示ニ因ル讓渡ニ基ク査定ノ效力ト民法第九十四條ノ適用　當事者カ虛僞ノ意思表示ニ依リ土地ヲ讓渡シ其讓受人（乙）ニ於テ査定ヲ受ケタルトキハ讓渡人（甲）カ査定後乙ヨリ更ニ其權利ノ移轉ヲ受ケタルコトヲ主張スルハ格別苟モ其主張ニシテ單ニ査定前ノ事由タル虛僞ノ意思表示ハ無效ナルカ故ニ同土地ノ所有權ハ依然自己ニ存スルモノナリトシ査定前其所有者タリシコトニ基キ請求ヲ爲スモノナルトキハ査定ト相容レサル權利ヲ主張シ請求ヲ爲スモノニ外ナラサレハ其請求ハ之ヲ排斥スヘキモノニシテ斯ル場合ニハ査定ノ結果民法第九十四條ノ規定ハ其適用ヲ排除セラルルモノトス（大正七・一二・一七）

○虛僞ノ讓渡ニ因ル査定後ノ處分ト民法第九十四條ノ適用　甲カ乙ニ對シ虛僞ノ意思表示ニ依リ土地ヲ讓渡シ乙自ラ其土地ニ付査定ヲ受ケ之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ其第三者ハ甲乙間ニ該土地カ虛僞ノ意思表示ニ依リ讓渡セラレタルコトヲ知ルト否トニ拘ラス完全ニ所有權ヲ取得シ甲ハ第三者ニ對シ虛僞ノ意思表示ノ無效ナルコト及第三者カ惡意ナルコトヲ主張シ第三者ノ權利ヲ否定スルヲ得サレハ斯ル場合ニハ査定確定ノ結果民法第九十四條第二項ノ規定ハ其適用ヲ排除セラルルモノトス（大正七・一二・一七）

○査定ト時效中斷　査定ハ其ノ公告ノトキニ於テ時效中斷ノ效力ヲ生ス査定公告ノトキニ於テ未タ取得時效ノ完成セサル所有權ニ付テハ其ノ確定後新ニ全時效期間ヲ經過スルニ非サレハ權利ヲ取得セス（昭和二・四・一六）

○共有財產タルコトヲ竝記シタル一人名義ノ査定ノ效力　土地調査局ニ於テ土地ノ査定ヲ爲スニ際リ共有者ノ一人ノ氏名及宗中共有財產タルコトヲ竝記シ査定ヲ爲シタルトキハ共有者ノ一人ハ他ノ共有者全員トノ信託契約ニ因リ外部關係ニ於テ完全ナル所有權ヲ取得シタルモノトシ一人ノ所有ト査定シタルモノト解スヘク宗中共有財產タルコトノ記載ハ單ニ共有者ノ一人タル査定名義人ト他ノ共有者全員トノ內部關係ニ於テ共有者ノ所有タルコトヲ表明シタルニ過キスシテ圖ヨリ土地調査令ニ依ル査定トシテ所有權ヲ確定スル效力ヲ有セサルモノト解セサルヘカラス（大正一三・一二・二六）

○反　對　法人ニアラサル書院所屬ノ土地カ書院ニ奉祀セラルル先賢子孫ノ共有タル場合ニ其共有者協議ノ上共有者ノ一人若ハ共有者以外ノ者ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲シ査定ヲ求ムルニ當リ當該官廳カ書院所屬財產タルコト及申告名義人ノ氏名ヲ竝記シ査定シタルトキハ名義人ハ共有者全員トノ信託契約ニヨリ外部關係ニ於テ完全ナル所有權ヲ取得セルモノトシ其所有ト査定シタルモノト解スヘキモノニシテ其書院所屬財產タルコトノ記載ハ固ヨリ土地調査令ニ依ル査定トシテ所有權確定スル效力ナク單ニ査定名義人ト共有者全員トノ內部關係ニ於テ共有者ノ所有タルコトヲ表明セルモノト解スルノ外ナキモノトス（大正七・四・一六）

○共有者カ共有者ノ一人ニ對シ土地ヲ信託讓渡スルコトナクシテ共有者團體ノ共有名義ヲ以テ申告ヲ爲スヘキコトヲ依賴シ同共有者ノ一人カ其依賴ニ基キ團體員ノ共有トシテ申告ヲ爲シ土地調査局ニ於テ其共有者ノ一人ノ氏名及團體有財產タルコトヲ竝記シ査定ヲ爲シタルトキハ其共有者全員カ協議ノ上其共有者ノ一人ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲サシメ査定ヲ受ケタル場合ト異ナリ共有者ノ一人ト他ノ共有者全員トノ間ニハ信託關係ナク申告ハ團體員ノ共有トシテ爲サレタルモノナルヲ以テ土地調査局カ其共有者ノ一人及團體有財產タルコトヲ表示シ査定セルハ即同共有者ノ一人外幾人ノ共有トシテ査定セルト

竜モ擇フ所ナキカ故ニ斯ル場合ニハ同共有者ノ一人及團體員タル他ノ共有者全員カ査定名義人ト爲リタルモノト解スルヲ相當トス　（大正八・五・九）

○管理行爲ト査定　他人ノ爲メ管理行爲トシテ自己名義ニテ査定ヲ受ケタリトスルモ其所有權ハ査定ノ確定ニ依リ査定名義人ノ所有ト確定スヘキモノトス　（大正六・五・一八）

○事務管理ニ因ル査定名義人ノ義務ト返還契約ノ趣旨　民法第七百一條第六百四十六條ニ依レハ事務管理ニ於ケル管理者ハ本人ノ爲メ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルヲ以テ他人ノ土地ニ付事務管理トシテ管理人カ自己ノ名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ自己名義ニ査定シタルトキハ其所有權ハ本人ノ爲メニ自己名義ヲ以テ取得シタルモノニ外ナラサレハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルハ勿論ニシテ其申告ヲ爲シタル後右管理者及本人間ニ於テ何時ニテモ本人ニ所有名義移轉登記手續ヲ爲スヘク約シタルトキハ管理者カ事務管理上ノ權利移轉義務ヲ認メテ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタルモノニシテ本人ノ請求次第當然所有權ハ本人ニ移轉シ直ニ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタル趣旨ト解スルヲ妥當トスルカ故ニ斯ル契約ニハ債權契約ト物權契約ト併存スルモノト解スルハ當然ナリ　（大正九・六・四）

信託ト査定

○査定ノ爲ノ信託契約ト公序良俗　土地ノ所有者タリシ者カ一應其權利ヲ信託的ニ他人ニ讓渡シ其他人ヲシテ土地ノ査定ヲ受ケシメ該査定確定後更ニ其權利ノ移轉ヲ受クルコトヲ約スルハ何等公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルモノニアラス　（大正六・三・三一）

○受託者名義ノ所有申告ト其ノ性質　信託ニ因リ公簿上土地所有名義ヲ有スル者カ其ノ名ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタル場合ニ於テハ一應受託者カ信託契約ノ趣旨ニ從ヒ信託ノ目的タル土地ノ所有權ヲ保存セムカ爲ニ之ヲ爲シタルモノト觀ルヲ相當トス　（昭和四・一一・二九）

○受託者名義ノ査定ト當事者ノ意思　土地ノ信託讓渡ノ存スル場合ニ於テ受信者カ其讓渡ノ土地ニ付土地調査令ニ基キ自己名義ヲ以テ査定若クハ裁決ヲ受クルコトハ普通信託契約ノ約旨中ニ包含スルモノト解スルヲ以テ最モ當事者ノ意思ニ適合シタルモノトス　（大正七・一二・二八）

○受託者名義ノ査定ト內部關係ニ於ケル信託者ノ權利　査定若クハ裁決カ受信者名義ニ確定スルモ內部關係ニ於テハ尙信託者ハ受信者ニ對シ其所有權ヲ主張シ得ヘキモノナレハ此ノ一事ヲ以テ直ニ信託者ノ所有權ヲ否定スヘキモノニアラス　（大正七・一二・二八）

○同　旨　土地ノ信託讓渡ヲ受ケタル受信者カ其讓渡ノ土地ニ付土地調査令ニ基キ自己名義ヲ以テ査定若クハ裁決ヲ受クルコトハ普通信託契約ノ約旨中ニ包含セルモノト解スルヲ以テ最モ當事者ノ意思ニ適合シタルモノナルカ故ニ査定若クハ裁決カ受信者名義ニ確定スルモ內部關係ニ於テハ尙信託者ハ受信者ニ對シ其所有權ヲ主張シ得ヘキモノニシテ此一事ヲ以テ直ニ信託者ノ所有權ヲ否定スヘキモノニアラサルコトハ當院ノ判例(大正七年民上第三三九號同年十二月二十八日判決參照)トシテ示ス所ニシテ右判決ハ信託行爲タル賣渡抵當ニ付表示セル意見ナリト雖外部關係ニ於テ所有權移轉ノ效力ヲ生セシメ內部關係ニ於テ其移轉ノ效果ヲ生セシメサル他ノ信託讓渡ノ場合ニ於テモ其法理ヲ異ニスヘキ理由ナシ　（大正八・三・三一）

○同　旨　土地所有權ニ關シテ信託契約ヲ締結シ之ニ基キ受信者カ土地調査令ニ依リテ所有申告ヲ爲シタルトキハ假令受信者名義ニ査定確定シタルトキト雖モ特約アラサル限リハ受信者ハ信託者ニ對シテ信託者ノ所有權ヲ否定スルコトヲ得サルモノトス　（大正九・二・一三）

○受託者名義ノ査定ト所有權ノ歸屬　內部關係ニ於テ所有權カ依然トシテ信託者ニ存セリト爲スヘキ場合ニ在リテ受信者名義ニ査定確定シタルトキハ信託者カ受信者ニ對シ內部關係ニ於テ主張スルコトヲ得ヘキ所有權ハ其信託ノ關係上査定ノ確定スルト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要スルコトナク當然受信者ヨリ信託者ニ移轉セラレタルモノト見ルヘキモノトス　（大正九・二・一三）

○信託ニ因ル査定ト受託者死亡ニ因ル相續人ノ承繼　信託契約カ當事者ノ一方ノ死亡ニ因リ當然消滅スルコトナキヤ否ヤハ信託契約ノ內容ニ依リ決スヘキモノトス而シテ土地所有權ノ信託的讓渡ノ場合ニ於テ受信者カ信託契約ニ基キ自己名義ヲ以テ所有

由ヲ以テ査定確定シタル後死亡スルモ信託契約ハ之ニ因リ當然消滅スルコトナク其相續人ニ於テ承繼スベキモノトス（大正八・五・六）

合有ト査定

○合有土地ニ對スル査定ノ效力　一族一門ノ合有ニ係ル土地ニ付或一人又ハ數人ノ所有トシテ査定濟ノ確定シタル場合ニ於テハ其ノ所有ノ由來ヲ爲シタル心意如何ヲ問ハス總テ査定名義者ノ所有ト確定シ其ノ前ニ在リテ合有關係ハ當然消滅ニ歸スルモノトス唯合有者ト査定名義人トノ間ニ其ノ所有權ニ付信託契約ノ締結シアリタル場合ニ限リ査定確定ト同時ニ其ノ內部關係ニ於ケル所有權カ信託者タル合有者ニ復歸スルコトヲ要セサルモノトス（昭和五・二・二八）

共有ト査定

○共有者一人名義ノ査定ノ效力　共有ノ土地ニ付共有者ノ一人カ他ノ共有者ノ爲ニスルコトヲ示サス單ニ自己一人ノ名義ヲ以テ單獨所有トシテ土地ノ由來ヲ爲シ該申告ニ基キ査定又ハ裁決アリタルトキハ査定又ハ裁決ノ效力トシテ該土地ハ全然其名義人ノ所有ト確定セラルルモノトス（大正七・七・二三）

○共有土地ニ對スル單獨名義ノ査定　共有者カ共有者中ノ一人ヲシテ單獨名義ヲ以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシメタルトキハ其共有者ハ右査定名義者ニ對シテハ共有權ヲ主張シ得ヘキモ爾三者ニ對シテ共有權ヲ主張スルヲ得ス（大正六・一・一六）

○全員總代ニ因ルー人名義ノ査定ト他ノ共有者ノ權利　從來共有ノ土地ヲ共有者全員協議ノ上共有者ノ一人ヲシテ其單獨名義ヲ以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシメタル場合ニ於テ査定名義者タラサル共有者ハ査定名義者ニ對シ該契約ニ基キ共有權ヲ主張シ得ヘキモノトス（大正七・一・二三）

○共有者ノー人ヲシテ査定ヲ受ケシムルコトヲ目的トスル委任契約ノ經旨　如上契約ノ內容ハ普通ニ査定ノ確定又ハ裁決ニヨリ査定名義人ノ所有ト確定シタルトキハ其共有權ニ付テモ契約者間ニ共有關係ヲ生シ外部關係ニ於テハ査定名義者ノ所有ナルモ內部關係ニ於テハ共有者間ノ共有ニ屬スルモノト認ムルノ旨趣ヲ包含スル契約ナリト解スヘキモノトス（大正七・一二・二三）

査定ト不法行爲

○權限ノ所有者ト不法行爲　土地調査令ニ依リ所有申告ヲ爲スニ當リ申告者カ衆所所有ヲ行セルニ拘ラス自己名義ノ査定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ申告ヲ爲シ且ツ之ニ因リ査定ノ確定ヲ得タル者ハ其ノ所有ノ權利ヲ侵害シタルモノト爲スヘキニ非ス只査定カ申告者ノ不法行爲ニ原因スルコト明ナル場合ニ於テハ査定ノ不法行爲ト因果關係ヲ惹起シタル實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタルトキハ其ノ不法行爲ニ因リ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（大正二・六・二六）

○裁決ニ基ク査定ヲ受ケタル人ノ權利讓渡ト不法行爲　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ對スル訴願ノ裁決ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩者對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ登記ヲ經テ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ今然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス（大正一四・一二・二六）

○裁決ニ基ク査定名義人ノ權利讓渡ニ因ル損害賠償ノ額定　前項ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ハ確定判決ノ勝訴者カ査定名義人又ハ裁決名義人ノ關係ニ於テ有セシ權利狀態ヲ基本トシ目的タル土地ノ上ニ現實ニ及ホセシ又配關係ノ確固確實ヲ參酌シテ之ヲ額定スヘキモノトス（大正一四・一二・二六）

査定ト裁決

○査定ト裁決トノ竝立　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ私權關係ヲ確定スルモノトス（大正四・七・六）

○査定ト裁決トノ效力ノ差異　土地調査令ニ基キ爲シタル査定ノ確定又ハ裁決モ司法裁判所ノ爲シタル判決モ共ニ土地所有者ノ

○權利ヲ確定スルモノナリ唯其效力範圍ニ廣狹ノ差アリ前者ハ一般的ニ羈束力ヲ生シ後者ハ當事者間ニ羈束力ヲ生ス（大正六・三・二三）

○互ニ牴觸セル査定ト判決トノ效力　確定セル査定ト判決ト其結果ニ於テ互ニ牴觸シ相容レサルトキト雖二者其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ於テハ兩々相對シテ互ニ相侵スコトヲ得ス單ニ其行爲ノ前後ノミニ依リ二者ノ間其效力ニ優劣ヲ付スヘキモノニ非ス（大正六・三・二三）

○同　旨　査定又ハ裁決カ判決ト其結果ニ於テ相牴觸スルコトアルモ此ノ兩者ハ全然其系統ヲ異ニセル國家機關ノ行爲ニ依リ各自獨立シテ其所有權ヲ確定シ兩々相對立シ互ニ相侵スコトヲ許サルモノナレハ査定又ハ裁決ノ效力ハ確定判決ニ對シ何等影響ナキト同時ニ確定判決ノ效力モ亦査定又ハ裁決ニ對シ何等影響ヲ及ホスモノニアラス（大正七・七・九）

○査定ニ牴觸スル判決ニ因ル保存登記ノ效力　甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自已ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス（大正七・七・九）

○牴觸セル査定及判決ニ基ク各權利行使ノ限界ト權利侵害　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵害セラレタルモノハ侵奪者ヲ相手取リ之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス（大正八・三・一四）

○牴觸セル査定及判決ニ基ク各權利行使ノ限界　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ再審ノ申立ニ依リ變更セラレサル限リハ絕對的效力ヲ生スルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク又司法裁判所カ土地所有權ノ有無ニ關シテ判決ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ其當事者間ニ在リテハ羈束力ヲ生スルニ依リ其一方ハ他ノ一方ニ對シ判決ニ因リテ定マリタル所有權ノ有無ニ付之ヲ主張スルヲ得ヘシ從テ若シ同一土地ノ所有權ニ關シ査定又ハ裁決ト確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナレハ其行爲ノ前後ニ依リテ其效力ニ優劣ヲ付スヘカラサルハ勿論斯ル場合ニ於テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ在リテハ兩々相對立シテ其效力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ於テハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト同時ニ又他ノ一方ヲシテ確定判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ當事者間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノトナスヲ妥當トスルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ之ヲ變更スルノ理由アルヲ認メス（大正一〇・一二・二三）

○牴觸セル判決又ハ査定名義人ノ特定承繼人ト確定判決ノ旣判力　確定判決ノ勝訴者ハ査定名義人又ハ裁決名義人ヨリ其權利ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテ旣判力ヲ主張スルヲ得ス之ニ反シテ第三者ハ其讓受ニ因リ何人ニ對シテモ査定又ハ裁決ノ效力ヲ主張シ得ヘキヲ以テ第三者ハ右ノ確定判決ニ依リテハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク其所有權ヲ主張スルヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス之ト同シク査定名義人又ハ裁決名義人カ確定判決ノ勝訴者ヨリ權利ノ讓渡ヲ受ケタル特定承繼人ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ該特定承繼人ハ旣判力ヲ主張スルヲ得サルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ完全ニ其所有權ヲ主張シ得ヘシ（大正一一・一〇・一三）

○同　旨　甲乙間ニ於テ同一土地ノ所有權ニ付爭ヲ生シ一方ニハ訴訟ノ結果甲ノ所有ト認ムル旨ノ確定判決アリ他方ニハ土地

調査令ニ依ル審査ノ結果乙ノ所有ト確定スル旨ノ査定又ハ裁決アリタルトキハ前々相對立シ其效力ヲ爭ヒタル所有權ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナク從テ其權利ヲ行使シ得ヘキモノナリトスルコト當院ノ夙ニ判例トスル所ナリ更ニ査定又ハ裁決ノ效力トシテ既ニ第三者ニ對抗シ得ルカ爲メナリ然レトモ確定判決ノ既判力ハ訴訟當事者及其一般承繼人ノ間ニ限リ其效力ヲ及ホスヘキモノニシテ其以外ノ第三者ニ對シテハ縱令同一土地ヲ讓受ケ其權利ヲ承繼シタルモノト雖其效力ヲ及ホスヘキニ非サルヲ以テ確定判決ノ當事者タル甲ハ査定名義人又ハ裁決名義人タル乙ヨリ土地所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丙ニ對シ確定判決ニ基ク所有權ヲ主張スルコトヲ得ス從テ丙ハ乙ノ所有權ヲ否認スル主張スルコトヲ得サルモノニシテ寧ロ乙ヨリ丁ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス（大正二・一一・一七）

○何人ニ對スル査定ニ基ク登記ノ效力　大正三年制令第十六號ニ依リ拔消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ登記ノ抹消ヲ求ムヘキ所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ト査定又ハ裁決アリタルトキハ前ノ查定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ抵觸スル證明ナリトシテ之カ拔消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基ク登記官吏カ右拔消ヲ爲シ更ニ乙名義ノ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ既ニ拔消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早既判力ヲ援由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ拔消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノ拔消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（大正二・一一・一七）

○反對ノ判決ニ依リ後更ニ甲ノ名義ニ歸シタル土地ニ付乙ノ所有權ヲ爭ヒ訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決ニ基キ甲カ爲シタル所有權保存登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノニシテ寧ロ乙ヨリ丁ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス（大正二・一一・一七）

○査定又ハ裁決ニ對スル再審ノ訴ト確定判決ニ對スル再審ノ訴トハ兩々相對立シ其效力ニ於テ毫モ差異ナキモノニシテ唯タ前者ハ査定又ハ裁決ノ確定ニ至ラサル間ニ於ケル救濟方法ニシテ後者ハ既ニ確定シタル判決ニ對スル救濟方法ナルノ點ニ於テ其趣ヲ異ニスルニ過キス（大正七・七・九）

○査定名義人ノ承繼人ト確定判決ノ既判力　査法ノ下ニ於ケル確定判決モ新法施行後ニ在リテハ民事訴訟法第二百一條所定ノ既判力ヲ有スルヲ以テ裁決（又ハ査定）名義人ヨリ其ノ權利ヲ承繼シタル者カ同法條ノ所謂口頭辯論終結後ノ承繼人ニ該當スルトキハ裁決ノ既判力ノ對抗ヲ受ケ其ノ效果ニ服スヘキ關係ニ在ルモノナルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ基キ裁決（又ハ査定）ノ效果ヲ變更シタル確定判決ニ因リ爲サレタル登記又ハ證明ノ拔消ヲ爲シ得ルモノトス（昭和元・七・八）

第十六條

○減歩ト査定ノ效力　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル高等ノ地主ニ因リ變更セラレサル限リハ裁決名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス總テ其土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス（大正五・五・一六）

○同　上　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ノ一ノ行政處分タルトモ其査定又ハ裁決ハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ハ之ニ因テ確定セラレ同令第十六條ニ規定スル許可ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定又ハ裁決名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス總テ其土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス（大正六・三・二七）

○同　上　土地調査令ニ基キ査定ノ確定又ハ裁決ニ依リテ土地所有者ノ權利カ確定シタルトキハ許可ノ申立ニ因リテ變更セラレサル限リハ其査定名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス總テ其土地ノ所有者ト確定スヘキヲ以テ假令以前ニ爲サレタル賣買ニ付財産民事令第十三條民法施行法第三十七條財產不動產證明令第一條ノ規定ニ依リ財產民事令施行後一年內ニ證明

ヲ受ケサリシトスルモ査定名義人ハ何人ニ對シテモ査定ノ確定ニ依リテ確定シタル土地所有者タル權利ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正七・五・一七）

土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件（大正三年制令第十六號）

第一條

○大正三年制令第十六號第一條第三項ノ意義　大正三年五月制令第十六號土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件第一條第三項ノ規定ハ登記又ハ證明ヲ經タル所有權以外ノ權利中ニハ査定名義人自身ニ於テ設定セサルモ査定ニ依リ確定セラレタル所有權ト牴觸セサル權利ニ基キ設定セラレ査定名義人ト雖之ニ服從セサルヘカラサルモノアルヘキヲ以テ一應登記又ハ證明ヲ經タル所有權以外ノ權利者ノ權利ヲ尊重シ同規定ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ之ヲ抹消スルヲ得ストスルモノニ過キス（大正七・一一・一九）

○對抗力アル典當權ト査定　對抗スルコトヲ得ヘキ典當權（抵當權）ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ（大正八・五・六）

○證明ニ基ク典當權實行ト之カ競賣ノ效果　債權者カ債務者ノ所有トシテ現實ニ證明簿ニ證明シアル土地ニ對シ典當權ヲ實行スル爲メ競賣ノ申立ヲ爲スニハ其申立書ニ證明簿上ノ現所有者ヲ記載スルヲ以テ競賣法第二十四條第二項第一號ニ規定スル所有者ヲ記載スヘキ要件ヲ具備スルモノト爲スヘク從テ其競賣申立ニ基キ競賣手續ヲ完了シタルハ相當ナルヲ以テ其當時他ニ證明簿上ニ證明シアラサル所有者アリトスルモ右競賣ニ因ル競落ハ有效ニシテ競落人ハ競賣ノ目的物タル土地ニ付所有權ヲ取得シ典當權ハ競賣法第二條第二項ニ依リ消滅ニ歸スルモノトス（大正八・五・六）

○典當權ノ對抗ヲ受クヘキ査定名義人ト競落證明抹消請求權ノ有無　土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ（大正八・五・六）

○査定申告後ノ所有權移轉證明ト査定ノ牴觸　査定ハ申告日ニ於ケル土地所有權ヲ確定スルモノナレハ申告日以後其査定名義人タル者ヨリ所有權ヲ取得シタル者カ所有權ニ付證明ヲ受ケタルトキハ其證明ハ査定ト牴觸スルモノニ非ス（大正八・八・二六）

聯 **○査定ニ牴觸セルモ確定判決ニ依ル登記ハ抹消スルヲ許サス**　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ査定又ハ裁決ニ依リ確定セラレタル所有權ト牴觸スルモ確定判決ニ因リテ其ノ效力ヲ保有セラレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トス（大正一〇・一二・二三）

○同　旨　大正三年制令第十六號第一條ニ土地所有權カ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ之ト牴觸スル登記又ハ證明ノ抹消申請ヲ許スコトヲ規定シタルハ單ニ査定又ハ裁決ノ效力ヲ確保スルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ其抹消セラルヘキ登記又ハ證明ハ査定又ハ裁決ノ效力ニ對抗スルヲ得スシテ之カ爲メニ排除セラルヘキモノタルヲ要シ確定判決ト査定又ハ裁決ト其結果ヲ異ニスルモ兩立シテ其效力互ニ相侵スヘカラサル場合ニハ該確定判決ニ基キ爲シタル登記ハ同條ニ所謂牴觸スル登記トシテ抹消スルヲ得ス（大正一〇・一二・二三）

聯 **○本制令ト査定又ハ裁決ニ因リ得タル權利ノ讓受人ニ對スル旣判力ノ效果**　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ニ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリト査定又ハ裁決アリタリトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲

シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ牴觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ニ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早旣判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス叙上ノ如ク丙ノ爲シタル所有權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（大正一一・一一・一七）

巻 頁　九 四七四

○受託者名義ノ査定ト信託者名義ノ登記　甲カ自己所有ノ土地ニ付所有權保存ノ證明又ハ登記ヲ經由シタル後ニ乙ニ信託シテ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタル結果乙名義ニ査定アリタルトキハ甲名義ノ證明又ハ登記ハ大正三年制令第十六號第一條ニ依リ右査定ニ牴觸スルモノトシテ當然抹消セラルヘキ運命ニ在ルモノトス從テ其ノ後甲カ乙ニ對スル信託ヲ解除シ其ノ所有權ヲ回復シタリトスルモ義ニ爲シタル證明又ハ登記ヲ其ノ儘利用シ所有權回復後ノ新ナル證明又ハ登記ト同一視スルコトヲ得サルニ依リ更ニ乙ヨリ甲ニ對スル所有權移轉ノ證明又ハ登記ヲ受クルニ非サレハ其ノ所有權ヲ以テ査定名義人タル乙ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者丙ニ對抗スルコトヲ得サルハ勿論甲ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者丁モ亦丙ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正一四・三・一〇）

一三 五三

○査定ニ牴觸スル登記抹消請求訴訟　林野ノ所有權カ土地調査令又ハ朝鮮林野調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ於テ之ト牴觸スル登記アルトキハ林野ノ所有者ハ大正三年制令第十六號第一條又ハ第十條ノ規定ニ依リ登記名義人ノ關與ヲ要セスシテ自ラ其ノ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得ルモノナレハ之カ爲ニ登記名義人ニ對シ特ニ訴訟ヲ提起スル如キハ全ク無用ノコトニ屬シ之ニ付何等法律上ノ利益ヲ有セサルモノトス（大正一四・五・一五）

○裁決（又ハ査定）名義人ヨリ權利ヲ承繼シタル者ト確定判決ノ旣判力　舊法ノ下ニ於ケル確定判決モ新法施行後ニ在リテハ民事訴訟法第二百一條所定ノ旣判力ヲ有スルヲ以テ裁決（又ハ査定）名義人ヨリ其ノ權利ヲ承繼シタル者カ同法條ノ所謂口頭辯論終

一三 一九六

結後ノ承繼人ニ該當スルトキハ叙上確定判決ノ旣判力ノ對抗ヲ受ケ其ノ效果ニ服スヘキ關係ニ在ルモノナルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ基キ該裁決（又ハ査定）ノ效果ヲ援用シテ同確定判決ニ因リ爲サレタル登記又ハ證明ノ抹消ヲ爲シ得サルモノトス（昭和五・七・八）

一七 一四六

○形式上査定ト牴觸スル證明ノ抹消ト其ノ回復　査定ト證明トカ形式上牴觸セルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ依リ證明ヲ抹消シ査定名義人ノ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ於テモ査定名義人ノ所有申告後査定前ニ所有權カ證明簿上ノ所有名義人ニ移轉シタルモノニシテ實體上査定ト證明トノ間ニ牴觸ナキトキハ其ノ保存登記ヲ抹消シ抹消セラレタル證明ノ回復ヲ請求シ得サルヘカラス（大正一五・三・一二）

一四 四一

○抹消セラレタル査定ト牴觸ナキ證明ノ回復登記ノ記載方法　之カ回復ハ朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ登記簿ニ回復スヘキ抹消證明ヲ轉載シ回復登記ヲ爲スヘキモノトス（大正一五・三・一二）

一三 五一

土地臺帳規則

○土地臺帳名義書換請求訴訟ノ許否　土地臺帳名義書換ノ請求ハ許容スヘキモノニ非ス（大正六・七・九）

四 六八五

○保存登記ノ抹消通知ト土地臺帳ノ整理　登記所カ所有權保存登記ヲ抹消シタルトキハ登記所ハ不動産登記法第十一條ノ趣旨ニ則リ之ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スヘク其ノ通知ヲ受ケタル土地臺帳所管廳ハ土地臺帳規則第二條ノ趣旨ニ則リ土地臺帳ヲ整理スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

八 二〇〇

土地家屋證明規則

○**典當證明ノ效力**　土地家屋典當證明ハ契約書ニ基キ執行スルニ關シテ完全ノ效力ヲ有スルニ過キスシテ典當ノ要件ニアラス又第三者ニ對抗スル效力アルモノニアラス（除照三「明治四二」一〇・二八）

○**舊田舊貸ノ成立ト證明**　舊田舊貸ハ土地家屋證明規則ニ依ル公證ノ有無ニ關セス各自ノ自由ナル意思表示ニ因リテ成立ス（明治四四・七・四）

○**本規則ノ證明アル典當土地ト證明令ニ所謂既證明不動產**　舊韓國土地家屋證明規則ニ依リ典當ノ證明ヲ經タルモノハ朝鮮不動產證明令第二十一條ニ所謂未證明ノ不動產ニ非スシテ既證明ノ不動產ナリトス（大正七・三・五）

○**舊土地家屋證明規則ニ依ル典當證明ト所有權保存證明**　舊證明規則ニ依リ既ニ典當證明ヲ經テ新證明令施行後ニ涉リテ存續スルモノニ對シ新證明令第四十條ヲ適用スルニ當リテハ舊證明規則ニ依リ爲シタル典當證明中ニハ自カラ所有權保存證明ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス（大正七・三・五）

○**舊證明規則ニ基ク證明ト新證明簿ヘノ移記**　舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後更ニ證明ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル場合ニハ新タニ保存證明ヲ爲スヘキモノニ非スシテ先ツ新證明令第四十五條ノ規定ニ從ヒ舊證明簿ヨリ新證明簿ニ移記ノ手續ヲ終了シタル後新證明事項ノ記入ヲ爲スヘキモノトス（大正七・三・五）

國有財產法

第二條―第五條

○**公共用物ノ公用廢止ノ意義**　公用ニ供スル物ノ中道路ノ如キ一般公共ノ用ニ供セラルル物ニアリテハ其ノ物カ永久的ニ變化シ公共ノ用ニ適セサルニ至ルカ又ハ管理主體ノ公用ノ廢止ノ意思表示アルニアラサレハ其ノ公用物タル性質ヲ失フコトナキモノトス（昭和一三・九・一三）

朝鮮登錄稅令

○**慮偶ノ登記原因ト本令違反**　當事者間契約ノ內容タル法律行爲ヲ以テ登記原因ト爲シタレハトテ朝鮮登錄稅令ノ規定ニ違反スルモノニ非ス又刑法第百五十條ノ犯罪ヲ構成スルモノニモ非ス（大正七・三・五）

渡船營業取締規則

○**渡船營業權讓渡ノ效力**　渡船營業ヲ爲スニ付官廳ノ許可ヲ受クルモ爲メニ渡船營業權ナル一ノ財產權ヲ生スルモノニアラサレハ國法財產法　朝鮮登錄稅令　渡船營業取締規則

奴婢ノ典ヲ革罷スルノ件　農工銀行條例

ハ渡賜營業權ナルモノヲ以テ讓渡ノ目的ト爲スモ其讓渡ハ無效ナリ（大正四・六・八）

開國五百三年六月二十八日議案（奴婢ノ典ヲ革罷スルノ件）

（一公私奴婢之典一切革罷禁販賣人口事）

○人身賣買ノ禁止ト雇傭契約　從韓國開國五百三年六月二十八日ノ「公私奴婢之典一切革罷禁販賣人口事」トノ議案ハ人身ヲ賣買シテ奴婢ト爲スコトヲ禁止シタルモノニシテ自由意思ヲ以テ普通ニ率公人ト稱シ下男下女トシテ勞務ニ服スルノ契約ヲ爲スコトヲ禁止スルモノニアラス而シテ斯ノ如キ自由意思ニ出テタル契約ニ依ル率公人ト雖之ヲ表示スルニ當リ奴ナル稱呼ヲ以テスルコト往々ニシテ之アリトス（大正七・一〇・一二）

農工銀行條例

○農工銀行カ締結シタル流典當契約ノ效力　農工銀行條例ニハ流典當契約ヲ締結スルコトヲ禁止シタル旨趣ヲ謂ムヘキ規定ナキニ依リ農工銀行カ締結シタル流典當契約ハ有效ナリトス（大正八・一〇・二四）

破産法

第一編　實體規定

第四章　財團債權

第六十八條

○破産ノ宣告ト管理權ノ喪失　破産ノ宣告ハ夫自體親權者ニ對スル管理權喪失宣告ノ事由タルモノトス（昭和一〇・二・八）

第六章　否認權

○債務辨濟ノ當ニスル不動産ノ賣却處分ト否認權ノ目的　債務者カ履行期ニ在ル債務ノ辨濟資金ヲ得ムカ爲其ノ所有不動産ヲ相當代金ニテ賣却處分スルハ義務履行ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルモノト謂フヘク因テ得タル代金ヲ以テ一部債權者ニ辨濟ヲ爲シタルコトカ債權者間ノ公平ヲ失スルニモセヨ當該債務者ノ行爲ハ破産法ニ於ケル否認權ノ目的トナルハ格別民法第四百二十四條ニ定ムル取消ノ目的ト爲ルヘキモノニ非ス（昭和六・一・二三）

第七十二條

○破産者ノ和解ト否認　係爭物カ破産財團ニ屬スヘキモノナルコトヲ確定シタル後ニ非サレハ無償行爲ト同視スヘキ和解トシテ破產法第七十二條第五號ノ適用スヘキモノニ非ス有償行爲ト雖モ破産者ニ和解ナルトキハ係爭物カ自己ノ所有ナルコトヲ破産者ニ

於テ認識シタル場合ニ非サレハ詐害ノ意思アリト謂フヲ得ス

再審ノ訴ノ繫屬中裁判外ニ於テ和解シ相手方ハ再審ノ訴ヲ取下ケタリト雖亦前項ニ同シ再審ノ訴ノ取下ニ依リ破産者ノ所有トシテ最ノ判決ハ既判力ヲ有スト雖和解當時ノ係爭關係ヲ判斷スル妨トナルコトナシ（昭和八・二・二八）

第七章　取戻權

第八十七條

○取戻權ト第三者ニ對スル追及權　取戻權者ハ破産財團ニ對シテ主張スルコトナクシテ破産管財人ノ處分ノ相手方ニ對シ所有權ニ基キ追及シ得ヘキモノトス（昭和一〇・七・二三）

第二編　手續規定

第二章　破産宣告

○合名會社社員ノ責任　商法第六十三條ニ所謂會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルトキトハ會社ノ債務額カ其ノ財產ノ額ニ超過スル場合ヲ指稱スルモノニシテ苟モ斯ル場合ニ該當スル限リ債務超過ノ如何ヲ問フコトナク各社員ハ會社債務ノ全額ニ付辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス（昭和一〇・一二・二四）

第六章　破産財團ノ管理及換價

第百九十九條

○株式會社ノ破産ト本條ニ所謂破産者　破産者カ清算中ノ株式會社ナル場合ニ於テモ破産者ニ該當スル者ハ取締役ニシテ清算人ニ非ス（昭和七・一二・一六）

○訴提起ニ付破産者ノ意見ヲ聽カサル場合ト判決　破産管財人カ訴ヲ提起スルニ當リ取締役ノ意見ヲ聽カサリシコトハ本案ノ判決ヲ爲ス妨トナルモノニ非ス（昭和七・一二・一六）

第七章　破産債權ノ屆出及調査

第二百四十四條

○債務者ノ破産ト督促手續ノ中斷　債務者カ支拂命令ノ送達ヲ受ケタル後破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ督促手續ハ破産法ニ依リテ受繼アル迄中斷ス（昭和七・一二・一九）

○督促手續ノ中斷ト受繼　破産債權ハ支拂命令ノ既ニ發セラレタル後ト雖破産法ニ依リテ其ノ債權ノ屆出ヲ爲スコトヲ要シ督促手續受繼ハ債權調査期日ニ於テ破産債權者破産管財人若クハ破産者ノ異議ヲ述ヘタル時ニ限リ異議者ヲ相手方トシテ爲スヲ要スルモノニシテ必スシモ常ニ破産管財人ヨリ若クハ之ヲ相手方トシテ爲スヘキモノニ非ス（昭和七・一一・一九）

非訟事件手續法

第一編　總則

第十八條

○親族會員增員決定ノ告知方法　親族會員ヲ增員スル旨ノ決定ハ增員セラレタル會員ノミニ告知スレハ足リ從前ノ會員ニ對シ告知スルノ要ナキモノトス（昭和一四・五・九）

第十九條

○株主總會招集ノ許可申請ヲ認可シタル裁判ト其ノ取消變更ノ許否　株主總會招集ノ許可申請ヲ認許シタル裁判ハ其ノ告知ト同時ニ確定シ上級裁判所ニ對スル不服申立ノ方法ニ依リ之ヲ攻撃シ得サルハ勿論其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所自身モ亦爾後新事實ニ基クニ非サル限リ其ノ取消又ハ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（昭和一四・五・九）

○親族會員增員決定ノ告知方法　親族會員ヲ增員スル旨ノ決定ハ增員セラレタル會員ノミニ告知スレハ足リ從前ノ會員ニ對シ告知スルノ要ナキモノトス（昭和一四・五・九）

第二十條

○親族會招集申請却下決定ニ對スル抗告人　親族會招集決定ヲ爲シタル裁判カ前決定ヲ取消シ申請ヲ却下スル裁判ヲ爲シタルトキハ此ノ裁判ハ非訟事件手續法第二十條第二項ニ所謂申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ申立ヲ却下シタル裁判ニ該當スルニ依リ申立人ニ非サレハ之カ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（昭和三・二・二〇）

○親族會招集決定ニ對スル抗告ノ利益　親族會ノ招集ヲ命シタル決定ニ對スル抗告ハ當然ニ執行停止ノ效力ヲ生スルコトナキカ故ニ特ニ執行停止ヲ命シタル裁判ノ存セサル限リ原決定ニ定メタル招集日時ノ經過後ニ於テハ該決定ニ對シ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルノ利益ナキモノトス（昭和一二・一一・一六）

○親族會招集申請人ト親族會員增員決定ニ對スル抗告　親族會招集申請人カ被選定者ノ實母ナリトスルモ其ノ後爲サレタル親族會員增員決定ニヨリ權利ヲ害セラレタル者ト爲スヲ得ス（昭和一三・一一・二九）

第二十一條

○親族會員選定決定取消ノ效力　親族會員選定決定ハ該決定アルト同時ニ執行力ヲ生シ後日其ノ裁判カ取消サルルニ至ルモ該決定ニ依リ選定セラレタル親族會員ノ既ニ爲シタル行爲ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス（昭和八・五・二〇）

○親族會招集決定ニ對スル抗告ノ利益　親族會ノ招集ヲ命シタル決定ニ對スル抗告ハ當然ニ執行停止ノ效力ヲ生スルコトナキカ故ニ特ニ執行停止ヲ命シタル裁判ノ存セサル限リ原決定ニ定メタル招集日時ノ經過後ニ於テハ該決定ニ對シ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルノ利益ナキモノトス（昭和一二・一一・一六）

第二十五條

○親族會招集決定ニ對スル抗告ノ利益　親族會ノ招集ヲ命シタル決定ニ對スル抗告ハ當然ニ執行停止ノ效力ヲ生スルコトナキカ故ニ特ニ執行停止ヲ命シタル裁判ノ存セサル限リ原決定ニ定メタル招集日時ノ經過後ニ於テハ該決定ニ對シ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルノ利益ナキモノトス（昭和一二・一一・一六）

第六章　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第九十四條

○家督相續人選定許可申請ト親族會ノ決議　民法第九百八十五條ニ依リ家督相續人選定ノ許可申請ヲ爲スニ付テハ親族會ノ決議ヲ要スルモノトス（昭和九・九・一八）

○同許可申請ト申請者　右許可申請ハ親族會ノ決議カ會員ノ過半數ヲ以テ爲サレタルトキハ其ノ決議ニ同意シタル會員ヨリ之ヲ爲シ得ヘキモノトス（昭和九・九・一八）

第九十五條

非訟事件手續法　總則　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件　七五七

○家督相續人選定ノ親族會決議ノ瑕疵ト許可ニ對スル抗告事由　親族會ノ決議カ民法第九百五十一條ニ依リ取消サルヘキ瑕疵ノ存スルニ過キサルトキハ其ノ違法ハ許可ノ裁判ニ影響ナク從テ之ヲ以テ許可ニ對スル抗告事由ト爲スヲ得サルモノトス（昭和九・九・一八）

第百一條

○親族會員選定決定ニ對スル抗告事由　親族會員選定ノ決定ニ對シテハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテノミ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク其ノ他ノ理由ヲ以テ抗告ヲ爲スヲ得ス（昭和五・一〇・二一）

○親族會員選定決定ニ對スル抗告事由　親族會員ニ不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリタル場合裁判所ニ之カ免黜ノ訴ヲ提起スルハ格別抗告ノ方法ニ依リテ之カ免黜ヲ爲スヲ得サルモノトス（昭和五・一〇・二一）

○親族會員選定決定取消ノ效力　親族會員選定決定ハ該決定アルト同時ニ執行力ヲ生シ後日其ノ裁判カ取消サルルニ至ルモ該決定ニ依リ選定セラレタル親族會員ノ既ニ爲シタル行爲ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス（昭和八・五・一二）

第三編　商事非訟事件

第一章　會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第百三十二條

○株主總會招集ノ許可申請ヲ認許シタル裁判ト其ノ取消變更ノ許否　株主總會招集ノ許可申請ヲ認許シタル裁判ハ其ノ告知ト同時ニ確定シ上級裁判所ニ對スル不服申立ノ方法ニ依リ之ヲ攻擊シ得サルハ勿論其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所自身モ亦爾後新事實ニ基クニ非サル限リ其ノ取消又ハ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（昭和一四・五・九）

卷	頁
二一	三二五
一七	二一〇
一七	二一〇
二〇	二三一
二六	一八六

第三章　商業登記附則

第五節　合名會社及合資會社ノ登記

第百八十條

○合名會社變更登記申請ノ訴ノ相手方　非訟事件手續法第百八十條ノ登記ニ在リテモ申請人ハ會社ニシテ代表社員ニ非ス同條第一項ハ登記申請ニ關スル代表者ノ權限ニ付テノ特別規定ナリ故ニ同條所定ノ登記申請ヲ請求スル訴ノ相手方トシテハ合名會社ヲ被告トスヘキモノニ非ス而シテ非訟事件手續法第百八十條所定ノ登記申請ヲ請求シ判決ヲ以テ意思表示ニ代ヘントスルニハ被告會社ハ代表社員ノ全員ニ依テ代表セラルルコトヲ要スルモノトス（昭和八・六・六）

朝鮮不動產登記令

○證明ト民法施行法第三十七條ノ適用　朝鮮不動產登記令又ハ朝鮮不動產證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル權利ニ付テハ民法施行法第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解スヘキモノトス（大正六・二・二三）

卷	頁
二〇	二六四
四	一一五

○朝鮮民事令施行前ノ所有權ノ取得ト對抗要件　朝鮮民事令施行以前ニ不動産ノ所有權ヲ取得シタルモノハ朝鮮民事令施行後一年内ニ其所有權取得ノ證明(又ハ登記)ヲ受クルニ非サレハ民事令施行後一年ヲ經過シタル後ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス　(大正六・六・一九)

附則

第七條

○登記ト證明トノ差異　朝鮮不動産登記令第七條ノ趣旨タルヤ證明令ニ依ル證明ニ付スルニ登記ノ效力ヲ以テシタルニ過キスシテ之ヲ以テ登記證明ノ二者全然同一ニ看做スノ法意ナリト解スヘキモノニ非ス　(大正六・一二・二八)

○證明ト登記トノ牴觸　朝鮮不動産證明令ニヨリ爲サレタル證明ハ朝鮮不動産登記令ニヨリ爲サレタル登記ト同一ノ效力ヲ有スルモノナレハ既存證明ノ存スルニ拘ラス正規ノ手續ニヨリ之ヲ抹消スルコトナク同一土地ニ付登記カ爲サレタルトキハ之ト牴觸スル範圍ニ於テハ登記ノ效力ハ否定セラレサルヘカラサルト共ニ若シ其ノ證明カ正規ノ手續ニ依ラスシテ不當ニ抹消セラレタルトキハ回復ヲ俟タスシテ尚第三者ヘノ對抗力ヲ失フコトナキモノトス　(昭和一三・一一・三〇)

第八條

○移記ニ因ル登記ト移記以前ニ於ケル證明トノ關係　朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ證明簿上ノ或不動産ニ關スル記載事項カ登記簿上ニ移記セラレタル場合ニ於テモ其内容ニ於テ同一ノ點アリト云フニ過キスシテ移記以前ニ於ケル證明ト移記以後ニ於ケル登記トハ其形式ヲ異ニスル別個ノ事物ニシテ同一ニ論スルヲ得サルモノトス　(大正六・一二・二八)

○朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル證明ト之ニ牴觸セル登記ノ效力　朝鮮不動産登記令施行前朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル證明ハ朝鮮不動産登記令ニ依リ爲シタル登記ト看做サルヘキコト同登記令第七條ノ規定スル所ニシテ之ヲ登記簿ニ移記スル手續ハ同登記令第八條ノ規定スル所ナレハ證明ニ牴觸スル登記ハ同登記令第八條ノ二ニ規定スル假登記ノ方法ニ依ル外之ヲ許ササルモノニシテ縱令證明ニ係ル權利カ事實ニ符合セサル不適法ノモノナリトスルモ將又大正三年制令第十六號ニ所謂査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル所有權ニ牴觸スルモノトシテ抹消セラルヘキモノトスルモ其實質上ノ效力如何ニ拘ラス其未タ抹消セラレサル間ハ之ト牴觸スル本登記ハ朝鮮不動産登記令及其依據スル不動産登記法ノ解釋上常ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　(大正一〇・一一・一八)

不動産登記法

第一章　總則

第一條

○重複保存證明又ハ登記ヲ基本トスル差押登記ノ效力　所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル不動産ニ對シ再ヒ所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル場合ニ在テハ後ノ保存ノ證明若クハ登記ハ當然無效ナルヲ以テ從テ之ニ基キ爲シタル假差押命令及競賣申立ノ記入ハ勿論競落ニ因ル所有權取得ノ證明若クハ登記モ亦無效ナリトス　(大正四・一二・二四)

○重複證明ニ基ク爾後ノ移轉證明又ハ登記ノ效力　證明官吏ニシテ舊證明ノ存續スルコトヲ知ラスシテ同一土地ニ付新ニ保存證明ヲ爲シタルトキハ其保存證明ノ無效ナルハ勿論之ニ基ク爾後ノ所有權移轉ノ證明又ハ登記モ總テ無效ナリ　(大正七・三・五)

○**契約解除ト抹消登記ノ原因**　不動產登記法ニ於ケル登記ノ抹消ハ單ニ登記原因ノ無效又ハ取消ノ場合ノミニ限ラルルコトナク土地賣買契約ノ解除ニ因リ土地所有權移轉ヲ原狀ニ復スル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○**登記スヘカラサル登記ノ存在ト其ノ效力**　登記カ登記スヘカラサルモノナルトキト雖抹消セラルル迄ハ登記名義人ハ形式上其登記ノ利益ヲ有スルニ依リ登記若クハ證明ナクシテ其登記名義人ニ對抗スルコトヲ得サル取得者ハ之カ登記ノ抹消ヲ請求スルヲ得ス（大正八・四・二二）

卷 頁 六 二三九

○**單獨登記名義ノ共有土地ト共有名義ノ登記方**　甲乙共有ノ不動產ニ付甲ハ自己單獨名義ノ所有權ノ登記又ハ證明アルニ乘シ自己ノ單獨所有權ヲ主張スル場合ニ於テ乙カ登記簿上自己ノ共有權ヲ確定センカ爲メニハ不動產登記令ノ規定ニ從ヒ權利更正登記ノ手續ニ依リ甲乙ヲ共有者トシテ更正登記手續ヲ爲サシムル如キ一方法タルヲ失ハスト雖必スシモ此方法ニ依ルヲ要スルモノニ非ス乙ハ先ツ甲ヲシテ其所有權登記抹消ノ手續ヲ爲サシメ然ル後係爭地ニ關スル甲乙共有關係ノ登記手續ヲ求ムルノ擧ニ出ツルモ敢テ不法ナリト爲スヘキモノニ非ス（大正九・六・二二）

六 二六九

○**寄買契約解除ト所有名義回復ノ登記手續**　土地賣買契約ヲ解除シタル場合ニ於テ現ニ登記簿上ニ存スル所有權移轉登記ニ關シ之ヲ原狀ニ復セシムルカ爲メニハ必スシモ抹消登記ニ因リ現在ノ所有者名義ノ登記ヲ抹消シテ原所有者名義ノ登記ニ復セシムル方法ノミヲ以テ適法ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス登記簿上ノ所有名義人ナル回復義務者ヲシテ更ニ回復權利者ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲サシメ之ニ因リテ原狀ニ復セシムルコトヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス（大正一〇・二・八）

七 二七三

○**假處分命令ノ登記ト之ニ反スル處分行爲ノ效果**　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シテ無效ナリ（大正一一・二・一七）

八 三四

○**移轉登記ト假處分權利者ニ對抗シ得サル處分行爲**　處分行爲タル不動產物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス如上ノ登記行爲ハ假處分ノ效力ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト同一視スヘキモノニシテ其登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリ（大正一一・一・一七）

九 一

○**同　旨**　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル旨ノ假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シ無效ナリ而シテ不動產物權ノ得喪變更ハ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ依リ處分行爲タル不動產物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス從テ斯ノ如キ登記行爲ハ假處分權利者ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト看做スヘキモノナルカ故ニ該登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリトス（大正一一・三・一三）

九 一

○**受贈者カ贈與者ノ相續人ニ對スル未登記土地ノ登記請求ト登記手續**　未登記ノ土地ヲ他人ニ贈與シタル者カ其所有權移轉登記ヲ爲スニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ於テ（一）受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受ケントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求スヘキモノニ非スシテ抑テ之ヲ鄭重シ以テ直チニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク請求スヘキモノトス（二）受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受クルコトヲ要セサルモノトシ單ニ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲サントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求シ其抹消セラレタル後相續人ニ對スル判決ニ因リ自己ノ所有權ヲ證シテ保存登記ヲ申請スヘキモノトス如上二ツノ方法中其何レヲ選擇スルヤハ固ヨリ受贈者ノ隨意ナレトモ（一）ノ方法ハ所有權移轉ノ關係ヲ登記簿上明白ニスルコトヲ得ルノミナラス其移轉ノ事實ニ付對抗力ヲ生スルヲ以テ受贈者ハ（二）ノ方法ニ依ルヨリモ（一）ノ方法ヲ採ルヲ通例トス如上ノ場合ニ於テ受贈者ヨリ更ニ該土地ノ所有權ヲ取得シタル者カ受贈者ニ對シ其所有權移轉登記手續ヲ訴求シタル以上ハ其訴訟ニ於テ該取得者ヨリ相續人ニ對シテ爲シタル保存登記抹消ノ請求ハ之ヲ棄却セサルヘカラス（大正一一・一一・八）

一〇 三〇

九 四三

○**中間省略登記ノ效力**　甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者協議ノ上甲者ヨリ直接丙者ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヲ妨ケス（大正七・三・五）

三 一二七

○同旨　數人カ順次ニ不動產ノ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者協議ノ上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記ヲナスコトヲ得（大正八・六・二六）　六　四八五

○同旨　甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者合意上甲者ヨリ直接丙者ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヲ妨ケス何トナレハ斯ル登記ハ新名義人カ所有權ヲ取得シタル事實ニ符合スルニ因リ之ヲ公示スル效用アリト爲スハ登記ノ目的ニ背反スル所ナケレハナリ（大正一〇・五・一〇）　八　一三九

○同旨　土地所有權カ甲ヨリ順次乙、丙ニ移轉シタル場合ニ當事者ニ於テ便宜中間ノ登記ヲ省略シ前所有者タル甲ヨリ直チニ丙ニ所有權移轉登記ヲ爲スモ其登記ハ有效ニシテ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ヘシ（大正一〇・六・三）　八　一〇〇

○同旨　數人カ順次ニ不動產所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ於テ當事者協議上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス（大正一一・二・三）　九　二一

○同旨　數人カ順次不動產ノ所有權ヲ移轉シ何レモ未タ登記ヲ經由セサル場合ニ於テ當事者協議ノ上最初ノ讓渡人ヨリ直接最後ノ讓受人ニ所有權移轉登記ヲ爲スヘキ旨ノ契約ヲ締結シタルトキ該契約ハ有效ナリトス蓋シ斯ル登記ハ新名義人カ所有權ヲ取得シタル事實ニ符合スルニ因リ之ヲ公示スル效用アリト爲スハ登記ノ目的ニ背反スル所ナケレハナリ（大正一一・一・三〇）　一〇　五

○中間省略登記ト中間者ノ干與セサル登記ノ效力　土地所有權カ甲ヨリ順次乙、丙ニ移轉シタル場合ニ直接前主タル乙ノ干與ナク喩甲丙兩者間ノ協議ヲ以テ移轉登記ヲ爲スモ該登記ハ事實ニ吻合セサルヲ以テ無效ナリトス（大正一〇・六・三）　八　一〇〇

○同旨　數人ノ間ニ順次賣買アリタル場合ニ於テ當初ノ賣主ナル登記名義人ヨリ最後ノ買主ニ對シテ直接ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲シ中間ニ於ケル移轉登記ヲ省略スルモ其登記ヲ以テ有效ト爲スハ其各賣買當事者全員カ合意ノ上之ヲ爲シタルトキニ限ル故ニ其合意ナクシテ爲シタル省略登記ハ之ヲ無效トスヘク從テ其合意ナキ場合ニ於テ當事者ノ一方ハ他ノ一方ニ對シテ省略登記ヲ強要スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・三・二四）

○同旨　中間省略登記ヲ爲スヘキコトヲ約スルハ順次賣買ヲ爲シタル當事者間ニ順次其登記ヲ經由スルコトノ煩累ヲ避クル目的ニ出ツルモノナルヲ以テ最後ノ讓受人ハ先ツ中間省略登記ヲ請求スヘク若シ最初ノ讓渡人ニ於テ其義務ヲ履行セサルトキニ初メテ賣買ノ順序ニ從ヒ順次登記ヲ爲スヘキコトヲ請求シ得ヘキ約旨ト解スルハ當事者ノ意思ニ合致スルモノトス（大正一二・一・三〇）　九　一〇八　一〇　五

○中間登記省略ノ合意ノ趣旨　甲乙丙間ニ順次ニ不動產ノ所有權ヲ移轉シタル場合ニ之等累次ノ所有權移轉登記ニ付關係者協議ノ上甲ヨリ直接丙ニ其手續履行ヲ爲スヘキコトヲ契約シタルトキハ反對ノ意思アリシト認メ得サル限リ之ニ依リテ乙ハ當然其登記義務ヲ免ルル約旨ナリシト解スヘキニ非スシテ甲ノ丙ニ對スル登記手續ノ履行完了ヲ俟チテ乙ノ登記義務消滅スト爲ス約旨ナリト解釋スルヲ相當トス（大正一一・九・二九）　九　三〇八

○中間省略登記ト文書僞造罪　中間省略登記ハ登記法上許サレタル登記ニシテ毫モ不實ノ登記ト目スルコトヲ得サルノミナラス刑法第百五十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス（大正一二・一・三〇）　一〇　五

○無效ノ登記ト之カ回復ノ爲ノ登記方法　乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ僞造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス（大正一三・四・二二）　一二　七六

○共有物ニ對スル信託契約解除ニ因ル登記手續　共有不動產ヲ共有者ノ一人ニ信託讓渡シ其ノ所有トシテ査定確定シ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ信託讓渡ヲ解除シタル爲ニ之ヲ共有者ノ共有名義トナスニハ不動產登記法第七十八條ノ所有權ノ一部移轉登記ノ手續ニ依ルコトヲ要シ更正登記ニ依ルヘキモノニアラス（大正一四・一一・一〇）　一三　三九八

○不動產ノ賃貸借ト其ノ登記請求權　不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス（大正一四・一二・二二）　一三　五〇八

○時效ニ因ル物權取得ト登記　時效ニ因ル不動產物權ノ取得ハ之ヲ登記スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得サルモノトス（昭和三・六・九）　一五　一〇〇

○法人ニ非サル團體ノ名ヲ以テスル登記ノ是正方法　共有登記ニ代フル團體ノ名稱ヲ以テセル登記ハ不適法ニシテ更正登記ニ依

ツテ是正シ得ヘキモノニ非ス一旦之ヲ抹消スルコトヲ要ス（昭和八・八・二五）

○新築ノ家屋ト所有權保存登記　新築ノ家屋ニ付所有權保存登記ヲ爲スタメニハ必スシモ其ノ完成シタルコトヲ要セス工事中ノ建物ト雖取引ノ通念上獨立ノ建物トシテノ效用ヲ有スルモノト認メ得ラルレハ足ルモノトス（昭和一六・五・二）

第二條

○假登記後所有權取得ノ本登記ヲ受ケタル第三者ト假登記ノ抹消請求　所有權移轉ノ假登記ヲ爲シアル不動産ニ付第三者カ所有權取得ノ本登記ヲ爲スモ假登記權利者カ登記義務者ヲシテ本登記ヲ爲サシムル實體上ノ權利ヲ有スル以上所有權取得ノ本登記ヲ爲シタル第三者ハ却テ假登記權利者ノ保全シタル權利ノ實行ヲ認容セサルヘカラサルモノニシテ本登記ヲ爲シタル所以ヲ以テ其權利ヲ假登記權利者ニ對抗シ假登記ノ抹消ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス（大正八・三・一一）

○假登記後第三者ノ本登記ト假登記ニ基ク本登記　所有權移轉ノ假登記アリタル後假登記義務者タル登記名義人カ第三者ニ對シ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記簿上ノ登記名義人ニ變更ヲ生スルヲ以テ假登記權利者カ假登記ニ對スル本登記ヲ爲サントスルニハ所有權移轉ノ本登記ヲ爲シタル第三者ニ對シ該本登記ノ抹消ヲ求メ登記簿上ノ名義人ヲ假登記義務者ノ名義ニ回復セシメ然ル後假登記義務者ヨリ所有權移轉ノ本登記ヲ受クヘキモノニシテ第三者ノ所有權移轉ノ本登記アルニ拘ラス假登記權利者カ假登記義務者ヨリ直接所有權移轉ノ本登記ヲ受クルハ現在登記簿上登記名義人ニ非サル者ヨリ所有權移轉ノ登記ヲ受クルコトトナリ明ニ登記法第四十九條第六號ノ場合ニ該當スヘケレハ斯ル登記ノ申請ハ同條ニ依リ却下セサルヘカラス（大正一〇・八・二六）

○假登記ノ效力及假登記名義人ヲ登記義務者トスル移轉登記　假登記ハ後日爲サルヘキ本登記ノ效力ヲ遡ラシメ假登記ノ時ニ於テ爲シタルト同一ノ順位ヲ保有スルコトヲ得シメムトスルモノニシテ假登記ノ目的及效力ハ唯之ニ止マリ決シテ假登記ニ因リテ新ニ特種ノ權利ヲ取得セシムルコトナキハ勿論未タ本登記ヲ爲ササル時ニ於テ假登記名義人ヲ登記義務者トシテ更ニ當該不動産ニ關スル權利ノ移轉ヲ登記スルコトヲ得シムルモノニ非ス（昭和五・九・二六）

○地上權假登記後ノ本登記ト其ノ登記義務者　他人ノ土地ニ付地上權ヲ設定シ其ノ旨ノ假登記ヲ受ケタル後其ノ土地所有權カ第三者ニ讓渡移轉セラレ其ノ者ノ所有名義ニ登記ヲ經了シタル場合ニ於テハ固ヨリ地上權ノ存在ハ其ノ土地所有權ノ處分ニ何等支障ナク之カ所有權移轉登記亦地上權ノ本登記ヲ爲スニ付毫末モ妨ヲ爲ササルト共ニ其ノ不動産ニ付所有權取得ノ登記ヲ受ケタル該上第三者ハ假登記アリタル權利ヲ對抗セラルル結果其ノ本登記ヲ爲スヘキ義務ヲモ承繼シタルモノト謂フヘキカ故ニ地上權假登記權利者ハ現在ノ登記名義人タル第三者ニ對シテノミ地上權ノ本登記手續ノ履行ヲ請求シ得ヘキモノトス（昭和五・一〇・二四）

○虚無ノ賣買ヲ原因トセル假登記ノ效力　不動産ノ所有權ノ讓渡人カ讓受人ノ處分行爲ヲ禁止シ讓受人ニ於テ之ヲ處分シタルトキ其ノ第三取得者ヨリ之ヲ回收スル目的ノ下ニ豫メ虚無ノ賣買ヲ原因トシテ假登記ヲ爲シ置クカ如キハ假登記ニ關スル法規ヲ利用シテ法律上認ムヘカラサル處分禁止ノ實ヲ擧ケ以テ不當ニ第三者ノ權利ヲ侵害セムトスルモノニ他ナラスシテ正當ノ登記原因ノ存セサルモノナレハ其ノ登記ハ當然無效ノモノトス（昭和八・六・三〇）

第三條

○豫告登記ト登記原因ノ內容タル事實ノ知不知ノ推定　豫告登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ受訴裁判所カ職權ヲ以テ之カ登記ヲ囑託スルモノニシテ其ノ登記ニ因リ訴ノ提起アリタルコトヲ第三者ニ豫告シ專ラ係爭不動産ニ付物權ノ得喪變更ニ關スル法律行爲ヲ爲サントスル善意ノ第三者ヲ保護セントスルニ在リ而シテ豫告登記ハ一ノ公示方法ナルカ故ニ豫告登記アリタル以後ニ於テ係爭不動産ニ付法律行爲ヲ爲シタル第三者ハ豫告登記ノ存スル事實ヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタリトノ推定ヲ受クヘク訴訟ノ結果ニ依リ不利益ナル影響ヲ受クヘキ場合アルハ當然ナリト雖之カ爲ニ豫告登記ノ原因タル訴訟ニ於ケル登記ノ無效又ハ取消ノ內容ヲモ知レルモノトノ推定ヲ受クヘキモノニ非ス（大正一三・一・一六）

第五條

○證明義務者カ自ラ爲シタル證明ト抹消請求　所有權移轉證明手續ヲ爲スヘキ義務アル者カ既ニ其證明手續ヲ爲シタル以上ハ自

ラ進ンテ權利者ルヲ者ニ對シ其ニ誠實アルコトヲ主張シテ之カ抹消手續ヲ請求スル權利ナキモノトス（大正七・八・一六）

○七父ノ名義ヲ以テ爲シタル所有權移轉證明ノ效力ノ有無　甲カ乙ニ其所有ニ係ル不動產ノ賣却シ其該物ノ履行トシテ甲カ其父ノ賣主名義ヲ以テ爲シタル所有權移轉證明ノ效ヲ主張シタル場合ニ於テ現在ノ所有者ハ其移轉登記ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正八・一二・六）

第三章　登記ニ關スル帳簿

第十一條

○保存登記抹消ト土地臺帳ノ整理　登記所カ所有權保存登記ヲ抹消シタルトキハ登記所ハ不動產登記法第十一條ノ趣旨ニ則リ之ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スヘク其ノ通知ヲ受ケタル土地臺帳所管廳ハ土地臺帳規則第二條ノ趣旨ニ則リ土地臺帳ヲ整理スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

第十五條

○權利ト抹消サルヘキ登記ノ存在ト登記　甲乙丙ノ所有權移轉證明カ抹消セラルヘキ性質ノモノナリトスルモ其ノ之ヲ抹消セサル以上ハ同一不動產ニ付キテ乙丙ノ所有權移轉登記ヲ爲シ得ヘキモノニアラス（大正七・九・一〇）

○登記ノ一部ノ重複　一ノ土地ニ付保存登記アリテ既ニ登記用紙ヲ設ケタル以上ハ其ノ閉鎖セラレサル限リ同一土地ノ全部ニ對シ更ニ保存登記ヲ爲スコトヲ得ス（昭和元・一二・八）

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十六條

○中間登記省略ノ合意ト登記義務者　不動產ノ所有者カ其所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其移轉ヲ受ケタル者ニ對シ所有權移轉ノ登記ヲ爲ス義務アリ所ル登記義務ノ生スル連由ハ其所有權ヲ直接若クハ間接ニ承繼シタル現在ノ所有者ヲシテ登記名義人タルヲ得セシメ以テ其權利ノ效力ヲ完全スルコトヲ得セシムル必要ニ基因スルモノナレハ所有權ノ移轉カ多數人間ニ連續シテ行ハレタル場合ニ於テ現在ノ所有者ハ其前主ニ對シ其移轉登記ノ請求セサル限リハ中間ノ各取得者ハ各其前主ニ對シ登記ノ要求ヲ以テ所ル場合ニハ其前主ニ對シ登記請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正八・八・二六）

○登記原因無效ノ主張ト抹消登記義務者　同一不動產ニ付數次ノ所有權移轉登記アリテ登記名義人ニ非サル土地所有者カ其登記原因ノ無效ヲ主張シ該登記ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テ自己ノ所有權ヲ否スヘキ登記ハ現ニ其效力ヲ有スルト否トヲ論ナク其各登記名義人ニ對シ抹消ヲ請求スルヲ得ヘキモノナレハ各登記名義人ハ抹消ニ付テノ登記義務者ナリトス却上ノ場合ニ於テ所有者ハ總テノ登記義務者ニ對シ同時ニ若クハ各別ニ移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（大正一一・三・二四）

○所有權移轉登記ノ抹消登記義務者　同一ノ不動產ニ付數次ノ所有權移轉登記アリテ原所有者カ登記原因ノ無效ヲ主張シテ最後ノ所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ現在ノ登記名義人即チ登記ノ登記義務者ハ各登記義務者ニ對シ抹消登記ノ登記義務者トス

ルヘキモノニシテ該登記ノ登記義務者ハ抹消登記ノ登記義務者ニ非サルカ故ニ現在ノ登記名義人ヲ被告トシテ訴求スヘキモノニシテ該登記ノ登記義務者ヲ共同被告トシテ訴求スヘキモノニ非ス（大正一一・六・九）

○抵當不動産ノ讓渡後ニ於ケル抵當權ノ消滅ニ因ル登記抹消請求權者　抵當權設定登記アル不動産カ第三者ニ讓渡サレタル後抵當權ノ消滅シタル場合ニ於テハ抵當權者ニ對スル該登記ノ抹消請求權ハ現在ノ所有者タル第三者ノミ之ヲ有シ設定者ハ之ヲ有セサルモノトス（大正一二・九・四）

○抵當權讓渡後ノ債權ノ時效消滅ト抵當權抹消ノ登記義務者　債權及之ヲ擔保スル抵當權ノ讓渡アリタル後債權カ時效ニ因リ消滅シタル場合ニ之ニ因ル抵當權ノ消滅ニ付爲スヘキ抵當權設定登記ノ抹消登記ハ抵當權消滅當時ニ於ケル登記上ノ抵當權者タル讓受人ヲ登記義務者トシテ之カ申請ヲ爲スヘキモノトス（昭和四・三・五）

○地上權假登記後ノ本登記ト其ノ登記義務者　他人ノ土地ニ付地上權ヲ設定シ其ノ旨ノ假登記ヲ受ケタル後其ノ土地所有權カ第三者ニ讓渡移轉セラレ其ノ者ノ所有名義ニ登記ヲ經了シタル場合ニ於テハ固ヨリ地上權ノ存在ハ其ノ土地所有權ノ處分ニ何等支障ナク之カ所有權移轉登記亦地上權ノ本登記ヲ爲スニ付毫末モ妨ヲ爲ササルト共ニ其ノ不動産ニ付所有權取得ノ登記ヲ受ケタル彼上第三者ハ假登記アリタル權利ヲ對抗セラルル結果其ノ本登記ヲ爲スヘキ義務ヲモ承繼シタルモノト謂フヘキカ故ニ地上權假登記權利者ハ現在ノ登記名義人タル第三者ニ對シテノミ地上權ノ本登記手續ノ履行ヲ請求シ得ヘキモノトス（昭和五・一〇・二四）

○辨濟ニ因リ消滅シタル抵當權設定登記ノ抹消義務者　抵當權カ被擔保債權ノ辨濟ニ因リ消滅シタルトキハ其ノ設定登記ノ抹消ハ該抵當權ノ登記簿上ニ於ケル現名義人ニ對シ訴求スヘキモノトス（昭和一〇・一〇・二九）

○無原因登記ノ抹消請求權　不動産所有者ハ其ノ不動産ヲ他ニ讓渡シ所有權ヲ喪ヒタルトキト雖自己ヲ登記義務者トスル無原因登記ノ抹消請求權ヲ喪フモノニ非ス（昭和一五・三・五）

第二十七條

巻	頁
九	一九七
10	二五九
一六	四八
一七	二二五
二三	五八
二七	二九

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ト小作料ノ確定　登記義務者ニ對スル登記ノ手續ヲ命スル判決ハ登記手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記手續ヲ命スル判決ハ理由ニ於テ小作料ノ額ヲ確定シ是ヲ主文ニ明示スルコトヲ要ス（大正一三・四・一一）

○裁判上ノ和解ト登記權利者一方ノ登記申請　裁判上ノ和解ニ因ル登記ハ判決ニ因ル登記ニ準シ不動産登記法第二十七條ニ依リ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス（大正一五・一〇・二九）

○判決ニ因ル登記ト登記義務者ノミノ申請　判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請スルコトハ不動産登記法ノ許ササル所ナリトス（昭和二・五・六）

○登記義務者ノミノ申請ニ依ル登記ト抹消　判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四十九條第三號ノ場合ニ該當スルモノト解スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレトモ一旦其ノ登記完了シタル後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・五・六）

○判決主文ト登記原因ノ明示　不動産ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續上登記原因ヲ證明スル書面ニ該當スルモノナレハ其主文ニ登記原因ヲ明記スルコトヲ要ス（昭和三・一一・一七）

○關係ノ名ニ依ル登記ト之カ抹消ノ爲ノ判決　組合員若クハ共有者ニ對スル判決アルトキハ登記官吏ハ之ヲ登記名義人トセル抹消登記ノ申請ヲ受理スヘキモノトス（昭和八・八・二五）

○反對給付ト引換ニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク命セラレタル判決ニ基ク登記申請　反對給付ト引換ニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク命セラレタル判決ニ基キ登記ヲ申請スルニハ反對給付ノ履行ヲ爲シ又ハ其ノ受取ニ付遲滯ニ付シタルコトヲ書面ヲ以テ證明シ仍テ執行力アル正本ノ付與ヲ得テ爲スヘク從テ右ノ如キ證明ナクシテ執行文ヲ得タルモノナルトキハ違法ナリト雖其ハ執行文付與ニ對スル異議ノ事由タルニ止リ苟モ執行力アル正本ヲ付シテ登記ノ申請アリタル以上登記官吏ハ之ヲ受理スヘク該登記ハ當然無效ノモノト謂フヲ得サルモノトス（昭和一一・一〇・六）

巻	頁
一一	六〇
一五	五六八
一四	一五〇
一四	一五〇
一五	五六六
二〇	五四四
二三	二七九

○登記原因登記ノ抹消請求權　不動産所有者ハ其ノ不動産ノ上ニ設定シ所有權ノ其ヒタルトキト雖自己ノ登記義務者トスル無原因登記ノ抹消請求權ノ其ヲモノニ非ス（昭和一五・三・五）

第二十八條

○國有登記名義ノ共有土地ト共有名義ノ登記方　甲乙共有ノ不動産ニ付甲ハ自己單獨名義ノ所有權ノ登記又ハ證明アルニ乘自己ノ單獨所有權ヲ主張スル場合ニ於テ乙カ登記ノ際自己ノ共有權ヲ保存センカ爲ニハ不動産登記令ノ規定ニ從ヒ權利更正登記ノ手續ニ依リ甲乙ノ共有者トシテ更正登記手續ヲ爲サシムル如キ一方法タルヲ失ハスト雖必スシモ此方法ニ依ルヲ要スルモノニ非ス乙ハ先ツ甲ヲシテ其所有權登記抹消ノ手續ヲ爲サシメ然ル後係爭地ニ關スル甲乙共有關係ノ登記手續ヲ求ムルノ擧ニ出ツルモ致チ不法ナリト爲スヘキモノニ非ス（大正九・六・二二）

○法人ニ非サル團體ノ名ヲ以テスル登記ノ更正方法　其有登記ニ代ルニ團體ノ名稱ヲ以テセル登記ハ不適法ニシテ更正登記ヲ以テ更正シ得ヘキモノニ非ス一旦之ヲ抹消スルコトヲ要ス（昭和八・八・二五）

第二十五條

○本條ニ所謂登記原因ヲ證スル書面ノ意義　不動産登記法第二十五條ニ依リ登記申請ヲ爲スニ當リテ提出スヘキ登記原因ヲ證スル書面トハ登記スヘキ物權變動ノ原因タル法律行爲又ハ法律事實ヲ記載セル書面ヲ云フモノニシテ該法律行爲カ代理人ニ依リ爲サレタル場合其ノ代理權限ヲ證スル書面ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス（昭和二・二・二五）

第二十六條

○本條ト物權變動ノ效力　當事者間ニ於テ實質以外ノ原因ニ基ク所有權移轉ノ效果ヲ生スル法律行爲ヲリタル場合ニ之カ登記ヲ爲スニ當リ實質ヲ以テ登記原因ト爲スモ苟モ適法ノ手續ヲ經テ登記ヲ爲シタル以上ハ右登記ヲ無效ナリト云フヲ得ス（大正七・二・五）

○登記ノ日時カ實ト異リタル登記原因ヲ證スル書面トノ關係ニ基ク書記ノ效力　實質以外ノ要約ニ因リ一定ノ日ニ土地所有權ノ移

轉アリタル場合ニ於テ當事者合意上之ト異ル日附アル實質契約書ヲ作リ登記原因ヲ證スル書面トシテ之ニ基キ所有權移轉登記ヲ受クルモ新登記名義人カ信託所有權ノ更迭者タル以上ハ新登記ニ關スル現在ノ信託關係ニ會計ノ目的ヲ達スルニ適合スルカ故ニ之ヲ有效ノモノト認ムヲ妨ケス（大正一〇・五・一〇）

○登記官吏ト登記原因ノ明示　不動産ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續上登記原因ヲ明示スル事項ニ該當スルモノニシテ之ヲ明記スルコトヲ要ス（昭和三・一一・一七）

第二十一條

○土地ノ表題部ノ原始所有者ノ更正ヲ要スル事項　登記官吏ハ土地所有名義者甲ノ代ノ表題部ノ原始所有者ヲ乙ト更正スル事項ヲ證明スル書面トシテ通法ノモノニ非ス（昭和四・一・二五）

第二十二條

○登錄稅ノ負擔　登記申請ニ際シ登記義務者ノ權利ニ關スル登記抹消又ハ登記義務者ノ人格ヲキュトノ存續ヲ利用シ所有權ヲ以テ登記名義人カ登記申請ノ代理人ニ依リ登記義務者トシテ申請ヲ爲スモ其カ眞正ノ本人ニ非サル爲メ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス以テ登記義務者トシテ申請ヲ爲スモ其カ眞正ノ本人ニ非サル爲メ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲スノ不正行爲ヲ防止シ以テ登記ノ正確ヲ期スルニ在リ左レハ右保證書ハ登記義務者タルヘキ者ノ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルヲ以テ足レリトセス登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルモノナルコトヲ要ス（大正一二・四・六）

第二十三條

○登記官吏ノ印影ノ對照　登記官吏ハ登記申請ノ際提出スル委任狀ニ押捺シアル印影ト印鑑帳中ノ同人ノ印影トヲ對照スルコトヲ得ス（大正一二・七・一三）

○登記官吏ノ印影ノ對照ニ關スル注意ノ程度　登記官吏ハ右印影ト印鑑ノ對照ヲ爲シ其ノ兩者ノ符合スルノ認定アリタル以上ハ登記ヲ無效ナラシムヘキ法律ノ規定ナキ限リ登記ヲ爲スヘキ義務アルモノニシテ登記申請ニ際シ登記義務者ノ權利ニ關スル登記抹消又ハ登記義務者ノ人格ヲキュトノ存續ヲ利用シ所有權ヲ以テ登記名義人カ登記申請ノ代理人ニ依リ登記義務者トシテ申請ヲ爲スモ其カ眞正ノ本人ニ非サル爲メ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲スノ不正行爲ヲ防止シ以テ登記ノ正確ヲ期スルニ在リ左レハ右保證書ハ登記義務者タルヘキ者ノ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルヲ以テ足レリトセス登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルモノナルコトヲ要ス（大正一二・四・六）

第二十七條

○登記官吏ノ印影ノ對照ニ關スル注意ノ程度　登記官吏ハ右印影ト印鑑ノ對照ヲ爲シ其ノ兩者ノ符合スルノ認定アリタル以上ハ登記ヲ無效ナラシムヘキ法律ノ規定ナキ限リ登記ヲ爲スヘキ義務アルモノニシテ登記申請ニ際シ登記義務者ノ權利ニ關スル登記抹消又ハ登記義務者ノ人格ヲキュトノ存續ヲ利用シ所有權ヲ以テ登記名義人カ登記申請ノ代理人ニ依リ登記義務者トシテ申請ヲ爲スモ其カ眞正ノ本人ニ非サル爲メ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲スノ不正行爲ヲ防止シ以テ登記ノ正確ヲ期スルニ在リ左レハ右保證書ハ登記義務者タルヘキ者ノ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルヲ以テ足レリトセス登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルモノナルコトヲ要ス（大正一二・四・六）

程度ノ注意ヲ爲スヘキ義務アルモノト解スヘク又其ノ程度ノ注意ヲ以テ足リ夫以上ニ特別ノ注意ヲ爲サルヘカラサルノ義務ナシ（大正一一・七・一三）

第四十九條

○性質上抹消スルヘキ登記ノ存在ト雖登記上利害ノ關係アル第三者又ハ登記官吏ニ於テ抹消ニ付承諾アリタルトキ又ハ之ニ對抗スヘキ裁判アリタルトキハ其登記ハ之ヲ抹消スルコトヲ得

抹消セサル以上ハ同一不動産ニ付キ甲乙丙ノ所有權移轉登記ヲ爲シ得ヘキモノニアラス（大正七・九・一〇）

○假登記後第三者ノ本登記ト雖假登記ニ基ク本登記ハ所有權移轉ノ假登記アリタル後假登記權利者カ假登記ニ對スル本登記ヲ爲サンコトヲ請求スル場合ニ於テハ假登記後上ノ登記名義人ニ變更ヲ生スルアリタル後假登記權利者カ假登記ニ對スル本登記ヲ爲サンコトヲ請求スル場合ニ於テハ假登記後上ノ登記名義人ハ假登記權利者ノ名義ニ回復セシメ爲メ假登記權利者ヨリ所有權移轉ノ本登記ヲ受クルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル第三者ト雖モ所有權移轉ノ本登記アルニ拘ラス假登記權利者ヨリ直接所有權移轉ノ本登記ヲ受クルハ現在登記簿上登記名義人ニ非サル者ヨリ所有權移轉ノ登記ヲ受クルコトトナリ則チ登記法第四十九條第六號ノ場合ニ該當スヘクレハ所謂假登記ノ申請ハ同條ニ依リ却下セサルヘカラス（大正一〇・八・二六）

○所謂不動產登記令ニ依リ登記ト看做サルル事項ニ關スル登記ノ效力　所謂不動產登記令施行前ノ所謂不動產證明令ニ依リ爲シタル證明ハ所謂不動產登記令ニ依リ爲シタル登記ト看做サルル登記ト同效ニシテ登記令第七條ノ規定スル所ニシテ之ヲ登記簿ニ移記スル手續ハ同登記令第八條ノ規定スル所ナレハ證明ニ依關スル登記ハ同登記令第八條ノ二ニ規定スル假登記ノ方法ニ依ル外之ヲ許ササルモノニシテ登記令證明ニ係ル權利カ非賣ニ付合セサル不適法ノモノナリトスルモ將又大正三年制令第十六號ニ所謂査定又ハ裁決ヲ基テ確定シタル所有權ニ關シ抹消セラルヘキモノトスルモ其實質上ノ效力如何ニ拘ラス其未タ抹消セラレサル間ハ之ト抵觸スル本登記ハ所謂不動產登記令及其依據スル不動產登記法ノ解釋上亦之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（大正一〇・一一・一八）

○登記官吏ノ錯定區町第ノ表示ヲ申請書ニ誤ク登記ノ效力　登記申請書ニ添附スヘキ所決ノ確定證明書ヲ缺クトキハ不動產登記法第四十九條第六號ニ該當シ同法第百四十九條第二號ニ該當スルモノニ非スシテ同法第百四十九條ノ二ニ依リ登記官吏カ職權ヲ以テ抹消スヘキ場合ニ該當セス（昭和二・五・七）

○大字ノ區域ノ變更ニ因ル登記ノ抹消ノ方法　不動產登記法第四十九條第一號及第二號ノ場合ヲ除クノ外ハ登記官吏カ一旦登記手續ヲ完了シタル後其ノ登記ニ對スル其ノ方法ニ依リテ登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（昭和四・六・一五）

○登記官吏ノ錯誤ニ因ル不動產ノ二重ノ法律　登記官吏ノ善意ハ專ラ形式的非現ニ限ラレ其ノ實質的惡意ニ及ヘサルモノニシテ不動產登記法第四十九條第二號ニ「事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ」ハ之ヲ形式的ニ觀察シテ權利又ハ事項カ登記スヘキ適格ヲ缺如スル場合ヲ指稱スルモノトス（昭和六・一〇・二七）

○同棟ノ各ニ依ル登記名義人ト登記官吏ノ認定權　同棟ノ各ニ依ル登記名義人カ當該組合員若クハ共有者ヲ指稱スルコトニ付テハ登記官吏ニ裁量權ナシ（昭和八・八・二五）

○官有地失有ノ認定　土地所有權ノ保存登記ヲ受ケタル者ヨリ該土地ヲ買受ケ其ノ引渡ヲ受ケタル者ハ買主ノ權原ニ付特ニ疑ヲ挾ムコトヲ要セス明治十四年宮內省ノ伺ヲ經テ內務省ノ伺ヲ以テ其ノ右有ヲ始メタルモノト認ムヘキモノトス（大正一五・七・二）

第五十條

○登記濟證ト公文書ヲ爲ス内容部分　登記官吏カ不動產登記法第六十條ニ依リ登記ノ完了後登記原因ヲ證スル書面ニ登記濟ナル旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ作成スル登記濟證明書ハ公文書ニシテ該登記原因ヲ證スル書面中ノ記載ヲモ其ノ内容トスルコト勿論ナリト雖其ノ内容ヲ成スハ該書面ノ記載中當該登記ニ關スル登記簿ノ記載ニ該當スルモノノミニ限ルモノトス（昭和三・一二・一三）

○本法第三十五條ニ所謂登記原因ヲ證スル書面ノ意義　不動產登記法第三十五條ニ依リ登記申請ヲ爲スニ當リテ提出スヘキ登記原因ヲ證スル書面トハ登記スヘキ物權變動ノ原因タル法律行爲又ハ法律事實ヲ記載セル書面ヲ云フモノニシテ該法律行爲カ代理人ニ依リ爲サレタル場合其ノ代理權限ヲ證スル書面ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス（昭和一三・二・二五）

第六十三條

○登記官吏カ更正ヲ爲シ得ヘキ場合ト抹消スヘキ場合トノ差異　登記官吏カ不動產登記法第六十三條及同條ノ二ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲スヘキ場合ハ事件カ元來登記スヘキモノナリシコトヲ要ス若シ事件カ登記スヘキモノニアラサリシトキハ同法第百四十九條ノ二乃至五ノ規定ニ從ヒ登記ヲ抹消スヘキモノトス（大正五・六・一六）

第六十四條

○假差押ノ登記アル所有權保存登記ノ更正ト利害關係人　假差押ノ登記アル不動產ノ所有權保存登記更正ノ場合ニ於テ假差押債權者ハ登記上利害關係ヲ有スル第三者ナリトス（大正五・六・一六）

○持分權ニ對スル侵害排除ト登記ノ更正　第三者トノ共有土地ニ付其ノ持分權ヲ侵シテ擅ニ其ノ前主タル登記名義人ヨリ所有權全部ノ移轉登記ヲ受ケタル者ハ右第三者ノ妨害排除ノ請求ニ對シ其ノ一部抹消即チ自己ト前登記名義人トノ共有登記ニ更正スル義務アルモノト謂フヘク特段ノ事由ナキ限リ第三者ニ對シ直接持分權ノ移轉登記ヲ爲スヘキ義務ナキモノトス（昭和一一・一〇・五）

第二節　所有權ニ關スル登記手續

○無效ノ登記ト之カ回復ノ爲ノ登記方法　乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ僞造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス（大正一三・四・二二）

第七十八條

○共有物ニ對スル信託契約解除ニ因ル登記手續　共有不動產ヲ共有者ノ一人ニ信託讓渡シ其ノ所有トシテ査定確定シ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ信託讓渡ヲ解除シタル爲ニ之ヲ共有者ノ共有名義トナスニハ不動產登記法第七十八條ノ所有權ノ一部移轉登記ノ手續ニ依ルコトヲ要シ更正登記ニ依ルヘキモノニアラス（大正一四・一一・一〇）

第九十一條

○敷地番號ノ變更ト建物保存登記ノ效力　保存登記ヲ經タル建物ノ敷地ノ合併又ハ分割ノ結果其ノ地番ヲ異ニスルニ至リタルトキト雖一旦適正ニ爲サレタル建物保存登記ノ對抗力ハ夫レニ因リ當然消滅スルモノニ非ス（昭和一五・六・一四）

第百二條ノ三

○地形ノ變更ニ因ル所有權ノ消滅　元私人ノ所有土地カ地形ヲ變シ永續的ノ狀態ニ於テ海潮河川トナリタルトキハ之ニ因テ所有權ハ消滅ス（昭和七・五・二四）

第百五條

○判決ニ基ク所有權登記ト査定名義人ノ抹消請求　甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコ

トヲ得ヘク而シテ其ノ間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス（大正七・七・九）

○受贈者ノ保存登記申請　未登記ノ土地ヲ他人ニ贈與シタル者カ其所有權移轉登記ヲ爲スニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ於テ（一）受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受ケントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求スヘキモノニ非スシテ却テ之ヲ尊重シ以テ直チニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク請求スヘキモノトス（二）受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受クルコトヲ要セサルモノトシ單ニ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲サントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求シ其抹消セラレタル後相續人ニ對スル判決ニ因リ自己ノ所有權ヲ證シテ保存登記ヲ申請スヘキモノトス

如上二ツノ方法中其何レヲ選擇スルヤハ固ヨリ受贈者ノ隨意ナレトモ（一）ノ方法ハ所有權移轉ノ關係ヲ登記簿上明白ニスルコトヲ得ルノミナラス其移轉ノ事實ニ付對抗力ヲ生スルヲ以テ受贈者ハ（二）ノ方法ニ依ルヨリモ（一）ノ方法ヲ採ルヲ通例トス如上ノ場合ニ於テ受贈者ヨリ更ニ該土地ノ所有權ヲ取得シタル者カ受贈者ニ對シ其所有權移轉登記手續ヲ訴求シタル以上ハ其訴訟ニ於テ該取得者ヨリ相續人ニ對シテ爲シタル保存登記抹消ノ請求ハ之ヲ棄却セサルヘカラス（大正一一・一一・八）

○無過失占有ノ推定　土地所有權ノ保存登記ヲ受ケタル者ヨリ該土地ヲ買受ケ其ノ引渡ヲ受ケタル者ハ賣主ノ權原ニ付特ニ疑ヲ挾ムコトヲ取引上相當トスルカ如キ事情ノ存スル場合ノ外ハ過失ナクシテ其ノ占有ヲ始メタルモノト認ムヘキモノトス（昭和一五・七・二）

第百六條

○新築ノ家屋ト所有權保存登記　新築ノ家屋ニ付所有權保存登記ヲ爲スタメニハ必スシモ其ノ完成シタルコトヲ要セス工事中ノ建物ト雖取引ノ通念上獨立ノ建物トシテノ效用ヲ有スルモノト認メ得ラルレハ足ルモノトス（昭和一六・五・二）

巻	頁
五	五八九
九	四五二
二〇	一三一
二八	五四

第百七條

○無過失占有ノ推定　土地所有權ノ保存登記ヲ受ケタル者ヨリ該土地ヲ買受ケ其ノ引渡ヲ受ケタル者ハ賣主ノ權原ニ付特ニ疑ヲ挾ムコトヲ取引上相當トスルカ如キ事情ノ存スル場合ノ外ハ過失ナクシテ其ノ占有ヲ始メタルモノト認ムヘキモノトス（昭和一五・七・二）

第三節　所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續

第百十二條

○永小作權設定登記ト小作料ノ記載　小作料ハ永小作權設定ニ缺クヘカラサル要件ヲ爲スモノナルニ依リ永小作權設定登記ヲ爲スニ當リテハ申請書ニ小作料ヲ記載スルコトヲ要ス（大正一三・四・一一）

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ト小作料ノ確定　登記義務者ニ對スル登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ハルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記手續ヲ命スル判決ハ理由ニ於テ小作料ノ額ヲ確定シ是ヲ主文ニ明示スルコトヲ要ス（大正一三・四・一一）

第百十七條

○抵當債務一部消滅後ノ抵當權設定登記　抵當權設定契約後之ニ因リテ擔保セラルル債務ノ一部カ辨濟ニ因リ消滅シタルトキハ該抵當權設定登記ハ殘存債務ノミニ付之ヲ爲スヘク辨濟前ノ債務全部ニ付之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（昭和六・三・六）

○根抵當權ト登記ノ記載事項　根抵當權ノ登記ハ與信契約ニ終期アルトキ及ヒ與信ノ範圍ニ制限アルトキハ之ヲ揭クルコトヲ要スト雖其ノ他ハ唯債權者及債務者ヲ表示シ根抵當權ノ擔保スル最高額ヲ明ニスルヲ以テ足ル設定當時現ニ存スル債權ヲモ包含スト云フカ如キ之ヲ登記ニ記載スル必要ナシ（昭和六・一二・一）

○年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ト登記　朝鮮殖產銀行令第二十三條ノ適用アル貸借ニ於テ年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ノ如キ不

巻	頁
二〇	一三三
三	二〇
三	二〇
一〇	四〇
一〇	一六四

動産登記法第百十七條ニ依リ之ヲ登記セサルモ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキモノトス（昭和八・一一・七）

第百二十七條

○不動産ノ賃貸借ト其ノ登記請求權　不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス（大正一四・一二・二二）

第四節　抹消ニ關スル登記手續

○契約解除ト抹消登記ノ原因　不動産登記法ニ於ケル登記ノ抹消ハ單ニ登記原因ノ無效又ハ取消ノ場合ノミニ限ラルルコトナク土地賣買契約ノ解除ニ因リ土地所有權移轉ノ登記ヲ原狀ニ復スル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○抵當不動産ノ讓渡後ニ於ケル抵當權ノ消滅ニ因ル登記抹消請求權者　抵當權設定登記アル不動産カ第三者ニ讓渡サレタル後抵當權ノ消滅シタル場合ニ於テハ抵當權者ニ對スル該登記ノ抹消請求權ハ現在ノ所有者タル第三者ノミ之ヲ有シ設定者ハ之ヲ有セサルモノトス（大正一二・九・四）

○無效ノ登記ト之カ回復ノ爲ノ登記方法　乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ僞造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス（大正一三・四・二二）

○保存登記抹消ノ原因　不動産所有權保存登記ハ其カ眞實ニ適合セス若ハ所有者ノ申請ニ依ラサル等ノ事由ニ依リ初ヨリ無效ノモノナルトキニ限リ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一四・一一・一七）

○信託解除ニ關スル登記ノ方法ト保存登記ノ抹消　不動産所有權ニ關スル信託的讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テハ其ノ權利ノ回復ニ付移轉登記ヲ爲スコトヲ得ルモ既ニ受託者ノ名義ヲ以テ爲セル當該權利取得ノ登記若ハ其ノ所有權保存登記ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス（大正一四・一一・一七）

○登記原因ノ無效ト抹消登記義務者　同一不動産ニ付數次ノ所有權移轉アリテ登記名義人ニ非サル土地所有者カ其ノ登記原因ノ無效ヲ主張シ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ自己ノ所有權ヲ害スヘキ登記ハ現ニ其ノ效力ヲ有スルト否トニ論ナク各登記名義人ニ對シ抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニシテ第二次以下ノ登記現存スルノ理由ヲ以テ第一次ノ抹消ハ不能ニ歸シタルモノナリト謂フヲ得ス（大正一五・一〇・二六）

○抵當權讓渡後債權ノ時效ニ因ル消滅ト抵當權抹消ノ登記義務者　債權及之ヲ擔保スル抵當權ノ讓渡アリタル後債權カ時效ニ因リ消滅シタル場合ニ之ニ因ル抵當權ノ消滅ニ付爲スヘキ抵當權設定登記ノ抹消登記ハ抵當權消滅當時ニ於ケル登記上ノ抵當權者タル讓受人ヲ登記義務者トシテ之カ申請ヲ爲スヘキモノトス（昭和四・三・五）

第百四十六條

○本條ニ所謂第三者ニ對抗シ得ヘキ裁判ノ意義　不動産登記法第百四十六條ニ所謂第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判トハ登記上利害關係ヲ有スル第三者ヲ羈束スヘキ裁判ヲ指示スルモノナリトス（大正一三・四・三〇）

第百四十九條ノ二

○登記官吏カ更正ヲ爲シ得ヘキ場合ト抹消スヘキ場合トノ差異　登記官吏カ不動産登記法第六十三條及同條ノ二ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲スヘキ場合ハ事件カ元來登記スヘキモノナリシコトヲ要シ若シ事件カ登記スヘキモノニアラサリシトキハ同法第百四十九條ノ二乃至五ノ規定ニ從ヒ登記ヲ抹消スヘキモノトス（大正五・六・一六）

○登記義務者ノミノ申請ニ依ル登記ト抹消　判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四十九條第三號ノ場合ニ該當スルモノト稱スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレトモ一旦其ノ登記完了シタル後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・五・六）

○判決ノ確定證明書ヲ添附セサル申請ニ基ク登記ト抹消　登記申請書ニ添附スヘキ判決ノ確定證明書ヲ缺クトキハ不動産登記法第四十九條第八號ニ該當シ同條第二號ニ該當スルモノニ非ス從テ同法第百四十九條ノ二ニ依リ登記官吏カ職權ヲ以テ抹消スヘキ場合ニ該當セス（昭和二・五・七）

第五章　抗告

第百五十條

○登記官吏ノ決定又ハ處分ニ對シ抗告ヲ爲シ得ル者　不動産登記法第百五十條ニ依リ抗告ヲ爲シ得ル者ハ登記官吏ノ當該處分ニ付キ登記上ノ利害關係ヲ有スルモノニ限ルモノトス　（大正一一・一二・二一）

○抗告ノ方法ニ依リ抹消シ得ヘキ登記　不動産登記法第四十九條第一號及第二號ノ場合ヲ除クノ外ハ登記官吏カ一旦登記手續ヲ完了シタル後ハ其ノ登記ニ對スル抗告ノ方法ニ依リテ登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス　（昭和四・六・一五）

第百五十八條

○前審ニ委任スル裁判ト再抗告　登記官吏ノ決定ヲ不當ナリトスル抗告ニ付抗告裁判所カ爲シタル裁判ニ對シテハ不動産登記法第百五十八條ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナレトモ同條ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ付爲シタル裁判ヲ指稱シ本件ニ付テノ處分ヲ前審ニ委任スル裁判ヲ包含セサルモノトス　（大正九・一二・一七）

朝鮮不動産登記令施行規則

第四十八條ノ三

○評價費用ノ豫納ト評價請求ノ適否　課稅標準ノ評價請求書ニハ登記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼用スルコトヲ要スルモノニシテ現金ヲ以テ納付スヘキモノニ非スト雖申請人カ其ノ指示セラレタル費用ヲ現金ヲ以テ納付セントシタルトキハ之ヲ印紙ニ代ヘテ貼付スヘキヲ諭示シテ其ノ手續ノ完成ヲ期スヘキハ登記官吏ノ義務ニ屬ス其ノ現金ヲ受領シテ自ラ保管シナカラ印紙ノ貼用ナキヲ以テ評價請求ハ不適法ナリトシ登錄稅ノ不足ヲ理由トシテ登記ノ申請ヲ却下スルカ如キハ啻ニ其ノ措置ノ不親切ナルニ止ラス未タ評價ノ請求ノ適否ヲ判斷スル時期ニ至ラサルモノトス　（昭和九・七・三）

朝鮮不動産證明令

○地番坪數ニ誤謬アル證明ノ效力　所有權取得ノ證明ヲ得タル土地及建物ニシテ其四標土地ノ種目建物ノ種類構造等實地ニ符合スルトキハ其地番坪數ニ多少ノ誤謬アリトスルモ其ノ證明ハ有效ニシテ對抗力ヲ有スルモノトス　（大正四・一二・二四）

○重複保存證明又ハ登記ヲ基本トスル差押登記ノ效力　所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル不動産ニ對シ再ヒ所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル場合ニ在テハ後ノ保存ノ證明若クハ登記ハ當然無效ナルヲ以テ從テ之ニ基キ爲シタル假差押命令及競賣申立ノ記入ハ勿論競落ニ因ル所有權取得ノ證明若クハ登記モ亦無效ナリトス　（大正四・一二・二四）

○證明抹消請求ノ對手方　證明ノ抹消ハ證明名義人ニ對シテ請求スヘキモノナリ從テ賣主ヲ對手者トシテ請求シタルハ失當トス　（大正五・八・一一）

○證明ト民法施行法第三十七條ノ適用　朝鮮不動産登記令又ハ朝鮮不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル權利ニ付テハ民法施行第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解スヘキモノトス　（大正六・二・二三）

巻　頁

○假處分命令ニ基キ爲シタル保存證明ト抹消請求　原告ノ申請ニ因ル假處分命令ノ執行上職權ヲ以テ爲サレタル被告名義ノ所有權保存證明ト雖原告ハ其假處分命令ノ存スル間ニ於テ被告ニ對シ之カ抹消請求ノ訴ヲ提起スルヲ得ルモノトス　（大正六・三・一三）　一二三

○朝鮮民事令施行前ノ所有權ノ取得ト對抗要件　朝鮮民事令施行以前ニ不動產ノ所有權ヲ取得シタルモノハ朝鮮民事令施行後一年內ニ其所有權取得ノ證明（又ハ登記）ヲ受クルニ非サレハ民事令施行後一年ヲ經過シタル後ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス　（大正六・六・一九）　四　一七一

○證明（又ハ登記）ノ欠缺ヲ主張スル第三者　其所謂第三者トハ當事者若クハ其包括承繼人ニ非スシテ不動產ニ關スル物權ノ得喪及變更ノ證明（又ハ登記）ノ欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スル者ヲ指稱ス　（大正六・六・一九）　四　五三二

○有效ナル第三者ノ證明ト事實ニ吻合セサル保存證明　其第三者ノ證明有效ナルノ結果其以前ニ爲シタル所有權保存ノ證明ハ事實ニ符合セサルモ其效力ヲ保有スルニ至レルモノトス　（大正六・六・一九）　四　五三二

○所有權保存證明ヲ受ケタル土地家屋ト所有者ノ推定　土地家屋ニ關シ所有權保存證明ヲ受ケ居ルモノハ一應其所有者タルコトノ推定ヲ受クヘキモノナレトモ之ニ反對ナル事實證據アルニ於テハ其所有者タルコトヲ否定スルモ不法ニアラス　（大正六・一〇・一六）　四　五三二

○登記ト證明トノ差異　朝鮮不動產登記令ニ依ル登記ト朝鮮不動產證明令ニ依ル證明トハ其內容ニ於テ同一ノ點アルモ其形式ニ於テ二者全ク異ナリ同視スルヲ得サルモノトス　（大正六・一二・二八）　四　八三〇

○同　旨　朝鮮不動產登記令第七條ノ趣旨タルヤ證明令ニ依ル證明ニ付スルニ登記ノ效力ヲ以テシタルニ過キスシテ之ヲ以テ登記證明ノ二者全然同一ニ看做スノ法意ナリト解スヘキモノニ非ス　（大正六・一二・二八）　四　一三二六

○移記ニ因ル登記ト移記以前ニ於ケル證明トノ關係　朝鮮不動產登記令第八條ニ依リ證明簿上ノ或不動產ニ關スル記載事項カ登記簿上ニ移記セラレタル場合ニ於テモ其內容ニ於テ同一ノ點アリト云フニ過キス。シテ移記以前ニ於ケル證明ト移記以後ニ於ケル登記トハ其形式ヲ異ニスル別個ノ事物ニシテ同一ニ論スルヲ得サルモノトス　（大正六・一二・二八）　四　一三二六

○典當證明濟ノ典當アル契約書ト其ノ成立ニ關スル立證責任　證明官吏カ典當權設定ノ證明ヲ爲シ其設定ノ契約書ニ證明濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ證書トシテ論スルヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分マテ公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス從テ其契約書ノ成立ニ付爭アルトキハ之ヲ提出シテ利益ヲ主張スル者ニ於テ其眞正ニ成立シタルコトヲ擧證スルノ責アルモノトス　（大正七・二・二六）　五　一〇三

○舊土地家屋證明規則ノ證明アル典當土地ト證明令ニ所謂既證明　舊韓國土地家屋證明規則ニ依リ典當ノ證明ヲ經タルモノハ朝鮮不動產證明令第二十一條ニ所謂未證明ノ不動產ニ非スシテ既證明ノ不動產ナリトス　（大正七・三・五）　五　一四九

○舊土地家屋證明規則ニ依ル典當證明ト所有權保存證明　舊證明規則ニ依リ既ニ典當證明ヲ經テ新證明令施行後ニ涉リテ存續スルモノニ對シ新證明令第四十條ヲ適用スルニ當リテハ舊證明規則ニ依リ爲シタル典當證明中ニハ自ラ所有權保存證明ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス　（大正七・三・五）　五　一四九

○舊證明規則ニ基ク典當證明ト新證明令ノ移記　舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後更ニ證明ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル場合ニハ新タニ保存證明ヲ爲スヘキモノニ非スシテ先ツ新證明令第四十五條ノ規定ニ從ヒ舊證明簿ヨリ新證明簿ニ移記ノ手續ヲ終了シタル後新證明事項ノ記入ヲ爲スヘキモノトス　（大正七・三・五）　五　一四九

○重複證明ニ基ク爾後ノ移轉證明又ハ登記ノ效力　證明官吏ニシテ舊證明ノ存續スルコトヲ知ラスシテ同一土地ニ付新ニ保存證明ヲ爲シタルトキハ其保存證明ノ無效ナルハ勿論之ニ基ク爾後ノ所有權移轉ノ證明又ハ登記モ總テ無效ナリ　（大正七・三・五）　五　一四九

○原因ナクシテ爲シタル保存證明ト之カ抹消請求　他人所有ノ土地ニ對シ何等相當ノ原因ナクシテ保存證明ヲ爲シタル者カ更ニ之ヲ他ニ移轉シ移轉證明ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テハ二個ノ證明ハ何レモ無效ニシテ土地ノ所有者ハ保存證明ヲ爲シタル者及移轉證明ヲ受ケタル者ニ對シ各個獨立ノ抹消請求ヲ爲スヲ得ヘク訴訟法上其請求ヲ禁スヘキ理由ナシ　（大正七・四・九）　五　二五四

○證明抹消請求ヲ登記請求ニ改メタル場合ト訴ノ目的物ノ變更　登記ト證明トハ全然別個ノ事物ナルヲ以テ證明ノ手續ノ履行ヲ

求ムル訴ヲ登記手續ノ履行ヲ求ムル訴ニ改ムルハ目的物ノ變更ニ依ル訴ノ變更ナリ（大正七・五・二四）

○證明手續履行請求中登記命令ノ施行ト訴ノ變更　證明手續ノ履行ヲ求ムル請求訴訟進行中朝鮮不動産登記令施行セラレ證明手續ノ履行不能トナリタル場合ニ於テモ證明手續ノ履行請求訴訟ヲ登記手續ノ履行請求訴訟ニ改ムルハ訴ノ變更ニアラストスヘキ理由ナシ（大正七・五・二四）

○證明義務者カ自ラ爲シタル證明ト抹消請求　所有權移轉證明手續ヲ爲スヘキ義務アル者カ旣ニ其證明手續ヲ爲シタル以上ハ自ラ進ンテ權利者タル者ニ對シ其手續ニ瑕疵アルコトヲ主張シテ之カ抹消手續ヲ請求スル權利ナキモノトス（大正七・八・一六）

○中間省略ノ證明　所有者甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ順次不動産ヲ讓渡シタル旨ノ所有權移轉證明ヲ爲スハ不法ニアラス（大正七・九・一〇）

○典當權ノ對抗ヲ受クヘキ査定名義人ト脫落證明抹消ノ請求　土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ脫落人ノ取得シタル所有權ノ證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ（大正八・五・六）

○亡父ノ名義ヲ以テ爲シタル所有權移轉證明ノ效力ノ有無　甲カ乙ニ其所有ニ係ル不動産ヲ賣却シ其義務ノ履行トシテ甲カ其父ノ賣主名義ヲ以テ所有權移轉證明ヲ爲シタルトキハ縱令其父カ證明當時死亡シ所有權移轉證明無效ナリトスルモ證明義務者タル甲ハ同權利者タル乙ニ對シ該證明ノ無效ヲ主張シ證明抹消履行手續ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正八・一二・六）

布教規則

第二條

○布教規則ニヨル布教所ノ財産ノ歸屬及管理　布教規則ハ本來宗教ノ宣布ニ關スル事項ヲ規律スルモノタルニ止マリ他ニ及ハサルモノナレハ同規則ニヨリ定メラレタル布教擔任者ノ爲スヘキ管理及維持行爲ノ範圍ハ宗教ノ宣布ニ關スル事項ニ限ラレ布教所ノ敷地建物其ノ他ノ所有權ノ歸屬及其ノ管理等宗教ノ宣布ニ直接關係ナキ事項ニ付テハ布教規則ニ關係ナク別ニ定マルヘキモノトス（昭和一二・三・二三）

第三條

○布教規則ニヨル布教所ノ財産ノ編成及管理　布教規則ハ本來宗教ノ宣布ニ關スル事項ヲ規律スルモノタルニ止マリ他ニ及ハサルモノナレハ同規則ニヨリ定メラレタル布教擔任者ノ爲スヘキ管理及維持行爲ノ範圍ハ宗教ノ宣布ニ關スル事項ニ限ラレ布教所ノ敷地建物其ノ他ノ所有權ノ歸屬及其ノ管理等宗教ノ宣布ニ直接關係ナキ事項ニ付テハ布教規則ニ關係ナク別ニ定マルヘキモノトス（昭和一二・三・二三）

第九條

○本條ノ教會堂設立者ト其ノ財産權ノ歸屬者　大正四年八月朝鮮總督府令第八十三號布教規則第九條第十二條ノ規定ノ精神ニ照シ同規則ニ所謂教會堂ノ設立者トハ教會堂ノ主宰者即チ教會堂ヲ中心トシテ結合セル信者全員ヲ代表スル者ヲ指稱シ財産權ノ歸屬者ヲ指稱スルモノニ非サルコト明白ナリ尤モ設立者ニシテ財産權ノ主體ヲ衆ヌルコトアリト雖トハ布教規則ノ要求スル所ニ非ス（大正一三・一一・二五）

○單純ナル教會堂設立者認認ノ訴ト司法裁判所ノ管轄　布教規則ニ所謂教會堂ノ設立者ハ宗教團體ノ一機關ニシテ單純ニ之カ有